

巻頭言

2011年4月から9月まで、大東文化大学短期海外研修として嶺南は中山大学と、黒水白山の地に有る東北師範大学で快適な研究生活を送ることができた（東北師範大はあとがき参照）。以下の乏しい研究成果はその期間の成果である。

嶺南の地に有る中山大学は広大なキャンパスを持ち、その北側には珠江の支流を渡り繁華街の北京路に行く船着き場があり、「国立中山大学」と書かれた鳥居のような石門がある。北側にはかつての嶺南大学時代の建物も残り、一寸した旧時の回想を催すには格好の地である。正門は南門で北門から南門への移動はゆっくり歩いて30分くらいかかる。西門には地下鉄の入り口があり便利とはいえず、広さ故に健脚ではない私には、移動に時間がかかる。榕樹ガジュマルの森を潜れば、孫文先生の銅像や魯迅の石像、陳寅恪の旧居やなど中山大学ゆかりの著名人の像が点在する。

実はこの嶺南大学（現中山大学）の地は私にとって忘れがたい大東文化大ゆかりの先生方が初めて出会われた地でもある。お二人とは大東文化学院を出られ教授としても務められた横浜市大名誉教授波多野太朗先生と元大東文化大学学長の香坂順一先生である。以下は香坂順一先生から直接伺った話である。香坂先生は当時戦時下にある広州嶺南大学に留学しておられた、ある時広州市の古書肆で本を漁っておられると、陸軍将校の軍服を着て軍刀を下げた軍人がある店に入ってくると、実に熱心に線装本をあこれと見ていた。軍人と古書と言う組み合わせを奇異に思った先生が、その軍人が立ち去った後店の老板に、あれは誰と聞くと、「あれが軍報道部の波多野中尉だ」と言う。波多野太朗先生は大東文化学院を1937年に卒業し、東北帝國大学の助手として研究中応募され、心ならずも成衣を纏われたわけである。香坂先生との出会いは、最前線の陣地から第23軍の報道部に転属されたころであろう。先生の中国学に目を付けた軍参謀長の乞いによると聞いている。その後お二人は戦後の漢語研究史に巨跡を残されるが、両者の関係が円満であったわけではない。性格も水と油の様でもあった。香坂先生は研究企画の才能をお持ちで、有能の士を集めて辞典編纂や研究会などに腕を振るわれたし、日本中国語能力検定協会も作られた。直接香坂先生から聞いた話だが、倉石武四郎先生の日中学院、藤堂明保先生の日中友好会館と並ぶ3大事業の1つだよ、と。自負を持っておられたに違いない。倉石先生の生前に相談し懇懇されていたとのことである。又あまり知られていないが、実は晩年大東文化大学に日本語学科が創設されたのを機会に、日本語能力検定試験の実施を考えておられた。この事を知るのは検定協会では川上元理事と日本語学科ではご退職された窪田富男先生と私位であろう。香坂先生に呼ばれて検定協会へ何度か足を運んだ。先生は面白そうに、どうだろう成績の良い受験者に科挙にならって「状元」と言う称号を出そうか、と言っておられた。実現しておれば、「日本語状元」や「日本語榜眼」、「日本語探花」などの免状を持った人が

生まれていたかもしれない。この事は先生の健康上の問題で立ち消えとなった。

波多野先生はと言えば孤高の人であった。「我介然として孤高に有り」との感があった。ちなみに香坂先生の教え子という方はかなり多く、全国の大学で漢語教育と研究に従事されているが、波多野先生の方は教え子と呼べる方は殆どいない。これも両先生の性格をよく表している。波多野先生はご自分の研究がすべてに優先される方だった。学者仲間でも親しくされていたのは、私の指導教授の澤田瑞穂先生や太田辰夫先生位であろう。骨董好きで東寺の仕舞弘法の骨董市にまでよく出かけられた。その帰りには神戸の太田先生の御家を訪ねて骨董談義をされたものである。私が波多野先生に接したのは先生の晩年である。横浜市大をご退職になって東洋大学に移られた 1977 年以降である。当時早稲田大学では漢語学を本格的に研究する機運が高まってきていたのであろう、博士課程に進学した直後、穏やかな陽射しのある日、付属校の非常勤のお勤めも終わり、呑気に資料室へ向かっていると、澤田先生が会議に向かわれるのか、例によってスリッパをパタパタ言わせながら歩いてこられ、私の姿を見つけると、「一寸後で研究室に顔を出しなさい。」と一言行って行かれた。資料を見終わって時間を量って先生の研究室へ伺うと、先生は会議をすでに終わられて、回転いすに胡坐をかいて叢書から資料の抜書きをしておられる。いつもの事なので、静かにお茶を入れて差し上げ先生の作業が終わるのを、部屋の書物を眺めながら待っていた。と区切りがついたのか先生はクルリとこちらを向かれて、「実はな波多野太朗が横浜市大を定年となって、東洋大に行くそーだ。そこで早稲田でも講師に来てもらうことになったんだが、ウチもドクターは古典をやるのは多いが語学をやるものはいない、そこでだ君にはひとつ語学をやってもらうことにした。したがって君は波多野さんのところで語学研究をしなさい」といとも簡単におっしゃる。「語学と文学の接点は語彙論でいけばいい、君も都合がよかろう」ありがたいお話しながら、心中些か混乱したのは事実である。澤田先生から波多野先生の研究指導を受けるようにと言われ、語学研究に方向転換をしたわけであるが、もちろん澤田先生のゼミに在籍し、教えを受けながらではある。早稲田ではその講筵に連なったのは私が第一号であったし、受講生は初年度 1 人であった。こうして師弟二人で、難解極まりない高明凱の『漢語語法論』を読んでいったわけであるが、噂では学会の「ケンカ太朗」とまで言われた先生であったから極めて緊張したのを覚えている。先生も晩年であったせいか、あまり叱責は蒙らなかつた。しかし研究には常に「實事求是」の精神が必要であることは、文字通り叩き込まれた。とはいえ「文弱の徒」を自認する私にとって、先生はあまりにも「すごかった」朝は 5 時に起きて、唐詩を中国語で朗詠された後、気合を入れて木剣で素振りをしてから、朝飯を召し上がると聞いて、仰天したものである。確かにその後幾度か朝 7 時ごろに元気な声で電話をいただいた。「イヤー寺村君、起きてるなっ、もー7 時だからなっ」この早朝から澁刺とした、お元気な声はいまだに耳に残っている。あまりにも頻繁に続いたので、それとなく澤田先生に苦情を言うと、「キミ、なんせ波多野君は元陸軍中尉だからな、君もそろそろ文弱の徒やらを廃業するん

だね」と言って、いつも通り口をすぼめて茶を飲んでおられた。仕方なく観念して波多野先生の無給助手に徹することにした。そのおかげで実証主義の先生に国会図書館はじめ著名な文庫の参観に随伴して善本（特に語学資料となる）は実物を目にすることができた。何れの図書館文庫でも責任者の方から丁重な扱いを受けた。通俗小説の研究者も余り知らないであろうが、内閣文庫の『全相平話五種』の表紙が黒く焦げているのは空襲で書庫が熱気を帯びて、充分冷まさずに書庫を空けた際書物が一時燃え上がったと言う、生々しい痕跡も目にすることができた。

碩学の思い出を語るのが本意ではないので、話を替えよう。香坂順一、波多野太朗、澤田瑞穂の3人の碩学から常に言われたことであるが「文献は5年後10年後を見据えて収集する事、今は使わなくともやがてそれを使うときには入手困難となっている」とか「文献は容易に手に入らなくなったら、研究の対象となる」とも言われた。この先生方はその言葉の通りに文献収集を行われた。収集された書物は、金満家がお金に飽かして集めた、宋版などの善本の類ではないが、先生方の研究分野ではみな得難い稀覯本であった。澤田先生の蔵書は「風陵文庫」として早稲田の図書館に収まり、立派な目録も完成しており、一部デジタル公開もされている。波多野先生の蔵書は筑波大学に収まったと聞いている。香坂先生の蔵書のその後の詳細は知らない。辞典編纂室に一部入ったと聞くが、善本は手元に残されたようだ。貴重な書物が多かったことは、幸いにも数年間研究室を先生と共有させていただいたので、私自身目睹している。今日入手困難どころかかなり大きな図書館にもない本が多く見られた。従って私自身も拳拳服膺して、なるべく広範囲に収集することを心掛けてきた。しかし満洲語音注・注釈『玉堂字彙』の研究を始めるにあたって、これまでとは違い戸惑うことが多かった。上記の碩学の忠告を忘れていたわけではないが、泥沼に入り込みそうな漢字研究や、字書研究は全く視野の外であった。『玉堂字彙』自体は中国字書史において、さほど重要な地位を占めているわけではない。古典版の『新華字典』とも言うべきか、或いは初期の大衆字典と言うべきであろう。「刻本」類は粗悪で、誤刻の多いものである。しかし満洲語音注・注釈『玉堂字彙』は別の意味、つまり満洲語と漢語の言語接触の面から見て、極めて重要な意義を持っていると言える。したがって9月に帰国したあと、基本的な原典の収集から始めなくてはならず、この作業に3か月ほどかかった。許可を得て「たつの市龍野歴史文化資料館」へ出向きデジカメで資料撮影をし、四国の松山にも飛んだ。そのほか私のゼミ生で博士第1号の王佳璐君（現長春工業大学）、或いは黄雪蓮君（現大連大学）、中山大学の邱雅芬教授や東北師範大学の周頌倫教授の手を煩わせるなどして、必要資料の収集に努め、必要最低限の原典、『字彙』（刻本、和刻本及びデジタル写真）『玉堂字彙』（2刻本、デジタル写真、2石印本、デジタル写真）がそれぞれ揃って、基本的な研究を始めたのは2012年3月弥生の頃である。研究開始後も教え子の大学院留学生諸君の協力で、少しずつではあるが原典資料が集まりつつある。

2012年 於武州望岳樓 寺村 政男

目次

卷頭言

満洲語注音・注釈『玉堂字彙』子集

満洲語注音・注釈『玉堂字彙』翻刻繙訳・子集

子集

【一部 i sere hergen -i hacin (i・一と言う字の項)】	013 P
【1 部 gun sere hergen -i hacin (gun・1 と言う字の項)】	016 P
【丶部 ju sere hergen -i hacin (ju・丶と言う字の項)】	019 P
【ノ部 piyen sere hergen -i hacin (piyen・ノと言う字の項)】	020 P
【乙部 i sere hergen -i hacin (i・乙と言う字の項)】	022 P
【丨部 giowei sere hergen -i hacin (giowei・丨と言う字の項)】	025 P
【二部 el sere hergen -i hacin (el・二と言う字の項)】	026 P
【一 満文なし】	029 P
【人部 žin sere hergen -i hacin (žin・人と言う字の項)】	031 P
【儿部 žin sere hergen -i hacin (žin・人と言う字の項)】	116 P
【入部 žu sere hergen -i hacin (žu・入と言う字の項)】	119 P
【八部 ba sere hergen -i hacin (ba・八と言う字の項)】	121 P
【冂部 giong sere hergen -i hacin (going・冂と言う字の項)】	122 P
【冂部 mi sere hergen -i hacin (mi・冂と言う字の項)】	125 P
【ㄣ部 bing sere hergen -i hacin (bing・ㄣと言う字の項)】	127 P
【几部 ji sere hergen -i hacin (ji・几と言う字の項)】	136 P
【凵部 g'an sere hergen -i hacin (g'an・凵と言う字の項)】	137 P
【刀部 deo sere hergen -i hacin (deo・刀と言う字の項)】	139 P
【力部 li sere hergen -i hacin (li・力と言う字の項)】	167 P
【勹部 boo sere hergen -i hacin (boo・勹と言う字の項)】	180 P
【匕部 bei sere hergen -i hacin (bei・匕と言う字の項)】	184 P
【匚部 fang sere hergen -i hacin (fang・匚と言う字の項)】	186 P
【匚部 si sere hergen -i hacin (si・匚と言う字の項)】	191 P
【十部 šī sere hergen -i hacin (šī・十と言う字の項)】	193 P
【卜部 bu sere hergen -i hacin (bu・卜と言う字の項)】	196 P
【冂部 jiye sere hergen -i hacin (jiye・冂と言う字の項)】	198 P
【厂部 h'an sere hergen -i hacin (h'an・厂と言う字の項)】	201 P
【厶部 sy sere hergen -i hacin (sy・厶と言う字の項)】	211 P
【又部 io sere hergen -i hacin (io・又と言う字の項)】	213 P

参考図版

満洲語注音・注釈『玉堂字彙』子集

大東文化大学
寺村 政男

はじめに

本論考はフランス国家図書館 (Bibliothèque Nationale de France) 所蔵の『玉堂字彙』についての翻刻と研究である。この『玉堂字彙』は通常の流布している明刊本 (初刻は崇禎年間)、清刊の刻本 (初刻は康熙年間)、及び清末民国初期の石印本の『玉堂字彙』とは違い、漢字に満洲語でもって漢字音を付し、漢字字義も満洲語で注記されている。本書は現時点では他に所蔵する機関に関する報告はない。以下この書を仮に、満洲語注音・注釈『玉堂字彙』(以下「満文本」と略稱する)と呼んでおく。同図書館には漢文の『玉堂字彙』も所蔵されている。

『玉堂字彙』は以下に述べるように、梅膺祚によって編纂された『字彙』を簡明にしたものであるが、今回は『字彙』から『玉堂字彙』への改編については、あくまで参考にはするが、本格的には取り扱わない。1つには『字彙』は国内に所蔵する機関も多く、和刻本も手軽に見る事が出来る事、それに反して『玉堂字彙』は中国ではかなり流布しているが、日本国内ではほとんど流布していない。『玉堂字彙』の確認できる国内所蔵機関は2か所と少なく、この2種類ともに石印本であり、刻本ではない。各図書館の購入時期も民国年間 (大正期) で、つまりは当時の新刊本であり清刊本ではない。また明末 (崇禎年間) 清初 (康熙年間) に出た刻本、清末 (光緒) から民国初期に出た石印本、及び「満文本」の3者にかかなりの異同がある事、したがって3者の異同を明らかにすることが当面の急務である。特に清代満洲族が漢語習得に使ったであろう本書は、満洲族の言語文化と漢語の言語文化接触の角度から見ると、大変興味深いものがある。

『玉堂字彙』について

例えば我々が漢和辞典を手にした時、今では当然のように音ないしは訓が解ればそれで当該漢字の必要な情報を引き出せる。それが解らなかつたときどうするか、これも当該漢字の部首を確定して、字画を数えてもその漢字の情報を検索できる。しかしこの当然のような部首別画く数引きと言う便利な検索は何時頃から出来るようになったのであろう。福田襄之介氏の『中国字書史の研究』(明治書院 S54年 1983年)によれば部種別、画く引き字書の嚆矢は金の韓孝彦・韓道昭父子の編纂になる『五音篇海』とされるが図1、しかしそれ以前は萬暦年間 (1615年) 梅膺祚によって編纂された『字彙』図2がそれと、長く考えられてきた。明代萬暦年間には、「海篇」類と称せられる注1、多くの画く引き字書が作られた。『字彙』も「海篇」類編纂の、その流れの中で出てきたものであろう。しかしいづれにしろ『字彙』が嚆矢でないにしても、漢字を部首の整理と画数順に配列すると言う、至って検索しやすい字典が出現したわけである。『字彙』は日本でも流行し、片仮名で漢字

音を付し、返り点を付けた和刻本も残っている。『玉堂字彙』の簡略化とは『字彙』にあった出典（『文選』や『法苑珠林』等）を省き、且つ意義を選択し見出し漢字の語義を直載に載せている。『玉堂字彙』が当時の中国では、かなりの需要があった様で各種の版本が見られ、現在でも中国の古書サイトには相当数の出品をみる。それに反して日本国内では、所蔵する図書館をはじめ公共機関は2つしか探し出せない。愛媛県立図書館とたつの市歴史資料館のみであり、且つ両機関ともにそれは明清時代の刻本ではなく清末民国期の石印本である。日本において『玉堂字彙』が流行しなかったのは、理由の1つとして『大漢和辞典』も指摘するように、「明の梅膺祚の字彙を簡略したもの、注が簡明で一般に通行す」と言うように『字彙』を簡略した、いわゆるダイジェスト版とみられたせいなのかもしれない。確かにその指摘は間違っていない『玉堂字彙』の封面に、すべての版本に「梅誕生原本」と梅膺祚の『字彙』をもとにしたと書かれている。が単に簡略化されただけではなく『玉堂字彙』の序注3によれば、梅膺祚の『字彙』が刊行されて以来、その利便性のせいか数多くの版が世に出て、誤りが多くなってきた、その誤りを正し且つ更に使いやすく整理し、清代に入ると、巾箱本元、亨、利、貞の4冊として利便性を高めている。ただそう言う割には、清代の刻本には誤刻が多いし、後年出版された「石印本」の方が、『字彙』に忠実であったりする。言葉を換えて言えば当時の中国では中間知識層の拡大があり、現代の『新華字典』に類するような簡便な字典の需要が大きかったのであろう。一方日本では中国の字書を利用する高度の知識人にとっては、『字彙』、『正字通』、『康熙字典』があれば用を賄えるわけで、出典も欠いた字書では俗なるものとして評価されなかったのであろう。さらに言えば「刻本」は極めて粗悪である。「仆」を「什」、「王」を「土」、「添」を「漆」、「傾」と「側」、「池」を「他」など枚挙に遑がない。小説研究の分野では軽く見られがちな「石印本」が案外正確で、「刻本」が省略した『字彙』からの引用を補充掲載している。しかしこれとて、誤写誤記が無いわけではない。所謂大衆化した字書の限界ともいえる。「満文本」は当該漢字語義の一部のしか繙訳していないが、これは「満漢合璧対訳字書」の伝統を受け継いだのかもしれない。その翻訳は比較的正確である。満漢両語に精通した人物の手になるもので、断定は下せないが書写の字体や綴りから見て康熙年間と見て差し支えないと考えている。東京外国語大学に所蔵される『満漢合璧成語對待』とよく似ている。Fuchsによれば『成語對待』そのものの刊行は、1702年・康熙四十一年・劉順の作とする。（拙著『東アジアの言語接触の研究』参照）

刊行年代は韋基舜の『玉堂字彙復修版』前言によれば明崇禎六年（1633年）とする。さらに康熙二十九年（1690年）重刻されると載せる。しかしそれより古い康熙十五年（1676年）、經倫堂蔵版、順和堂蔵版があるようだ。但し以下に述べるように、康熙十五（丙辰）年本の確認は出来ていない。「重刻」が明崇禎六年の「重刻」なのか、康熙十五（丙辰）年本の「重刻」なのか不明。また明版に萬曆年間とするものがあるが、これは『字彙』の刊行年で『玉堂字彙』の刊行年ではない。

『玉堂字彙』の版本図 3~6 参照

- 0 1、明崇禎刻本 15 冊 巾箱本ではない。各冊は子、丑、寅、の十二支に分けて、首篇ほか 2 冊が加わり 15 冊に分かれている。「満文本」も十二支に分けているので、或いは明崇禎刻本に依ったのかもしれないが、『字彙』自体が十二支で分けているので、断定はできない。

以下、清刊本は元、亨、利、貞の 4 冊

- 0 2、康熙十五年 (1676 年) 經倫堂蔵版 (順和堂蔵版)
 0 3、康熙年間 光華堂蔵版 (康熙序刊本)
 0 4、康熙年間 文盛堂蔵版 (康熙序刊本)
 0 5、道光五年 (1825 年) 大新堂蔵版
 0 6、咸豐十年 (1860 年) 書業徳梓行
 0 7、同治八年 (1869 年) 聚盛堂蔵版
 0 8、同治九年 (1870 年) 天津文煥堂
 0 9、同治十一年 (1872 年) 書肆名なし
 1 0、光緒十年 (1884 年) 文英堂梓、寶仁堂
 1 1、光緒十一年 (1885 年) 聚元堂梓行
 1 2、光緒三十年 (1904 年) 三義堂、掃葉山房

この他光緒年間から民国にかけて石印本多数あり。石印本の嚆矢は掃葉山房版。

但し 2~4 については正式には康熙序刊本と言うべきもので、出版書肆の名から見て、康熙年間の版本とする根拠はどこにもない。むしろ早くて嘉慶、道光年間の出版であろう。序も康熙丙辰と康熙庚午の 2 種があり、序文の署名も「古杭陳湜子」と「古杭知足子」と 2 種類ある。『刻本』と『石印本』の関係は印刷技術の相違だけではなく、詳細に見ていくとまず、音の字が相当違う。清初清末と漢字音が相違するであろうから、当然と言えば当然の事であろうが、『石印本』は『刻本』をそのまま右から左に移したものではない。語釈も『石印本』は相当『刻本』と相違する。『刻本』を無視して元の『字彙』に依った解釈もある。したがって、翻刻に当たっては『刻本』と『石印本』の校勘も必要となる。

『玉堂字彙』日本国内所蔵個人及び機関

- 1、たつの市龍野歴史文化資料館 石印 図 7, 8 参照
- 2、愛媛県立図書館 石印本で 2 冊に合冊。
- 3、武州望岳樓 刻本 同治九年新鐫 文煥堂 (4 冊・元、亨、利、貞集)
- 4、武州望岳樓 刻本 光緒十年新刻 寶仁堂 (4 冊・元、亨、利、貞集)
- 5、武州望岳樓 石印 光緒三十一年 掃葉山房 (元・亨集のみ)
- 6、武州望岳樓 石印 民国四年 上海錦章図書館 (4 冊・元、亨、利、貞集)

小結

明代萬曆年間に部首別、画く引きと言う検字にきわめて便利な『字彙・字彙補』が刊行

された→明末崇禎年間に、それをコンパクトにし字義の出典などを省き、誤謬を正した『玉堂字彙』12冊が刊行された(ただし刻本に誤刻も多い)→康熙年間には、より使い勝手の良い巾箱本で元、亨、利、貞、の4冊にまとめられた→清の極末期から民国初期には石印本の『改正』『訂正』等の冠を加えた『玉堂字彙』(元、亨、利、貞、の4冊)が刊行された。石印本は刻本の『玉堂字彙』に比べて半切字は大幅に改編されており、字義の説明も付加されている。石印本の『玉堂字彙』は「刻本」類より誤写が少なく、且つ「刻本」が省略している部分も『字彙』或いは『正字通』韻書類で補っている。又『字彙』にあった出典等は『玉堂字彙』では皆省かれている。

字書を利用する側から言えば、『字彙』から『玉堂字彙』への「繁」から「簡」への変化は少数の高度の知識人から、人口の増加と経済活動の発展に伴い増加した、すなわち簡便な知識を必要とする中級レベルの知識人の広がり意味着と考えられる。『字彙』(明萬曆年間)→『玉堂字彙』(明崇禎年間)→巾箱本『玉堂字彙』(清康熙年間)→『石印本玉堂字彙』(清末)という流れになる。さて『玉堂字彙』の流れの中でもう一つ付け加えなければいけないものがある。それが先に挙げた「満文本」である。

満洲語注音注釈『玉堂字彙』について

フランス国家図書館蔵の数々の満洲語文献の中に、写本の『玉堂字彙』は図12図13のように、満洲語版のものである。誰が何時何のために『玉堂字彙』の満洲語版を作り上げたのか、この写本の持つ意義は何なのかを、少し考えて行くことにする。漢文版の『玉堂字彙』が元、亨、利、貞の4冊本に分けているのに対して「満文本」は『字彙』、明版の『玉堂字彙』と同じく子、丑、寅の十二支に分類されている。或いは明刊本の『玉堂字彙』に依ったのかもしれないが、後考に俟つ。

まず、この本に関与したのは誰かと言う疑問であるが、図12を見ても解るように一の項に un とフランス語が見える、一葉 A から三葉 B まで、及び八葉 B には、漢字音や意味に関してフランス語、ラテン語、ドイツ語、ロシア語のメモが付されている。またフランス国家図書館満文目録では、梅膺祚撰『玉堂字彙』の満洲語版、原本は1676年成立、とある。まず錯誤の1つは梅膺祚『字彙』と『玉堂字彙』は同じものではない。1676年とあるのは康熙十五年(1676年)、經倫堂蔵版あるいは順和堂蔵版の事を指す。流布しているのは『玉堂字彙』の清刊本の古杭知湊子の序(石印本では古杭知足子となっている)を持つものは康熙庚午(1690年)で、明の崇禎六年(1633年)の明刊本も存在する。洋装本に仕立て替えられた『玉堂字彙』図11参照の2Pには玉堂字彙と漢字で書かれ、yu tann dsi houei と書かれている、ドイツ語で「満洲語訳。原作は4巻で康熙帝の時代に成立」とある。又その次のページには80ルーブルで Voritschoff で購入とある。これを書いたのはアジア言語の専門家 Julius Heinrich Klaproth (1783-1835)、ユリウス・クラブロートとされる。ドイツ人であるがロシアでの活躍が長く漢語、満洲語、チベット語、日本語に習熟していた。

又彼はロシアの調査団にロシア帝室アカデミーのアジア語アジア文学準会員の名目で加わり、当時の露清貿易の拠点であったキャフタで大量の漢語、満洲語、チベット語、モンゴル語の書籍を手に入れている。晩年はフランスに定住パリ大学の教授となる。イルクーツクで大黒屋光太夫の一行の一人から日本語を習った。明代に刊行された、『華夷譯語』の「琉球館譯語」から考察した琉球語関係の論考もある。フランス国家図書館蔵が所有する、満洲語、モンゴル語、漢語の図書の大部分は1835年以降の収蔵であり、多くは Paul Pelliot と彼の旧蔵本であろう。

この書にロシア語、ドイツ語、ラテン語のメモ書きがあるのは恐らく彼の手になるものであろう。かつてこの書が彼の手にあった事は事実である。それが没後フランスに転売され、現在はフランス国家図書館に所蔵されたと考えるのが妥当であろう。

14歳で漢語をほぼ独習したクラブロート (Julius Heinrich Klapproth) は当時の東洋語研究に関しては天才的な学者であった。ラングレスの『満洲字母論』図10参照についてはアミオ師の業績からの盗作であり、ラングレス自身は満洲語をほとんどわかっていなかったと論破している。そのアミオ師自身の『満・仏辞典』も今から見るとその程度は芳しくない。要するに当時のいささか曖昧模糊としたヨーロッパの東洋語研究に厳しい一石を投じたと言えよう。天才にありがちな性格はやや鋭角なところがあったようだ。さらにロシアに対してとった態度は社会的に許されるものではなく、フランスに移った後も、ドイツのスパイ容疑の目で見られていたことも事実である。クラブロートの業績図9参照については石田幹之助『歐人の支那研究』(S7年)や高田時雄編『東洋学の系譜』(大修館・1996年)に少し載せられている。Japonica Humboldtiana 10 (2006)に掲載された「Julius Klapproth His Life and Works with Special Emphasis on Japan」(Hartmut Walraüens)も石田 S7年、高田 '96年を超えるものではない。今後の研究に待つ面が多い。短命に終わったクラブロートの生涯に、その性格は全く違うにしても有坂秀世注4の姿を重ね合わせるの筆者の妄想か。

それでは誰が満洲語の発音、語義の注を付けたのかと言う事も疑問の一つであろう。Brown University Library の目録では Author を Klapproth としているが、これは疑わしい。Julius Heinrich Klapproth が現存する「満文本」の旧蔵者ないしは彼の手沢本で、ところどころにみられるメモ書きは確かに彼の手になるものであろうが、書写された満洲語は相当に手慣れた書体で学習し習得した者の手になるとは考えにくい。例えば「wa」と「fa」や「i」の表記などにその特徴がみられる。学習語学者ではなく、ネイティブの可能性が高い。またごく一部漢字の字形を見誤って他字と重複する箇所があったり、満洲語訳が『玉堂字彙』の解説よりも簡略化されていたり実用的な語義は追加されたりしている。しかしかなり難解な漢字に対して、半切による音表記があるとはいえ、正確な清代北京音を満洲文字で表記していることから見ると、満洲語、漢語の両言語に相当精通した人物たぶん満洲旗人と思われる。自分で訳したものならばあえて、フランス語やロシア語ドイツ語で注釈す

ることなないだろう。

その内容

一連の『玉堂字彙』の三者は以下のように

『字彙』→『玉堂字彙』(明版)→『玉堂字彙』(清版)→『満洲本』
→『石印本』

と単純に繋がっているのではないようだ。『石印本』は一部『清版』(刻本)に依らず直接『字彙』あるいは『正字通』や『集韻』『玉篇』を参照している箇所もみられる。『満洲本』が『清版』や『字彙』にない独自の訳語を付けていることも見られる。例えば

上 @šang #dergi (上)

刻本→常去聲、尊也、又上聲登也升也。

石印→音高尊也マ、又上聲。(別本には高ではなく尚と見える)

丁 @ding #julahūn (十千のひのと) jinggeri (釘、鉦)

刻本→鼎平聲、十千名値也、當也、又姓又叶音爭。

石印→上に同じ。

丐 @g'ai #amba sisin (大食いする人) 参考 gihoto (乞食)

刻本→音蓋、乞也、取也、又与也。

石印→音蓋、乞也、取也、又與也。

何時と言う疑問に関して、当然考えられるのは、

康熙十五年(1676年)或いは流布率の高い康熙二十九年(1690年)重刻本が刊行された後尖団音の統一以前、漢字音が、例えば「給」が ji ではなく gi、「去」は qu ではなく kioi、「興」は šing ではなく hing と読まれていた時代⁵

満洲族が漢字習得を必要と感じ始めた時代⁶

当初は外国語のメモ書きから宣教師たちとのかかわりを考えたが⁷、Klaproth の介在、及びメモ書きが、初めの数葉で終わっている事等から考えると、その可能性は低い。

書中 2 か所に「呉正裕號」の赤い印が押されているが、文字はその上に書かれており、後で押されたものではない。この印は紙を扱う問屋の屋号印である可能性が高い。格別の意味は持たないと考えた方がよさそうである。

以上を纏めてみると、

- 1、現存する『満洲語注音注釈玉堂字彙』は Julius Heinrich Klaproth (1783-1835) が 80 ルーブルを支払 Voritschoff で購入したらしい。
- 2、それが 1835 年(彼の没年)後に彼が晩年を過ごしたフランスで転売された。
- 3、『満洲語注音注釈玉堂字彙』は満洲族が漢語習得のため、コンパクトで簡略な使い勝手の良い『玉堂字彙』に満洲語で漢字発音(清代北京語音)を付し、漢字の字義を補いながら、実用的に必要な不可欠な字義のみ満洲語に訳している。
- 4、作られた時期は特定できないが、康熙十五年(1676年)、或いは重刻本のでた康熙二

十九年（1690年）以降から漢族が内城に住むことが禁じられる雍正年間中期（1728年頃）に書かれ、漢字音もその頃のもの反映されている。

- 5、『満洲語注音注釈玉堂字彙』をつくった人は満洲語、漢語の両言語に習熟した人物である。
- 6、漢文版の『玉堂字彙』が清刊本が元、亨、利、貞の4冊本に分けているのに対して満洲語注音注釈『玉堂字彙』は『字彙』と同じく子、丑、寅の十二支に分類されている。したがって満文本は清刊本ではなく、明刊本に依った可能性もあるが『字彙』が十二支分冊であるので、断定はできない。
- 7、満洲語訳は漢語語義の一部を伝えたものがほとんどであるが、概ね正確であり、且つ満洲語による漢字音は満洲語の字体及び表記から見て、それが清代康熙年間の音を忠実に表していると考えられる。

注1、『中国字書史の研究』（福田襄之介明治書院 S54年）、「明代の俗字書—明版海篇類管見—」（船津富彦『中国語学』第144号1969年）、「〈海篇〉諸本考」（遠藤由里子・梅光学院大学『論集』1989年）参照。

注2、上記書と大岩本幸次氏の「明代海篇類字書群に関する二、三の問題—附：現存海篇類目録」（東北大学中国文学論集第4集1999年）に詳しい。

注3、字彙之有、奚囊自崇禎癸酉歲。予刻始與宣城本毫無異同，因攜遠弗便，遂祖王氏巾箱之學，束卷僅半尺許，不甚累重，載之行，笥隨背中，誠為快事。年來翻刻甚多，以訛傳訛，竟失本來音義，求識字而反為字誤，欲得解而反為解惑，每為之嘆息而不可藥救。偶遊白下，同人謂予曰：君年雖盡而目力尚強，何不重正其訛，以全初志乎。子曰：然。遂亟為考訂授梓，以公四方之識正字者。聊述其概云爾。と載せている。

注4、有坂については『有坂秀世研究—人と学問—』（慶谷壽信・古代文字資料館刊・2009年）が詳しい。

注5、乾隆年間に『欽定對音字式』刊行後は漢字音の変化には関係なく清末まで満洲語の漢字音表記は、同書の規則が墨守された。

注6、清初期の順治、康熙年間はまだ内城にも満洲族、漢民族が混在しており、雍正期になって漢民族は内城より外に移住さされる。したがって順治、康熙、雍正の中ごろまでは満洲族と漢民族は接触の機会が多かった。

注7、著名な人物を挙げてみても、アダム・シャル（湯若望）、康熙帝より工部侍郎に任ぜられたフェルディナント・フェルビースト（南懷仁）、フェルビーストの後を継ぎ『康熙帝伝』を著したジョアシャン・ブーヴェ（白晋）、ネルチンスク条約締結において清朝側の代表としてロシアと交渉したジャン・フランソワ・ジェルビオン（張誠）およびトマス・ペレイラ（徐日昇）、康熙帝の側近として20年以上仕えたドミニク・パルナン（巴多明）、実測によって『皇輿全覽図』を完成させたジャン・バプティスト・レジス（雷孝思）、三代の皇帝に仕えて多くの絵画を残したジュゼッペ・カスティリオーネ（郎世寧）、『孫子』『呉子』『司馬法』などをフランス語訳によってヨーロッパで紹介したジョセフ・マリー・アミオ（錢德明）などがあげられる。

満洲語注音・注釈『玉堂字彙』翻刻繙訳・子集

凡例

01. @は漢字への満洲語音注。
02. #は字義の満洲語解釈。()内は満洲語の日本語訳。
03. ㊦、㊧とあるのはその部の二画、三画の字である事を表している。
04. 親字は『今昔文字鏡』など、simsun フォント等も使用して極力そのままの字形であらわすことを心がけたが、表記できないものは原典の文字(字彙が比較的鮮明なのでデジタル化された『字彙』の親字、やむを得ない場合は使用底本の写真)を張り付ける形をとる。
05. 満洲語版はフランス国家図書館蔵本を底本とする。
06. 「刻本」とあるのは、同治9年文煥堂本(家蔵)を底本とし、光緒10年寶仁堂本(家蔵)、フランス国家図書館蔵本(四端堂蔵版)(以下『四端堂蔵本』と略称する)を参考とする。「刻本」は総じて誤刻が多く、刷りが悪くて不鮮明なものが多い。正直に言えば、『玉堂字彙』が使い物になったのは、清末「石印」が出てからではないかと疑いを持つ。日本で流行しなかった理由の1つにその粗悪さを指摘しておいても良からう。
07. 「石印」とあるのは『攷正玉堂字彙』(光緒34年、上海掃葉山房、但し元、亨集の2集、のみ)を底本とし『攷正玉堂字彙』(民国4年、上海錦章圖書局印行)、『改正玉堂字彙』(清 陳湊子 輯 康熙二十九年序刊 4冊、たつの歴史文化資料館蔵)及び求知出版社版『玉堂字彙』(刊行年月日書かれていないが2008年7月の刊行)を参考として使用。デジタル写真化を許可された、「たつの歴史文化資料」の各位に鳴謝す。
「石印」は「攷正」「改正」と頭に冠するように、「刻本」に比べて誤写が少なく有用なものである。
08. 『字彙』はフランス国家図書館蔵本を底本とし、『和刻本辭書字典集成』3巻4巻(汲古書院刊・1980年)を参考とする。
09. 評とあるのは、著者の見解である。
10. 満洲語のローマナイズ転写は Möllendorff の転写法によった、o: とあるのはオリジナルがそうになっていると言う事。
11. 満洲語は主として『満洲語文語辞典』(福田昆之・S62年・増補 H20年)を使ったが同字書の挙げる語義の確認には12、13、及び『清文集書』等を使用した。
12. 『御製清文鑑』は家蔵の北京國子館旧蔵本、『大清全書』は2004年、東京外大 A.A 研刊(早田輝洋、寺村政男)を使用した。『清文集書』は家蔵の乾隆16年版を使用。
13. 満洲語のローマナイズ化で、例えば ioi と表記されていても、それはイオイの音ではない、ユイに近い音である。oo も ao に近くなる。eo は漢語の ou に近い音である。『欽定清漢對音字式』(乾隆37年・1772年)の音ともずれが見られる。漢語音と満洲語音の対応は「満洲語注音注釈『玉堂字彙』の満洲語について」を参照されたい。

子集

【一部 i sere hergen -i hacin (i・一と云う字の項)】

一 @i #emu (一)

刻本→衣入聲誠也、均也、數之始也、又音奇也。

石印→滴入聲誠也、均也、數之始也、又少也

丁 @ding #julahun (十千のひのと) jinggeri (釘、鉸)

刻本→鼎平聲、十千名値也、當也、又姓又叶音争。

石印→鼎平聲、十千名値也、當也、又姓又叶音争。

評 →jinggeri (釘、鉸) は満洲語版が付け加えたもの、『字彙』や「漢語版」にはない。

巧 @keo #sejilembi (嘆く、溜息をつく)

刻本→音考、氣欲舒貌、又古文巧作字。

石印→音考、氣欲舒貌、又古文巧字。

七 @ci #natan (七)

刻本→妻入聲。數目名。又少陽數也。

石印→音妻。數目名。又少陽數也。

評 →『字彙』では、親入声となっている。「石印」は入声の注記がない。

㊦万 @wan #ton (數)

刻本→音玩、數目名、今作萬。

石印→同萬、數目名、今又音木。

評 →石印の又音木は『字彙』では、莫白切麥、としている。

丈 @jang #judalambi (一丈の長さがある事)

刻本→長上聲、十尺曰丈、又長老之稱、俗加點非。

石印→長上聲、十尺曰丈、又長老之稱、俗加點非。

三 @san #ilan (三)

刻本→撒平聲、數目名、又音參。

石印→颯平聲、數名、又同參。

上 @šang #dergi (上)

石印→音高尊也ママ、又上聲。

刻本→常去聲、尊也、又上聲登也升也。

評 →「たつの本」は「高」を「尚」に作る。「高」では音が合わない。「たつの本」が正しい。

下 @hiya #fejergi (下)

刻本→遐上聲、對上之稱也、又去聲、降也。

石印→遐上聲、對上之稱也、又去聲、降也。

丌 @ki #tere (指示詞、それ)

刻本→音其、下基以薦物者、又古文其其字。

石印→音姬、下基以薦物者、又古文其其字。

評 →「其」は「居之反」kiと「渠之反」、「姬」も「居之反」kiで同じ。

㊦不 @bu #akū sere gisun (無いと言う言葉)

刻本→音卜、非也。

石印→補入聲、未也、又同弗。

与 @ioi #bu sere gisun (与えよと言う言葉)

刻本→古與字俗作与非。

石印→古與字末筆从ノ非。

評 →満洲語で bu とするのは bumbi (与えるの命令形)

𠂇 @miyan #saburakū (見えない)

刻本→音勉避箭短牆也、又不見貌。

石印→音勉避箭短牆也、又不見。

評 →『字彙』は「𠂇」に作る。満洲語は前の矢をよける「短牆」の意味は取っていない。

𠂈 @g'ai #amba sisin (大食いする人)

刻本→音蓋、乞也、取也、又与也。

石印→音蓋、乞也、取也、又與也。

評 →sisin は『御製清文鑑』に、jedere labtu niyalma be hendumbihede sisin amba sembi. geli sisingga seme gisurembi. (食べるのが多い人を言うときには、sisin amba 大食いといい、また sisingga ともいう)と載せる。『清文彙書』に、吃東西吃的多的人即 sisin amba 也、と載せている。無茶食いする人を指す。𠂈は乞食の事を指すが、満洲語では乞食を gihoto と言う。乞食が飯にあり付いて、一気に大食いする様子を見ての満洲語だろうか。

丑 @ceo #juwan juwe gargan -i dolo ihan sere hergen (十二支の中の丑と言う字)

刻本→音醜、十二支名。

石印→音醜、十二支名。

㊧且 @kiye #taka sere gisun (暫くと言う言葉)

刻本→妾上声、語辭姓且、苟且是也、又音疽薦也、行不進貌。

石印→妾上声、語辭苟且也、又音疽薦也、行不進貌、又姓。

評 →満洲語は「姓」及び「行不進貌」は採っていない。且の原義は阻害の阻に現れているように、路に障害物が重なって歩きにくい事を表す字であろうが、実用性からみれば省いても良いと思ったのであろう。石印本は刻本より整理

されて解りやすくなっている。

丕 @pi #amba (大きい)

刻本→音坏大也、又奉也、姓也。

石印→音胚大也、又奉也、姓也。

評 →満洲語は又奉也、姓也は採っていない。刻本と石印本では音の字が相違する。

「坏」は「坯」と同じ pi の音を持つ。「坏」と「胚」pei の共通音を持つが「胚」は北京語では pi という音はない、方言音であろう。梅県方言では pi と読む。『字彙』は鋪杯切と載せる。

世 @ši #jalan (世の中)

刻本→音勢、土ママ者易姓受命爲世、又父子相代爲一世。

石印→音勢、王者易姓受命、爲一世、又父子相代爲一世。

評 →刻本の「土」は「王」の誤刻。

世 @i #jalan (世の中)

刻本→同上三十年爲一世、故字从世。

石印→同上三十年爲一世、故字从卅从一。

評→満洲語は「世」と上項の「世」と同じ訳で済ませている。刻本は、三十年が一世であるから、世の字に従う。石印本は三十年を一世とするから、卅に従い、一に従う。ちなみに『字彙』は石印本と同じ。

丘 @kio #muhu (高台、丘)

刻本→音軀阜也、四井爲邑、門邑、又父子爲丘也。

石印→音蚯阜也、大也、四井爲邑、門邑爲丘也、又姓。

評 →満洲語は丘の意味だけを採る。

止 @kio #muhu (高台、丘)

刻本→同上。

石印→同上。

丙 @bing #juwan cikten -i dolo fulgiyan sere hergen (十千の内の第三位、ひのえと言う字)

刻本→兵上声、十千名、又光明也、姓也。

石印→炳、十千名、又光明也、又姓。

⑤ 丙 @tiyan #silgambi (選抜選択する)

刻本→漆マ去声以舌取物也。

石印→音忝以舌鉤取物也。

評 →刻本「漆」は「忝」の誤刻であろう。満洲語は原義には触れず「選び取る」の意のみを訳す。

丞 @ceng #aisilambi (助ける輔佐する)

刻本→音成胡也、佳ママ也、副貳也。

石印→音成繼也、佐也、副貳也。

評 →刻本「佳」は「佐」の誤刻であろう。

丟 @diyoo #waliyabuha (捨てさせた、遺失した)

刻本→音兜、一去不還也、俗从ノ非。

石印→音兜、一去不還也、俗従ノ非。

評 →満洲語の音 diyoo は漢語「兜」には対応しない。「丟 (diu1) を表すのであろう。満洲語 waliyabuha は『大清全書』に棄之、廢之、荒之と載せる。waliyabuha の基本形 waliyabumbi に『清文彙書』に、使棄之、凡遺失不見、と載せる。

禿 @tiyan #julgei araha abka sere hergen (古に書いた天と言う文字)

刻本→古文天字。

石印→古文天字。

⊗𠄎 @io #duka yakasimbi (戸を閉める)

刻本→音有、爲閤ママ戸爲𠄎日入時也。即古文西ママ字。

石印→音有、闔戸、爲𠄎日入時也即古西字。

評 →刻本の「閤」は「闔」(とじる)、「西」は「酉」の誤刻。

禿 @無し #julgei araha abka sere hergen (古に書いた天と言う文字)

刻本→古文天字。

石印→古文天字。

評 →底本の親字は「先」と誤刻している。

並 @bing #gemu (皆、すべて)

刻本→俗竝字。

石印→俗竝字。

𠄎 @bing #juwan cikten -i dolo fulgiyan sere hergen (十干の中のひのえと言う字)

刻本→古文丙字、一日竹上皮。

石印→古文丙字、一日竹上皮。

評 →求知出版社(石印影印)は「丙」を「西」とする。

𠄎 @deo #arki nure omire (燒酎、酒を飲む事)

刻本→音豆、礼器也、今文作星斗之斗。

石印→音豆、禮器也、今文作星斗之斗、非。

評 →満洲語は祭器に盛られた酒を飲むの意に解している。

【1部 gun sere hergen -i hacin (gun・1と言う字の項)】

丨 @gun #dergi fejergi de hafunambi (上から下に貫通する)

刻本→音衰、上下通也、又汝四二音義同。

石印→音衰、上下通也、象數之縦也。

評 →刻本の後半部は『字彙』の息漬切音四義同と忍與切音汝義同。を省略している。

𠂔 @gio #futa murimbi (綱で縛る)

刻本→音鳩相糾繚也。

石印→音鳩相糾繚也。

② 𠂔 @ya #moo i faju (木の二又になった処)

刻本→音鴉、木之岐頭也。

石印→音鴉、物之岐頭也。

𠂔 @gu #fali (何個の個、何疋の疋)

刻本→与箇同、又東西廂也、又幹韻。

石印→與箇同、又東西廂也、又通作介。

評 →石印の「又通作介」は『字彙』にも載せていない。

𠂔 @kuwa #anatambi (押し付ける)

刻本→音跨、跨一步也。

石印→音跨、跨歩也。

評 →満洲語 *anatambi* は『清文彙書』に、彼此推托躲避不受、推出不管之意、立意推諉、互推之、衆人推之と載せている、『御製清文鑑』に *siltame jailatame beye de alime gaijarakū be anatambi sembi*. (断り、拒否し自身に受け取らぬ事を *anatambi* と言う) また *geren anara be anatambi sembi. geli ishunde aname bulcara banuhūšara be inu anatambi sembi*. (すべて押し付ける事を *anatambi* と言う、またお互いに押し付け口実を作り横着するのも *anatambi* と言う) と載せる。漢語の跨一步は大きく一步踏み出すことを指すが、あるいは清代には相手に向かって一步進めるという意味から慣用的に「押し付ける」の意味を持ったかの。

③ 中 @jung #dulimba (真ん中、中央)

刻本→音終、不偏也、内也、掌也、又音衆、射矢至的日中、又針韻。

石印→音終、不偏也、又内也、穿也、又音衆、射矢至的日中、又與伸通、又姓。

評 →刻本「又針韻」とあるのは『字彙』の「侵」韻去声、諸簪切音針（以下詩秦風の例を引く）とあるによる。

𠂔 @gi #jafambi (取る、つかむ)

刻本→音吉、手持物也、俗作𠂔。

石印→音吉、手持物也、俗作𠂔非也。

𠂔 @h'ai #dalimbi (隠す、さえぎる)

刻本→音害、相遮要害也、与下三平不同。

石印→音介、艸蔡也、象艸生散亂。

評 →刻本「与下三平不同」とあるのは、下の字と違い横棒は斜めであるこという。

石印本は『字彙』の引く『説文』をそのまま引用している。

丰 @feng #dere tumpanambi (顔がふくよか、丸顔)

刻本→音鋒面貌豊満也、又草盛貌、俗上畫从ノ非。

石印→音鋒面貌豊満也、又草盛貌、俗上畫從ノ非。

評 →現代漢語の簡体字の「丰」(豊)に同じ。

④卯 @guwan #funiyehei šošon (o:funayehei、添え髪、入れ髪)

刻本→音貫、束髪如兩角貌、又音見。

石印→音慣、束髪如兩角貌、又同鑑。

評 →底本の満洲語は funayehei と見える。訂正しておく。funiyehei šošon は漢語対訳は髮纂(詰め物をして髪型を左右に角のように出すこと)束髪とは少し違うようだが、満洲族の髪型である「小兩把頭」図 14 参照からの連想なのかもしれない。満洲語 šošon は『清文彙書』に、婦人頭髮挽住、と載せ、動詞の šošombi は婦人把髮総挽と載せている。

⑥串 @cuwan #ulcin (銭串、銭縵)

刻本→音釧、穿也貫也。

石印→音釧、穿也貫也。

評 →満洲語 ulcin は『御製清文鑑』には「jiha ulire futa-i jergi jaka be ulcin sembi. jai uliha emu mingga jiha be emu ulcin jiha sembi. geli emu futa seme gisurembi. (銭を紐縄で一組にしたものを ulcin と言い、また紐を通した 1 千銭を一 ulcin 銭と言う。また一 futa とも言う)つまり「銭縵」(さし)の事を言っている。『清文彙書』に、穿錢的錢串如一千錢一吊錢、即 emu ulcin 也、と載せている。

弗 @can #šolon (焼き串、火かき棒)

刻本→音産、灸肉器也。

石印→音産、灸肉器也。

評 →満洲語 šolon は『大清全書』に、焼肉の扱子と載せ、『御製清文鑑』に、sele, moo -i dube ergi be šolonggo arafi, yaya tokoro de baitalarange be šolon sembi. geli juwe gargan -i arafi, yali šoloro de baitalarange be inu šolon sembi. (鉄や木の末端の方がとがらせ、すべて刺す時に役立つものを šolon と言う、又二股に作り、肉を焼く時に役立つものも šolon と言う)と載せる。『清文彙書』に、凡叉物的叉子并焼肉の鐵叉子、凡鐵器或木器尖子上做尖了、凡戮用者、と載せる。

𠂇 @ki #hiyahanjambi (交錯している)

刻本→音岐、參差也。

石印→音岐、參差也。

評 →hiyahanjambi は『御製清文鑑』に、baita emdubai jisime isinjire be,hiyahanjambi sembi. geli yaya jaka be hetu undu sidara be hiyahanjambi sembi. (仕事をひたすら繰り返して到達するのを hiyahanjambi とする、また全ての物の縦横が交差している事も hiyahanjambi とする) 現代漢語の參差は長短、大小不揃いの事をさすが、この語彙は時代によって多様な意味を持つ。中古漢語(變文等)では幾乎(ほとんど)の意味を持つ、近世漢語では『水滸伝』19 回に、有半句話參差(話に食い違いがある)參差は物事が食い違っている様を表す。満洲語の対訳としては subcalu (高低不揃い)の方が適訳であろう。

𠂇 @ts'o #luku jajuri (密生した茂み)

刻本→音泥、叢生草也。

石印→音泥、叢生草木也。

【、部 ju sere hergen -i hacin (ju・、と言う字の項)】

、 @ju #lashalambi (決断する、断ち切る)

刻本→音王𠂇𠂇𠂇字燈中火、也。

石印→音主、古文主字、燈中火、也。

評 →刻本の「王」は「主」の誤刻、満洲語 lashalambi の義は刻本、石印本ともに載せていないが、『字彙』には、燈中火、也。の他に有所絶止、而識之と載せている。今も使う読点とみなしている。『満語本』が『字彙』に依ったか、あるいは『玉堂字彙』明版に lashalambi の語義を載せていたのか、明版が未見なので不明。

②、 @i #fucihi nomun de i sere hergen (仏經の經典で i・伊と言う字)

刻本→仏書伊字、如艸書下字。

石印→仏書伊字、如草書下字。

丸 @wan #muhaliyan (彈丸、數珠玉)

刻本→音完、彈丸也。又取圓轉意。

石印→音完、彈丸也。凡物圓轉皆曰丸。

③丹 @dan #fulgiyan (赤、朱)

刻本→音單赤色也、又丹砂、道家有内外丹、又姓。

石印→音單赤色也、又丹砂、道家有内丹外丹、又姓。

④主 @ju #ejen (君主、主人、長)

刻本→諸上声、君也、幸ママ也、掌也、又賓之對也、又姓也。

石印→音塵、君也、宰也、又賓之對也、又姓也。

評 →刻本の「幸」は「宰」の誤刻。

井 @dan #niyalma -i hala (人の姓)

刻本→耽上声、擲物井中音也、又姓。

石印→同井、又音黠、投井中聲也。又姓。

【ノ部 piyen sere hergen -i hacin (piyen・ノと云う字の項)】

ノ @piyen #hashū ergi ešeme tatame arambi (左側に斜めに伸びる様に書く)

刻本→篇入声、左戻也、又音曳至也。地至也。

石印→音瞥、右ママ戻也、又音曳至也。地至也

評 →『字彙』は左とする。石印の右は誤り。

ノ @fu #ici ergi ešeme tatame arambi (右側に斜めに伸びる様に書く)

刻本→音弗、右戻也、又音列義同。

石印→音弗、右戻也、又音列義同。

ノ @i #genggiyen (明るい、澄んだ)

刻本→音曳、拙也、明也。

石印→音曳、拙也、明也。

ノ @i #orho hadumbi (草を刈る)

刻本→音藝、與艾同芟、草也。又俊又才也。

石印→音刈、與艾同芟、草也。又賢才之稱也。

評 →満洲語は「草を刈る」と言う、動作とする。

ナ @dzo #hashū gala geli ešen (左手、又斜め)

刻本→音左、左手也、又戻也。

石印→左本字、又古文有字。

評 →『字彙』は「藏可切、音左、左手也、又戻也」とほぼ刻本に同じ。

乃 @nai #teni sere gisun (なお、まさに、と云う言葉)

刻本→奈上声、難辭也、又汝也。

石印→奈上聲、難辭也、又汝也。

評 →『字彙』は『爾雅』を引き「若乃者因上起下語也」とする。今風に言えば原因を表す接続詞のことを指しているようだ。刻本、石印ともに「難辭」は『説文』の象氣之出難也による。

②久 @gio #goidambi (久しくなる、時がたつ)

刻本→音九、長遠也、又音暮。

石印→音九、長遠也、又音几。

久 @gio #goidambi (久しくなる、時がたつ)

刻本→俗久字。

石印→俗久字。

毛 @dze #orho -i abdaha (草の葉)

刻本→音責、艸葉也、又音閣。

石印→音責、草根毛生地上也、與託通。

評 →「刻本」は草の葉、「石印」は草の根としている。「石印」は『字彙』に依っている。満洲語は「刻本」に依っている。

③④之 @jy #genembi (行く)

刻本→音支、往也、又語助辭也。

石印→音支、往也。又語助辭也。

乍 @ja #gaihari (突然、たちまち、ふと)

刻本→茶去聲也。初也、暫也、甫然也。

石印→茶去聲也。初也、暫也、甫然也。

評 →gaihari は『御製清文鑑』に、yaya hahilame uthai ilire fororo be gaihari sembi (凡そ急ぎすぐ起き向かう事を gaihari とする) と載せる。

乎 @hu #gisun wajifi funcehe mudan (言葉が終ってからの余韻)

刻本→音詰、疑辭、語之餘也。

石印→音胡、疑辭、語之餘也。

弟 @dzi #nakambi (中止する)

刻本→音子、止也。

石印→音子、止也。

評 →nakambi は『大清全書』には、闕如之闕、棄官之棄、と不可則止の意味を載せる。『御製清文鑑』には載せていないが、『清文集書』に、棄官之棄、止住之、鷄歇架之歇、と載せる。

乏 @fa #mohombi (果てる、窮乏する)

刻本→煩入声、無也。

石印→音伐、無也。

評 →「刻本」が入声と注することを見ると、編纂時に入声音を保存していた地域で編纂されたことがわかる。さすがに清末編纂の「石印本」は入声の注を取っている。もちろん満洲語は入声は取らず「fa」と注記している。『字彙』は房押切、音伐、としている。

⑥⑤辰 @pai #muke sekiyen -ci eyehe encu gargan (水源から流れた支流)

刻本→音辰、水之滾流也。

石印→派之本字、水之袞流別也。

評 →「石印」は『字彙』に同じ。「寶仁堂」は「袞」とする。

丞 @in #geren irimbi (衆人が立ち並ぶ)

刻本→音吟、衆在也、又古攀字。

石印→音吟、衆立也、又古攀字。

肩 @i #beye forgošofi doro dasambi (身を翻し道を修める)

刻本→音衣、歸也。

石印→音衣、歸也。

評 →「滿文本」は、「刻本」「石印」に依らず『字彙』の古人所謂反身修道故曰歸也、に依っている。ただし肝心の歸るの意味を飛ばしている。

呂 @dui #boigon isambi (家族、家産が集まる)

刻本→對平声、聚上也。

石印→堆本字。

評 →満洲語の boigon には家族、家産、戸などの意味がある、何れとも決め難い。

乖 @goi #hūwaliyasun akū (不和、平和でない)

刻本→俗乖字。

石印→俗乖字。

評 →「滿文本」は次項の「乖」の字の解釈を載せている。

⑦乖 @goi #hūwaliyasun akū (不和、平和でない)

刻本→怪平声、不和也、又規拐二音。

石印→怪平声、不和也。

評 →「刻本」の又規拐二音、は『字彙』にはない。

垂 @cui #orho suharahabi (草の穂が垂れている)

刻本→音垂、艸木華葉垂也。

石印→古文垂也、艸木華葉垂也。

乘 @ceng #morila (馬に乗る)

刻本→音成、御也、駕也、又去声車乗也。

石印→音繩、駕也、又去声車乗也。

評 →中古音でも「成」*čien* (王力)「乘」*čien* (王力)と同じ。「石印」の音「繩」*sheng* は「乘」のもう一つの音 *sheng4* を反映したものの。

【乙部 *i sere hergen -i hacin* (i・乙と言う字の項)】

乙 @i #juwan cikten -i dolo niohon sere gergen (十干の中の「きのと」
と言う言葉)

刻本→音一、十干名也。又屈也、姓也。

石印→音一、十干名也。又屈也、姓也。

評 →「滿文本」nionhon は ionhon と書く。誤写。

と @ye #cibin (燕)

刻本→音軋、玄鳥。與甲乙之乙少異。

石印→音軋、玄鳥。與甲乙之乙少異。

ㄥ @in #somimbi (隠す)

刻本→音隱、匿也。

石印→古文隱字匿也。

乚 @miye #yasa durhūn (目でじっと見る)

刻本→音咩、眼乚斜也、又姓。

石印→音咩、眼乚斜也、又姓。

評 →「咩」『篇海』では羊鳴とする。

九 @gio #uyun (九)

刻本→音久、數目名、老陽數也。

石印→音九、數目名、老陽數也、又姓。

②乞 @giyoo #ishunde murimbi (互い意地を張る)

刻本→音氣、與也、又音詰、求也。

石印→音乞、求也、又音氣與也。

評 →まず「滿文本」の親字は乚、音の giyoo は現代音の jiao に対応して、氣の qi または「詰」の jie ないし ji には対応しない。解釈の ishunde murimbi も適切とは言えない。

也 @ye #gisun wajifi funcehe mudan (言葉が終ってからの余韻)

刻本→音野、語終辞。

石印→音野、語終辞。

⑤乚 @gi #enduri solifi genehunjehe be fonjimbi (神を招きて疑わしきを聞く)

刻本→音鷄、卜以問、疑即古稽字。

石印→音鷄、卜以問、疑即古稽字。

乚 @si #tuktan (始め、起源)

刻本→音始、初也。

石印→古文始、音初也。

評 →「石印」の古文始は『字彙』に依っている。

乚 @luwan #facuhūn (混乱、乱れ)

刻本→乚俗乱字。

石印→乚俗乱字。

評 → 「刻本」の説明は乱の字は「乱」ではなく「亂」でなければいけない。満洲語 *facuhūn* は『大清全書』に、亂と載せ、『御製清文鑑』に、*baita šašabufi da dube akū be facuhūn sembi, geli niyalmai yabun tob akū be inu facuhūn sembi* (仕事が攪乱されて本末が無い事を *facuhūn* と言う、又人の行い正しくない事もまた *facuhūn* と言う) と載せる。『清文彙書』には、*facuhūn* は載せていないが、動詞の *facuhūrambi* を載せて、亂之、反亂淫亂之亂、病重人心亂之亂。と載せる。『清文彙書』には、動詞の *facuhūrambi* を載せて、亂之、反亂淫亂之亂、病重心亂之亂、と載せている。

乱 @ye #ye du gurun -i gebu (ye du 国の名・漢名は乱毒国)

刻本→音頁、國名。

石印→音頁、乱毒國名。

評 → 「満文本」「石印」は『字彙』の乱毒國名に依る。

乳 @ru #huhun (乳房、乳)

刻本→音汝、柔也、湏也、又音柔。

石印→音汝、柔也、湏也、又音柔去声。

評 → 「石印」の去声は『字彙』では去声と上声の両方あげている。

乾 @kiyan #jakūn jijuhan de kulun sere hergen (八卦で乾と言う言葉)

刻本→俗乾字。

石印→俗乾字。

評 → 「刻本」(『四端堂』)は「俗乱字」となっているが間違い。『満語本』は次項の解釈を取っている。また満洲語は行書体で *jijuhan* は *gijuhan* としか読めない。又 *jijuhan* は *jijugan* とも綴られる。

乾 @kiyan #jakūn jijuhan de kulun sere hergen (八卦で乾と言う言葉)

刻本→音虔、君也、健也、又音干、燥也、又卦名、又姓。

石印→音虔、君也、健也、堅也、又音干、燥也、又卦名、又姓。

亂 @c'y #dasambi (治める、統治する、正す)

刻本→音池、理也、古文治字。

石印→古文治字。

評 → 「石印」は『字彙』に同じ。

⑫亂 @luwan #dasan (政治、まつりごと)

刻本→鸞去声、不治也、亦古治字。

石印→鸞去声、不治也、亦古治字。

評 → 「満文本」は「乱」の項で *facuhūn* (混乱、乱れ) を採ったので、亂では亦古治の「治」字を採って *dasan* (政治、まつりごと) としたようだ。

亂 @lin #jobocun (心配する、苦しみ)

刻本→吝上声、憂也。

石印→吝上声、憂也。

評 →「満文本」の *jobocun*、動詞の *jobombi* の方が適訳に思える。*Jobocun* は易の卦の「蹇」(滞る事)の満洲語対訳として使われる語彙である。

𪛗 @i #*fe songkoi sere gisun* (以前どおりと言う言葉)

刻本→音意、奮也、貪也。

石印→音意、奮也、又貪也。

評 →「満文本」の *fe songkoi* は『字彙』には『文選』「呉都賦」を挙げて、善曰𪛗費、錦文貌、濟曰𪛗費、猶依稀。李善は錦の綾どり、とし呂延濟はさも似る、あたかももの義と採っている。「満文本」は「奮」、「貪」の意味を採らず「依稀」の意味を採ったようだ。これを見ても解るように、「満文本」は単純に手近の清刊本のみを見ているだけではなく、きちんと『字彙』に戻って参照していることがわかる。

𪛘 @ye #*yarhūdan* (導くこと)

刻本→音業、引也。

石印→音業、引也。

評 →満洲語の *yarhūdan* は『大清全書』には、領着、牽着、引導、率、と載せる。『清文彙書』には、引進于善之引、引導、率、牽着牲口走、領着、人騎着牲口上牽着走と載せる。『御製清文鑑』には、*faksikan -i ibedeme sain de dosimbure be, yarhūdan* (巧みに漸次善に導く事を *yarhūdan* と言う) と載せている。

【「部 *giowei sere hergen -i hacin* (*giowei*・)」と言う字の項】

𪛙 @*giowei* #*hahū ergi wesihun ici tatambi* (左側から上方向に引く)

刻本→音𪛙、鉤逆者謂之。

石印→音𪛙、鉤連者謂之。

評 →「刻本」は『字彙』が引く『説文』をそのまま引用している。「満文本」の解説は左から上に引くと言う、字形そのものの解説で、鉤の意味は載せていない。

𪛚 @*giowei* #*ici ergi wesihun ici tatambi* (右側から上の方に引く)

刻本→音𪛚、劔戟貌、一曰鉤也。

石印→音𪛚、劔戟貌、一曰鉤也

評 →「満文本」は字形の解釈のみ。

了 @*liyoo* #*waiha* (終わった、完了した)

刻本→聊上声、決也、又曉解也。

石印→聊上声、決也、又曉解也。

評 → 曉解は『廣韻』の解を採る。理解の早いことを指す。

ㄩ @gioye #aššara arbun (挙動)

刻本→音子、ㄩ也、動貌。

石印→音訃、ㄩ也動也。

ㄩ @giowe # aššara arbun (挙動)

刻本→音決、義同上。

石印→音決、義同上。

評 → 「満文本」はㄩとㄩは字義が同じでありながら、gioye と giowe と音を分けているが、中古音のkiuat (王力) 現代漢語の jue を表す。

③予 @ioi #bu sere hergen (与えよと言う字)

刻本→音羽、賜也。與與同、又音于、我也、與余同。

石印→音羽、賜也。又我也、與余同。

⑦孛 @ioi # bu sere hergen (与えよと言う字)

刻本→音序、玩賞也。

石印→音序、見山海經。

評 → 「刻本」の玩賞也。は『字彙』にも見えない。又『四端堂』は「玩」を「兄」としているが誤刻。中古音では羽はyiu (王力) 序はzio (王力) 現代音でも羽はyu、序はxuと違うが、「満文本」はioi (現代音のyu) を採っている。語義も予と同じ bu sere hergen としている。予と孛を同じと考えたのであろう。

事 @ši #baita (仕事、問題)

刻本→音嗜、營爲也、又奉也、載也、職也。

石印→音嗜、世務大曰政、小曰事、又奉也、載也、職也。

評 → 「石印」の世務大曰政、小曰事は『字彙』に依る。

【二部 el sere hergen -i hacin (el・二と言う字の項)】

二 @el #juwe (二)

刻本→兒去声、數目名、地數之始、即偶之兩、畫變之也。

石印→兒去聲、數目名、地數之始、即偶之兩、畫變之也。

評 → 『字彙』には「畫而變之也」と載せる。

二 @šang #julgei bithe de šang sere hergen (古書にšang・上と言う字)

刻本→古文上字。

石印→古文上字。

評 → 「満文本」が šang と載せるのは上の字からの推測。

二 @hiya #julgei bithede hiya sere hergen (古書に hiya・下と言う字)

刻本→古文下字。

石印→古文下字。

干 @ioi ママ #si bi sere bi hergen (彼此の此と言う字)

刻本→音觸小歩也、左歩爲イ、右歩爲干、合則行矣。

石印→音觸小歩也、左歩爲イ、右歩爲干、合則行矣。

評 → 「満文本」の音注は誤り、觸は中古音で tchīwok (王力) 現代漢語音で chu、ioi では誤り。恐らく次項の「干」と間違えたのであろう。次項の「干」には、cu と「干」の正確な音を付けている。又満洲語の注釈も si bi sere bi hergen の意味は『字彙』も載せてはいない。「干」の解釈としては、恐らく次項の emu okson が正しい。「満文本」は「干」と書いて「干」と訂正している。要するに「満文本」は音も解釈も「干」と次項の字「干」と取り違えている。

于 @cu ママ #emu okson (一步)

刻本→音予、於也、又于於自足貌、又姓。

石印→音迂、於也、于于自足貌、又姓。

評 → 前項参照。

亏 @ioi #julgei bithede ioi sere hergen (古文で ioi・干と言う字)

刻本→古文于字。

石印→古文于字。

②云 @yūn #hendu (語る言う、基本形は hendumbi)

刻本→古雲字、又云云量語貌。

石印→古雲字、又云云衆語。

評 → 「満文本」の hendu は語幹部分、あるいは基本形 hendumbi の命令形に当たる。現代漢語の「雲」簡体字「云」は古くからあることがわかる。

互 @hū #acan (連結、結びつき)

刻本→音護、交互、回護是也。

石印→音護、差也、又交互。

評 → 『字彙』の音は「誤」、「誤」は中古音では ju (王力) 「刻本」「石印」の「護」は ju (王力) と相違する。『満語本』の hū は「護」と同じ。

五 @u #sunja (5)

刻本→吾上声、數目名。

石印→音午、數目名。

井 @ging #hūcin (井戸)

刻本→精上声、出水可汲者、又井井條理貌、又姓、又卦マ名、又宿名。

石印→精上聲、出水可汲者、又井井條理貌、又姓、又縣名、宿名。

評 →「刻本」『四端堂』は、「卦」、光緒 10 年寶仁堂本は「县」即ち「縣」とする。

亅 @ki #niyalma -i hala (人の姓)

刻本→音其、古其字、又姓。

石印→音其、古其字、又姓

三 @なし #julgei bithede sy sere hergen (古書に sy・四と言う字)

刻本→古四字。

石印→籀文四字。

評 →「滿文本」この箇所後で書き入れたように見える。音は付いていないが、解釈に sy と載せている。

④宣 @siowan #algimbi (有名になる、良く知られる)

刻本→音宣、宣布也、又姓。

石印→音宣、求宣也、揚布也、又姓。

評 →「石印」は『字彙』に依っている。

𠄎 @geng #ten sere gisun (極みと言う言葉)

刻本→庚去声、極也、通也、遍也。

石印→庚去声、極也、通也、遍也。

⑤况 @huwang #anggala (いわんや、～よりむしろ)

刻本→荒去声、發語辭。

石印→音貺、發語辭。

評 →「石印」の「貺」は kuang で現代漢語音と同じ、「荒」は huang、中古音 xuaŋ (王力) 現代上海方言で「况」は kuaang2、huaang2 の両音あれば、「况」と「荒」を同じ音とするのは呉方言か。満洲語 anggala は、『大清全書』に、不但、與其、寧且、と載せている。『御製清文鑑』に、gisun be sirara mudan. tere dade sere gisun de adali. geli tutu ojoro anggala. uttu ojoro de isirakū seme gisurembi. daburakū gūnin. (言葉を続ける調子、その上と言う言葉の如し、又斯くなるよりは、斯くなるに如かずと言う、散語) と載せる。『清文彙書』に、不但、寧且、與 tere dade 同、乃接連語之口氣、人口、與其、上用 anggala 係、與其口氣下句尾用 isirakū 乃不如口氣煞脚、と載せる。

些 @siye #heni (少し)

刻本→寫平声、少也、又音細語辭也。

石印→寫平声、少也、又音細語辭也。

ない事の方が多い。

④交 @giyoo #guculembi (交友する)

刻本→音膠、共也、合也、領也、互也、更也、又友也。

石印→音膠、共也、合也、領也、互也、更也、又友也、又衣領也、又同蛟。

評 →「石印」の「友也」以下は『字彙』にも載せていない語釈である。

亥 @h'ai #juwan juwe gargan -i dolo ulgiyan sere hergen (十二支の中の ulgiyan・亥と言う字)

刻本→音孩上声、歳在亥曰大淵獻、亥又莖也、十月微陽起、接盛陰故借爲十月象。

石印→音類、十二支名、又姓。

亦 @i #inu (累加を表す、～もまた、強意を表す、まさに、まったく)

刻本→音釋、又也、總也。

石印→音釋、又也、總也旁及之詞

評 →「刻本」は『字彙』の語釈を相当省略している。「石印」は『字彙』をほぼそのまま継承している。「旁及」とは、「旁求」であろう、広く遍く求める事を指す。「満文本」の inu は上記のほか、是認（その通り）、断定の助詞（である）など多様な意味をもつ。

亨 @hen #解釈なし

刻本→恨平声、通也、又音亨。

石印→恨平声、通也、又音亨、又通烹。

評 →「石印」の又通烹は『字彙』に依る。「満文本」は hiyang と書いて、墨で塗り消し、hen と書いている。

⑥享 @hiyang #wecembi (祭る)

刻本→音響、獻也、祭也、歆也、受也、當也、享礼、宴享。

石印→音響、獻也、祭也、歆也、受也、當也、享禮、燕享。

京 @ging #amba (大、大きい)

刻本→音經、大也、又丘絶高曰京、又京師天子之居、又京京憂也。

石印→音驚、大也、又丘絶高曰京、又京師天子之居、又京京憂也。

直 @lin #bele asarara boo hašan sembi (米を収めて置く米倉を言う)

刻本→與廩同

石印→與廩同

評 →「満文本」の boo hašan は hašan boo とも言い、穀物や粉を入れておく小屋を言う。漢語の小庫房のことを指す。

⑦亭 @ting #ordo (亭、宮)

刻本→音廷、道路所舍亭留也、行旅宿会之所館也、又亭榭、又均也、調也、又直也、又平也、又亭亭聳立貌。

石印→音廷、民所安定也、又停也、行旅宿会之所館也、又亭榭、又均也、調也、
又直也、又平也、又亭亭聳立貌。

亮 @liyang #gerembi (明るくなる)

刻本→與諒同、又明明也、又導也。

石印→音量、與諒同、信也、明也、又姓、从几非。

評 →「石印」の「信」、及び「从几非」は『字彙』にもない。

盲 @hiyang #julgei niyalma hiyang sere hergen obumbi wecembi sere
gisun (古人の hiyang・享と言う字、成す、祭るという言葉)

刻本→古享字。

石印→古文章字。

囪 @jy #julgei bithe jy・直 sere hergen obumbi sijrhün sere gisun
(古書に jy・直と言う字、成す、真直ぐと言う言葉)

刻本→薛作首、鄭作適即直。

石印→見石鼓文、薛作首、鄭作適即直。

評 →「刻本」が石鼓文を飛ばしていきなり「薛作首～」としているのは不親切、
薛は薛尚功、鄭は鄭樵の事。

⑧毫 @be #ba -i gebu (地名)

刻本→音泊、湯所都。

石印→音泊、商湯所都。

堯 @ceng #sejen (車)

刻本→古文乘字。

石印→古文乘字。

評 →「滿文本」は乗り物と解したようだ。

馱 @šu #we (誰)

刻本→同馱。

石印→同馱。

亶 @dan #unenggi (誠、真実)

刻本→丹上声、誠也、信也、篤也、大也、多也、又厚、又音旃屯、亶難行不進貌、
又姓。

石印→丹上声、誠也、信也、篤也、大也、又音旃屯、亶難行不進貌、又姓。

臺 @wei #bandarakū (倦まない)

刻本→音尾、臺臺不倦之意、又美也。

石印→音尾、臺臺不倦之意、又美也。

【人部 *žin sere hergen -i hacin* (*žin*・人と言う字の項)】

人 @žin #niyalma (人)

刻本→音仁、人萬物之靈、又叶、音然。

石印→音仁、人萬物之靈、又叶、音然。

評 →「満文本」の žin の ž は特殊文字で現代漢語のピンインの r に対応する。

人 @ji #isimbi (至る、及ぶ、足りる)

刻本→與人同、隸作集。

石印→與人同、隸作集。

評 →「刻本」は與人とするが、『字彙』は「與人」（親字は上が「人」、これは上が「入」）で、「石印」が正しい。

②什 @ši #juwan niyalma (十人)

刻本→音十、十人爲什、又古者師行二五爲什、凡食器之類必共之故曰什物什具。

石印→音十、十人爲什、又古者師行二五爲什、凡食器之類必共之故曰什物什具。

仁 @žin #gosin (仁、愛)

刻本→音人、仁総四端、兼萬善通、五常貫百行、又時然二音。

石印→音人、仁総四端、兼萬善通、五常貫百行、又時然二音。

仂 @le #juwan - i emu (十の一)

刻本→音勒、數之餘也。

石印→音劫、數之餘也。

行ママ (行) @ding #emhun yabumbi (o:elhun・独り行く)

刻本→同行ママ。

石印→同行。

評 →「満文本」親字の「行」は間違い。『字彙』「石印」の「行」が正しい。「刻本」の誤りを引き継いでいる。音の ding は正しい。語釈の満洲語は elhun ではなく emhun (独り) であろう。

仄 @dze #kelfimbi (傾く)

刻本→與測同、又平仄字声也、又赤仄錢名。

石印→與側同、又平仄字聲也、又赤仄錢名。

評 →「仄」の語義から言えば、「刻本」の「測」は誤り。『字彙』「石印」の「側」が正しい。

仅 @fu #afabu (基本形は afabumbi、寄託する、ゆだねる、頼む)

刻本→付本字、又手。

石印→付本字、又手。

評 →『四端堂』は「付」を「奴」と誤刻している。「満文本」は afabumbi の語幹 afubu とする。「付」に対応するのなら、adambi の方が相応しい。

仆 @fu #sarbatala dedumbi (仰向けに寝る、大の字になって寝る)

刻本→音赴、堰也、僵也、又去声頓也。

石印→音赴、堰也、僵也、又去聲頓也。

仇 @kio #holbon (連結、配偶、一對)

刻本→音求、匹也、與遠同、又讐也、傲也。

石印→音求、匹也、與遠同、又讐也、傲也。

評 →「仇仇」(詩經・小雅・正月)の例よりみて「刻本」の「傲」は誤刻、「石印」の「傲」が正しい。「滿文本」の holbon は「匹」の漢語語義に対応させたもので、肝心の「讐」の語義は訳しこんでいない。

扒 @ba #niyalma hala (人の姓)

刻本→音八。

石印→音八、姓也。

評 →「石印」も「滿文本」も「刻本」に依らず、『字彙』に依っている。

仇 @jang #julgei niyalma -i hala (古の人の姓)

刻本→音掌、孟母姓。

石印→音掌、孟母姓。

今 @gin #te (今)

刻本→音金、對古之稱。

石印→音金、對古之稱。

評 →「對古之稱」は古に対する今の意。

介 @giyai #aisilambi (助ける、補佐する)

刻本→音戒、助也、又大也、又副助也、又佐佑也、繫也、甲也、間厠也、又畔也、又與芥同。

石印→音戒、助也、又大也、又副助也、又佐佑也、繫也、甲也、又畔也、又與芥同、又姓。

評 →「刻本」の「間厠也」(石印は無し、『字彙』にはあり)「間厠」とも書く、入り交ざることを指す。満洲語 aisilambi は、『大清全書』に、輔相、周濟、協濟、と載せる。『御製清文鑑』には、niyalmai -i hamirakū de tusa arara be aisilambi sembi。(人が充分でない時益をもたらすことを aisilambi と言う)と載せる。助力してその人に益をもたらすこと表している。

欠 @bing #juhe (氷)

刻本→音兵、水凍爲欠。

石印→音氷、水凍爲欠。

仍 @šeng #an -i songkoi (常の通り、定例通り)

刻本→音成、復也、因也、就也、重也、類也。

石印→音成、復也、因也、就也、重也、類也、又姓。

評 → 『字彙』によれば「刻本」が「類也」とするのは誤刻、「石印」の「類」が正しい。「刻本」は『字彙』にある「又姓」も抜かしている。「満文本」が音を *šeng* とするのは奇妙で満洲語表記なら *ženg* であろう。福建方言では *seng5*、中古漢語でも *ziēŋ* (王力)、*šeng* とする理由は不明。『字彙』は音を「人」とする。

「仍」と「人」を共に *nyin3* とするのは、やはり呉語系方言で『字彙』の音はこの方言系ではなかろうか、専門家の考えに俟つ。

从 @ts'ung #julgei ts'ung sere hergen dahalambi (古の ts'ung・従と言う字、同伴する、従っていく)

刻本→古従字、二人向陽爲从。

石印→古従字、二人向陽爲从。

評 → 『字彙』には、向陽爲从、向隱爲北、とある。

𠂔 @ja #taka ilijambi (少しの間立ち止まる)

刻本→即乍字。

石印→乍本字。

③仕 @ši #hafan tembi (役人の職に就く)

刻本→使去声、仕宦、又初曰筮仕。

石印→使去聲、仕宦、又初曰筮仕。

仔 @zdi #alimbi (受ける、受け入れる、耐える、我慢する)

刻本→音子、任也、克也。

石印→音子、任也、克也。

評 → 満洲語 *alimbi* は『大清全書』に、承之、受之、載之と載せており、『清文彙書』はもう少し詳しく、接着、載着、手架鷹之架、凡物將倒或漏從下抵着収着盛着、承當之、受着と載せている。

他 @to #tere (彼)

刻本→音佗、又音駄、又音惰。

石印→音佗、又音駄、又音惰。

評 → 「満文本」は「刻本」の次項「佗」と「他」の順序が入れ替わっている。

𠂔 @sin #julgei sin sere hergen akda (古の sin・信と言う字、信頼する、当てにする)

刻本→古文信字。

石印→古文信字。

仗 @jang #coohai agura (兵の武器)

刻本→長上声、兵器、刀戟総名、又憑倚也。

石印→長上声、兵器、刀戟総名、又憑倚也。

- 參 @jen #huniyahe yar sembi (毛、頭髮が長い事を言う)
 刻本→音軫、稠髮也。
 石印→音軫、稠髮也。
- 付 @fu #afabu (まかせる、委託する)
 刻本→音赴、畀也、授也。
 石印→音赴、畀也、授也。
- 任 @can #komso (少ない)
 刻本→音姪、少也、驕逸也、又音託、寄也、毀也。
 石印→音姪、少也、驕逸也、又音託、寄也、毀也。
 評 →『字彙』には任は「與託同」と載せる。
- 仙 @sijan #enduri niyalma (仙人)
 刻本→音先、神仙仙遷也、遷入山也。
 石印→音先、神仙仙遷也、遷入山也、又姓。
 評 →enduri は本来神をさす。「刻本」には「姓」の語義なく、「石印」は『字彙』に依ってつけている。
- 企 @sijan #sofin (御しがたい、奔放な)
 刻本→音軒、輕拳貌。
 石印→音軒、輕拳貌。
- 仞 @hūng #hefeli wakjahūn (腹が大きく弛んでいる)
 刻本→音紅、大腹也。
 石印→音紅、大腹也。
- 仝 @tung #sasari (一緒に、共に)
 刻本→古同字。
 石印→道書全字。
 評 →「刻本」は『字彙』の前半部の解釈を採用し、「石印」は後半部の解釈を採用している。「道書全字」はこれだけでは解りにくい、『字彙』には、{道書} 同作仝、とある。『道書』とは大漢和も「道教を説いた書」と言う解ったような解らないような説明を載せているだけである。
- 仞 @žen #micihyan ba be kemnembi (浅い所を量る)
 刻本→忍去声、八尺曰仞。
 石印→忍去聲、八尺曰仞。
 評 →「満文本」の解釈はどうも変であるが、『左氏伝』昭公 22 の注に、「度深曰仞」とあるのに依ったようで、『字彙』にも長さの単位として八尺、七尺の用例を見るが、「満文本」のような解釈は載せていない。
- 仞 @ciyan #minggan niyalma -i da (千人長)

刻本→音千、千人之長曰仟。

石印→音千、千人之長曰仟。

仟 @h'an #dalime tosombi (護り備える)

刻本→同桿ママ。

石印→同桿。

評 →使用した底本の「刻本」は「桿」とするが、「石印」『字彙』は「捍」、語義からみて「刻本」は誤刻である。

仝 @i #baturu mangga (勇壯)

刻本→尼入声、壯勇之貌、又音兀、動舟之貌。

石印→仝、壯勇之貌、又音兀、動舟之貌。

評 →「滿文本」の発音 i とする、現代漢語の yi4 と同じ。

伏 @dai #ba -i gebu (地名)

刻本→音代、地名、在海中。

石印→音代、地名、在海中。

侃 @fan #weihuken (軽い)

刻本→音販、輕也。

石印→音販、輕也。

仞 @fo #eyere usiha (流れ星)

刻本→房ママ入声、奔星爲仞約、即流星。

石印→音？、奔星爲仞約、即流星。

評 →「刻本」「石印」ともに、音は変である。「房」の中古音はbhag (王力) したがってその入声とは言えない。「石印」は底本参考本ともに字が崩れて、雨の下に巴と書いてあるようにみえるが不明、「仞」が入声であることは確かであるので、「刻本」の「房」は「辱」(fu)かもしれない。また『四端堂』は「奔星爲仞約」を「奔星爲仞仞」とする。

代 @dai #jalan (世、世代)

刻本→音迨、世也、更也、替也。

石印→音迨、世也、更也、替也。

評 →満洲語 jalan は『大清全書』には、世、代、骨節之節、長輩晩輩之輩、と載せる。『御製清文鑑』には、mafa ama, juse omosi -i jergi be jalan sembi (祖父、父、子、孫の序列を jalan とする) と載せる。漢語の代にあたる。『清文彙書』には、更に具体的に、先世之世、古代之代、長輩晩輩之輩と載せている。

令 @ling #sain (善)

刻本→陵去声、善也、律也、法也、告戒也、又縣令也、又時令月令也、又平声厮役

曰使令、又令令環声。

石印→陵去声、善也、律也、法也、告戒也、又縣令也、又時令月令也、又平声厮役曰使令、又令令環声。

評 → 令には様々な語義が載せられているが「満文本」は、最初の語義の 1 例だけで済ませていることが多い。又「刻本」「石印」の挙げて「令令環声」は『詩經』国風・齊風の廬令の廬令令、其人美且仁、の註による。廬は獵犬、令令は鈴の音とする。四書五経は若年より基本的に学習するものであるから中程度の知識人たちにも、いきなり提示されても、容易に理解できるものなのであろう。

以 @i #baitala (用いる、使用する)

刻本→夷上声、用也、與也、意也、實也、又爲也、又左右也。

石印→夷上聲、用也、與也、意也、實也、又爲也、又左右之也、又與己同。

兀 @u #elhe akū (平穩がない、不安)

刻本→音兀、牒兀、不安。

石印→音兀、牒兀、不安也。

評 → 『字彙』は「兀」と「兀」を、同兀詳見後兀註、とする。

④ 尠 @miyoo #ser sembi (細々、こまごま)

刻本→音貌、小貌、驚悚貌。

石印→音貌、小貌、驚悚貌。

評 → 『四端堂』は「驚悚」を誤刻している。

仰 @yang #hargašambi (仰ぎ見る)

刻本→娘上声、挙首望也、又心慕之辭。

石印→娘上聲、挙首望也、又心慕之辭。

評 → 『字彙』は音を「仰」上声とする。

伶 @kiyan #julgei niyalmai gebu (古の人名)

刻本→音黔、伶作ママ、古樂人。

石印→音黔、伶伴、古樂人。

評 → 「刻本」の「作」は誤刻、「石印」『字彙』は「伴」とする。つまり「伶」ではなくて「伶」の字である、といっている。

仮 @fan #ijishūn akū (不順、従順ではない)

刻本→音反、不順也。

石印→音反、不順也。

評 → 「満文本」の満洲語は fan が wan、ijishuū が ajishūn とも見える。とても学習語学者の手になるものではないだろう。

攸 @ts'i #dacun (利、切れる、鋭利)

刻本→同伙。

石印→同伙。

評 →「滿文本」親字を「伙」とし、『字彙』に「伙」の字に載せる解釈を載せている。親字は「刻本」による。

仲 @jung #jacin (第2の、次の)

刻本→蟲去聲、伯仲、又樂器大箏謂之産、其中謂之仲、小者謂之約。

石印→蟲去聲、伯仲、又樂器大箏謂之産、其中謂之仲、小者謂之約。

仕 @pi #aljaha (別れた、辞めた)

刻本→音否、離別也。

石印→音否、離別也。

評 →『四端堂』は親字を削りとっている。音、語義は残る。『満語本』の aljaha の基本形は aljambi

灾 @nao #kumungge (繁華な、賑やかな)

刻本→音鬧、義同。

石印→同鬧。

气 @i #baturu mangga (勇壯)

刻本→同乞。

石印→乞本字。

份 @ni #jurgei sarakū sembi (古の知らないと言う事)

刻本→音倪、份僱伴、不知貌。

石印→音倪、份僱伴、不知貌。

倉 @ts'ang #ekšeku (急ぐ、あわてて)

刻本→古文倉字。

石印→古文倉字。

評 →「滿文本」は「蔵」の意味は取らず、倉卒の「倉」と解釈している。『字彙』及び「刻本」の「倉」にはその解釈を載せていない。したがって独自につけたものであろう。

侷 @o #ba-i gebu (地名)

刻本→音拊。

石印→音柎。

評 →「刻本」(寶仁堂)は音を「拊」と誤刻し、『四端堂』は親字を削り小字で「侷」を入れ、下に「柎」のみを入れている。『字彙』に依れば「石印」の音「柎」が正しい。とすれば「滿文本」の音「o」は正確ではない。その釈義は『字彙』に{玉篇}地名、と載せることに依っている。

件 @u #bata (敵)

刻本→音五、偶也、敵也。

石印→音五、偶也、敵也

評 →『四端堂』は「偶」を「憊」と誤刻している。

件 @giyan #hacin (件、項)

刻本→乾上声、名件、條件。

石印→乾上聲、名件、條件。

价 @giyai #saisa (sain 善の複数形)

刻本→音戒、善也、大也。

石印→音戒、善也、大也。

評 →「満文本」の *saisa* は *sain* の複数形で、通常字書類では賢者達、学者達の意味を挙げている。

优 @dan #ilimbi (留まる、宿営する)

刻本→音近淡、止也。

石印→音近淡、止也。

評 →『字彙』音を近「啖」とする。「淡」と音は同じ、現代漢語でも *dan2*。「満文本」の *ilimbi* には、立つ、起床するの意味もある。『御製清文鑑』には、*yaya terkū feliyarakū emu bade toktofi bisire be ilimbi sembi, geli yabure niyalma taka teyere niyalma taka nakara be inu geli ilimbi sembi* (凡そ住まず、行かず、でも一つの場所に落ち着いて居る事を *ilimbi* と言う、又旅人が暫時休む事も亦 *ilimbi* と言う) と載せている。

仗 @yao #saniyarakū (伸びない)

刻本→音杳、佻僑不伸。

石印→音杳、佻僑不伸。

評 →『四端堂』本は刷りが悪く、「杳」が「杏」、「不伸」が「不仲」となっている。『満語本』の *saniyarakū* は、*saniyambi* (伸びる、期限を延ばす) の否定形。

伴 @feng #enduri niyalma gebu (仙人の名)

刻本→音封、千人之名。

石印→音封、千人之名。

任 @žen #akdambi (信じる、頼る)

刻本→音壬、佞也、保也、信於朋友曰任、堪也、當也、又負也、擔也。

石印→音壬、佞也、保也、信於朋友曰任。

任 @wang #hūdun yabumbi (早く行く)

刻本→音王、急行也。

石印→音王、急行也。

份 @bin #teherembi (釣り合う、類する)

刻本→音賓、份份與彬彬同。

石印→古文彬字、俗作斌非。

評 →「満文本」の teherembi は「刻本」「石印」ともずれがある。『字彙』にも「満文本」の言う語義は載せておらず、『説文』を引いて、文質備也、と載せるだけである。恐らく「満文本」は份を現代漢語にも使われる fen とみでの解釈であろう。そちらを採ったと考えられる。現代漢語でも fen と bin の両音があり、bin は「彬」と同じとする。『大清全書』には、「一樣、相当」類義語の tuherendure には「彬彬」の対訳を載せている。

佢 @di #fejile (下、底)

刻本→俗低字。

石印→俗低字。

仿 @fang #adali (～のようである)

刻本→與仿同、彷徨彷彿、不審貌、作髣非。

石印→與仿同、彷徨彷彿、不審貌、作髣非。

評 →細かいところであるが「刻本」「石印」は彷徨彷彿が「人偏」と「行人偏」を違えている。

佞 @jung #sengguwembi (恐れる、怯える)

刻本→音中、佞佞懼也。

石印→音中、佞佞懼也。

評 →佞佞は『集韻』に方言とあり、恐れあわてるさま。

企 @ki #bethe tukiye fi tuwambi (踵を上げて見る)

刻本→音器、舉踵而望。

石印→音器、舉踵而望也。

尫 @giyai #heiheri haihari (千鳥足)

刻本→字本从尫。

石印→尫字之偽。

評 →「石印」はの解釈は『字彙』による。「刻本」の「尫」は「尫」の誤り。

佻 @pei #tehembi (倒れる、物が落ちる、陽が沈む)

刻本→音配、顛佻伏_ママ也、今作沛。

石印→音配、顛、佻今作沛。

評 →「石印」は『字彙』の通り、「刻本」の「伏」は「佻」の誤刻だとすると、「也」は不要。

仔 @ioi #hojo hehe (きれいな女性)

刻本→同好。

石印→同好。

評 →『説文』には、婦官と載せる。又『字彙』に載せる「婕妤」は漢代の女官の名、「満文本」の hojo hehe は、『字彙』、「刻本」「石印」には載せていない『集韻』に「仔」美兒、と載せる。満洲人が「官女」なら美人であるはずと勝手に想像したのか、『集韻』の意味を把握していたのか不明。

俾 @diyoo #goidarakū (終わらない、間もなく)

刻本→音弔、俾儻不常也。

石印→音弔、俾儻不常也。

評 →「満文本」は動詞 goidambi の否定形 goidarakū とあるが、否定形は諸字典は goidahakū と載せている。

佗 @dun #julgei niyalmai gebu (古の人の名)

刻本→豚入声。

石印→豚入聲。

評 →「刻本」「石印」共に語音は載せるが、語義を載せていない。『字彙』に依れば、佗侗四凶名、と載せる。『集韻』は佗侗不慧と載せる。「満文本」は『字彙』に依っているようだ。

物 @wen #aljambi (離れる、去る、役をやめる)

刻本→音吻、離也、斷也。

石印→音吻、離也、斷也。

評 →『字彙』には「斷」は載せていない。

役 @i #jase jecen -i gebu (辺境の名)

刻本→音域、戍也、从人荷戍行役之意。

石印→音域、戍也、从人荷戍行役之意也、俗作役非。

評 →「刻本」「石印」『字彙』共に「満文本」の語義は載せていない。『集韻』に、説文、戍邊也、と載せている。幾つからの例を見ても「満文本」が『集韻』をも参考にした可能性が高い。

忪 @sin #gelere goloro gese (恐れ驚くが如し)

刻本→心上声、忪忪恐貌。

石印→心上聲、忪忪恐貌。

伉 @k'ang #haha hehe juru obumbi (男女が一对になる)

刻本→康去声、伉儷配偶也、又敵也、與抗同、又直也、又蔵物也。

石印→康去聲、伉儷配偶也、又敵也、與抗同、又値也、又蔵物也、又姓也。

評 →「石印」が「値」とするのは誤り、『正字通』に、「伉」正直之貌、とある。

倨 @ji #hahi (差し迫った、急を要する)

刻本→音急、與急同。

石印→音急、與急同。

評 →『字彙』では孔子の孫の孔伋を挙げている。

伊 @i #i (維を簡略化した音で表したか不明)

刻本→音衣、維也、因也、又彼也、又鬱、伊不舒貌、又吾伊讀書聲。

石印→音衣、維也、因也、又彼也、又鬱、伊不舒貌、又吾伊讀書聲。

評 →「満文本」の i が何を指しているか不明、伊の音を再度書いてしまったか、維 wei の音を簡略化して i と書いたのか不明。

𠵼 @yai #oitobuha (困窮した)

刻本→音隘、困也。

石印→音隘、困也。

評 →「満文本」oitobuha、基本形は oitobumbi。

伍 @u #sunja niyalma faidan (五人の隊列)

刻本→音午、五人爲伍、相參伍也、又行伍。

石印→音午、五人爲伍、相參伍也、又行伍。

評 →『四端堂』本は「午」を「千」と誤刻している。「相參伍」とは交わり雑居することを言う。

伎 @gi #gucu duwali (友人仲間)

刻本→音技、與也、侶也、又技倆也、又音竇與伎同、足多指也、又舒散也。

石印→音技、與也、侶也、又技倆也、又音竇與伎同、足多指也、又舒散也。

伏 @fu #umušuhun -i dedumbi (俯けに伏す)

刻本→音服、陰也、偃也、匿也、潛也、伺也、又三伏初伏中伏未伏、六月火旺金畏於火、故庚日必伏。

石印→音服、陰也、偃也、匿也、潛也、伺也、又三伏初伏中伏未伏、六月火旺金畏於火、故庚日必伏。

評 →「刻本」「石印」ともに多くの語義を挙げているが umušuhun -i dedumbi で済ませている。恐らく他の満漢対訳書にならって、語義を 1 つに絞っているのであろう。

伐 @fa #dailambi (征伐する)

刻本→音罰、征伐有鍾鼓曰伐、無曰侵、又積功曰伐、又自稱其功亦曰伐、又砍木也、又擊也。

石印→音罰、征伐有鍾鼓曰伐、無曰侵、又積功曰伐、又自稱其功亦曰伐、又人砍木也、又擊也

評 →「刻本」「石印」共に「積功曰伐」の「積」が「精」もしくは「債」になっているものがある。今『字彙』により改める。

休 @sio #sain (善)

刻本→朽平声、美善也、慶也、息也、又李無實者名休。

石印→朽平聲、美善也、慶也、息也、又李無實者名休、又姓。

評 →「李無實者名休」(李で実のないものを休と名づく)は『字彙』には載せていない。『爾雅』の「釋木」に、休無實李と載せている。

俛 @jung #geren (皆、衆人)

刻本→衆本字、三人爲俛。

石印→衆本字、三人爲俛。

倉 @ši #šelemi (喜捨する、施す)

刻本→古文施字。

石印→古文施字。

⑤依 @hiyan #dahame yaburakū (もとの、従わない)

刻本→音弦、很也。

石印→音弦、很也。

評 →「很」は現代漢語とは全く違う意味を持ち、「もとの、恨む、行悩む」などの意味を持つ。現代語の「很」は『元典章』あたりに見える強意の副詞「很」の字形から定着したもので比較的新しい。「狠」とも書かれた。

倅 @nu #hūsutulembi (力を尽くす)

刻本→音奴、戮力也、頸力也。

石印→音奴、戮力也、頸力也。

俅 @ju #makjan ajigen (体の小さな人)

刻本→音拙、短貌。

石印→音拙、短貌。

評 →『字彙』には、同俅。と載せるのみ。「満文本」が音を ju とするが、音「拙」であるならば現代音では zhuo で、正確とは言い難い。

伯 @be #ahūcilambi (兄長としてふるまう)

刻本→音百、長也、又兄曰伯、又父之兄曰伯、又第三等爵曰伯。

石印→音百、長也、又兄曰伯、又父之兄曰伯、又第三等爵曰伯。

估 @gu #siseteme bodombi (ざっと考える)

刻本→音古、市税、又論價也。

石印→音古、市税、又論價也。

評 →「満文本」の解釈は、現代漢語のも使われている「估計」(ざっと見積もる、推定する)の意味を載せている。『字彙』や「刻本」には載せていない。

佻 @guwa #fakcashūn (心が離れた、不仲な)

刻本→音誇、孤邪、離絶貌、又不正也。

石印→音誇、孤邪、離絶貌、又不正也。

評 → 「滿文本」基本動詞は fakcambi (離れる、別れる) の形容詞。

倆 @ping #kimcirakū (詳しく調べない)

刻本→籀文仿字。

石印→籀文仿字。

侷 @ni #si (二人称代名詞)

刻本→泥上声、汝也。

石印→泥上聲、汝也。

侂 @ni #si (二人称代名詞)

刻本→同上。

石印→侷本字。

評 → 『字彙』は「同侷」と載せる。『通雅』は「侂」は「侷」の俗書とする。

世 @siye #fayambi (浪費する、費やす)

刻本→音泄、泄ママ修也。

石印→音世、多也。

評 → 『字彙』は「音泄、修也」これが正しく、「刻本」泄の字の一字は衍字であろう、又「修」は浪費を指し「多」とも違うので「石印」も正しくない。

伴 @ban #gucu arambi (友人となる、伴侶となる)

刻本→盤上声、侶也、依也、陪也、又伴奂縦弛意。

石印→盤上聲、侶也、依也、陪也、又伴奂縦弛意。

評 → 『字彙』に『詩経』「大雅」の伴奂爾游矣を引き伴奂閒暇意、とする。

戇 @cu #jobocun (苦痛、滞る)

刻本→音畜、憂也。

石印→音畜、憂也。

評 → 満洲語 jobocun は『大清全書』に、心中所自愁、憂、苦、災と載せる、『御製清文鑑』に ališara gusucure ba bisire be jobocun sembi (塞ぎ込み煩悶する事がある事を jobocun と言う) 載せる。『清文集書』には、憂、苦、災、心中所自愁、と載せる。ほぼ『大清全書』をなぞっている。

佃 @hi #ekisaka (静かな)

刻本→音戲、静也。

石印→音戲、静也。

侷 @joo #義なし

刻本→胄同。

石印→胄同。

侷 @yao #bijabumbi (折る)

刻本→與拗同。

石印→與拗同。

評 →「拗」と「拗」が同じならば、音の yao は少し変で、現代北京音での ao3 と niu4 の 2 音しかない。「幼」の音 yao4、you4 からの連想に依る誤りかもしれない。

伶 @ling #emhun (独り、一人で)

刻本→音陵、獨也、弄也、伶人弄臣也、又伶人樂工也。

石印→音陵、獨也、弄也、伶人弄臣也、又伶人樂工也。

評 →『字彙』には、伶人弄臣也はない。

伸 @šen #saniyambi (伸びる、延ばす)

刻本→音身、舒也、理也、又使直也、又屈伸。

石印→音身、舒也、理也、直也、又屈者使直也、又通作信。

評 →「石印」は『字彙』の語釈に忠実によっている。

伺 @sy #weilembi (o:oilembi・仕える、親に仕える)

刻本→音四、偵候也、又察也。

石印→音四、偵候也、又察也。

評 →『字彙』にも「刻本」にも weilembi に当たる語義は載せていない。満洲旗人が「伺候」あたりからの意味を付けたのであろう。あた「満文本」の満洲語は oilembi と書くも、乾隆以降は oile を weile と書き分けるとのこと、早田輝洋博士のご教示による。とすれば「満文本」は乾隆以前のものか。

俚 既出 (重複している)

俚 @beng #takürsi (使丁、捕吏)

刻本→音崩、使也、又急也。

石印→音枰、使也、又急也。

評 →この箇所、『字彙』の配列は「伺」「俚」「俚」、刻本」も同じだが、『四端堂』本は「俚」を「但」と誤刻している。

似 @sy #adali (～のような)

刻本→詞上声、嗣也、又類也、又奉也。

石印→己上聲、肖也、嗣也、又類也、又奉也。

評 →音の字が『字彙』は詞去聲、と載せる。

侶 @sy #adali (～のような)

刻本→同上。

石印→似本字。

伽 @giya #gurun -i gebu julgei niyalma gebu (国の名、古の人の名)

刻本→音茄。

石印→音茄。

評 → 「刻本」「石印」は音注のみ、「満文本」の語釈は『字彙』に依っている。

夂 @sy #bucembi (死ぬ)

刻本→古文死。

石印→古文死。

亼 @pei #hūsungge (有力な家、有力な)

刻本→音丕、有力也、又衆也、又大亼山名。

石印→音丕、有力也、又衆也、又大亼山名。

怡 @c'y #elhešeme iberakū (のろのろと前に進まない)

刻本→音貽、怡擬不前。

石印→音貽、怡擬不前貌。

評 → 『字彙』の音は「滞」(zhi) で「貽」は yi、「満文本」の c'y は『字彙』に近い。

征 @jeng #gelesu (びくびくする、気の小さい人)

刻本→音征、征佂遽行貌、又懼也。

石印→音征、征佂遽行貌、又懼也。

評 → 『方言』に、征佂惶遽也、と載せる。

佃 @diyan #tarire hahasi (耕す男たち)

刻本→音田、治田也、古者一夫一婦佃田百畝。

石印→音田、治田也、古者一夫一婦佃田百畝。

評 → 『字彙』は佃亦作田とし、『詩経』「齊風」の註を引き、田謂耕治之也、とする。現代漢語では佃を tian² と読めば田を耕す、dian⁴ と読めば耕す人と読み分けている。

俛 @i #banuhūn (無精、横着)

刻本→音異、惰也。

石印→音異、惰也。

評 → 満洲語 banuhūn は『大清全書』に、懶惰と載せ、『御製清文鑑』に、kicebe akū be, banuhūn sembi (熱心でない事を banuhūn と言う) と載せる。

𩚑 @g'an #omime wenjembi (飲んでほろ酔い加減になる)

刻本→同酣。

石印→同酣。

侏 @mai #dergi aiman -i kumun -i gebu (東夷の樂の名)

刻本→音讀、東夷藥マ名。

石印→音讀、東夷樂名。

評 → 「刻本」は底本、参考本は「樂」を「藥」と誤刻している。

但 @dan #damu (ただ、もっぱら)

刻本→壇上声、徒也、凡也、任從也、又語辭、又空也。

石印→壇上聲、徒也、凡也、任從也、又語辭、又空也。

佇 @cu #goidame ilimbiu (久しく立つ)

刻本→除上声、久立也。

石印→宁上聲、久立也。

評 →「刻本」「石印」の音が違う。『字彙』は「宁」、現代漢語では「宁」は ning の 2, 4 声であるが、zhu4 もある。「満文本」の cu は「刻本」の「除」に依っている。

佈 @bu #haršakū (依怙巔眞)

刻本→音布、徧也。

石印→音布、徧也。

侮 @u #oihorilambi (輕視する)

刻本→音武、慢易也、俗作侮非。

石印→音武、慢易也、古文侮字。

評 →「石印」は古文侮字とするが『字彙』はそれを間違いとす。

祛 @kioi #tulgiyen (～を除く、無関係な)

刻本→音區、與祛同。

石印→音區、與祛同。

彼 @bei #miosihon (邪な、邪道)

刻本→音彼、邪也。

石印→音彼、邪也

評 →「満文本」が bi ではなく bei としているのは『字彙』に「又去聲、兵媚切」とあるのによる。

徂 @šao #emhun yabumbi (o:yambubi・孤独に行く、一人行く)

刻本→音紹、介行也。

石印→音紹、介行也。

評 →「満文本」は面白い誤写をしている。m は bu の後に付けるところを bu の前に付けている。

𡗗 @ts'y #buya (小さい)

刻本→音此、𡗗𡗗小也。

石印→音此、𡗗𡗗小也。

位 @wei #oron (o:sorin・位、位置)

刻本→音謂、位正也、列也、涖也、凡所當立者皆曰位。

石印→音謂、位正也、列也、涖也、凡所當立者皆曰位、又姓。

評 →「満文本」は誤写であろう、sorin としか読めないが、sorin では駆ける馬の

前身を指し、漢語とは合わない。校勘の別本がないので、一応字形から類推できる語とし *orin* としておく。この前後誤写が目立つ。

低 @di #fangkala (低い、短い、小さい)

刻本→音隄、高之反也、界也、下也、俯也、垂也。

石印→音隄、高之反也、界也、卑也、俯也、垂也。

評 →『字彙』は音を「底平聲」とする。又「卑」の意味は挙げていない。

住 @ju #ilinjambi (立ち止まる)

刻本→音筋、停也、止也、立也、居也。

石印→音駐、停也、止也、立也、居也。

評 →『字彙』は音を「石印」と同じく「駐」としている。

佐 @dzo #aisilambi (助ける、補佐する)

刻本→左去声、輔也、貳也、助也。

石印→左去聲、轉ママ也、助也、貳也。

評 →「石印」の「轉」は「傳」の誤りであろう。

佑 @io #karmambi (護る、助ける)

刻本→音宥、佐助也、又音宥也、與祐同。

石印→音宥、佐助也、又音宥也、與祐同。

評 →「滿文本」の *io* の音は現代漢語の *you* を表す。

体 @ben #albatu (野暮な、粗野な)

刻本→盆去声、劣也、又粗貌、俗作肢体之体非。

石印→盆去聲、劣也、又粗貌、俗作肢體之體非。

評 →要するに「体」と「體」は違うと言う。『字彙』では、「从本俗書肢體之體省作体」とする。『康熙字典』には、「盆上聲、劣也、又麤貌、與笨同」現代の漢語辞典類はでは一般に「体」に *ben* の音を載せていないが、北京語には *ti3*、*til*、*ben4*、*cui4* の4つの音がある。又文字の簡略化の過程を考えると、「體」→『廣韻』の「體」→『集韻』の「軀」→「体」へと進んだのかもしれない。

快 @yang #oncohon (仰向け、高慢な)

刻本→鶯去声、偃快不能俯執者也。

石印→鶯去聲、偃快不能俯執者也。

評 →『字彙』は音を「央」の上聲とする。「偃快不能俯執者也」は『莊子』郭璞の註による。満洲語 *oncohon* は、『大清全書』に、仰面不理人、情疎、淡薄、と載せる、『御製清文鑑』に、*majige onco be oncohon sembi* (少し広い事を *oncohon* と言う) と載せるが、『清文集書』に、仰面、仰面不理之仰面、仰面睡之仰面、驕傲粧大様人、と載せている。

估ママ @diyan #oilohon (うわべだけの、浅薄な)

刻本→音覘。

石印→音覘、估佷輕薄也、又估畢、估視也。

評 →親字の配列が『字彙』と違う、「快」の後に「估」（「満文本」は同じ）「刻本」「石印」は、「估」の後に「何」を配している。1つの可能性として「満文本」が元亨利貞に分けず十二支に分けている事、配列に一部清刊本の「刻本」類と相違することを考えれば、康熙年間の清刊本に依らず、『字彙』あるいは著者未見の明刊本によって作られたものかもしれない、疑いが残る。

何 @ho #ai (何、どんな)

刻本→賀平声、曷也、奚也、胡也、惡也、烏也、焉也、平也、那也、就也、誰也、又問也。

石印→賀平聲、曷也、又詰詞也、又荷負也。

評 →「刻本」は疑問代名詞を片端からあげているが、すべて『字彙』に載せているわけではない。「奚也、胡也、惡也、烏也、焉也、平也、那也、就也、誰也」は載せていない。

必 @bi #arbungga (立派な、堂々たる)

刻本→音弼、有威儀、又滿也。

石印→音弼、有威儀、又滿也。

評 →不思議なことに『字彙』には、音弼、無威儀也、滿也とある。これでは「刻本」「石印」の挙げる意味と、逆になる。『和刻本字彙』は「無」は「有」になっている。『康熙字典』は『正韻』を引いて「必」を有威儀、としている。又同書は『詩経』の「賓筵」の訓威儀の『説文』の解釈を誤りとする。この点から考えて、やはり『字彙』の「無」としているのは誤りであろう。

佗 @to #tere (それ、彼、彼女)

刻本→妥平声、彼也、誰也、又音駝、負荷而行、又委佗美也、又音唾、加也。

石印→妥平聲、彼也、誰也、又音駝、負荷而行、又委佗美也、又音唾、加也。

余 @še #niyalma -i hala (人の姓)

刻本→音蛇、姓也。

石印→音蛇、姓也。

余 @ioi #si bi sere bi (君僕と言う僕)

刻本→音予、語之舒也、我也。

石印→音予、語之舒也、我也。

評 →「語之舒也」は『説文』による。

佚 @i #elhe sulfa (安逸)

刻本→音逸、安佚不勞也、隱遁也。

石印→音逸、安佚不勞也、隱遁也。

佛 @fo #fucihī (仏、菩薩)

刻本→夫入声、大也、又西方賢人名。

石印→夫入声、大也、又西方賢人名。

作 @dzo #arambi (作る、決める、書く)

刻本→左入声、造也、爲也、又興也、起也、又行也、振也、又始也、生也、役也。

石印→藏入聲、造也、爲也、又興也、起也、又行也、振也、又始也、生也、役也。

評 →音は「石印」は『字彙』と同じであるが「刻本」は「左」となっている。「左」の中古音はtsa (王力)「藏」はdʒaŋ (王力) 共に入声となることはない。

尙 @geo #mentuhun (愚かな、無知な)

刻本→音構、又音寇、儂尙短醜貌。

石印→音構、又音寇、儂尙短醜貌。

佞 @ning #anggalinggū (口達者、能弁な)

刻本→音寧、巧諂捷給一日才也、故自兼不才曰不佞、俗作佞非。

石印→音寧、巧諂捷給一日才也、故自兼不才曰不佞、俗作佞非。

佟 @dung #liyao dung -i bai niyalma -i gebu (遼東の地の名前)

刻本→音同、燕録有遼東佟滿。

石印→音同、燕録有遼東佟滿

評 →두만강 (豆満江) 中国名、圖們江の事を指す。ちなみに두만、圖們と言うこの名前は、満洲語の tumen、モンゴル語の t ümen、チュルク語ともかかわりがあり、万、多い事を表す。

⑥佩 @pei #salami (腰に帯びる)

刻本→音背、大帯也、又玉佩、又服之也。

石印→音背、大帯也、又玉佩、又服之也。

佩 @su #saniyarakū (伸びない、延ばさない)

刻本→音速、僣佩不伸。

石印→音速、僣佩不伸。

評 →「満文本」の saniyarakū は動詞 saniyambi 伸びる、期限を延ばす、の否定形。

個 @hui #gusucume (ohušucume) tathūnjambi (悩み逡巡する、徘徊する)

刻本→音回、徘徊即徘徊也。

石印→音回、徘徊即徘徊也。

評 →「満文本」の語釈は、hušucume とあるが、伺 (動詞・基本形は gusucumbi) ではなかろうか、使われている満洲語は乾隆以前の可能性が高い(「伺」の

項参照) 乾隆期にはかなり満洲語が意識的に変えられている。(例、医者→*daifu* から *oktosi*) したがって乾隆期以前に *hušucumbi* ないしその活用形 *hušucume* の表記があったかもしれないが、ここは一応 *gusucume* の表記に従う。

臣 @*huwan* #*hafan hali* (官司)

刻本→音宦、臣臣

石印→宦或作臣。

恪 記述なし。書写漏れたとみえ、左横に字だけが書かれ、そばに×が打たれている。

刻本→音鶴。

石印→音鶴、姓也。

佬 @*liao* #*ambarambi* (大きくする、誇張する)

刻本→音遼、佬佬大貌。

石印→音遼、佬佬大貌。

倅 @*hang* #*dedurakū* (寝ない、伏さない)

刻本→音降、倅倅不伏也。

石印→音降、倅倅不伏也。

評 →「満文本」の音 *hang* は少し変である。『字彙』の音の「降」である、ならば北京音では *jiang4*、*xiang4* しかない。満洲語表記としても、*hiyang* ないしは *jiyang* と可能である。中古音は *kɑŋ* (王力)、従って音注 *hang* は疑問を残す。專家の意見に俟つ。

倅 @*šeo* #*ba -i gebu* (地名)

刻本→音収、縣名在長沙。

石印→音収、縣名在長沙。

倅 @*h'o* #*suwaliyame gaimbi* (一緒に纏めて取る)

刻本→音閣、合取也。

石印→音閣、合取也。

倅 @*yang* #*jortanggi* (故意に、わざと)

刻本→音羊、詐也。

石印→音羊、詐也。

佰 @*be* #*tangū niyalma* (百人)

刻本→音百、百人爲佰、佰謂百錢、又古陌字。

石印→音百、百人爲佰、佰謂百錢、又古陌字。

評 →現代北京音は *bai3* と *bo2*、中古音では *pək* (王力)「満文本」の *be* は *bo2* の音か。

- 金 @fa #fafun kooli (規則、法則)
刻本→古文化字。
石印→古文化字。
- 保 @bao #akdulambi (保証する)
刻本→同保。
石印→同保。
評 → 俗保字、とする。
- 伯 @hui #bocihe albu (醜い容姿)
刻本→音賄、低伯醜貌。
石印→音賄、低伯醜貌。
評 → 『字彙』は、「同惟」とする。
- 恪 @ming #sain (良い)
刻本→明上声、好也。
石印→明上聲、同酪、大醉也。
評 → 『字彙』は「米允切、名上聲、好也又作恪」と載せる。「石印」は『集韻』の「酪、酪酌醉甚」によるか。
- 佳 @giya #saikan (良い、美しい)
刻本→音加、美也好也。
石印→音加、美也好也。
- 侏 @i #senggi sudala falishūn (血脈が間欠的)
刻本→音亦、尺脈緩瀆謂之解侏。
石印→音亦、尺脈緩瀆謂之解侏。
- 𠂇 @giu #julgei bithe su sere hergen, inenggi (古書の su 夙と言う字日、昼間)
刻本→古文夙字。
石印→古文夙字。
評 → 『玉篇』に「𠂇、古夙字」と載せる。
- 𠂈 @si #ilhi (副、次の)
刻本→音是、次也即副貳也、又音耐。
石印→音是、次也即副貳也、又音耐、姓也。
評 → 『字彙』は音を「而至切音貳」と載せる。当然の事ながら「満文本」は「是」の北京音で表している。
- 併 @bing #suwaliyambi (一か所に集める、混ぜ合わせる)
刻本→俗併字。
石印→俗併字。

- 倍 @gi #tob (正しい、公正)
 刻本→音吉、正也、又壯健貌。
 石印→音吉、正也、又壯健貌。
- 很 @heng #bai gebu (地名)
 刻本→與很同、又音恒、佷山縣名、在武陵。
 石印→與很同、又音恒、佷山縣名、在武陵。
 評 →「很」の中古音はyan (王力)「恒」 yəŋ (王力) 韻尾が違う。吳方言で「很」は hen2「恒」は hhen3。
- 佷 @ho #acabume bodombi (會計する)
 刻本→音活、會也、又音括、會計曰佷。
 石印→音活、會也、又音括、會計曰佷。
- 徧 @kiong #buya arbun (小さい様子)
 刻本→穹去声、小貌、一曰寒也、又屈也。
 石印→穹去声、小貌、一曰寒也、又屈也。
 評 →「穹」の中古音はkhiuŋ (王力) 清初中期まで音の変化はないようだ。
- 僂 @gui #suilashūn (困窮し焦る)
 刻本→音詭、重累、又戾也、一曰依也、又音規、幾欲貌。
 石印→音詭、重累、又戾也、一曰依也、又音規、幾欲貌。
 評 →「滿文本」の suilashūn は『御製清文鑑』に boo yadafi beye facihyašara be suilashūn sembi (家が困窮して自身慌てるを suilashūn とする) 幾欲貌 (願ひ欲す様) を満洲語に繙訳したのかもしれない。
- 侏 @ciowan #julgei enduri niyalma gebu (古の仙人の名)
 刻本→音銓、偃侏古仙人。
 石印→音銓、偃侏古仙人。
- 儻 @si #beye ajigen (体が小さい)
 刻本→音徒、小貌。
 石印→音徒、小貌。
- 挑 @tiyoo #dokdoršembi (軽はずみな振る舞いをする)
 刻本→音調、獨行貌、又輕薄不耐勞苦之貌、又音堯、緩也、又音挑、儻薄也。
 石印→音調、獨行貌、又輕薄不耐勞苦之貌、又音堯、緩也、又音挑、儻薄也。
 評 →『字彙』は音を「條」「迢」「韶」音を挙げている。「調」の音は挙げていない。
- 佼 @giyoo #hojo (美人)
 刻本→音攪、好也、佼人美人也。
 石印→音攪、好也、佼人美人也。
 評 →「攪」吳方言では jioo2 ないしは ggoo3。

- 飲 @ts'y #dacun (鋭利、果断)
刻本→音刺、便利也、又比也、又助也、又代也、遞也、及也。
石印→音刺、便利也、又比也、又助也、又代也、遞也、及也。
評 →古漢語で「便利」は敏捷な事を表す。
- 佾 @i #maksire faidan (舞踏の隊列・八佾舞)
刻本→音逸、舞行列也。
石印→音逸、舞行列也。
評 →『論語』「八佾篇」孔子謂季氏八佾舞於庭、是可忍也、孰不可忍也。と載せる。
- 使 @ši #taküršambi (走り使いをさせる)
刻本→音史、令也、役也、又治民克盡曰使、又遣人聘問曰使。
石印→音史、令也、役也、又治民克盡曰使、又遣人聘問曰使。
評 →『御製清文鑑』に、hanci bibufi buyarame takūrara be taküršambi sembi (近くに居らせてこまごまとした使役させるのを taküršambi と言う)と載せる。
- 劓 @hing #erun (刑)
刻本→即形字、刑者劓也、劓者成也、一成而不可更變也。
石印→即形字、刑者劓也、劓者成也、一成而不可更變也。
評 →「刻本」「石印」共に説明は解りにくい、『字彙』は、與形同、【禮王制】刑者劓也、劓者成也、一成而不可更變也、と載せる。
- 佻 @sin #fiyenteme yabumbi (分隊行進)
刻本→音莘、行貌、一曰行声。
石印→音莘、行貌、一曰行聲。
評 →fiyenteme の動詞基本形 fiyentembi は『御製清文鑑』に、baita ci encu fiyokorome gisurere be fiyentembi sembi, geli yaya baita be algišeme, ulan ulan -i balai gisurere be, inu fiyentembi sembi (事から分かれ出まかせを言う事を fiyentembi と言う、又すべての事を誇張して次々と軽率に言うのを又 fiyentembi と言う) 分かれると言う意味から派生した満洲語であろう。『大清全書』には分隊の意味を載せている。
- 佻 @to #niyalmai gisun jorime holtombi (人の言葉を示して詐る)
刻本→同託。
石印→同託。
評 →まず『四端堂』は、「託」を「記」と誤刻している。満洲語の jorime holtombi の解釈が難解である。『正字通』に「託、寓言」と載せる。満洲語はこの意味の「こと寄せる」ないしは「かこつける」の意味を表しているようだ。また『字彙』は、俗作託托非、とする。

- 倨 @jy #memereku (頑固な人)
 刻本→音質、堅也、又痴也、倨屹不前也。
 石印→音質、堅也、又痴也、倨屹不前也。
- 侃 @g'an #kang seme gisurembi (がやがやとしゃべる)
 刻本→刊上声、剛直也。
 石印→刊上声、剛直也。
 評 →「満文本」は「刻本」「石印」『字彙』とも違う意味を載せている。侃侃諤々の「侃」と採ったのか、しかし侃侃諤々の意味は忌憚なく直言することであるが、がやがや話すの意にとったのかもしれない。
- 侃 @g'an #kang seme gisurembi (がやがやとしゃべる)
 刻本→同上。
 石印→同上。
- 该 @g'ai #baibi serengge jaka (理由なく、故なくと言う事の類)
 刻本→音該、奇该非常也、又音亥。
 石印→音該、奇该非常也、又音亥。
 評 →現代音でも「亥」は hai、「該」は gai、「亥」の中古音は yoi (王力)「該」は kdi (王力)と相違する。
- 來 @lai #jimbi (来る)
 刻本→頼平声、至也、還也、及也、招也、又玄孫之子曰來孫、小麥、又叶音離。
 石印→頼平聲、至也、還也、及也、招也、又玄孫之子曰來孫、小麥、又叶音離。
- 儗 @i #jergi teherembi (類、相等しい)
 刻本→音夷、儗也、等也。
 石印→音夷、儗也、等也。
- 侈 @c'y #mamgiyambi (o:mangiyambi 贅沢する、奢る)
 刻本→音恥、奢也、忝也、張大也。
 石印→音恥、奢也、忝也、張大也。
 評 →「満文本」の mamgiyambi が清代の字書表記であるが、m と n の表記の違いは一概に誤写とも言い切れない。満洲語の時期、方言的要素も考えなくてはいけないので、何とも言えないのが現状である。少なくとも現時点で文献中に mangiyambi の表記は見いだせていない。
- 伥 @wang #kos seme wasika (げっそりと痩せる)
 刻本→音汪、與伥同。
 石印→音汪、與伥同。
 評 →伥には、瘦弱の意味がある。
- 倂 @kūwa #bardanggi (大言、高慢)

刻本→與誇同、驕淫、倭又啊去声、痛呼也。

石印→與誇同、驕淫貌、倭又阿去聲、痛呼也。

評 →『字彙』は音を、同夸とする。

尙 @guwang #buya arbun (小さな様)

刻本→音肱、小貌、尙飯謂盛饌也。

石印→音肱、小貌、尙飯謂盛饌也。

例 @li #kooli (例)

刻本→音麗、比也、類也、槩也、又凡例。

石印→音麗、比也、類也、槩也、又凡例。

評 →『四端堂』は「類」を「頰」と誤刻している。

陰 @in #e -i sukdun (陰の氣)

刻本→音音、氣之重濁屬地者也。

石印→古文陰字。

評 →『字彙』は音を、瘖とする。

侍 @ši #adame ilimbi (近習する)

刻本→音示、近也、從也、承也。

石印→音示、近也、從也、承也、又侍其復姓也。

評 →「石印」の「又侍其復姓也」は『字彙』に載せる。

𪛗 @na #dere ledehun (顔の上部が大きい事)

刻本→擧上声、皮寬也。

石印→擧上聲、皮寬也。

評 →ledehun は letehun とも書く、物の上部が大きく下が小さい様をいう。

𪛗 @ci #fulahūn boco -i bele (赤い色の米)

刻本→同粒。

石印→同粒、亦作救撫也、愛也、安也。

評 →「石印」の「亦作救撫也、愛也、安也」は集韻に見えるが『字彙』には載せていない。

侏 @ju #dere sibsihūn (顔が下すぼみ)

刻本→音諸、侏儒、容貌短小。

石印→音諸、侏儒、容貌短小

評 →『字彙』は、音を「朱」とする。「諸」の中古音はtçia (王力)、「朱」はtçiu (王力)と相違するが、現代吳方言では「諸」「朱」共に zil。

𪛗 @hioi #bolgo ekisaka (静寂)

刻本→兄入声、寂也、清静也、又音戲、義同。

石印→兄入聲、寂也、清静也、又音戲、義同。

- 侑 @io #juru holbombi (対になる)
刻本→音又、耦也、配也、又勸食也。
石印→音又、耦也、配也、又勸食也。
- 佞 @an #elhe (平安)
刻本→音安、宴也。
石印→音安、晏也。
評 →『満語本』の elhe 解釈は『字彙』の與安同、に依る。
- 律 @lioi #beye de amba (体が大きい)
刻本→音律、又魁大貌。
石印→音律、又魁大貌。
- 侔 @moo #jergi teksin (類似、調和した)
刻本→音謀、齊等、均也。
石印→音謀、齊等、均也。
- 倆 @el #geren (皆、大勢)
刻本→音而、衆多貌。
石印→音而、衆多貌。
- 侖 @luwen #gūnimbi (考える)
刻本→音倫、思也、又昆侖天形。
石印→音倫、思也、又昆侖天形。
- 侏 @lei #adali (～のような、似ている)
刻本→音儻、亞也。
石印→音儻、亞也。
- 侗 @tung #sarasu akū (学識がない)
刻本→音通、無知也、又未成器之人曰侗。
石印→音通、無知也、又未成器之人曰侗。
- 侗 @ca #mujin ufaraha (志気を失った)
刻本→喙去声、侗僚失志之貌、又誇也。
石印→茶去聲、侗僚失志之貌、又誇也。
評 →『字彙』は音は「茶」とする。
- 侗 (抄写ミスらしく、後で文字だけ書き入れている)
刻本→音救、楊也。
石印→音救、楊也。
- 侗 @siyūn #bucembi (死ぬ)
刻本→音殉、又疾也、與仰同。
石印→音殉、又疾也。

評 → 「満文本」は『字彙』の、與殉同に依る。殉死の殉ととっている。

俯 @jeo #sibume dalibuha (遮り隠す)

刻本→音周、又與諱同、張也。

石印→音周、癡蔽也、又與諱同、張也

評 → 「石印」の癡蔽也、は『字彙』には載せていない、『説文』に依っている、又「刻本」「石印」の又與諱同、も『字彙』に載せていない。『正字通』に依っているようだ。

供 @gūng #dobo (供える)

刻本→音恭、設也、給也、具養也、奉也、進也。

石印→音恭、設也、給也、具養也、奉也、進也、又通作共。

評 → 「石印」の又通作共、は『字彙』が引く「華嚴經」の例に依る。

依 @i #nikedembi ママ (かろうじて免れる・評参照)

刻本→音衣、憑也、據也、附也、倚也、又依稀。

石印→音衣、憑也、據也、附也、倚也、又依稀。

評 → 「満文本」の *nikedembi* は「依」語義から言えば *nikembi* の誤りではなからうか、*nikembi* には寄りかかる、頼る、当てにするの意味がある。『御製清文鑑』は *nikembi* を、*akdafi baire be nikembi sembi* (頼り求める事を *nikembi* と言う) あるいは、満洲語の字形から言えば *nikendumbi* (お互いに頼る・相依) の誤写かもしれない。

惱 @nao #niyalma -i hala (人の姓)

刻本→音惱。

石印→音惱、姓也。

評 → 「刻本」は略しているが、「石印」の姓也、は『字彙』の記載に依る。

俄 @žung #dergi bai aiman (東方の部族長)

刻本→音戎、俄人身有三角。

石印→音戎、俄人身有三角。

評 → 身有三角、は『字彙』が引く『山海經』の郭璞の贊に依る。

伽 @žu #neigenjemi (公平に分ける)

刻本→音如、均也。

石印→音如、均也。

尠 @ioi #bai gebu (土地の名)

刻本→古虞字、乃虞人之虞。

石印→古文虞字。

評 → 『四端堂』は虞人を真人と誤刻している。

侍 @ju #fucihi nomun de tucimbi (仏典に有り)

刻本→音佇。

石印→佇字之譌。

評 →「満文本」が fuchihi nomun de tucimbi とするのは、『字彙』に、『釋書』より引いているのに依る。

- ⑦ 侮 @šen #hehei -i beyede bihe (直訳すれば女性の体に有ったが、妊娠した事を指す)

刻本→音申、神名。

石印→音申、神名。

評 →「満文本」は『字彙』の妊身とあるのに依る。

- 侮 @u #oihorilambi (侮る、見下す)

刻本→音武、慢也、侵也、輕也、戲也、弄也。

石印→音武、慢也、侵也、輕也、戲也、弄也。

- 伴 @lao #beye laju (体が不恰好)

刻本→音牢、伴大也。

石印→音牢、伴大也。

評 →「満文本」は『字彙』の膠伴麤也と載せるのに依る。

- 侯 @heo #saikan (美しい)

刻本→後平声、美也、又維也、侯所以射布也、方十尺曰侯。

石印→後平聲、美也、又維也、侯所以射布也、方十尺曰侯、又公侯爵君也、又五等爵之次曰侯、又發語辭、與維同意。

評 →「石印」は「刻本」が省略した箇所を『字彙』に載せる又公侯爵君也、以下の部分を付け加えている再補充している。

- 徑 @ceng #yen jugūn (曲がりくねった道)

刻本→音逞、徑也。

石印→音逞、同徑徑也。

- 偃 @giyūn #janggalambi (困窮する)

刻本→同窘。

石印→同窘。

評 →「満文本」は親字の配列が「刻本」「石印」と違っている。「刻本」は「侯」の後「偃」、「企」、「徑」の順となっている。

- 企 @ki #bethe tukiyeŋi tuwambi (踵を上げて見る)

刻本→古文企字。

石印→古文企字。

評 →「企」の項参照。

- 偃 @bing #cooha (兵)

刻本→古文兵字。

石印→古文兵字。

械 @giyai #sain (好い)

刻本→同价。

石印→同价。

評 →「价」の項参照。

偃 @jen #buya juse (小さな子供達)

刻本→音震、童子也。

石印→音震、童子也。

偃 @dan #ambaki (尊大な、威張った)

刻本→音憚、大也。

石印→音憚、大也。

砂 @so #yabumbi (行く)

刻本→音梭、行也、舞不止貌。

石印→音梭、行也、又舞不止貌。

挫 @dzo #elhe (平安)

刻本→音佐、有也、安也。

石印→音挫、有也、安也。

評 →「挫」の中古音はtsua (王力)「佐」はtsa (王力)と両者相違する。方言音も
吳方言「挫」は cu2「佐」は zu2、北京音も cuo4、zuo3と相違する。

翁 @ceo #niyalmai hala (人の姓)

刻本→音丑。

石印→音丑、姓也。

侵 @cin #ejelembi (占領する、横領する)

刻本→音駭、漸進也、又腴削也、師掠境曰侵、又五穀不升曰大侵。

石印→音駭、漸進也、又腴削也、師掠境曰侵、又五穀不升曰大侵。

評 →『字彙』は「升」を「登」に作る。満洲語 ejelembi は、『大清全書』に、佔據、
專守と載せる。『御製清文鑑』には、yaya jaka be beye de obure be, ejelembi
sembi (凡そ物を自分のものにする事を ejelembi と言う)と載せる。また『清
文彙書』は、凡物霸佔住、掌握、佔據、專守、霸踞と載せている。

侶 @lioi #gucu arambi (友となる)

刻本→音旅、徒也、伴也、朋也。

石印→音旅、伴也、徒也、朋也。

評 →『字彙』は「朋」の語義を載せていない。「刻本」「石印」で徒と伴
の順が違う。

- 侷 @gioi #fakaca (背が低い)
 刻本→音局、侷促短小。
 石印→音局、侷促短小。
- 伫 @deo #limbi (立つ、起床する)
 刻本→同對。
 石印→同對。
 評 →「伫」は『説文』には伫立也、讀若樹。「滿文本」の読み deo は漢語なら投の音、日本語音ではトウに近いが、ジュでは合わないが、「伫」には他に『集韻』では當侯切の音を挙げている。これならば、deo に近い。
- 伻 @ting #fak sembi (体ががっちりしている、疲労でぐったりとした様)
 刻本→汀上声、長貌、徑健直也、又代也、敬也、又平也。
 石印→汀上聲、長貌、徑健直也、又代也、敬也、又平也。
- 倮 @je #juse arbun (子供達の様子、容貌)
 刻本→音謬、倮倮小人貌。
 石印→音謬、倮倮小人貌。
 評 →『字彙』は音を徹とする。『集韻』では的協切とする。
- 倮 @šen #uju gidambi (頭を押さえる、垂れる)
 刻本→音甚、臨倮頭向前。
 石印→音甚、臨倮頭向前。
 評 →「滿文本」の uju gidambi は頭を押さえる、あるいは首を垂れる、語義であり、頭を前に向けると言う意味はない。
- 倮 @to #koimali (嘘つき)
 刻本→音脱、倮也、輕也、可也。
 石印→音脱、倮也、輕也、合也。
 評 →「刻本」「石印」の「可」と「合」は兩者「かなう」と言う意味にとれ、同じとみてよい。「滿文本」が koimali は狡猾から考えたのであろう。
- 倮 @be #etuhun (強健な)
 刻本→音孛、強也、狠也。
 石印→音孛、強也、狠也。
 評 →『字彙』は「狠」を「很」とする。又『四端堂』は「狠」を「狼」と誤刻している。
- 倮 @nan #haha (男)
 刻本→即男字。
 石印→俗男字。

- 儻 @no #fucihi nomun debi (仏典にあり)
刻本→音那。
石印→音那、見釋典。
- 倂 @ho #acabufi bodombi (會計する)
刻本→同倂。
石印→同倂。
評 →6画「倂」の項参照。
- 倅 @hiyoo #ambaki (尊大な)
刻本→音孝、倅佬大貌。
石印→音孝、倅佬大貌。
- 便 @biyan #ildun (ついで、機会、便宜)
刻本→音卞、宜也、順也、安也、利也、即也、又近便也、又便殿名也、又平声、便
便辨也、便便肥滿貌也、便辟足恭也、又溲也。
石印→音卞、宜也、順也、安也、利也、即也、又近便也、又便殿名也、又平声、便
便辨也、便便肥滿貌也、便辟足恭也、又溲也。
評 →「溲」は浸すないしは大小便の事。
- 倂 @tuo #yadalinggū (弱い、力のない)
刻本→音腿、弱也。
石印→音腿、弱也。
評 →「腿」は中古音 thui | (王力)「満文本」の tuo | とはずれがある。
- 倂 @bi #urhu (曲がった、傾いた)
刻本→古文辟字。
石印→古文辟字。
- 倂 @ioi #amba (大きい)
刻本→音語、倂倂大也。
石印→音語、倂倂大也。
- 係 @hi #holbobumbi (連結する)
刻本→與繫同。
石印→與繫同。
- 促 @dzu #foholon (短い)
刻本→音族、近也、密也、短也、蹙也、迫也、速也、催也、又局促小貌。
石印→音族、近也、密也、短也、蹙也、迫也、速也、催也、又局促小貌。
評 →「満文本」は dzu | とするも、北京音は cu4 | で ts'u | の方が相応しい。
- 俄 @e #dartai (暫く、たちまち)
刻本→我平声、俄頃速也、須臾也。

石印→我平聲、俄頃速也、須臾也。

佻 @c'y #mene (誠に、～こそ)

刻本→同癡。

石印→俗癡字。

評 →「満文本」の mene の意味は「癡」にはない。或いは menerembi (呆ける) meneken (あほう) かもしれないが、『大清全書』(早田、寺村・2004年)によれば、menen 呆人とのせる。mene は名詞の場合は menen と綴られる。従って、「満文本」の満洲語は、康熙年間のものかもしれない。

僂 @mang #hocikon akū (美しくない)

刻本→音莽、僂僂不媚。

石印→音莽、僂僂不媚也。

徐 @sioi #elhe nukan ママ (平静でゆったりした)

刻本→與徐同緩。

石印→與徐同緩也。

評 →「満文本」の nukan は字典類では nuhan と表記しているものが多い。

僂 @kio #miyamihan arbun (飾り物の様子)

刻本→音求、冠飾貌、又恭順貌、又戴也。

石印→音求、冠飾貌、又恭順貌、又戴也

僂 @kuwang #aksime ママ saksime (恐れ慌てる)

刻本→音狂、僂僂遑遑貌。

石印→音狂、僂僂遑遑貌。

評 →「満文本」o: は aksime としか読めないが、aksame ではななろうか、基本形は aksambi (恐れ逃げ出す)

僂 @su #uju aššambi (頭が動く)

刻本→音束、獨僂頭動也。

石印→音束、獨僂頭動也。

僂 @ku #julgei han -i colo (古の王の号)

刻本→與譽同。

石印→與譽同。

僂 @u #acabume gisurembi (迎合することを言う、おべっかを言う)

刻本→音誤、迎也。

石印→音誤、迎也。

僂 @kiowen #yebken (英俊な、聡明な)

刻本→音僂、智過于人曰俊、萬人之秀曰秀、別作雋非。

石印→音僂、智過于人曰俊、萬人之秀曰秀、俗作雋非。

- 倮 @i #baturu (英雄、勇士)
刻本→音揖、勇壯貌、又耕人行貌。
石印→音揖、勇壯貌、又倮倮耕人行貌。
評 →「石印」の倮倮耕人行貌は『字彙』の引用する『荘子』の用例に依る。
- 倮 @i #far sembi (うようよ群がる)
刻本→音岌、倮倮人衆貌。
石印→音岌、倮倮人衆貌。
- 備 @fu #aisilambi (助ける、補佐する)
刻本→音府、輔也。
石印→音府、輔也。
- 俎 @dzu #wecen de baktara tetun (祀りの時入れる器)
刻本→音阻、祭器、以机盛牲體者、从半肉在且上、俗作爻非。
石印→音阻、祭享之器、从半肉在且上、俗作爻非。
評 →「石印」の祭享之器は『字彙』に依る。
- 俏 @ciyoo #hojo (美しい)
刻本→鑿去声、俏措好貌、又音笑、作俏似也。
石印→音峭、似也。
評 →「刻本」、『字彙』の俏措好貌は『廣韻』では俏醋好貞となっている。
- 俾 @bei #aha nehū (下男下女)
刻本→俗俾字。
石印→俗俾字。
評 →満洲語 aha は上記のほか、へりくだって漢語の「奴才」の意味でも使われる。
- 俚 @liyang #faksidambi (巧言を弄す)
刻本→與良同。
石印→音良、又音朗、俚傷長貌。
評 →「石印」の又音朗、俚傷長貌は『字彙』に見えない。『集韻』の俚傷長貞による。
- 俐 @li #sektu (伶俐な、利発な)
刻本→音利、伶俐。
石印→音利、伶俐。
- 俑 @yung #giran tucire moo šolon -i oiren (埋葬に使う木偶)
刻本→音勇、從葬木偶人、今倡端不善曰作俑、又音通痛。
石印→音勇、從葬木偶人、今倡端不善曰作俑、又音通痛也。
評 →「満文本」o:oren に作るも oiren に改める。
- 儻 @hun #wajimbi (終わる、完了する)

刻本→音懇、完也。

石印→音懇、完也。

評 →『字彙』音を呼困切とする。

徑 @ging #yen jugūn (曲がりくねった道)

刻本→同徑。

石印→同徑。

覘 @kiyan #duibulembi (比較する)

刻本→音遣、譬喻也、又謀也、即今細作也。

石印→音遣、譬喻也、又謀也、即今細作也。

斲 @i #undehen jaka acabumbi (板状の物を合わせる)

刻本→音異、所以合版斲縫也、又音斲、刻也。

石印→音異、所以合版斲縫也、又音斲、刻也。

忒 @te #beliyen (愚かな)

刻本→音忒、貧忒也。

石印→音忒、貧忒也。

倅 @bi #oksombi (一步一步歩く)

刻本→音備、倅倅開脚行歩也。

石印→音備、倅倅開脚行歩也。

評 →現代北京語では「備」は bei4 であるが、「滿文本」が音を bi とし、『字彙』も「備」とする。中古音では「備」は bhi (王力)「滿文本」は康熙年間北京の音を基準にしていると考えられるので、当時の北京の音を反映しているのであろう。

倅 @io #niyalma -i hala (人の姓)

刻本→音由。

石印→音由、姓也。

評 →『字彙』には、姓の他、與攸同と載せる。

倅 @san #beliyen (愚かな)

刻本→音鞞去声、儂倅癡貌。

石印→音鞞去声、儂倅癡貌。

倅 @lung #nukcishun (o:nukcishun・田舎者、痴れ者)

刻本→音弄、癡愚也。

石印→音弄、癡愚也。

評 →「滿文本」は nukcishun とする。『御製清文鑑』、『大清全書』にも nukcishun は載せているが nukcishun はない。

倅 @ging #fudembi (送る、贈る)

刻本→音脛、送行也。

石印→音脛、送行也。

俗 @pi #ojorakū (出来ない)

刻本→配上声、不可也。

石印→配上聲、不可也。

俗ママ @gi #badarambi ママ (広がる、増大する)

刻本→音續、風俗上所化曰風下所習曰俗。(音極、倦也、上兩合與俗不同)

石印→音續、風俗上所化曰風下所習曰俗。(音極、倦也、上兩合與俗不同)

評 →この字相当混乱がある。「刻本」、「石印」、「玉堂字彙」共に「俗」の字の前に「俗」の字がある。「満文本」は親字を見ると「俗」の字に見える。badarambi では「俗」の語義から離れている。また音注の gi は「俗」の音である。むしろ満洲語では bambi (倦む) が「俗」の語義に近い。つまり「満文本」は「俗」と「俗」を間違えている。「刻本」「石印」の後の () 内は「俗」のその解釈である。つまり「俗」の上の部分の部分が合わさっているか否かで文字は違うと言っている。

俘 @fu #oljilambi (捕虜にする)

刻本→音孚、取也、又囚也、軍所虜獲者係其人者ママ俘。

石印→音孚、取也、又囚也、軍所虜獲者係其人曰俘。

評 →「刻本」其人者ママ俘。は「石印」は「者」が「曰」に作る。

稀 @hi #gese adali (～の如く、～のような)

刻本→音希、依稀彷彿也、一日訟也、面相是也、心相非也。

石印→音希、稀彷彿也、一日訟也、面相是、心相非也。

俚 @li #mentuhun albatu (無知で粗野)

刻本→音李、聊也、無所聊賴也、又鄙俗。

石印→音李、聊也、無所聊賴也、又鄙俗。

俛 @fu #uju gidambi (頭を垂れる)

刻本→即俯字、與勉同。

石印→即俯字、與勉同。

傳 @pin #faršafi yabure saisa (決死で行動する賢者)

刻本→與辦同、伶傳、又俠也。

石印→與辦同、俠也、又伶傳。

保 @bao #karmambi (保護する、守る)

刻本→音寶、抱也、全之也、安也、在也、養也、依也、守也、又姓。

石印→音寶、抱也、全之也、安也、在也、養也、依也、守也、又姓。

俞 @ioi #ulhibumbi (悟らせる)

刻本→俗俞字、注見人部。

石印→俗兪字、注見人部。

佻 @beng #koimasitambi (ずるく立ち回る)

刻本→音彷彿上声、詐偽人也。

石印→音彷彿上声、詐偽人也。

評 →満洲語 koimasitambi は、『大清全書』に、爲奸と載せる。『御製清文鑑』には、
urui koimasitame yabume emu yargiyan akū be, koimasitambi sembi (もつ
ばら狡く立ち回り一つの実のない事を koimasitambi と言う) と載せる。

俟 @sy #aliyambi (待つ)

刻本→音似、大也、待也、又音奇也。

石印→音似、待也、大也、又音奇也、萬俟複姓。

評 →「四端堂」は又音「倚」とするが、誤刻、『字彙』も「奇」

俠 @hiya #faršafi yabure saisa (決死で行動する賢者)

刻本→音臂、筏、狭相与、信爲在同、又音夾、傍也、並也。

石印→音協、任俠相與信爲任、同是非爲俠、又音夾、傍也、並也。

評 →「刻本」は音「臂」、「四端堂」は「揚」とするも共に間違いであろう。「刻
本」系の語義説明も混乱が見られる。『字彙』の解釈は「石印」に同じ。

信 @sin #akdun (信頼)

刻本→音訊、慳實也、不疑也、不差爽也、又重也、又再宿爲信、又音申、即古伸字。

石印→音訊、慳實也、不疑也、不差爽也、又重也、又再宿爲信、又音申、即古伸字。

評 →「四端堂」は、即古伸字を即声伸字、と誤刻している。

⑧修 @sio #dasambi (治める、直す)

刻本→音羞、飭也、飾也、葺也、理也、又前修也、古之聖賢也。

石印→音羞、飭也、飾也、葺也、理也、又前修也、古之聞人曰前修。

評 →「石印」の古之聞人曰前修は『字彙』に載せている。前修は古の賢人を指す
が、『楚辞』離騷に、謇吾法夫前脩兮、非世俗之所服と見える、修と脩は本
来は別字であるが後世混用されている。

俯 @fu #uju gidambi (頭を垂れる)

刻本→音府、俛也、又曲也。

石印→音府、俛也、又曲也。

侗 @ho #hūwaliyasun (温和、平和な)

刻本→音禍、和也。

石印→音禍、和也。

俱 @gioi #gemu (皆、全く)

刻本→音居、偕也、皆也、其也。

石印→音居、偕也、皆也、其也、具也、又姓。

働 @hiyoo #alhūdambi (手本にする、倣う)

刻本→同効。

石印→同倣。

評 →『字彙』は、同倣とする。

俳 @pai #juculeme efimbi (芝居しながら楽しむ)

刻本→音牌、俳優雜戲、又音斐、徘徊。

石印→音牌、俳優雜戲、又音斐、徘徊、亦作徘徊。

評 →『字彙』は徘徊、に作る。

儻 @ciyan #micihyan (浅い)

刻本→前去声、淡也、別作剪非。

石印→前去声、淡也、別作謫非。

僞 (文字のみあり、満洲語の解説なし)

刻本→音昏、闇也。

石印→音昏、闇也。

林 @luwan #lata moyo (愚鈍な)

刻本→音近、藍林儻駑鈍貌。

石印→音近、藍林儻駑鈍貌。

俵 @biyoo #son son -i ilimbi (o:sun sun・ばらばらに
宿衛する、ばらばらに立つ)

刻本→標去声、俵散。

石印→標去聲、俵。

評 →sonson ないし son son -i は『御製清文鑑』に、bata gidabufi feniye be waliyafi balai samsire arbun (敵を破って敵軍を駆逐しばらばらに四散させる様子)、『大清全書』に、紛紛然、零碎、分崩離析と載せる。また『字彙』は、俵、分界也、とする。何れにしる満洲語の訳はあまり適訳ではない。

媯 @miyoo #sain -i arbun (美しい様子)

刻本→音貌、好貌。

石印→音貌、好貌。

評 →『字彙』は、同媯とのみ載せる。音の貌是北京音では mao4、満洲語の miyoo は oo の部分が音便化して ao、従って漢字音では miao に近い、あるいは「苗」(miao) と間違えたのかもしれない。

傷 @i #weihukelembi (軽んじる)

刻本→音異、輕也、慢也。

石印→音異、輕也、慢也。

俶 @šu #sain (善、良い)

刻本→音束、善也、始也、厚也、作也、動也、又音揚與侗同。

石印→音束、善也、始也、厚也、作也、動也、又音揚與侗同。

𠵹 @fei #efujehe (廃止した、壊した)

刻本→音斐、敗也、皆ママ也。

石印→音斐、敗也、背也。

評 →「刻本」は2種とも「皆」に見えるが誤り。『字彙』も背とする。

俸 @fung #fulun (俸禄)

刻本→音諷、秋ママ禄。

石印→音諷、秩禄。

評 →「刻本」2種とも「秩」を「秋」に作るも誤刻、『字彙』も「秩」に作る。

備 @bei #belhemi (準備する、備える) 字彙

刻本→音備、俗備字。

石印→俗備字。

𠵹 @ya #nikemi (寄りかかる、頼る)

刻本→音亞、𠵹倚也。

石印→音亞、倚也。

脩 @ioi #uncambi (o'oncambi・売る)

刻本→音有、賣也。

石印→俗鬻字。

評 →「満文本」は oncambi とするが『御製清文鑑』『大清全書』は uncambi とする。「石印」の俗鬻字は『字彙』に依る。

俺 @an (o'nan) #bi (私)

刻本→音諱ママ上声、我也、又音厭、大也。

石印→音俺、我也。

評 →「満文本」は nan とする。満洲語は bi としているが、漢語「俺」は1人称の単数のみならず、複数詞の「我們」の意味も持つ。「刻本」の音諱は「諱」の誤刻ではあるまいか、『字彙』は諱に作る。

𠵹 @sin #sebjen (喜び、楽しみ)

刻本→音欣、喜也。

石印→音欣、喜也。

評 →sebjen は『大清全書』に、樂、整語と載せる。

俾 @bei #taküršambi (使い走りさせる)

刻本→音彼、使也、從也、職也、益也、一曰門侍人、又俾倪不正視之貌。

石印→音彼、使也、從也、職也、益也、一曰門侍人、又俾倪不正視之貌。

𠵹 @c'y #aljambi (離れる、辞める)

刻本→音池、僥僂又僥武。

石印→音池、僥僂又僥武。

評 →「四端堂」は音を「他」とするも誤り。

僥 @cang #yasa saburakū (目が見えない)

刻本→音昌、僥僂無見貌。

石印→音昌、僥僂無見貌。

徇 @c'y #yabumbi (行く)

刻本→音池、行也。

石印→音池、行也。

評 →「四端堂」は「池」を「他」とするも誤り。

僂 @ta #baita muterakū (仕事ができない、出来る能力がない)

刻本→音沓、僂僂不著事也。

石印→音沓、僂僂不著事也。

胤 @in #julgei han -i gebu (古の王の名)

刻本→俗胤字。

石印→俗胤字。

評 →「満文本」の julgei han -i gebu は「刻本」「石印」『字彙』には見られない。

宋の名君の太祖趙匡胤あたりからの連想か。

併 @bing #adame yabumbi (並んで行く)

刻本→音柄、與并同、又音評上声、相並也、又競也。

石印→音柄、與并同、又音評上聲、相並也、又競也。

僂 @kio #efujembi (壊す、失せる)

刻本→求上声、毀也。

石印→求上聲、毀也。

個 @su #inenggi (日、昼間)

刻本→古文夙字。

石印→古文夙字。

僂 @yao #faitambi (切断する)

刻本→音肴、刺也、亦曰痛声。

石印→音肴、刺也、亦曰痛聲。

評 →faitambi は『大清全書』に、過去形 faitaha、切了、斷了、faitambi 罰俸之罰と載せる。

倅 @ts'ui #ilhi (副、次の、序列)

刻本→音翠、副也、又副車曰倅、又國子存游倅使之修德樂道、又卒百人爲倅。

石印→音翠、副也、又副車曰倅、又國子存游倅使之修德樂道、又卒百人爲倅。

- 倆 @liyang #faksi (職人、工匠)
 刻本→音諒、伎倆巧也。
 石印→音諒、伎倆巧也。
- 倅 @ts'u #foholon (短い)
 刻本→音聚、促也。
 石印→音聚、促也。
 評 →『御製清文鑑』に、foholon は、golmin aku be foholon sembi (長くないのを foholon と言う) と載せ、『大清全書』には、長短之短と載せる。
- 倅 @giyei #dubesilehe forgon (末世)
 刻本→與劫同。
 石印→與劫同。
- 倅 @yuwan #tafulambi (説得する、諫める)
 刻本→音苑、勸也、又歡樂。
 石印→音苑、勸也、又歡樂。
 評 →『大清全書』には tafulambi の語幹 tafula が令人勸、諫。『御製清文鑑』に tafulambi、niyalma be nakabume ilibume gisurere be tafulambi sembi (人を止めさせ制止させる事を云うのを tafulambi と言う) と載せる。
- 俅 @lai #jimbi (来る)
 刻本→同俅。
 石印→同俅。
 評 →「刻本」は 2 本共に「同俅」とするが、意味をなさない。『字彙』は、與俅同とする。
- 倉 @ts'ang #bele asarara boo (米を貯蔵する部屋)
 刻本→音蒼、倉蔵也、又音桑、又音創、與愴同。
 石印→音蒼、穀蔵也、圓曰困、方曰倉、蔵倉人名、又通桑亢倉子、亦作庚桑子、亦音創、與愴同。
 評 →「石印」は「刻本」が『字彙』から引用する際に省略した部分を丁寧に復活させている。
- 倅 @dzung #oitobuha (困窮した、逼迫した)
 刻本→音粽、困貌。
 石印→音粽、困貌。
- 個 @g'o #fali (個、疋)
 刻本→與箇同、偏也。
 石印→與箇同、偏也。
 評 →『御製清文鑑』に g'o は、emu gala oholiyoo be emu g'o sembi (片手で一掬

いを emu g'o とする)、と載せる。「刻本」「石印」の言う「偏也」は『字彙』には載せていない。『玉篇』に、個加賀切、偏也と見える。共にこれに依ったようだ。

信 @guwan #sejen jafara niyalma (御者)

刻本→音官、王ママ駕者。

石印→音官、主駕者。

評 →「刻本」の「王駕者」は『字彙』には「主駕者」(駕を主る者)と載せる。あるいは「王」は「主」の誤りであろう。満洲語の sejen jafara niyalma は適訳であると言える。

倣 @diyan #gileršembi (恬として恥じない)

刻本→音腆、厚也。

石印→音腆、厚也。

倍 @bei #jursulembi (重ねる、二重にする)

刻本→音佩、又鄙倍惡戾之言、又裴上声、物相二曰倍。

石印→音佩、又鄙倍惡戾之言、又裴上声、物相二曰倍。

倏 @su #holkon (突然、出し抜けに)

刻本→音叔、倏忽、又犬走疾也、又俗作倏从火非。

石印→音叔、倏忽、又犬走疾也、又俗作倏从火非。

倏 @su # holkon (突然、出し抜けに)

刻本→俗倏、倏歛之間。

石印→俗倏字。

候 @li #ushambi (怒る、憤り恨む)

刻本→音利、怒也、狼候。

石印→音利、怒也、又音很候。

俛 @du #aššambi (動く、じたばたする)

刻本→音毒、動也。

石印→音毒、動也。

們 @men #dere tumpanahabi (顔を脹らせる、嫌う様)

刻本→音悶、們渾肥滿貌。

石印→音悶、們渾肥滿貌。

評 →この箇所「満文本」にはアルファベットで注記があるが写真では解説不能。

倒 @dao #tuhembi (倒れる、物が落ちる)

刻本→刀上声、什也、又潦倒老也、又去声顛倒。

石印→刀上声、什也、又潦倒老也、又去声顛倒。

倅 @tan #hican (質素な、清廉な)

刻本→音談、恬也、静也、安也、安然不疑也。

石印→音談、恬也、静也、安也、安然不疑也。

倔 @giowe #mokto (頑固、先の鈍い)

刻本→音屈、倔強、梗戾貌。

石印→音屈、倔強、梗戾貌、通屈彊。

評 →mokto は『御製清文鑑』には furu fokjihyan be mokto sembi geli yaya jaka dube ergi muhūri ningge be inu moto sembi (粗暴で短気な事を mokto と言う。凡そ物の刃先が尖っていない物を moto と言う)

僮 @cui #lakdahūn (o:lakdahun・ぶらぶらと)

刻本→音垂、重也、又音瑞。

石印→音垂、重也、又音瑞、黄帝時巧人名、又唐虞共工名、書作垂。

評 →『大清全書』は lakdahūn、「下垂」と載せ、『御製清文鑑』は lakdahūn、jeku -i suihe ujen ofi fusihūn tuheke be lakdahūn oho sembi (穀物の穂が重くなり低く垂れさがるとを lakdahūn oho と言う)と載せる。したがって穂が重くなり垂れさがるとを表す。そこから重くなる、垂れさがると、垂れさがるとぶらぶらする。と言う 3 様の意味を持つと考えられる。したがって漢語の語義とずれているわけではない。「石印」は「刻本」の省略を『字彙』に依って復活させている。

倖 @hing #jabšan de baha (幸せを手に入れる)

刻本→音幸、倖倖倖倖、又叶音興。

石印→音幸、倖倖倖倖、又叶音興。

棚 @peng #aisilambi (助ける、援助する)

刻本→音彭、輔也。

石印→音彭、輔也。

評 →『四端堂』は「輔」を「轉」と誤刻している。『字彙』も「輔」

倅 @hiye #fusihūn (賤しい、低い)

刻本→倅同。

石印→倅同。

評 →9 画の「倅」参照。

倘 @cang #gaihari (突然、忽ち)

刻本→音敞、忽止貌、又音切湯上声、義同。

石印→音敞、忽止貌、又音湯上声

評 →「石印」は「又音切湯上声」の「切」を落としている。

候 @heo #fonji (尋ねる、問う)

刻本→音後、訪也、又氣候、證候、伺候、又候人道路、迎道賓客之官。

石印→音後、訪也、又氣候、證候、伺候、又候人道路、迎道賓客之官。

倚 @i #nikembi (倚りかかる、頼る)

刻本→音倚、依也、恃也、又偏側也。

石印→音椅、依也、恃也、又偏側也。

評 →音は『字彙』は「椅」で「石印」と同じ。また『四端堂』は「偏側」を「端側」と誤刻している。

俱 @ki #dere teksin (顔がのっぺりしている。顔の均整がとれている)

刻本→音溪。

石印→音媿、方相也、四目方相、兩目爲俱。

評 →dere teksin の意味が分かりにくい。方相とは神の役となり疫を逐る官で、黄金の4つ目を付けるものを方相、2つ目のものを俱相と言う。訳者の古典知識の反映か、あるいは清代にはそのような語義を持っていたのか満洲語の訳は全く違う。

倜 @ti #colgoroko (抜きんでた、聳え立つ)

刻本→音揚、倜儻不羈貌、又高遠貌。

石印→音揚、倜儻不羈貌、又高遠貌。

評 →『大清全書』には名詞化した colgoron (山之峰) と載せる。『御製清文鑑』には、umesi de lakcafi tucike be, colgoroko sembi. (非常に抜きんでた事を colgoroko と言う) と載せている。

軌 @g'an #sun tucire elden (太陽の出始めの光)

刻本→音幹、日始出軌軌也。

石印→音幹、日始出軌軌也。

倥 @liyang #lehembi (争い求める)

刻本→音諒、索也、遠也。

石印→音諒、索也、遠也。

借 @giye #juwen gaimbi (借用する)

刻本→嗟去声、假也、貸也、又推奨也。

石印→嗟去聲、假也、貸也、又推奨也。

隹 @hui #bocihe arbun (醜い容姿)

刻本→音揮、隹隹醜面也。

石印→音揮、隹隹醜貌也。

倡 @cang #uculere sargan jui (少女歌手)

刻本→音昌、倡優女樂、別作娼非、又倡和。

石印→音昌、倡優女樂、別作娼非、又去聲倡和。

健 @giye #hojo hehe (美しい女)

刻本→音接、捷仔漢婦官名、又音捷、斜出貌、又利也、便也、疾也。

石印→音接、捷仔漢婦官名、又音捷、斜出貌、又利也、便也、疾也。

評 →『四端堂』は「捷仔漢婦官名」を「實仔漢婦官名」と誤刻している。

傲 @fang #alhūdambi (手本にする、傲う)

刻本→音紡、放也、依也。

石印→音紡、放也、依也。

值 @jy #ucarambi (出会う)

刻本→音治、遇也、逢也、當也、又持也。

石印→音治、遇也、逢也、當也、又持也。

控 @kong #ulhisu akū (理解力がない、俊敏でない)

刻本→音空、控侗顛蒙無知也、又音孔、控德事多也、又音控、困貌。

石印→音空、控侗顛蒙無知也、又音孔、控德事多也、又音控、困貌。

倦 @giowan #bambi (疲れる、倦む)

刻本→権去声、懈也、疲也、勞也。

石印→権去声、懈也、疲也、勞也。

棕 @dzung #julgei enduri (古の神)

刻本→音宗、上古神人。

石印→音宗、上古神人。

倨 @gioi #heoledembi (怠る、粗末にする)

刻本→音據、倨傲不遜也。

石印→音據、倨傲不遜也。

評 →満洲語の heoledembi は、『大清全書』に、名詞化した heoleden (怠、惰) を載せている。『御製清文鑑』は、yaya baita be oihorilara be heoledembi sembi (すべの事を軽視することを、heoledembi と言う) と載せる。oihorilara の基本形の oihorilambi は、見下すと言う意味もあるので、適訳でないとは言えない。

倩 @ciyan #faksi gisun (巧みな言葉)

刻本→音千去声、曼倩皆美也、又美笑貌也、又清去声、假借、又東齊之間壻謂倩。

石印→千去聲、曼倩人名也、又美笑貌也、又清去聲、假借也、又東齊之間壻謂倩。

評 →満洲語の faksi には技の巧みなの意味の他に、悪賢い、ずる賢いの意味もある。
満洲旗人にとって「倩」はそういう理解であったかもしれない。

倪 @ni #tusangga (有利な、益のある)

刻本→音霓、俾益也、又端倪也、又弱小之称、又俾倪不正視貌。

石印→音霓、俾益也、又端倪也、又弱小之称、又俾倪不正視貌。

評 →満洲語 tusangga は『大清全書』に、有益のと載せ、『御製清文鑑』

には、tusa oho be hendumbihede tusangga sembi (益となる事を述べているのを tusangga と言う) と載せる。俾益に相当する満洲語である。

倫 @luwen #ciktan (道理、秩序、作物)

刻本→音綸、次序也、等也、此也、又理也、又類也。

石印→音綸、次序也、等也、此也、又理也、又類也。

評 →満洲語 ciktan は『大清全書』に、倫序、ciktan giyan は倫理と載せる。『御製清文鑑』に、uthai giyan sere gisun, ciktan giyan seme holbofi gisurembi (即ち筋道と言う言葉、ciktan giyan と連結して使う) と載せる。

倬 @jo #den colhon (高い山の峰)

刻本→音捉、著也、大也。

石印→音捉、著也、大也。

評 →親字は「満文本」のみ「倫」「倬」の順であるが『字彙』「刻本」「石印」は「倬」「倫」の順である。満洲語 jo は『欽定清漢對音字式』では、jūo となる。

往 @guwang #amasi Julesi goro bade yabumbi (往来して遠い所に行く)

刻本→音誑、往来遠行也。

石印→音誑、往来遠行也。

評 →満洲語は往来遠行を直訳している。『字彙』の音は「狂」

倭 @wei #goro baci marifi goidaha (遠い所から戻って遅くなった)

刻本→音畏、倭遅回遠之貌、又謹貌、又順貌。

石印→音畏、倭遅回遠之貌、又謹貌、又順貌。

評 →『欽定清漢對音字式』では「倭」は、we となっている。

倮 @g'o #ba isheliyen (o: isheiyen・場所がやや狭い)

刻本→音果、壑倮狹隘也。

石印→音果、壑倮狹隘也、音羸赤體也。

評 →『字彙』の「赤體」は載せず、「倮」と載せている。義は同じ。

倮 @sung #banuhūn (無精な、物臭な)

刻本→音松、隴右人名懶曰倮。

石印→音松、隴右人名懶曰倮。

評 →「懶」の漢字字義をそのまま訳している。

倭 @leng #yabure arbun (行く様子)

刻本→倭去声、倭蹬行貌。

石印→倭去声、倭蹬行貌。

倮 @dung #ehelingu (愚鈍な人、愚劣)

刻本→音東、僮倮俾劣貌、又音凍、倬倮愚貌。

石印→音東、僮倮俾劣貌、又音凍、倬倮愚貌。

評 → 「たつの本」は「僮俛僮劣貌」を「僮儻僮劣貌」としている。

僮 @hun #hūlhi lampa (曖昧で冗漫な)

刻本→音混、混沌不開通貌。

石印→音混、混沌不開通貌。

俛 @tsi #gida tenkimbi (槍を投げ下ろす、投げつける)

刻本→與割同、東方人以物挿地、皆爲割。

石印→與割同、東方人以物挿地、皆爲割。

⑨ 僂 @ping #faiame ilimbi (並んで立つ)

刻本→平上声、俱也、又羅列也。

石印→平上声、俱也、又羅列也。

評 → 『字彙』は、俗竝字とするのみ。『玉篇』に俱也とあり、『廣韻』に羅列とある、これに依ったか。

僂 @ceng #kiyakiyambi (賛美する)

刻本→古称字。

石印→古稱字。

僂 @ing #yebsa (聡明な、英俊な)

刻本→音英、傑也。

石印→音英、傑也。

僂 @jiyan #ibembi (前進する)

刻本→音煎、進也、又音翦、義同。

石印→音煎、進也、又音剪、義同。

僂 @yan #dedumbi (寝る、同衾する)

刻本→煙上声、偃息什也、服也、靡也、臥也、偃鼠、又偃蹇。

石印→煙上声、偃息什也、服也、靡也、又姓、又去聲、義同、又偃蹇。

評 → 満洲語 dedumbi は『大清全書』に、側睡、安臥と載せる。『御製清文鑑』には、cirku de uju nikeme gūwaidara be dedumbi sembi (枕に頭を持たれかけ横ざまに寝るを dedumbi と言う) と載せる、側睡である。

僂 @nuwan #niyenyehūn (心定まらずぐずぐずする)

刻本→媛上声、弱也、又音儒。

石印→媛上声、弱也、又音儒。

評 → 『四端堂』は音を媛としている。満洲語 niyenyehūn は『御製清文鑑』に、niyalma eici šadara, eici nimere de hamirakū hiterefi angga heni juwangga be niyenyehūn sembi (人が或いは疲れ、或いは病みて堪えきれず、眉を擧めて口を少し開くのを niyenyehūn と言う) と載せている。『清文彙書』には、心柔軟、無主意之人、と載せている。

- 僕 @dzun #gašan -i omicara de kooli be jorirengge (村の飲み水の
決まりを示すこと)
刻本→同僕。
石印→同僕。
- 僮 @jung #ucarakū (出会わない、出くわさない)
刻本→音衆、隴僮不遇貌、又與僮同。
石印→音衆、隴僮不遇貌、又與僮同。
- 僖 @cun #elgiyen (豊かな、豊富な)
刻本→同賸。
石印→音蠢、富也、厚也。
- 假 @giya #tašan (宿營、休憩)
刻本→音賈、眞之反也、借也、又大也、又音嘉、美也。
石印→音賈、眞之反也、借也、又大也、又音嘉、美也。
- 偉 @wei #ferguwecun (瑞兆、めでたい兆し)
刻本→音委、奇也、又音位。
石印→音委、奇也、又音位。
評 →ferguwecun は『大清全書』は、非常、奇、『御製清文鑑』は、sain sembi iletuleme
tucinjifi, niyalma tome kiyakiyame be ferguwecun sembi. (善と言う、顯著
に表れて、人を常に賛美する事を ferguwecun と言う) と載せる。したがって
漢語の意味とのずれはない。
- 偈 @giye #hūsutulembi (o:hūsotulambi・力を尽くす)
刻本→音結、偈偈用力貌、又音思、武貌、偈句釋氏詩詞也、又音竭、疾也。
石印→音結、偈偈用力貌、又音思、武貌、偈句釋氏詩詞也、又音竭、疾也。
評 →『大清全書』も、hūsutulembi と載せている。「満文本」は s と l の tongki (圈
点の点) を抜かしたのか、或いは当時の発音がそうになっていたのかは不明。
- 僞 @ioi #mehumbi (体をかがめる、俯く)
刻本→音與、僞僞行貌、又曲躬貌。
石印→音與、僞僞獨行貌、又曲躬貌。
- 僻 @bing #geterembumbi (綺麗にする、治める)
刻本→俗僻字。
石印→俗僻字。
- 倍 @re #niyalmai hala (人の姓)
刻本→惹去声。
石印→惹去声、姓也。
- 促 @ti #ibere de mangga (前進するのが難しい)

- 刻本→音題、難進曰倅、又與媿同。
石印→音題、難進曰倅、又與媿同。
- 倅 @hun #hala (姓)
刻本→音魂。
石印→音魂、姓也
- 倅 @dzan #sabumbi (見る、現れる)
刻本→古倅字。
石印→古倅字。
- 倅 @wei #haran (理由、わけ)
刻本→音煨、愛也。
石印→音煨、愛也。
評 →haran は『大清全書』に、由己由人之由、係、属、所致、故、と載せ『御製清文鑑』には、erei haran terei haran seme gisurembi. turgun sere gūnin. (この故、あの故と言う、情実と言う気持ち)
- 倅 @ru #ilimbi (立つ)
刻本→同封。
石印→同封。
- 倅 @hiyūn #nimeku (病気、弱み)
刻本→音殉、疾也。
石印→音殉、疾也。
- 倅 @hi #jobombi (苦しむ、悩む)
刻本→音隙、勞也、疲也。
石印→音隙、勞也、疲也。
- 偏 @pian #urhu (曲がった、歪んだ)
刻本→音篇、顛也、側也、旁也、邪也、鄙也、不中也。
石印→音篇、顛也、側也、旁也、邪也、鄙也、不中也。
- 偏 @kian #elhe baharakū (不安)
刻本→音遣、偏偏、不安也。
石印→音遣、偏偏、不安也。
- 倅 @yan #tašan ningge (偽物)
刻本→音彦、偽物也。
石印→音彦、偽物也。
- 偏 @feng #ba -i gebu (地名)
刻本→音風、地名。
石印→音風、地名。

傷 @tang #sijrhün (真直ぐな、正直な)

刻本→音尙、直也、又傷傷長貌。

石印→音尙、直也、又傷傷長貌、又通蕩。

評 →「刻本」は略しているが『字彙』に、與蕩同と載せる。『石印本』はこれに依る。

偃 @o #beden eberi (臆病で意気地なし)

刻本→音握。

石印→音握、偃促拘也、又姓。

評 →満洲語音 o は漢語の wo に対応している。

愕 @e #labdu (多い)

刻本→音罽、多也。

石印→音罽、多也。

偻 @ce #hūwajaha (破れた、裂けた)

刻本→音摺、裂也。

石印→摺字之譌。

偁 @giye #gemu (皆)

刻本→音皆、俱也、又強力也。

石印→音皆、俱也、又強力也。

偁 @hing #golmin (長い)

刻本→生上声、直貌、長貌。

石印→生上声、直貌、長貌。

侃 @g'an #kang seme gisurembi (がやがやと話すこと)

刻本→同侃。

石印→同侃。

傲 @mao #burgiyen (ケチな、さもしい)

刻本→音茂、佻傲吝嗇也。

石印→音茂、佻傲吝嗇也。

悒 @ti #oitobumbi (困窮する)

刻本→音帝、倅僞也、又音替、困劣也。

石印→音帝、倅僞也、又音替、困劣也。

倅 @dzo #jaka arambi (物を作る)

刻本→作也。

石印→俗作字、見正字通。

評 →「見正字通」は『字彙』に載せていない。「石印本」編集にあたって、「刻本」を丸写しにしたのではないことの証拠と言える。『正字通』に、俗作字、舊注

租空聲、又音佐、不知作本有空二音、分作做爲二、非互見前作註。と載せる。

倭 @seo #sakda agu (老兄)

刻本→與倭同、尊者之稱。

石印→與倭同、尊者之稱。

評 →「滿文本」の sakda agu の agu は貴兄に当たる。呼びかけの言葉であろう。

『正字通』は倭倭同、と載せる。

插 @ca #buya niyalma arbun (小さい子の容姿)

刻本→音挿、插插小人之貌。

石印→音挿、插插小人之貌。

評 →『字彙』では插倭小人之貌と載せる。この字『大廣益會玉篇』には、楚洽切、字書云插倭小人、一曰插倭鬼點也。鬼點は悪賢い事を指す。まず『玉堂字彙』の刻本石印の言う、「插插小人之貌」には根拠がない事、『字彙』の插倭を誤ったのではないか。『字彙』も「插倭」では「鬼點」の意味となり、「插倭」としておくべきではなかったかと思うが、いずれにしる疑問が残る。『正字通』は俗字と載せるのみ。

停 @ting #ilinjami (やっこさ立つ、立ち止まる)

刻本→音廷、止也、定也、息也。

石印→音廷、止也、定也、息也。

情 @bei #cashūlambi (背を向ける、背く、恩知らずで入る)

刻本→與背同。

石印→與背同。

倘 @guwa #yabure arbun (行く様子)

刻本→音寡、倘倘行貌。

石印→音寡、倘倘行貌。

僕 @hiye #fusihūn (賤しい、身分が低い、西向き)

刻本→音疊、卑也、一曰美也。

石印→音疊、卑也、一曰美也。

評 →「刻本」は「疊」(ケン)とするも誤り。「石印」『字彙』は「疊」つまり「脇」と同じ。

惶 @hūwang #akabumbi (憂えさせる、悲しませる)

刻本→音黃、彷徨。

石印→音黃、彷徨。

評 →akabumbi は『大清全書』に「怨」と載せる、si we be akabumbi (你怨誰) 『御製清文鑑』には、jobobume suilabume hamirakū de isibume akabumbi sembi (苦勞させ悩ませる耐えられなくなるに至るを akabumbi とする) 『大

清全書』の言う「怨」も、苦勞を掛けられて怨むと言う事である。ただ漢語の「彷徨」とは意味のずれがある。

僂 @yao #dara turgatu (腰が細い)

刻本→音杳、僂僂細腰貌。

石印→音杳、僂僂細腰貌。

俛 @ciyoo #bešehun (水っぱい、酒浸り)

刻本→鑿去声、僂俛不仁。

石印→鑿去聲、僂俛不仁。

評 →bešehun は『御製清文鑑』に、nure boco eiten jaka de dabanafi liyeliyehun ohongge be bešehun oho sembi (酒色をすべて物に超えて迷うようになった者を bešehun になったと言う) 少しずれを感じるが満洲族の「不仁」とは、そういう解釈なのであろう。

甚 @jan #en jen (整然としている)

刻本→音近、甚齊整貌。

石印→音湛、甚齊整貌。

評 →音は「刻本」『字彙』の「近」では満洲語の jan と合わないが、「石印」の「湛」(zhan) であれば満洲音に近い。

倍 @yan #bolgo (清浄な、清潔な)

刻本→音淹、淨也。

石印→音淹、淨也。

僮 @io #adame ilimbi (侍立する)

刻本→音由、侍也。

石印→刻本→音由、侍也。

候 @heo #aliyambi (待つ、控える)

刻本→同候。

石印→同候。

評 →aliyambi には、上記の他に「後悔する」の意味もある。

健 @giyan #mangga (難しい、強い)

刻本→音件、難也、擧也、又亢也、強也、有力也、不倦也。

石印→音件、難也、擧也、又去聲亢也、強也、有力也、不倦也。

評 →満洲語 mangga は多様な意味がある。上記の他に、執拗である、立派、高価、意地が悪いなどの意味を持つ。

僕 @te #kooli de acanarakū (しきたりに適わない)

刻本→音突、僮僕不遜也。

石印→音突、僮僕不遜也。

- 便 @biyan #inu (正に～、～である、～こそ)
刻本→便本字。
石印→便本字。
評 →『大清全書』では満洲語 inu は漢語の「亦」「也」「又」「是」に対応している。
- 傾 @hioi #hala (姓)
刻本→音譌。
石印→音譌、姓也。
評 →『玉篇』には、姓也と載せるが、『字彙』は、考姓譜無傾姓と載せる。
- 脩 @hioi #erdemungge (有徳、才能がある)
刻本→音譌、有才智者之称、又音胥、疏也。
石印→音譌、有才智者之称、又音胥、疏也。
- 倭 @hui #mohoho ten (極み、困窮の極み、窮乏の極み)
刻本→義與縁同。
石印→殽字之譌。
評 →「刻本」の縁は誤り。「石印」が正しい。『字彙』は、此字見楊升菴集、義與殽同。『正字通』は、按楊集本作、殽、殽殽音義同、譌作倭非。楊慎(升菴)は明人(1488年～1559年)『玉篇』や『集韻』には無く、そのころに使われていた文字であろう。
- 倭 @ca #jaka angga mila (物の口が大きく開いている事)
刻本→音查、張也。
石印→音查、張也。
評 →『正字通』は、俗參字とし、今改作倭非。としている。
- 傑 @c'y #teksin akū (齊しくない、滑らかでない)
刻本→音齒、傑僂不齊也。
石印→音齒、傑僂不齊也。
- 倖 @te #efujembi (壊す)
刻本→音託、毀也、寄也。
石印→音託、毀也、寄也。
- 倖 @do #julgei niyalma hala (古の人の姓)
刻本→音多。
石印→音多、姓也。
評 →『字彙』は、漢有倖宗。と載せている。
- 倖 @in #etuhun dahabumbi (嫁に付き添う人・陪嫁)
刻本→同倖。
石印→與倖同。

評 →清代北京語音では満洲語の in は ing であるべきだが、語尾の n と ng は混同される。

偵 @fu #abkai arbun be cincilara tetun (天象を子細に観察する道具)

刻本→音阜、依象也、又音附、義同。

石印→音阜、依象也、又音附、義同。

偃 @bi #sorgimbi (催促する)

刻本→與逼同也。

石印→與逼同、借爲偃履之偃。

侍 @jy #aliyambi (待つ)

刻本→音雉、待也。

石印→音雉、待也。

評 →満洲語 aliyambi には他に、後悔する、控える、などの意味がある。

憊 @dzung #oitobufi mohoho (窮乏した)

刻本→同憊。

石印→音綜、控憊、俗作憊。

評 →「石印」の、俗作憊は『字彙』には載せていない。『正字通』に、憊俗作憊、に依っているようだ。

佃 @miyan #gašan (村落)

刻本→音麵、郷也、又皆也。

石印→音麵、向也、又背也。

評 →「刻本」の「郷」は「石印」『字彙』も「向」としているが、「刻本」が「郷」とするのは、『説文』に、佃郷也、とするのに依ったか。「刻本」の「皆」は、『字彙』も「背」としているがあるいは『正字通』に一日偕としているのに依ったか。何れにしる『字彙』、「刻本」、「石印」と単純な継承関係ではない事を表している。

偃 @giya #geren niyalma -i arbun (衆人の様)

刻本→音戡、人衆貌。

石印→音戡、人衆貌、又作緝。

評 →満洲語の giya は変で現代北京語音から見て gi でなければ合わない。

偃 @i #e i seme gasambi (めそめそと泣き言を言う)

刻本→音倚、哭徐声、不倦也。

石印→音倚、哭徐声。

偃 @hiye #julgei gebungge amban (古の有名な大臣)

刻本→音屑。

石印→音屑。

評 →「満文本」は『字彙』に、高辛氏之子、堯司徒、とあるのによる。

循 @siowen #fisembumbi (敷衍して述べる)

刻本→音旬、述也。

石印→音旬、述也。

偲 @sy #keb sembi (睦まじい)

刻本→音司、相切責也、又音猜、彊力也、又多才力也、又音鯰、多鬚之貌。

石印→音司、相切責也、又音猜、彊力也、又多才力也、又音鯰、多鬚貌。

評 →満洲語 *keb seme* は上記の他に程度の強いことを指す。『新満漢大辞典』の漢語の対訳は甚、十分、很。『御製清文鑑』は *keb seme* を、*haji senggime i arbun.geli šadaha be keb seme šadaha,yaya jaka tuheke be keb seme tuheke sembi*。(親しく友愛の様、又疲れた事を *keb seme šadaha*。凡そ物が落ちるのを *keb seme tuheke* と言う)と載せる。「偲」の持つ漢語の相切責(厳しく責めあう)や彊力(力強い)などの意味はない。或いは1つの可能性として満洲語が「思」と同義ととった可能性があるかもしれない。「思」ならば「思望」(『詩』鄭風)のように満洲語の語義に近くはある。

揣 @don #ajigen (小さい)

刻本→音揣、少揣小也。

石印→音揣、少揣小也。

評 →満洲語の音の *don* は現代北京語音の *duan* から考えれば少し無理がある。

側 @dze #dalbai (側の)

刻本→音窄、傍也、仄也、傾也、不正也、偏臥也、又側臥也、裨隘也。

石印→音窄、傍也、仄也、傾也、不正也、偏臥也、又側臥也、裨隘也。

偵 @ceng #cendeme (確かめる、試みる)

刻本→音稱、邏候也、探同ママ也、又音征、與貞同。

石印→音禳、伺也、候也、探伺也、與貞同。

評 →2種の「刻本」の「探同」は「探伺」の誤刻。『字彙』も「探伺」

偶 @o #juru (偶数の偶、対)

刻本→音偶、亢儷也、並也、合也、對也、諸也、又適然也、又俑也、像也、木像曰木偶、土像曰土偶。

石印→音偶、亢儷也、並也、合也、對也、諸也、又適然也、又俑也、像也、木像曰木偶、土像曰土偶、又姓。

倣 @jy #šošombi (総計する、纏める)

刻本→音治、會物也。

石印→音治、會物也。

偷 @teo #hūlhambi (盗む)

刻本→透平声、盜也、薄也、苟且也、又音余。

石印→透平聲、盜也、薄也、苟且也、又音余。

⑩隗 @gui #ler sembi (どっしりと)

刻本→音規、偉也、大貌美也、怪異也、恢傀儡也。

石印→音規、偉也、大貌美也、怪異也、又音恢、傀儡也。

評 →「刻本」の「恢傀儡也」は省略しすぎて難解であるが「石印」に載せる意。

僂 @seo #julgei niyalma -i gebu (古の人の名)

刻本→與叟同。

石印→叟同。

儻 @jeo #beyede bihe (懐妊する)

刻本→音皺、妊也、又音驟、義同。

石印→音皺、任身、傭作曰儻。

僂 @cin #nungnembi (侵害する、焚き付ける)

刻本→音駸、漸進也、僂省作侵非然。

石印→侵本字。

評 →「石印」は『字彙』に同じ。「刻本」が漸進とするのは『玉篇』に千金切漸進也、と載せるによる。親字が『満語本』は、「僂」「儻」の順であるが、『漢文本』は、逆の順である。

僂 @c'y #teksin (平らな、きちんとした)

刻本→音豸、不齊也。

石印→音豸、僂不齊也。

評 →満洲語の teksin は漢語の意味と全く反対の意味となっている。

僂 @su #an -i ucuri (平素、尋常)

刻本→音素、向也、循其常分曰僂。

石印→音素、向也、循其常分曰僂。

僂 @huwa #guigu (老いてなお健やかな事)

刻本→僂入声、僂僂健貌、無憚也。

石印→僂入声、僂僂健貌、無憚也。

僂 @siye #hūwasari seme (かさかさ)

刻本→同悉。

石印→同悉。

僂 @se #ehelinggu (愚鈍な者、愚劣な者)

刻本→音近、色惡。

石印→音近、色惡。

評 →満洲語の音注 se は不適、

- 倅 @i #hoilacambi (見回す、周りを気にする)
 刻本→音匱、左右兩視。
 石印→音悸、左右兩視。
- 側 @den #hican (質素な、小食な)
 刻本→同刻。
 石印→同刻。
- 傳 @fu #sefu (師、先生)
 刻本→音附、師傅官名、又麗著也、又牽合曰傳會與附同。
 石印→音附、師傅官名、又麗著也、又牽合曰傳會與附同。
- 原 @yuwan #sahaliyan (黒)
 刻本→音願、點ママ也。
 石印→音願、點也。
 評 →「刻本」2本共に誤刻している。「石印」『字彙』共に「黠」
- 借 @žung #geren (大勢、皆)
 刻本→音茸、衆也。
 石印→音茸、衆也。
- 僣 @li #wecen be aliha niyalma (祭祀を主る人)
 刻本→音栗、廟主也。
 石印→音栗、廟主也。
- 僣 @nu #ilan hergen hala (三字姓)
 刻本→農入声。
 石印→孛入聲、庫僣官氏。
- 僣 @yūn #elehun (満ち足りた、心の寛い)
 刻本→音允、優也。
 石印→音允、優也。
 評 →満洲語 elehun は『大清全書』に「泰、安舒」と載せ、『御製清文鑑』に、mūjilen onco be elehun sembi, (心が広い事を elehun と言う) と載せている。『切韻』『字彙』も「優」とする。『説文』には優に饒の意味を載せているので、elehun に近い。
- 僣 @kiyan #sirame yabumbi (続いて行く)
 刻本→遣去声、僣僣行相及也。
 石印→遣去声、僣僣行相及也。
- 僣 @kiyang #hojo akū (可愛さがない、美しくない)
 刻本→音講、僣僣不媚也。
 石印→音講、僣僣不媚也。

- 馮 @ma #girucun (恥、不面目)
刻本→音罵、僂辱。
石印→音罵、僂辱。
- 傍 @bang #nikeku (倚り掛かる所)
刻本→音棒、近也、倚也、又與旁同、又音崩、傍傍不得已之貌。
石印→音棒、近也、倚也、又平聲與旁同、又音崩、傍傍不得已之貌。
- 候 @gi #silhingga (妬み深い)
刻本→音疾、姪也、一曰毒也。
石印→音疾、姪也、一曰毒也。
- 愾 @hi #ushacun (恨み、怒り)
刻本→音戲、怒愾也。
石印→音戲、怒愾也。
評 →『字彙』は「愾」を「俗愾字」としている。
- 偵 @diyan #fudasihün (不合理な、逆の)
刻本→音顛、偵倒。
石印→音顛、偵倒。
- 儻 @tai #yokcingga (風采の整った、見かけの良い)
刻本→同態。
石印→同態。
- 倜 @h'ao #ba -i gebu (地名)
刻本→音皓、北方之地名。
石印→音皓、北方之地名。
- 僥 @tang #anahünjarakū (不遜、無礼)
刻本→音唐、僥倖不遜也。
石印→音唐、僥突不遜也。
- 傑 @giyei #yebken (英俊な、聡明な)
刻本→乾入声、才過萬人爲傑、執也、傲也、又音叶、音暨。
石印→乾入声、才過萬人爲傑、執也、傲也、又音叶、音暨。
- 僣 @ming #sain (善、良い)
刻本→音茗、好也。
石印→音茗、與酩同、大醉也。
評 →「刻本」は『字彙』に同じだが「石印本」は全く違う語義を載せている。『集韻』に、酩大醉也、或僣作、と載せている、これに依ったか。『正字通』では與娯通、と載せ「好」を誤りとする。
- 僂 @can #beye darang sembi (体が長い様)

刻本→音闌、人形長貌。

石印→音闌、人形長貌。

保 @kiong #ibiyada (嫌悪すべきもの、醜悪な)

刻本→音窮、傑ママ倧可憎之貌、又罵也。

石印→音窮、保倧可憎之貌、又罵也。

評 →「石印」『字彙』は「保倧」とする、親字が「保」であるので、当然これが正しい。「四端堂」は「保」とするが、いずれも誤り。

僂 @hi #tulergi aiman colo (外部の部族の称)

刻本→音奚、東北夷名。

石印→音奚、東北夷名。

僂 @šan #debsimbi (団扇であおぐ)

刻本→音扇、熾盛也、與煽同。

石印→音扇、熾盛也、與煽同。

僂 @ciyan #takürsi (小使い、捕吏)

刻本→音欠、僂從使屬。

石印→音欠、僂從使屬。

僂 @kiyoo #julgei niyalma -i gebu hala (古の人の姓名)

刻本→音確、音覺。

石印→音覺。

評 →満洲語は語義を『字彙』の「人名」とあるのに依っている。

僂 @siyon #goro (遠い)

刻本→音峻、遠也、疾也、從也。

石印→俗佻作。

評 →『字彙』には「疾也、從也」と載せ「遠」の意味は載せていない。「石印本」の「俗佻作」は『正字通』に同じく「俗佻作」と載せるに依ったと思われる。

僂 @ceng #dulimbai goloi encu gebu (中州の異称)

刻本→音偃。

石印→音偃、鄙賤之稱。

評 →満洲語の音 ceng は漢語の chang 或いは chen に対応するものであろうが、とすれば、chen の音を表していると考えられるが、満洲語では漢語の韻尾 n と ng を明確に区別しないことも多い。dulimbai goloi encu gebu は他方の人が中央を呼ぶ異称と言う意味である、例えば、「僂人」は魏晋南北朝期の南人の北人に対する蔑称である、『宋書』巻 54、列伝、沈曇慶に、時殿中員外將軍裴景仁助戍彭城、本僂人、多悉戎荒事、と載せる。これから引伸して「鄙賤」の意味を持つようになったのであろう。

備 @cu #saniyarakū (伸びない)

刻本→音觸、備佩不伸。

石印→音觸、備佩不伸。

傘 @san #sara (傘)

刻本→音散、雨傘。

石印→音散、雨傘。

備 @bi #teksilehe (整頓した、整えた)

刻本→音被、具也、足也、成也、咸也、副也、預辨也、防也、又長兵曰備。

石印→音被、具也、足也、成也、咸也、副也、預辨也、防也、又長兵曰備。

評 →満洲語の音 bi は北京音としてはおかしい。bei とあるべき。

僂 @sao #cokto (高慢な、横柄な)

刻本→音騒、天也、又驕也。

石印→音騒、天也、又驕也。

評 →「刻本」「石印」の「天也」は『字彙』『正字通』『玉篇』にはない。

倣 @hiyoo #alhūdambi (倣う、手本にする)

刻本→音效、法也、又叶音豪。

石印→音效、法也、又叶音豪。

容 @zung #cira fiyan elden (容色が輝く)

刻本→音容、容華婦官名、又縣名、又容容便習貌。

石印→音容、容華婦官名、又縣名、又容容便習貌。

徬 @yao #takūrara hūsun (役夫)

刻本→音姚、使也、役也、又衰也。

石印→音姚、使也、役也、又作繇。

評 →2本「刻本」の「又衰也」は『玉篇』『字彙』『正字通』にも載せていない。誤字の可能性を指摘しておく。

儻 @ta #tursuki akū (不肖の)

刻本→音塔、儻嫗不材不肖之人、又儻儻不謹之貌。

石印→音塔、儻嫗不材不肖之人、又儻儻不謹之貌。

傴 @so #omifi sui Humbi (飲んで酔いどれる)

刻本→音梭、傴傴醉舞貌。

石印→音梭、傴傴醉舞貌。

儻 @yang #oshon (暴戾、小の月)

刻本→央上声、戾也。

石印→央上聲、戾也。

評 →満洲語 oshon は『大清全書』に、「月小之小、苛、暴戾、虐」の意味を載せ

ている。

僂 @ji #ajige (小さい)

刻本→音積、小也。

石印→音積、小也。

① 僂 @šang ママ #bešehun (酒浸り)

刻本→沙上声、僂俏、又輕誹謗。

石印→沙上聲、僂俏、又輕誹謗。

評 →満洲語の音は不適、ša でなければいけない。bešehun は『大清全書』に、呆呆と載せ、『御製清文鑑』に、nure boco eiten jaka de dabanafi liyeliyehun ohongge be bešehun oho sembi (酒女色すべての者に過度に沈溺するのを bešehun になったと言う)

僂 @bi #tatan (宿営)

刻本→同蹕。

石印→同蹕。

僂 @ts'ui #bošombi (催促する、追い出す)

刻本→音崔、促也、又追也。

石印→音崔、促也、又追也。

僂 @c'y #ulhiyen -i fusihon (o:ulhin 次第に賤しくなる)

刻本→音遲、凌僂漸卑也。

石印→與僂同。

評 →満洲語の ulhiyen が ulhin へと書かれているのは ye という比較的弱い音が単純化したものと考えてよい。

僂 @žung #taküršabumbi (使い走りをさせられる)

刻本→音融、雇役于人也、又音充、均也。

石印→音融、雇役於人也、又音充、均也。

僂 @dzao #duben (終わり、果てる)

刻本→音遭、終也。

石印→音遭、終也。

僂 @ma ママ #bekitu (丈夫な、しっかりした)

刻本→密入声、僂僂健貌。

石印→密入聲、僂僂健貌。

評 →満洲語の音 ma は誤り。

僂 @šuwai #feliyame yabumbi (歩み行く)

刻本→音率、行貌。

石印→音率、行貌。

@dzung #oitobuha (困窮した)

刻本→音總、恠徳困窮也、又不暇也。

石印→音總、恠徳困窮也、又不暇也。

備 @peng #julgei hūlaha -i gebu peng dzung (古の盜賊の名、備宗)

刻本→音朋、姓也、又音倍。

石印→音朋、姓也、又音倍。

評 →満洲語の julgei hūlaha -i gebu peng dzung は『字彙』の引用する、『漢書』南山盜備宗等數百人、依る。

從 @sung #hūdun (速い)

刻本→音竦、疾貌。

石印→音竦、疾貌。

儻 @je #etuhun erdemu akū (強健だが徳行がない)

刻本→音遮、儻儻。

石印→音遮、儻儻。

評 →『大漢和辞典』は『玉篇』を引いて、儻、儻儻、健而不徳、としているが、これは「儻」の解説ではない、『玉篇』「儻」の字の解説である。満洲語の解釈 etuhun erdemu akū も『玉篇』の「儻」の字の解説に依る。

傲 @ao #coktolombi (驕る)

刻本→敖去声、慢也、倨也、又樂也。

石印→敖去声、慢也、倨也、又樂也。

儻 @li #bejileme gisurembi (暗示的に言う)

刻本→同儻。

石印→同儻。

評 →『字彙』も「儻」「儻」は同じとするが、「儻」は満洲語 bejileme gisurembi の意味は持たない。「満文本」は「儻」を juru acabumbi (対・つい) と訳す。

略 @liyoo #enduri gebu (神の名)

刻本→音略、神名。

石印→音略、神名。

儻 @g'ai #holtome takūrambi (偽って使役する)

刻本→音益、假主。

石印→音益、假主。

評 →『字彙』は音を「蓋 gai4」としている、漢語「益」は yi4、満洲語の g'ai は合わない。既 (ji4) からの類推に依る間違いかもしれない。

傳 @cowan #ulambi (伝える)

刻本→音椽、授也、續也、布也、遽也、又音瑑、訓也、賢人之書曰傳、傳傳也、以

傳示後人也、又續也、又轉去声、馱傳也。

石印→音椽、授也、續也、布也、遽也、又音瑑、訓也、賢人之書曰傳、傳傳也、以傳示後人也、又續也、又轉去声、馱傳也。

偃 @ioi #dara kumcuhun (腰の曲がった)

刻本→於上声、偃偻不伸。

石印→この部分「石印」は「慚」を入れている。以下「僮」「債」「僮」「僮」の字が抜けている。

僮 @sui #urhu (傾いた、歪んだ)

刻本→音緩ママ、偏也。

石印→なし。

評 →「刻本」2種とも音を「緩」とするのは誤り、『字彙』は「綏」とする。満洲語の音は正しい。

債 @jai #bekdun (o:bedun、負債、借金)

刻本→

石印→なし。

評 →「満文本」は bedun と綴るが、『大清全書』は、債主、jiha bekdun を錢債と載せている、又『御製清文鑑』も bekdun、niyalmai jaka be juwen gaifi bekdun sembi (人の物を借りるのを bekdun と言う) と載のせる。k の欠落については「僮」の項参照。

僮 @tang #anahūnjarakū (不遜、無礼)

刻本→同僮。

石印→なし。

評 →『四端堂』は「塘」とするが、意味から言って誤刻であろう。『字彙』も「僮」とする。

僮 @dzu (ts'u) #hala (姓)

刻本→音鏃、姓也。

石印→なし。

評 →「満文本」の音は、後で点を加えたようにみえ、2つの音を挙げておいた。

僮 @yao #sebjen (悦ぶ、楽しみ)

刻本→音遙、喜也。

石印→なし。

僮 @jan #adame ilimbi (侍立する)

刻本→音占、立侍也。

石印→音占、立侍也。

評 →『四端堂』は音を「古」と誤刻している。

- 瘸 @kiowe #bethe doholon (o:dogolon、足が不自由)
刻本→音癩、脚手病也。
石印→同癩、脚手病也。
評 →『寶仁堂本』は、音を「病」とするも誤刻、『字彙』も「癩」、満洲語の語義の o:dogolon は、満洲語の綴りにおいて、語中の g と h は入れ替わることがあるようで、例えば、Bibliothèque Nationale de France 本の『滿文孔子家語』に sinahan とあるが一般的に sinagan(服喪)と綴られる、そのせいか sinahan の横に歐人 (Klaproth?) の手で hiyou (孝) と注記が付振れている。
- 僂 @juwang #ilire arbun (立つ様)
刻本→音壯、立貌。
石印→音壯、立貌。
- 傷 @šang #gasambi (怨む、嘆く、苦しむ)
刻本→音傷、痛也、又憂也、又創也、悼也、感也、戕也、害也、損也。
石印→音傷、痛也、又憂也、又創也、悼也、感也、戕也、害也、損也。
- 僞 @niyoo #oilohon (輕薄な、思慮のない)
刻本→音鳥、僞佻輕貌。
石印→音鳥、僞佻輕貌。
- 俠 @cuwang #ehe (悪い、粗悪な)
刻本→音俠、惡也。
石印→音爽、惡也。
- 僇 @giyang #tuhembi (倒れる、物が落ちる、日が沈む)
刻本→與僵同。
石印→與僵同。
評 →満洲語の tuhembi は『大清全書』に šun tuheke (日落) efujeme tuhembi (傾倚) tuheke (失落) などが載せられている。『御製清文鑑』には、jafunure de beye na de nikenere be tuhembi sembi (相撲で体が地に倒れるのを tuhembi とする) 又は yaya iliha jaka na de naihüre den bade bisire jaka na de isinjire be gemu tuhembi sembi (凡そ立っているものが地に倒れたり、高い所にあるものが地に落ちるを又 tuhembi とする) と載せている。漢語「僵」はこわばる、或いは倒れると言う意味を持つ。
- 倅 @ce #somimbi (隠す、しまう、埋葬する)
刻本→音掣、止也、又控地也、住也、言憂思失住立而不前。
石印→音掣、止也、又逗也、住也、言憂思失住立而不前。
評 →満洲語の somimbi と漢語の意味の間にズレが見られる。『玉篇』も、倅倅、失志貌と載せるのみ。『大清全書』は、somimbi に「潜藏」「匿」「隱」「避」の

訳語を載せている。『御製清文鑑』には、sabuburakū daldara be somimbi sembi (見えないように隠すことを somimbi と言う) と載せる。

- 僕 @h'an #hala (姓)
 刻本→音漢。
 石印→音漢、姓也。
- 粵 @hūwa #moo ilha -i guksen (木や花の一片)
 刻本→花平声、草木萼英、俗作花。
 石印→化平聲、草木萼英、隸作華、俗作花。
 評 →「石印」は『字彙』の解釈に従う。
- 僂 @luwei #banuhūn (無精な、怠ける)
 刻本→即僂字。
 石印→即僂字。
- 倭 @ts'an #sain -i arbun (善き様)
 刻本→音驂、好貌。
 石印→音驂、好貌。
- 倅 @jang #gelere goloro gese (しきりに怖がる様子)
 刻本→與倅同、又倅遑驚恐貌。
 石印→與倅同、又倅遑驚恐貌。
- 傾 @king #tuheme afambi (倒れ躓く)
 刻本→音卿、側也、伏也、欹也、瀉也、圯也、空也、又上声、俄傾少選時也。
 石印→音卿、側也、伏也、欹也、瀉也、圯也、空也、又上声、俄傾少越時也。
 評 →「俄傾少選時也」は『字彙』にはない。『正字通』に載せており、これに依ったようだ。「石印」3本は「選」を「越」と誤写している。
- 僂 @yan #yarhūdame hūdašambi (導きて商売をする)
 刻本→音晏、引爲價也。
 石印→音偃、引爲價也。
- 執 @jy #baitangga (仕事のできる、役に立つ、)
 刻本→音執、執事者。
 石印→音執、執事者。
- 僕 @coo #golmin (長い)
 刻本→巢上声、僕僕長貌。
 石印→巢上聲、僕僕長貌。
- 僂 @ti #saikan (良い、美しい)
 刻本→音帝、俊也。
 石印→音帝、侈也。

評 →『正字通』は、譌字、舊書註、音帝、俊也、誤。と断じている。「石印」3本は「選」を「修」する。

儻 @dze #gelerakū (恐れない、おじけ無い)

刻本→音摘、無憚也、儻倭惡也、又音鮐、偶儻行貌。

石印→音摘、無憚也、儻倭惡也、又音鮐、偶儻行貌。

僂 @hiye #orho de edun jifi hūwasar seme (草に風は来てがさがさとする)

刻本→音屑、細聲。

石印→音屑、細聲。

評 →『四端堂』は「細」を「佃」と誤刻している。

備 @bei #belhembī (準備する、備える)

刻本→即備字。

石印→即備字。

僂 @leo #dere gugurekebi (腰の曲がった)

刻本→音樓、軀僂軀也、俯也、身向前也、又僂佻短貌。

石印→音樓、軀僂軀也、曲背也、身向前也、又僂佻短貌。

評 →「石印」の「曲背也」は『字彙』に依る。

儻 @piyoo #oilohon (浅薄な、軽率な)

刻本→音剽、輕也、身輕便也。

石印→音票、輕也、身輕便也

僅 @gin #muterei teile (極力、力の限り)

刻本→音覲、略能也、少也、纒也、餘也、劣也。

石印→音覲、略龍ママ也、少也、纒也、餘也、劣也。

評 →「石印」は「龍」と誤写している。『字彙』も「能」

健 @liyan #sorho (鶏の雛)

刻本→音練、鶏小者名健、又音輦、健子雙生子也。

石印→音練、鶏小者名健、又音輦、健子雙生子也。

僕ママ @ioi #ambaki (尊大な)

刻本→同僕。

石印→同僕。

評 →親字は「刻本」「石印」は「僮」となっている。

僂 @lu #girucun (恥、恥辱)

刻本→音六、辱也、又痴行也。

石印→音六、辱也、又痴行也。

僂 @man #elhešame goidambi (のろのろと遅くなる)

刻本→音慢、舒遲也、又優與慢同。

石印→音慢、舒遲也、又通作慢。

僻 @bing #bašame tucimbi (外に追い出す)

刻本→音丙、餘也、斥也、又音病、寔也、隱避也。

石印→音丙、餘也、斥也、又音病、寔也、隱避也。

評 →満洲語 bašame の基本形 bašambi は『大清全書』に、逐之也、と載せる。排斥の語義ととっているようだ。

僉 @ciyan #gemu (皆、全部)

刻本→音籤、皆也、咸也、衆共言之也。

石印→音籤、皆也、咸也、衆共言之也。

僊 @siyan #enduri niyalma (仙人)

刻本→與仙同、又僊僊舞貌。

石印→與仙同、又僊僊舞貌。

儂 @tan #menen (間抜け、麻痺)

刻本→探去声、儂侗癡貌。

石印→探去聲、儂侗癡貌。

⑫ 僇 @cui #labdahūn (垂れ下がった、ぶら下がった)

刻本→同僇。

石印→同僇。

徹 @bie #lete lata (続々と)

刻本→音別、徹僇衣服婆娑貌。

石印→音別、徹僇衣服婆娑貌。

評 →満洲語 lete lata は『御製清文鑑』に、aciha fulmiyen -i laju labdu -i arbun, geli amala tutafi siran -i jidere be inu lete lata seme gisurembi (荷駄の不細工に多い様子、又後ろに遅れて続き来るのを亦 lete lata と言う) と載せている。荷駄が無秩序で多い事、遅れてだらだらと続いていくことを指しているようだ。

僇 @dzun #gašan -i omicara de doro jorire aisilakū (郷飲酒禮輔佐)

刻本→音遵、郷飲酒禮輔主人者、又音撰、具也。

石印→音遵、郷飲酒禮輔主人者、又音撰、具也。

評 →周代、三年に一度郷吏を考査する事を大比と言ひ、終わって郷大夫が賢吏に対して宴席を設けるのを郷飲酒禮と言う。

像 @siyang #arbun (様子、外見)

刻本→音象、形象也、稍似也、摹倣也。

石印→音象、形象也、稍似也、摹倣也。

- 貳 @el #ilhi (副、次)
 刻本→音二、副益也。
 石印→音二、副益也。
- 儻 @jy #doboro tetun (供具、祭祀の器)
 刻本→音治、供儻具也。
 石印→音治、供儻具也。
- 儻 @san #arbun yokcingga (見かけの良い、風貌の良い)
 刻本→音繕、恣態也。
 石印→音繕、恣態也。
- 僕 @pu #kutule (従僕)
 刻本→逢入声、僕従自稱為僕、卑辭也、又馭車也、又僕僕煩猥貌。
 石印→逢入声、僕従自稱為僕、卑辭也、又馭車也、又僕僕煩猥貌。
- 僑 @kiyoo #tatan de tatambi (宿営に泊まる)
 刻本→音橋、旅寓而居。
 石印→音橋、旅寓而居。
- 僑 @giyūn #oitobumbi (困窮する、困る)
 刻本→與窘同。
 石印→與窘同。
 評 →『字彙』も「刻本」「石印」に同じ。満洲語の訳は『玉堂字彙』(穴部)「窘」にある、道也、困也に依っている。
- 僑 @tui #ijishūn (従順な、孝順)
 刻本→音禿、順也。
 石印→音禿、順也。
- 僑 @ji #isambi (集まる)
 刻本→音聳、人聚也。
 石印→音聳、人聚也。
- 僑 @gioi #tere seme hūlambi (それと呼ぶ)
 刻本→音渠、呼彼之稱。
 石印→音渠、呼彼之稱。
- 僑 @dzuwen #gungnecuke (うやうやしい)
 刻本→尊上声、恭敬也、衆也、聚也。
 石印→尊上声、恭敬也、衆也、聚也。
- 僑 @hi #urgun (喜び)
 刻本→音希、樂也、从人爲僑樂、又小心畏忌曰僑。
 石印→音希、樂也、从人爲僑樂、从女爲嬉戲、又謚法、小心畏忌曰僑。

評 →「石印」の「从女爲嬉戲」は『字彙』にも載せていない。『玉篇』も虚其切樂、と載せるのみ。

傍 @lao #suilabuha (苦勞する)

刻本→音勞、又音滂、伴傍也。

石印→音勞、又音滂、伴傍也。

徹 @cang #mila (大きく開いた)

刻本→音徹、寛也。

石印→音徹、寛也。

評 →満洲語 mila は『大清全書』に、門大開、凡有開口之物而大開着者と載せる。

『御製清文鑑』には、yaya neire jaka -i angga ergi be majige daliburakū yooni neihe be mila neihe sembi (凡そ開いた物の口を少しも覆わず、全て開く事を mila neihe と言う) と載せる。

儻 @guwang #horonggo (威風のある、威力ある)

刻本→音光、舞貌。

石印→音光、舞貌。

評 →満洲語 horonggo は『大清全書』では horonggū (有威者) と載せている、漢語の意味と少しズレがあるようだ。

儻 @šan #hahi -i de gelembi (切迫して不安になる、恐れる)

刻本→扇上声、意急懼也。

石印→扇上聲、意急懼也。

僚 @liyoo #hafan (役人)

刻本→音聊、明也、官僚也、又好貌。

石印→音聊、明也、官僚也、又好貌。

儻 @hi #suihume maksimbi (酔って舞う)

刻本→音溪、酔舞貌、傾側之状。

石印→音溪、酔舞貌、傾側之状、通作歆。

儻 @deng #baita de derakū (仕事に不真面目)

刻本→音鄧、倭儻不著事、又音稱、病行貌、又醉行也。

石印→音鄧、倭儻不著事、又音稱、病行貌、又醉行也。

儻 @ts'an #sabumbi (見る)

刻本→棧上声、見也。

石印→棧上聲、見也。

菴 @i #tusa (益)

刻本→古益字。

石印→古益字。

偽 @wei #holo (嘘、出鱈目)

刻本→危去声、非真也、詭也、詳ママ也。

石印→危去声、非真也、詭也、詐也。

評 →「刻本」の「詳」は誤り、『字彙』も「詐」とする。

僂 @bo #sakda arbun (老人の貌)

刻本→與番同。

石印→與番同。

機 @gi #narhūn (細かい、精密な)

刻本→音鷄、精也、詳也、又近也。

石印→音鷄、精也、詳也、又近也。

僇 @hoi #fulehun (恵み)

刻本→同恵。

石印→同恵。

僇 @ki #ulhun neimbi (襟を開く)

刻本→音啓、開衣領也、又性僇開脚行貌。

石印→音啓、開衣領也、又性僇開脚行貌。

僇 @can #calabun (過失、錯誤)

刻本→與舛、又釧、蠻夷卧、以足向内曰僇。

石印→與舛、又釧、蠻夷卧、以足向内曰僇。

僇 @tiye #koimali (嘘つき、狡い人)

刻本→音鐵、僇佻狡猾也。

石印→音鐵、僇佻狡猾也。

僇 @dan #unenggi (真実、誠実な)

刻本→丹去声、篤也、又速也、動也、又音憚、疾也。

石印→丹去声、篤也、又速也、動也、又音憚、疾也。

僇 @giyoo #tašan (嘘、偽り)

刻本→音矯、偽也、又音遥。

石印→音矯、偽也、又音訾、僇倖求利不止貌。

評 →「石印」の「訾、僇倖求利不止貌」は『字彙』にもない。『正字通』も『字彙』に同じ。『集韻』に「僇、僇倖、求利不止貌」とあり、これから採ったと思われる。従って、『字彙』→『玉堂字彙』→『攷正玉堂字彙』と単純に継承されてきたのではなく、特に『玉堂字彙』が『字彙』を取捨選択し簡略化を進めているのに比べて『攷正玉堂字彙』編纂時には、他の字書も参考にして付加している。

僇 @hi #bargiyatambi (絶えず税を収集する)

刻本→音吸、斂也。

石印→音吸、斂也。

僦 @jio #turimbi (賃借する、)

刻本→酒去声、賃也、願也。

石印→酒去声、賃也、願也。

評 →「四端堂」は「賃」を「僦」としている。

無 @u #munahūn (面白くない、むなしい)

刻本→同無。

石印→同無。

評 →「四端堂」は「同無」となっている。

僧 @šeng #hūwašan (和尚)

刻本→省平声、從浮圖教者、又稱曰上人、受五戒。

石印→省平聲、從浮圖教者、又稱曰上人、受五戒。

儼 @hiyan #haksan cokcohon (険しく屹立している)

刻本→音近獻、逞貌。

石印→音獻、逞貌。

評 →満洲語の訳は地形を指しているようだが、cokcohonには並外れた、秀でたと
言う意味もある。「刻本」の「音近獻」は不明、獻に近いと言う意味か。

儻 @fen #tuhembi (倒れる、物が落ちる、日が沈む)

刻本→音奮、什也。

石印→音奮、什也、又覆敗也。

評 →「刻本」の解説は不明、『字彙』にもない。「什」は「什」の誤りではなから
うか。

愆 @kiyan #endebuku (過失、誤り)

刻本→與愆同。

石印→與愆同。

樣 @yang #ilime aššambi (o:ēššambi、立ち動く)

刻本→音樣、立動貌。

石印→音樣、立動貌。

儻 @hiyan #hing sembi (一心に、評を参照)

刻本→閑上声、威嚴貌。

石印→閑上聲、威嚴貌、又寬大也。

評 →hing sembiha は『大清全書に』篤切、敦厚、勤勤などの意味を載せており、
『御製清文鑑』には、ujen fisin -i arbun, (重々しく重厚な様)と載せてい
るので、漢語と整合性がある。

- 僑 @kioi #kūwasa (ほら吹き)
刻本→音僑、狂也。
石印→音僑、狂也。
評 →kūwasa は、『大清全書』に、不實虚浮之徒と載せ、『御製清文鑑』に、dababume gisurere niyalma be kūwasa sembi (誇大に言う人を kūwasa と言う) と載せている。
- 僂 @žu #juculere juse sargan jui (芝居の子供、娘)
刻本→音僂、侏僂短小之人。
石印→音僂、侏僂ママ短小之人。
評 →侏僂は体の小さい人、或いは俳優の意味でも使われる。満洲語は子役の男女を指す。『字彙』には、俗僂字と載せる。
- 儻 @tang #mijin ufarafi elhe baharakū (志を失って平安を保てない)
刻本→音儻、惘然惘也、又音撐不動意。
石印→同儻、或作儻。
評 →「刻本」は皆誤刻が多い、「儻」が「消」、「惘」が「涸」になっている。したがって「石印」は「刻本」にも『字彙』にお倚らず、『集韻』の、儻或作儻、とあるのに依っている。
- 慳 @e #jaka endebuku (事を誤る)
刻本→音慳、過也、不善也、又音汗、與惡同。
石印→音慳、過也、不善也、又音汗、與惡同。
- 僇 @giyoo #kimcime baicambi (詳しく調べる)
刻本→音僇、僇僇明察貌、又趨走促數不爲容止之貌也。
石印→音僇、僇僇明ママ貌、又趨走促數不爲容止之貌也。
評 →「石印」は「察」を落としている。
- 僇 @se #eberi (及ばない、至らない)
刻本→音僇、不及也、又音颯、僇僇疾之貌。
石印→音僇、不及也。
- 僇 @jiyan #dababumbi (o:tababubi、超えさせる、～過ぎる)
刻本→音尖去声、假也、僇也、又差也、又音譜、與譜同、又音侵、亂也、俗作僇非。
石印→音尖去声、假也、僇也、又差也、又音譜、與譜同、又音侵、亂也、俗作僇非。
- 僇 @gi #ba -i gebu (地名)
刻本→音棘。
石印→同僇。
- 僇 @sy #morin ujire niyalma (馬の世話する人)
刻本→同僇。

石印→同厮。

儼 @siowan #susultungga (鋭利な、聡明な、呑み込みの早い)

刻本→音喧、智慧口利也、又疾也、又舞。

石印→音喧、智慧口利也、又疾也、又舞。

僮 @tung #buya juse (小さな子供)

刻本→音同、頑也、癡也、僮者婢妾之総稱、又疎恭貌。

石印→音同、頑也、癡也、僮者婢妾之総稱、又疎敬貌。

評 →底本文煥堂本は「僮者」を「僮也」としている。

隣 @lin #girucun (恥、恥辱)

刻本→鄰上声、慙恥也。

石印→鄰上聲、慙恥也。

僇 @bo #tulergi goloi fiyanji dalikū (外地の屏藩)

刻本→音匍、僇僇也、使之僇寄於夷狄也。

石印→音匍、僇僇也、使之僇寄於夷狄也。

倍 @ja #gaitai niyalma be tunggalaha (ふと人に出遇う)

刻本→音筍、倍脛、忽觸人。

石印→音筍、倍脛、忽觸人。

評 →『大漢和辞典』に、「倍」急に人に触れるとあるが満洲語の訳の方が正確である。

⑬ 僊 @min #kicembi (努力する、励む)

刻本→音閔、僊勉也。

石印→音閔、勉也、本作瞋。

僵 @giyang #tuhembi (倒れる、転ぶ)

刻本→音江、僥也、仆也、偃也。

石印→音江、僥也、仆也、偃也。

評 →「刻本」「石印」の「僥也」は『字彙』にはない、『正字通』に、僵、通作僥と載せている。

僈 @ye #hocikon (美しい、見目麗しい)

刻本→音葉、輕麗貌。

石印→音葉、輕麗貌。

僈 @gin #amargi bai aiman -i kumun -i gebu (北方部族の樂の名前)

刻本→音禁、北夷樂名、又仰也。

石印→音禁、北夷樂名、又仰也。

僈 @sa #ginggun akū (慎みがない、配慮がない)

刻本→音鞞、僈僈不謹貌。

- 石印→音鞞、僞僮不謹貌。
- 價 @giya #hūda (商売)
刻本→音駕、價數物所値。
石印→音駕、價數物所値。
評 →満洲語 hūda は商売を表すが「價」は物の値段や値打ちの意味がある。満洲族は「商賈」の賈と勘違いしたか。
- 僱 @hūi #hūda -i salimbi (商売の價)
刻本→音回、買物値。
石印→音惠、買物値。
- 僂 @ciyoo #beye darang sembi (体が長い様)
刻本→音梢、僂僂長貌。
石印→音梢、僂僂長貌。
評 →「四端堂」は音を「倚」とするも間違い。
- 僻 @pi #mentuhun (愚かな、無知な)
刻本→聘入声、陋也、又音譬。
石印→聘入聲、陋也、又音譬。
- 僞 @se #buyen (愛、欲望)
刻本→音色、愛也、惜也、貪也、慳也、又積也。
石印→音色、愛也、惜也、貪也、慳也、又積也、又姓。
- 譽 @kiyan #endebuku (過ち、過失)
刻本→音愆、過咎也。
石印→音愆、過咎也。
- 僂 @dzuo #akšulame toombi (口汚くののしる)
刻本→音驟、僂僂惡声詈。
石印→音驟、僂僂惡声詈。
- 僂 @ai #gese adali (～のような、～のよう)
刻本→音愛、仿佛貌、又氣不舒也。
石印→音愛、仿佛貌、又氣不舒也。
- 僂 @sai #narhūn buya (o:buye、細かく砕く)
刻本→音塞、細碎也、無愆誠也、又音細。
石印→音塞、細碎也、無愆誠也、又音細、義同。
- 儀 @i #durun (有様、様子、典式)
刻本→音夷、義也、正也、法也、宜也、又度也、又叶、音擬。
石印→音夷、義也、正也、法也、宜也、又度也、又叶、音擬、又姓也。
- 僕 @pu #aha (奴僕)

刻本→與僕同。

石印→與僕同、又姓。

僭 @ju #hala (姓)

刻本→音著。

石印→同著、姓也。

儻 @can #banin giru (容姿、振る舞い)

刻本→音蟬、態也、又儻侗不進貌、又去声切ママ、傳與也、與禪同、又儻上声、儻儻舒間貌。

石印→音蟬、態也、又儻侗不進貌、又去声、與也、與禪同、又儻上声、儻儻舒間貌。

評 →「刻本」の「切」の箇所、『字彙』は、又去聲、時戰切、音擅、傳與也。と載せる。

僑 @giyūn #hocikon (美しい)

刻本→與俊同じ、又衛也、絶異也、又勝也。

石印→與俊同じ、又衛也、絶異也、又勝也。

儂 @nung #si bi sere bi (君私の私)

刻本→音農、俗謂我爲儂、又渠儂他也。

石印→音農、俗謂我爲儂、又渠儂他也、又姓。

億 @i #juwan tumen (十萬)

刻本→音益、十萬曰億、又大也、又安也、又供億謂供其匱乏、又億度也、又賭錢也。

石印→音益、十萬曰億、又大也、又安也、又供億謂供其匱乏、又億度也、又賭錢也、以意猜度、如漢人射覆之類、故曰億。

評 →数字上の「億」は満洲語では tumen tumen で表す。

僇 @da #ukambi (逃げる)

刻本→音闕、逃也、叛也。

石印→音闕、逃也、叛也。

僮

@dang #dulimba de forombi (中に向かう)

刻本→音當去声、正中也、又侗僮。

石印→音當去聲、止也、又侗僮。

僇 @kui #ambalinggū (鷹揚である、上品である)

刻本→同僇。

石印→與僇同。

僇 @piyoo #oilohon (浅薄な、思慮のない)

刻本→音飄、輕僇也。

石印→音飄、輕僇也。

髓 @dun #enduri wesike (仙去・仙人になって去る、死を表す)

刻本→音鈍、仙去也。

石印→與通同。

評 →まず「刻本」は3種とも違う、寶仁堂は「鏡」「四端堂」は「鈍」文煥堂は「能」、ここは音の近い「四端堂」に従う。又「刻本」の仙去也。は『字彙』にはない。

獨 @šung #šurgecemi (戦慄する)

刻本→音濁、獨俛動頭貌、又音獨、獨俛短醜之貌。

石印→音濁、獨俛動頭貌、又言獨、獨俛短醜之貌。

評 →šurgecemi は『大清全書』に、戦懼と載せる。『御製清文鑑』には、yaya gelehe beye de, beye sorgeceme aššara be šurgecemi sembi (凡そ恐れ震えたとき身震いし動かすことを šurgecemi と言う) と載せている。eici šahūrafi nimeme yadalinggū ofi beye dargime aššara be šurgecemi sembi (或いは冷えて痛くなり衰弱し身を震わせているのを šurgecemi と言う) 漢語の動頭貌をかく解釈したのか。

僂 @giyan #cokto (高慢な、横柄な)

刻本→音蹇、僂僂傲也。

石印→音蹇、僂僂傲也。

評 →『字彙』は、俗蹇字とするのみ。満洲語の cokto は『大清全書』に、驕、傲と載せる。『御製清文鑑』に、gūnin den, tukiyeceku bardanggi be cokto sembi (志が高く自負し高慢な事を cokto と言う) と載せる。

僂 @kiong #sain (良い、善)

刻本→音近窮、好也。

石印→音窮、好也。

儻 @ging #targacun (訓戒、いましめ)

刻本→音景、儻戒也。

石印→音景、儻戒也。

儻 @hūwan #susultungga (鋭利な、機知)

刻本→音懷、慧也、利也、疾也。

石印→音懷、慧也、利也、疾也。

儻 @guwai #hūdai bai niyalma be acabuhangge (市場の人を集める事)

刻本→音膾、牙儻會合市人者。

石印→音膾、牙儻會合市人者。

儻 @giyan #malhūn (儉約な、つつましい)

刻本→去奢從約謂之儉、又少也、又歲歉也。

石印→箴上聲、去奢從約謂之儉、又少也、又歲歉也。

評 →「刻本」は音を提示していない。又「石印」の示す音は、『字彙』は「健」
『正字通』は「遣」で二書とも違う。

儉 @yang #katunjame dedurakū (自制して寝ない)

刻本→音央、儉倅不伏也。

石印→音央、儉倅不伏也。

解 @hiyai #etuhun kiyangkiyan (極めて剛健である)

刻本→音解、儻解豪強貌。

石印→音解、儻解豪強貌。

健 @cu #nilhūn akū (滑りにくい)

刻本→楚去声、不滑也。

石印→楚去声、不滑也。

媿 @k'o #saikan (美しい)

刻本→音科、美也。

石印→音科、美也。

儻 @dan #damjalambi (担いで運ぶ)

刻本→音擔、與擔同、負荷也、一儻兩罌也、守儻石之祿。

石印→音擔、與擔同、負荷也、又儻耳郡名。

傲 @giyoo #jabšan (儻倅)

刻本→音繳、傲行也、又音驕、傲倅覲非望也。

石印→音繳、傲行也、又音驕、傲倅覲非望也。

⑭ 儗 @bin #andaha okdombi (友人として迎える)

刻本→賓去声、導也、相也、又陳也、又音賓、亦導也、又恭也。

石印→賓去聲、導也、相也、又陳也、又進也、又恭也、又同擯。

評 →「刻本」は「又音賓」を2度載せている。

綿 @miyan #fanggala (低い、短い、小さい)

刻本→音綿、綿綿低貌。

石印→音綿、綿綿低貌。

儻 @g'an #sure akū (利口でない、賢明でない)

刻本→音珣、不慧也、又謔言。

石印→音珣、不慧也、又謔言。

儻 @cuwang #giren aiman (すべての部族)

刻本→音磔、衆蠻也。

石印→音窗上聲、衆齊也、訓衆蠻非。

評 →「石印」は『字彙』と「刻本」の挙げる意味を「非」としている。

これは『正字通』に依ったようで、『正字通』は、訓衆蠻無稽、と する。

黻 @i #dobi -i jilgan (狐の声)

刻本→音夷、黻黻狐貌ママ之声。

石印→音夷、黻黻狐狸之声。

評 →「刻本」の「貌」は誤刻、「狸」が正しい。

儻 @sa #ginggun akū (慎みがない、無礼)

刻本→同儻。

石印→同儻。

儒 @zu #bithei urse (書の輩)

刻本→音如、學者之稱、儒區也、言能區別古今也。

石印→音如、學者之稱、儒區也、言能區別古今也。

儼 @jeng #baturu doksın (剽悍)

刻本→箠上声、海岱之人謂勇悍曰儼。

石印→箠上聲、海岱之人謂勇悍曰儼。

僣 @yen #niyalma akdambi (人に頼る)

刻本→音印、依人也。

石印→音印、依人也。

儻 @tai #ashan amban (o:asgan、側臣)

刻本→音臺、陪儻臣也、又田儻庸賤之稱、又音貸、儻儻癡貌。

石印→音臺、陪儻臣也、又田儻庸賤之稱、又音貸、儻儻癡貌。

評 →寶仁堂本は「儻臣」を「儻壯」とし、「又音貸」を「又音昏」とする。『字彙』は「臣」「貸」とする。

儻 @ceo #geren (大勢、衆人)

刻本→音酬、衆也、侶也、等也、類也、誰也。

石印→音酬、衆也、侶也、等也、類也、誰也。

評 →『文煥堂』は音を「醜」とする。

儻 @tiyoo #emhun ilimbi (一人立つ)

刻本→調上声、與佻同、又獨立也。

石印→調上声、又獨立也。

聘 @ping #takūršambi (走り使いをさせる、小用を言いつける)

刻本→聘平声、使也、補也。

石印→聘平声、使也、補也。

評 →満洲語 takūršambi は『大清全書』に、使と載せる。『御製清文鑑』には、hanci bibufi buyarame be, takūršambi sembi (身近に居て細々としたことをする事を takūršambi と言う) と載せる。『清文彙書』は、小差使兒、留在近小差遣

と載せている。

- 儕 @ci #gese sasa (輩、匹)
刻本→音柴、等也、輩也、類也。
石印→音柴、等也、輩也、類也。
- 儻 @dzung #isambi (集まる、髪を束ねる)
刻本→從去声、聚也。
石印→從去聲、聚也。
- 儻 @lan #arbun bocihe (様子、容貌)
刻本→音藍、儻儻形貌惡甚也。
石印→音藍、儻儻形貌惡甚也。
- 對 @dui #hūdai ba (市場)
刻本→音對、市也。
石印→音對、市也。
- 儻 @giyan #cokto (高慢な、横柄な)
刻本→音蹇、偃儻傲也。
石印→同儻。
- 儻 @ioi #ginggun (慎み、敬意)
刻本→音與、謹也、倚也。
石印→音與、謹也、倚也。
- 儻 @i #dababumbi (僭越、誇張)
刻本→音擬、僭也、比也、止也、又與疑同、茂也、盛也。
石印→音擬、僭也、比也、止也、又與疑同、茂也、盛也。
- 儘 @gin #akūnaha (果て、尽くす)
刻本→與盡同、皆也。
石印→與盡同、皆也。
- 儘 @kiyan #guribumbi (移動させる、移す)
刻本→音謹、儘開也。
石印→音謹、開也。
- 儻 @mung #farhūn (o:kijarhūn、暗い、愚昧な)
刻本→音萌、儻儻昏也。
石印→音萌、儻儻昏也。
- 評 →「満文本」の kijarhūn は不明。Farhūn で意味が通るが、字形にかなり無理がある。
- 儻 @u #fekcemi (心臓が鼓動する、筋肉がしきりに動く)
刻本→與舞同、又山名。

石印→與舞同、又山名。

評 →満洲語 *fekcemi* は『大清全書』には載せていないが『清文彙書』に、即 *fekceme aššambi* 也、心肉等動跳、と載せる。

儻 @neng #yadalinggū (弱い)

刻本→音能、弱也、困也、又云夷語相呼聲。

石印→音能、弱也、困也、又云夷語相呼聲。

儻 @jai #erki (強い)

刻本→齋上声、豪強貌。

石印→同儻、豪強貌。

⑮償 @cang #karulambi (報いる)

刻本→音常、酬也、還也、當也、復也、報也、亦還也。

石印→音常、酬也、還也、當也、復也、報也、亦還也。

儻 @liye #ciksin haha (壮年の男)

刻本→廉入声、儻儻長壯貌。

石印→廉入声、儻儻長壯貌。

評 →「廉」の中古音は *liem* (王力) 清代ではすでに *m* は欠落している。

儻 @wa #amargi bai aiman gebu (北方の部族の名)

刻本→音襍、儻羯東北夷名。

石印→音襍、儻羯東北夷名。

評 →『正字通』に依れば「儻羯」は東北夷で「儻儻」は多詐也、とする。したがって「石印」の言う「儻儻」は東北夷の名称ではない。

儻 @jiye #kemnemi (節約する)

刻本→音節、儻儻。

石印→音節、儻儻。

評 →『字彙』は「儻」と「節」は同じとする。

儻 @biyan #beye heihedeme haihadame (体がよろめいて傾むく事)

刻本→音邊、身不正也、又音駢、儻儻舞容也。

石印→邊、身不正也、又音駢、儻儻舞容也。

評 →満洲語 *heihedeme* と後ろの *haihadame* の基本形 *haihadambi* の用例を探し出せない。*haihambi* はかく辞書で確認できる。例えば日本語のエッチラ、オッチラと同じで、オッチラは単独では載せないだろう。「対語」の形式を取った人工的な語かもしれない。「文煥堂」は「儻儻」を「優儻」とするも間違い。

儻 @lei #moo šolon efimbi (木偶戲)

刻本→音壘、傀儻木偶戲。

石印→音壘、傀儡木偶戲。

評 →「寶仁堂」は音を「儻」とするも誤刻。

儻 @lioi #oki sere gūnin akū (しようとする気がない)

刻本→音呂、儻儻、不欲爲也。

石印→音呂、儻儻、不欲爲也。

儻 @giyūn #hocikon (美しい)

刻本→同儻。

石印→同儻。

儻 @kuwang #necin akū (平たくない)

刻本→壙上声、儻儻不平。

石印→壙上声、儻儻不平。

評 →「刻本」は3本とも「儻儻」を「儻儻」と誤刻している。

儻 @boo #hafasi idu nurhūmbi (官吏が当直を重ねる)

刻本→音報、吏官連直、又越也。

石印→音報、吏官連直、又越也。

儻 @ioi #uncambi (o:oncambi、売る)

刻本→音欲、與鬻同、買ママ也、又長也、動也。

石印→音欲、與鬻同、賣也。

評 →「刻本」3本とも「買」とするは、間違い。「鬻」に「買」の意味はない。「賣」が正しい。

儻 @šu #haha (男)

刻本→與豎同。

石印→與豎同。

評 →「豎」には満洲語 haha の意味はない。むしろ haha jui (男の子) とすべきであらう。

儻 @biyoo #yabure arbun (行く様子)

刻本→音標、行貌、又衆貌。

石印→音標、行貌、又衆貌。

儻 @dzan #isambi (集まる)

刻本→賛上声、聚也。

石印→賛上聲、聚也、又音纂、聚而計事也。

評 →「石印」の「又音纂、聚而計事也」は『字彙』『正字通』にはない。

儻 @jy #beye tob sembi (身が正しいと言う事)

刻本→音質、正也。

石印→音質、正也。

賜 @ts'i #akūmbuha (尽した、心を尽くした)

刻本→音賜、盡也。

石印→音賜、盡也。

優 @io #hūwaliasun (和、穏和)

刻本→音攸、和也、勝也、饒也、又優游、又優劣、倡優、又調戲。

石印→音憂、和也、勝也、饒也、又優游、又優劣、又倡優。

罷 @bei #ilimbi (立つ、留まる)

刻本→悖上声、停也。

石印→悖上聲、停也。

膠 @lao #mukden (繁榮、隆盛)

刻本→音勞、盛也、音泡義同。

石印→音老、盛也、音泡義同。

⑩ 儂 @niyoo #saikan (美しい、良い)

刻本→音鳥、美也、又儂儂舞者、身儂若環也。

石印→音鳥、美也、又儂儂舞者、其身儂若環也。

翫 @hun #efimbi (遊ぶ、楽しむ)

刻本→魂去声、戲也。

石印→魂去聲、戲也。

憊 @h'an #beliyen (愚かな)

刻本→與憊同、痴也。

石印→與憊同、癡也。

襯 @cen #camci (婦人が袍の下に着的肌膚)

刻本→音親、襯裏也。

石印→音親、襯裏也。

儷 @li #niyalmai gebu (人名)

刻本→音歷。

石印→音歷。

評 →『字彙』に、人名と載せる、満洲語はこれに依る。

儼 @kui #ambalinggū (威嚴のある、鷹揚な)

刻本→音傀、大貌、又美也、盛也、偉也。

石印→音瑰、大貌、又美也、盛也、偉也。

儻 @teng #beye darang sembi (体が長い様)

刻本→音騰、倭儻長貌。

石印→音騰、倭儻長貌。

儻 @hiyai #hao hio sembi (狭い様)

刻本→音械、俠也。

石印→音械、俠也。

評 →「刻本」「石印」ともに「俠」とするが『字彙』『正字通』は「狭」とする。
誤刻であろうが、『大廣益會玉篇』は「俠」と載せる。満洲語は『字彙』に依
っている。

億 @i #juwan tumen (億)

刻本→億本字。

石印→億本字。

僞 @wei #elhe akū (不安)

刻本→音葦、乞乞不安也。

石印→音葦、不安也。

僮 @lung #tetušahekū (未完の器)

刻本→音壘、僮侗未成器也。

石印→音壘、僮侗未成器也。

評 →「文煥堂」は「未成器」を「朱成器」とするも誤り。

懷 @wei #ambalingū (威嚴のある、鷹揚な)

刻本→同傀。

石印→同傀。

僮 @meng #hūlhi (曖昧模糊とした)

刻本→音瞢、僮僮昏也、又音孟、悶也。

石印→音瞢、僮僮昏也、又音孟、悶也。

儲 @cu #ilhi (副、序列)

刻本→音除、待也、副也、貯也、積聚以爲副貳也、太子副君故謂儲君。

石印→音除、待也、副也、貯也、積聚以爲副貳也、太子副君故謂儲君。

評 →「待」は「具」の意、「石印」が「待」とするのは誤り。

⑰ 僂 @giyan #cokto (高慢な、横柄な)

刻本→音蹇、僂僂傲也。

石印→音蹇、僂僂傲也。

顛 @ki #heihedeme haihadame (千鳥足で歩く)

刻本→同傲。

石印→同欺。

評 →「傲」は酔って舞う事、「石印」の「欺」にはその意味はない。

評 →満洲語 heihedeme haihadame も対語で「僂」の項に同じ。

臨 @lin #uju gidambi (頭を垂れる)

刻本→音吝、臨僂頭向前也。

石印→音吝、體俸頭向前也。

評 →「寶仁堂」は「吝」を「容」と誤刻している

歸 @gui #takūršambi (走り使いさせる、小用を言いつける)

刻本→音貴、使也。

石印→音貴、使也。

儻 @ts'ai #ishunde teksin akū (互いに調和が取れていない、不揃い)

刻本→音讒、儻五ママ不齊也、又儻儻貌惡、儻儻未整陣。

石印→音讒、儻互不齊也、又儻儻貌惡。

評 →「刻本」の「五」は誤り、『字彙』は「互」。

壞 @žang #oitobuha (困窮した)

刻本→囊平声、困也。

石印→壞平声、困也。

儻 @su #dartai (すぐに、しばし)

刻本→音超、與倏同、又青黑色。

石印→音超、與倏同、又青黑色。

評 →満洲語は「倏」の意味で解釈している。

儻 @hun #farfabumbi (錯乱させられる)

刻本→音昏、惛迷也。

石印→音昏、迷也。

評 →「刻本」「石印」『字彙』共に「儻」は「儻」の前に出る。

⑬ 儻 @nei #oncohondedumbi (仰向けに寝る)

刻本→内平声、儻也。

石印→音醜、與癩同。

評 →満洲語は「儻」の意味を訳している。

儻 @ce #gūnin dahambi (心から従う)

刻本→同徹、心服也。

石印→同徹、心服也。

儻 @fung #enduri niyalma (仙人)

刻本→音豊、儻儻仙人也。

石印→音豊、儻儻仙人也。

儻 @hi #tukiyembi (持ち上げる、肩に担ぐ)

刻本→音攜、提也、一曰離也。

石印→音攜、握也、一曰離也。

儻 @lei #oitobufi ten de isinaha (困窮の極みにいたる)

刻本→音類。

石印→音類、極困也。

評 →『字彙』には困極と載せる。

⑱儷 @li #juru acabumbi (対になる)

刻本→音例、伉儷偶也、音離、琴儷林木繁蔚之貌。

石印→音例、伉儷偶也、音離、琴儷林木繁蔚之貌。

儷 @li #juru acabumbi (対になる)

刻本→同上。

石印→與儷同。

儷 @lo #etuhun bime erdemu akū (剛健ではあるが徳が無い)

刻本→音羅、儷儷健而不徳。

石印→音羅、儷儷健而不徳。

儷 @siyan #enduri niyalma (仙人)

刻本→古仙字。

石印→古文仙字。

儷 @tiyan #fudasihūn (不合理な、逆の)

刻本→同儷。

石印→同儷。

儷 @no #samadambi (呪文で神降ろしする)

刻本→音那、軀疫也、又猗儷從順也。

石印→音那、軀疫也、又猗儷從順也。

評 →満洲語 samadambi は呪術を事とする saman (シャーマン) の動詞化したものであろう。音を表す「那」も現代漢語では「挪」(nuo) であらう。

儷 @dzuwan #isambi (集まる)

刻本→音纂、聚也。

石印→音纂、衆也。

評 →『字彙』は「聚」と載せる。

儷 @cung #ešeme forombi (斜めに向く、斜めに向きを変える)

刻本→音銃、斜儷。

石印→音銃、斜儷。

⑳儷 @tang #colhoroko (群を抜いた、卓越した)

刻本→湯上声、個儷卓異也、不羈也、又或然之辞、俗作倘非。

石印→湯上聲、個儷卓異也、不羈也、又或然之辞、俗作倘非。

儷 @yan #langtungga (大頭)

刻本→昂頭也、恭也、又好貌。

石印→嚴上聲、昂頭也、恭也、又好貌。

評 →『大清全書』は langtungga を「頭大尾小」と載せる、『御製清文鑑』は、uju
amba be langtungga sembi, jai yaya jaka dube ergi amba be inu langtungga
sembi (頭の大きい事を langtungga と言い、又先の方が大きい事をやはり
langtungga と言う) と載せる。満洲語はあまり適訳ではない。

② 儻 @ao #cokto (高慢な、横柄な)

刻本→音蠶、傲也。

石印→音蠶、傲也。

儻 @lui #heolen banuhūn (怠慢で横着)

刻本→音壘、懶懈貌、又病也。

石印→音壘、懶懈貌、又病也。

儻 @nang #elheken (落ち着いた)

刻本→囊去声、緩也。

石印→囊去声、緩也。

【几部 žin sere hergen -i hacin (žin・人と言う字の項)】

几 @žin #niyalma -i juwe bethe ilire arbun (人が兩足で立つ様子)

刻本→人字、在下之文象兩足、端立之形。

石印→音仁、人字、在下之文象兩足、端立之形。

兀 @u #alin ninggu de necin (山の上の平らな所)

刻本→音杙、高而上平、又兀兀不動貌、又則足曰兀。

石印→音杙、高而上平、又兀兀不動貌、又則足曰兀。

② 允 @yūn #akdun (誠実な、堅固な)

刻本→音隕、信也、肯也。

石印→音隕、信也、肯也。

評 →『字彙』には誠也、とも載せる。

先 @dzan #sifimbi (簪を挿す)

刻本→古簪字。

石印→古簪字。

元 @yuwan #amba (大)

刻本→音原、大也、始也、肯也。

石印→音原、大也、始也、肯也。

③ 尢 @cang #golmin (長い)

刻本→古文長字。

石印→古文長字。

兄 @hiong #ahūn (兄)

刻本→音胃、同胞先生者兄、荒也、荒大也、又音況、兄況也。

石印→音胃、同胞先生者兄、荒也、荒大也、又音況。

④充 @cung #jalu (一杯の、充足)

刻本→音沖、長也、高也、美也、満也、塞也、行也、備也、又實也、又充同。

石印→音沖、長也、高也、美也、満也、塞也、行也、備也、又實也。

兜 @gu #yaksime sibuha (閉め塞ぐ)

刻本→音瞽、癡蔽也。

石印→音瞽、壅蔽也。

兆 @jao #tangū tumen (百万)

刻本→音趙、周礼兆五帝於四郊兆瑩域也、又十億曰兆、又灼黽爲兆、又吉也、又京兆猶京師也。

石印→音趙、周礼兆五帝於四郊兆謂瑩域也、又十億曰兆、又灼黽爲兆、又吉也、又京兆猶京師也。

評 →「億」が十万であるから「兆」も百万となる。

兇 @hiong #ehe doksin (暴虐な)

刻本→音兇、惡暴也、又上声、擾而恐之也。

石印→音兇、惡暴也、又上声、擾而恐之也。

先 @siyan #nenden (先に、前に)

刻本→音仙、前進也、又早也、始也、故也、又音線、先之也、凡先事而爲曰先。

石印→音仙、前進也、又早也、始也、故也、又音線、先之也、凡先事而爲曰先。

光 @guwang #elden (光)

刻本→明也、暉也、華采也。

石印→明也、揮也、華采也。

評 →「石印」の「揮」は誤り。

兌 @dui #hūlašambi (交換する)

刻本→俗兌字。

石印→俗兌字。

⑤克 @ke #mutembi (する事が出来る、する能力がある)

刻本→音客、能也、勝也、又忌克、又掎克。

石印→音客、能也、勝也、又忌克、又掎克。

克 @cung #jalu (一杯の)

刻本→俗充字。

石印→俗充字。

兌 @dui #hūlašambi (交換する)

刻本→音隊、以物相交易也、又通也、又直也、又聚也、又悅也、又突也。

石印→音隊、以物相交易也、又通也、又直也、又聚也、又悅也、又突也。

免 @miyan #guwebumbi (ゆるす、赦免する)

刻本→眠上声、不相及也、又罷也、黜也、脱也、去也、釋也、縦也、又物新鮮者爲免。

石印→眠上聲、不相及也、又罷也、黜也、脱也、去也、釋也、縦也、又物新鮮者爲免。

兔 @tu #gūlmahūn (うさぎ)

刻本→俗兔字。

石印→俗兔字。

⑥兒 @el #jui (子供)

刻本→音而、嬰兒、又音倪。

石印→音而、嬰兒、又音倪。

𦉑ママ @jing #dacun (銳利)

刻本→音精、𦉑𦉑銳意也。

石印→音精、𦉑𦉑銳意也。

評 →「刻本」は「𦉑」を親字とするが、語彙の説明には「𦉑」を使っている。「満文本」「石印」は「𦉑」とする。『字彙』は、𦉑與𦉑別とし、「𦉑」を非として、「𦉑」を親字としてあげている。

兔 @tu #gūlmahūn (うさぎ)

刻本→土去声、兔口有缺、尻有九孔、舐雄毫而孕生子、從口吐出、世謂兔無雄非也、俗作兔非也。

石印→土去声、兔口有缺、尻有九孔、舐雄毫而孕生子、從口吐出、世謂兔無雄非也、俗作兔亦非也。

評 →「刻本」は音を「土去声」(文煥堂)「上去声」(寶仁堂)、「石印」は「吐去聲」とし、『字彙』は「他故切上去聲」とする。この切音では tu 去声であるので「上」は「土」の誤刻であろう。

兕 @ts'i #ihasi (動物のサイ)

刻本→詞上声、野牛一角、青色重千斤、皮堅厚、可制鐵。

石印→祀上聲、野牛一角、青色重千斤、皮堅厚、可制鐵。

兕 @ts'i #ihasi (動物のサイ)

刻本→同上。

石印→同上。

𦉑 @u #tuksicuke (危険な、恐ろしい)

刻本→與𦉑同、𦉑𦉑不安貌。

石印→與𦉑同、𦉑𦉑不安貌。

⑦ 羌 @kiyang #wargi bai monggo (西の地のモンゴル)

刻本→即羌。

石印→與羌同。

評 →漢語では羌つまり「羊」と「人」が組み合わさった漢字で、西北部の遊牧民
族五胡をさすが、満洲族にとってはモンゴル族と言う事になる。

兗 @yan #bai gebu (地名)

刻本→音衍、州名。

石印→音衍、州名。

⑧ 党 @dang #hoki guilembi (仲間、仲間を組む)

刻本→音黨。

石印→音黨、姓也、夏后氏之後。

兜 @deo #baita dendembi ママ (仕事を引き受ける)

刻本→叫平声、詎不静也、俗作兜非。

石印→叫平声、詎不静也、俗作兜非、兜鍪首鎧。

評 →「刻本」「石印」の音「叫」は「兜」の音としては不都合、『字彙』には、
「斗」と載せる、「斗」→「叫」→「叫」と念の言った誤りが推測される。
「刻本」「石印」2書とも誤刻誤写であろう。満洲語の baita dendembi もあ
まり相応しい訳ではないが、「兜」には現代漢語にも継承されている、請け負
う、引き受けるの意味があるので、間違いとは言えない。

兢 @sin #ibembi (前進する)

刻本→音莘、進也。

石印→音莘、進也。

兢 @jing #geleme elhe baharakū (恐れて平安を保てない)

刻本→音京、不自安貌、又恭貌、又兢兢成慎也、又音擎、堅疆也。

石印→音京、不自安貌、又恭貌、又兢兢成慎也、又音擎、堅疆也。

競 @jing #julgei arga jing sere hergen, geleme elhe baharakū (篆書
の jing・競と言う字、恐れて平安を保てない)

刻本→篆文競字。

石印→篆文競字。

【入部 zu sere hergen -i hacin (zu・入と言う字の項)】

入 @zu #dosi (中に、内に)

刻本→壬入声、出之對也、又進也、又納也。

石印→仕ママ入声、出之對也、又進也、又納也。

評 →「石印」の音「仕」は誤り、又「刻本」も3本共「王」に見える、今『字彙』

に従う。

入 @ci #ilan acabumbi (三合、三つ合わせる)

刻本→音集、三合也。

石印→音集、三合也。

評 →「刻本」「石印」音を「集」とするが、『字彙』は秦人切集とする。秦人切なら清代の音は満洲語で ci であってもおかしくない。

亼 @wang #ukambi (逃げる)

刻本→音忘、逃也、失不存也、去也、滅也。

石印→音忘、逃也、失不存也、去也、滅也。

評 →「刻本」の音「忘」は「忘」に同じ。

②从 @liyang #suhe hergen kimcihakū (suhe・解の字詳しく調べる)

刻本→音兩。

石印→音兩、二入也。

内 @nei #dolo (中、内)

刻本→餒去声、中也、裏也、入也、外之對也、房室曰内、又作古納字。

石印→餒去声、中也、裏也、入也、外之對也、房室曰内、又作古納字。

③全 @tung #uhe (同様、一致)

刻本→古文全字、今俗作同。

石印→古文全字、今俗作同。

尒 @el #uttu bihe ni sere gisun (爾あり、ni・你と言う言葉)

刻本→音尔、詞之必然也、亦作尔、言之助也。

石印→音爾、詞之必然也、亦作爾、言之助也。

④全 @ciowan #yongkiyambi (完全になる)

刻本→音泉、備也、具也、保也、完全也。

石印→音泉、備也、具也、保也、完全也。

全 @biyan #šusiha (鞭)

刻本→與鞭同、馬策也。

石印→與鞭同、馬策也。

⑤兩 @liyang #juwe (二)

刻本→古文兩字。

石印→古文兩字。

兩 @liyang #juwe (二)

刻本→二也、再也、又耦也、又匹也、又二十四銖爲兩、又銖也、一車兩輪故謂之兩。

石印→良上聲、二也、再也、又耦也、又匹也、又二十四銖爲兩、又銖也、一車兩輪故謂之兩。

兪 @ioi #mujiangga (然り)

刻本→音于、然也。

石印→音于、然也。

【八部 ba sere hergen - i hacin (ba・八と言う字の項)】

八 @ba #jakūn (八)

刻本→巴入声、小陰數也、又音必。

石印→巴入声、小陰數也、又音必。

公 @gung #siden (公共の)

刻本→音工、無私也、正也、共也、又爵名、五等之首曰公、三公官名也、又尊老皆曰公、又官曰公。

石印→音工、無私也、正也、共也、又爵名、五等之首曰公、三公官名也、又尊老皆曰公、又官曰公。

兮 @hi #gisun temgetu (言葉の符号、しるし)

刻本→音奚、語之有所稽也、又歌辭。

石印→音奚、語之有所稽也、又歌辭。

評 →「刻本」「石印」は「六」と「父」を先に載せる。

六 @lio #ningun (六)

刻本→音禄、老陰數也。

石印→音禄入聲、老陰數也。

父 @biyan #ilgambi (區別弁別する)

刻本→音別、分也、義與別同。

石印→音別、分也、義與別同。

④共 @gung #uheri (全体、共に)

刻本→與恭同、又音拱、向也、又同也、皆也、合也、公也、衆也。

石印→與恭同、又音拱、向也、又同也、皆也、合也、公也、衆也。

矣 @siyoo #injembī (笑う)

刻本→與笑同。

石印→與笑同。

⑤兵 @bing #cooha (兵)

刻本→音水ママ、戍器、蚩尤以金作兵、兵有五、一弓、二爰、三矛、四戈、五戟、又刀劍曰短兵、又音邦。

石印→音氷、戍器、蚩尤以金作兵、兵有五、一弓、二爰、三矛、四戈、五戟、又刀劍曰短兵、又音邦。

評 →「刻本」の音「水」は誤り、『字彙』も「氷」

⑥其 @ci #tere (それ、彼、彼女)

刻本→音奇、指物之辭、又音雜、語辭。

石印→音奇、指物之辭、又音雜、語辭。

具 @なし #en jen -i oho (既に備わっている)

刻本→音惧、備也、辨也、器具也。

石印→音惧、備也、辨也、器具也。

評 →通常つけられている満洲語の音がない。

典 @diyan #kooli (法例、典、記録)

刻本→顛上声、主也、經也、常也、法也。

石印→顛上聲、主也、經也、常也、法也。

⑦家 @sui #gūnin dahambi (意に従う)

刻本→音遂、從意也。

石印→音遂、從意也。

齒 @c'y #weihe (齒)

刻本→古文齒字。

石印→古文齒字。

冀 @gi #oki sembi (為したいと言う事)

刻本→俗冀字。

石印→俗冀字。

評 →「刻本」「石印」は次項の「兼」が先に出る。

兼 @jiyan #suwaliyame (一緒に、纏めて、共に)

刻本→檢平声、并也。

石印→檢平聲、并也、合也。

冀 @hi #erembi (望む、希望する)

刻本→音記、欲也、望也、與冀同、又北方州名。

石印→音記、欲也、望也、與冀同、又北方州名。

顛 @なし #te -i erin diyan sere hergen fabumbi tuhembi (今の
diyan・顛と言う字、顛倒する)

刻本→俗顛字、與顛字、與顛同。

石印→俗顛字、與顛字、與顛同。

顛 @diyan #tuhembi (顛倒する)

刻本→與顛。

石印→與顛。

【門部 giong sere hergen -i hacin (going・門と言う字の項)】

「寶仁堂」本は「日部」と誤刻している。

冂 @giong #šehun bigan (荒涼たる野原)

刻本→音肩、与垌同、空也。

石印→音肩、与垌同、空也。

冂 @mao #jursuleme dasimbi (重ねて覆う)

刻本→毛上声、重覆也、又音茂。

石印→毛上聲、重複也、又音茂。

②冂 @mao #juse -i mahala (子供たちの頭巾)

刻本→音冒、小兒及蛮夷頭衣。

石印→音冒、小兒及蠻夷頭衣。

冂 @zan #yadalingū (弱い)

刻本→音染、弱也、俗作冉非。

石印→音染、弱也、俗作冉非。

③冉 @zan #elheken -i yabumbi (ゆっくりと行く)

刻本→同上、冉冉行貌。

石印→同上、冉冉行貌。

冊 @dze #cese (冊子)

刻本→音折、符命諸侯者、以竹爲之、而聯以繩、又謀也、籌也、又立也、簡也。

石印→音折、符命諸侯者、以竹爲之、而聯以繩、又謀也、籌也、又立也、簡也。

回 @giong # ehun bigan (荒涼たる野原)

刻本→同冂。

石印→同垌。

冉 @dzai #jai (再)

刻本→俗再字。

石印→俗再字。

④⑤冊 @ts'e #cese (冊子)

刻本→與冊同。

石印→與冊同。

問 @giong #te -i arin going sere hergen obumbi suhe hergen ak (今の giong・回と言う字となる、suhe の字は無い)

刻本→俗問ママ字。

石印→音肩、光也。

評 →「刻本」の「俗問字」は誤り、「問」は「問」であろう。又満洲語の suhe hergen akū は具体的に何を指すか不明。

冂 @guwa #faitarame wambi (刻み殺す、凌遲の刑)

刻本→音寡、別人肉而置其骨。

石印→音寡、別人肉而置其骨。

杲 @jao #tubihe moo jira fisin (果物の木が繁茂している)

刻本→音瓜ママ、果木盛生朶。

石印→音瓜、果木盛生朶。

評 →「刻本」の音「瓜」は誤り、「石印」の「爪」が正しい。『字彙』も「爪」

冒 @mao #nungnemi (騒がす、害する)

刻本→俗冒字。

石印→音帽、俗冒字。

⑦冑 @jeo #saca (兜)

刻本→音宙、兜鍪。

石印→音宙、兜鍪也。

冒 @mao #julesi funtumbi (o:fontumbi、前に突入する)

刻本→音帽、覆也、涉也、犯也、貪也、又音墨、于也、貪也。

石印→音帽、覆也、犯也、又音墨、于也、貪也。

評 →「于」と言うのは、匈奴の単于の「于」である。

⑧菁 @geo #moo saksalibumbi (木を交互に積む)

刻本→音姤、交積材也、又數也、十稜曰菁、又中菁宮構結深密之處、別作構非。

石印→音姤、交積材也、又數也、千ママ稜曰菁、又中菁宮構結深密之處、別作構非。

評 →『正字通』は「菁」に數の意味を挙げている。『韻會』は十稜曰菁、と載せている、従って「刻本」の「十」が正しい。

冪 @mo #mahala (帽子、冠)

刻本→同幛字。

石印→同幛字。

評 →満洲語は mahala 誤訳。「幛」は物置の意。満洲語音の mo も『集韻』は、乃可切とするなら mo は間違い。

髡 @hioi #mahala gebu (冠の名)

刻本→音許、商冠名、又音虛。

石印→音許、商冠名、又音虛。

評 →満洲語の訳は「商冠名」を訳したものだが「商」は「殷商」の事。

⑨覓 @mao #acimbi (動く)

刻本→音冒、觸也、又音脈、突前也。

石印→音冒、觸也、又音墨ママ、突前也。

評 →「石印」の「又音墨」は間違いであろう。『字彙』も「脈」

晟 @ceng #buda asarara horho (飯を入れておく櫃、飯櫃)

刻本→音成、飯匱。

石印→音成、飯匱。

冕 @miyan #julgei ambasai hafasi mahala (古大臣役人の冠)

刻本→音勉、黄帝初作、冕前有垂旒、示不邪視也、旁有黻纁、示不聽讒也、後仰前俯、主於恭也。

石印→音勉、黄帝初作、冕前有垂旒、示不邪視也、旁有黻纁、示不聽讒也、後仰前俯、主於恭也。

𦉳 @man #necin (平らな、平和な)

刻本→音蛮、平也。

石印→音蠻、平也。

⑩ 卷 @kiowan #jusai mahala (子供たちの頭巾)

刻本→音圈、小幘也、小兒帽。

石印→音圈、小幘也、小兒帽。

冪 @kia #julgei ursei mahala (古人の頭巾)

刻本→同恰。

石印→同恰。

冕 @yuwan #muribumbi (罪をかぶせられる)

刻本→與冕同、冠冕字不同。

石印→音駕、冠冕字不同。

評 →「刻本」「石印」の音が「冕」と「駕」不祥の字を避けたのかもしれない。

⑪ 𦉳 @ši #mahū (皮製の顔覆い)

刻本→音試、𦉳面衣。

石印→音試、𦉳面衣。

𦉳 @ioi #dere uhure mahū (顔を包む顔覆い)

刻本→音愈。

石印→音愈。

𦉳 @li #šanyan mahū (白い顔覆い)

刻本→音離、接離白帽。

石印→音離、接離白帽也。

【一 部 mi sere hergen -i hacin (mi・一と 言う字の項)】

一 @mi #dasimbi (蓋をする、門を閉ざす)

刻本→音覓、覆也、今俗作幕。

石印→音覓、覆也、今俗作幕。

宥 @io #kenehunjembi (疑う、遲疑する)

刻本→音由、豫不定也、又音淫、尢尢行貌。

石印→音由、豫不定也、又音淫、尢尢行貌。

評 →満洲語の *kenehunjembi* は *talihūnjambi* を伴い、遲疑不定を表す。

冗 @zung #largin (煩多な、ごたごたする)

刻本→俗尢字。

石印→俗尢字。

評 →「尢」「冗」同じ意味を持つが、満洲語は訳語を替えている。*largin* の方が相応しい。

𠂔 @di #dosimbi (入る、進)

刻本→音的、入也。

石印→音的、入也。

𠂔 @tiyan #abka (天、空)

刻本→古文天字。

石印→古文天字。

⑥同 @tung #muhaliyan (円形の珠、圓形の物を指す)

刻本→音同、圓蓋。

石印→音同、圓蓋。

采 @mi #šumin (深い、深さ)

刻本→音迷、深也、冒也。

石印→音迷、深也、冒也。

評 →『文煥堂』は音を「迹」とするも誤刻。

冠 @guwan #ambasai hafasai eture mahala (大臣役人達が付ける冠)

刻本→音官、冕弁総名、元服也、又音慣、男子二十而冠、爲衆之首曰冠。

石印→音官、冕弁総名、元服也、又音慣、男子二十而冠、爲衆之首曰冠。

⑧冢 @meng #buheliyembi (o:buhelimbi、覆う、かぶせる)

刻本→音蒙、覆也、冒也。

石印→音蒙、覆也、冒也。

評 →満洲語は *buhelimbi* としか読めないが、字形の *j* を *y* の欠けと見れば *buheliyembi* と読めなくもない。

冢 @jung #eifu (墳墓)

刻本→音腫、大也、又山頂曰冢、又高墳也、俗作塚非也、天官冢宰。

石印→音腫、大也、又山頂曰冢、又高天ママ墳也、俗作塚非也、天官冢宰。

評 →「石印」の「天」は衍字であろう。

取 @hioi #iktambi (山積する)

刻本→徐去声、稽ママ也、古作聚、物之聚、今作最誤。

石印→痘去声、積也、古作聚、物之聚、今作最誤。

評 → 『字彙』「寶仁堂」「石印」は皆「積」、「文煥堂」の「稽」は誤刻である。

冤 @yuwan #muribumbi (濡れ衣を着せる、枉げさせる)

刻本→音淵、屈也、枉也、曲也、俗作冤非。

石印→音淵、屈也、枉也、曲也、俗作冤非。

冥 @ming #butui ba (暗い所、冥界)

刻本→音明、昏也、暗也、幽也、又室也、奥窆之間曰冥、別作瞑非。

石印→音明、昏也、暗也、幽也、又室也、奥窆之間曰冥、別作瞑非。

冠 @guwan #kooli durun (法規範)

刻本→與冠同、冠有法制也、釋典。

石印→與冠同、冠有法制也、見釋典。

⑨思 @sy #hala (姓)

刻本→音思。

石印→音思、姓也。

評 → 「石印」は『字彙』により補充。

富 @fu #bayan (富、金持ち)

刻本→即富字。

石印→即富字。

⑩託 @du #hisalara hūntahan (o: hotahan、酒を注ぐ爵)

刻本→音如ママ、祭奠酒爵也、又音咤、今用吒非。

石印→音妬、祭奠酒爵也、又音咤、今用吒非。

評 → 「刻本」の音は「如」(四端堂、文煥堂)「妬」(寶仁堂)と皆誤り、『字彙』は「妬」で「石印」が正しい。

⑪宣 @siowan #selgiyembi (申し立てる、宣告する)

刻本→注作宣。

石印→宣字之譌、古文宣字。

冪 @mi #mahala be ungke (冠を伏せる)

刻本→音覓、覆也、以巾覆物也。

石印→音覓、覆也、以巾覆物也。

顛 @diyan #den goro (高遠)

刻本→音顛、高遠之貌。

石印→音顛、高遠之貌。

【彳部 bing sere hergen -i hacin (bing・と言う字の項)】

彳 @bing #juhe (氷)

刻本→

石印→

汀 @ting #juhe arbun (凍った様)

刻本→音廳、氷貌。

石印→音廳、氷貌

冬 @dung #tuweri (冬)

刻本→音東、四時盡也、冬藏也、終也。

石印→音東、四時盡也、冬藏也、終也。

④氷 @bing #juhe (氷)

刻本→音兵、窮谷陰氣所聚、不洩則結爲氷、積氷曰凌、氷壯曰凍、氷流曰漸、氷解曰泮、又箭箒蓋曰冰、又叶音用ママ。

石印→音兵、窮谷陰氣所聚、不洩則結爲氷、積氷曰凌、氷壯曰凍、氷流曰漸、氷解曰泮、又箭箒蓋曰冰、又叶音用邦。

評 →『字彙』は「邦」で「用」ではない。「刻本」も「寶仁堂」「四端堂」は「邦」とする。「文煥堂」は誤刻。

互 @hū #šahūrun de gecehe (o: šahūron、寒くて氷結する)

刻本→音護、寒凝也、互閉也、謂堅固之陰、閉塞不通、陽處。

石印→音護、寒凝也、互閉也、謂堅固之陰、閉塞不通、陽也。

冱 @h # ah run de gecehe (寒くて氷結する)

刻本→同上。

石印→同上。

評 →「寶仁堂」はこの字を落としている。満洲語の šahūrun は正しく綴られている。

冲 @cung #gasha kalambi (鳥が舞い上がる)

刻本→與冲同、又幼少也、又與狎同、又鑿氷声、垂飾貌。

石印→與冲同、又幼少也、又與狎同、又鑿氷聲、垂飾貌。

評 →満洲語の語義は『字彙』「刻本」「石印」にはない、独自の見解。

决 @giowe #sendelembi (決壊する、掘り開く)

刻本→俗決字。

石印→俗決字。

⑤况 @kuwang #tere anggala (そのみならず、その上)

刻本→即況字。

石印→即況字。

冶 @ye #šeringgiyembi (鉄などを練る、焼きを入れる)

刻本→音野、鎔也、銷也、鑄也、蚩尤造九冶、又鑄匠謂之冶人、又裝飾也、又曰妖

冶女態貌。

石印→音野、鎔也、銷也、鑄也、蚩尤造九冶、又鑄匠謂之冶人、又裝飾也、又曰妖冶女態貌。

冷 @leng #beikuwen (寒さ)

刻本→稜上声、清甚也、寒也、又音陵、別作冷非、冷乃水名。

石印→稜上聲、清甚也、寒也、又音陵、別作冷非、冷乃水名。

浞 @fu #šahūrun (寒い、冷たい)

刻本→音拂、寒也。

石印→音拂、寒也。

泮 @bang #juhe wengke (氷が解ける)

刻本→音判、氷釋。

石印→音判、氷釋也。

評 →満洲語の音は誤りであるが、満洲語に依る漢語音表記では語尾の n と ng を混同している場合がある。

沍 @bing #gasha pur seme deyembi (鳥がぱっと飛ぶ)

刻本→音柄、沍沍飛音。

石印→音柄、飛聲。

洞 @giong #šahurun (寒い、冷たい)

刻本→肩上声、寒也。

石印→肩上聲、寒也。

⑥活 @h'o #juhe (氷)

刻本→音活、氷也。

石印→音活、氷也。

洞 @tung #šahūrun (寒い、冷たい)

刻本→音洞、冷也。

石印→音洞、冷也。

洛 @h'e #juhe (氷)

刻本→音澗、洛澤水ママ也。

石印→音澗、洛澤氷也。

評 →「刻本」はすべて「水」とするが誤り。『字彙』も「凍」とする。「石印」満洲語が正しい。

洗 @šeng #šahūrusaka (寒いばかり)

刻本→升上聲、克ママ洗寒貌。

石印→升上聲、澆洗寒貌。

評 →『字彙』は「澆」に作る。満洲語の šahūrusaka šahūrun (寒さ) に saka

(助詞、～ばかり) が付いたもの。

凜 @yen #singgiyen (小寒い、日陰で涼しい)

刻本→音因、寒貌。

石印→音因、寒貌。

洪 @kiong #gecehe (凍った、結氷した)

刻本→窮上声、凝也。

石印→共上聲、凝也。

評 →「石印」の音「共」は疑問、「窮」の中古音はghüüj (王力)、「共」はkiwoj (王力)で、相違する。

侈 @i #juhe isara duka gebu (氷室の名)

刻本→同移。

石印→同移。

冽 @liye #cik seme beikuwen (凄烈な寒さ)

刻本→音列、寒氣嚴也。

石印→音列、寒氣嚴也。

洸 @sioi #bolgo (清潔な、清浄な)

刻本→兄入声、浄也。

石印→兄入聲、浄也。

評 →満洲語の音は siong ないしは、siung でなければ間違い。「血」の xue4 からの誤解ではないか。

⑦ 凍 @kio #gala gecefi fakjin akū (手が凍って支えられない)

刻本→音求、溲凍手足凍貌。

石印→音求、溲凍手足凍貌。

浸 @cin #šahūrusaka (寒いだけ)

刻本→音侵、冷也。

石印→音侵、冷也。

凍 @hiye #juhenehe (氷が張った)

刻本→音協、凍凍冰凍。

石印→音協、凍凍冰凍。

涇 @king #šahūrun (寒い)

刻本→擊上声、寒也。

石印→擊上聲、寒也。

澆 @niyan #hatan nure (強い酒)

刻本→撚上声、典澆惡酒貌。

石印→妍上聲、澆澆惡酒貌。

評 → 音の漢字が『字彙』「四端堂」「寶仁堂」は「撚」「石印」は「妍」「文煥堂」は「捻」

凜 @king #singgikeyen (小寒い)

刻本→撃上声、凜洗寒貌。

石印→極上聲、凜洗寒貌。

評 → 「石印」は 3 本共音を「極」としているのは間違い。「刻本」の「撃」が正しい。『字彙』も「撃」

⑧ 澗 @tiyan #hatan nure (強い酒)

刻本→天上声、澗忍。

石印→天上聲、澗忍。

凄 @ki #šahūrusaka (寒いだけ)

刻本→音妻、寒也。

石印→音妻、寒也。

涸 @gu #yaksime sibufi gecehe (閉じ塞ぎ凍らせる)

刻本→音故、寒凝閉也。

石印→音固、寒凝閉也。

涑 @lu #aga gecefi juhe oho (o:aha、雨が凍って氷となる)

刻本→音録、凝雨也、又寒也。

石印→音録、凝雨也、又寒也。

評 → 満洲語の aha は奴僕をさすが、満洲語では語中の h と g が時に入れ替わる事がある、ここでは aha は aga (雨) であろう。92P「儻」の項参照。

泐 @hing #šahūrun (寒い)

刻本→音倅、泐冷寒也。

石印→音幸、泐冷寒也。

准 @jun #koolii durun (法規)

刻本→俗準字。

石印→俗準字。

涵 @h'an #šahūrun (寒い)

刻本→同函。

石印→音含、寒也。

凜 @sung #gecembi (凍る、氷結する)

刻本→音嵩、凍也。

石印→音嵩、凍也。

淨 @ceng #beikuwen (寒さ)

刻本→音撐、冷也。

石印→音撐、冷也。

涼 @liyang #serguyen (涼しい、涼快)

刻本→音良、輕寒爲涼。

石印→音良、輕寒爲涼。

清 @cing #serguwešemi (涼む、涼をとる)

刻本→青去声、寒也。

石印→青去声、寒也。

淬 @dzui #šahūrun (寒い)

刻本→音醉、寒也、又音翠、義同。

石印→音醉、寒也、又音翠、義同。

凋 @tiyoo #mooi abdaha sihambi (木の葉が落ちる)

刻本→音彫、與雕同、半傷也。

石印→音彫、與雕同、半傷也。

凌 @ling #carcinahabi (凝結した、凍った)

刻本→音靈、冰也、一日冰室、凌人掌冰。

石印→音靈、冰也、一日冰室、凌人掌冰。

評 →満洲語 carcinahabi は動詞 carcinambi (凍る、凝結する) の語幹に habi 過去の出来事を強調的に示す助詞が付いたもの。

凍 @dung #gecembi (凍る)

刻本→東去声、孟冬也、始凍。

石印→東去声、孟冬地_マ、始凍。

評 →「文煥堂」は音を「凍」とし、「石印」の「地」は「也」の間違い。

⑨減 @giyan #ekiyehun (不足した、欠乏した)

刻本→俗減字。

石印→俗減字。

涪 @ping #pur seme deyembi (ぱつと飛ぶ)

刻本→音聘、飛也。

石印→音聘、飛聲。

馮 @ping #temgetu (証し、証拠)

刻本→與馮同、據也。

石印→與馮同、據也。

評 →「文煥堂」は「據」を「瓊」としている。

湮 @yen #singgiyen (o:singkiyen、小寒い、日陰で涼しい)

刻本→同湮。

石印→同湮。

- 測 @ts'e #juhe hujurembi (氷碎が擦れあつて解ける)
刻本→與漸同。
石印→與漸同。
- 滴 @nan #juhe (氷)
刻本→音南、氷也。
石印→音南、氷也。
- 凜 @diye #juhenehe (氷が張った)
刻本→音牒、凜凜冰凍也。
石印→音牒、凜凜冰凍也。
- ⑩ 凜 @i #gecen nimanggi ar seme eyen (霜や雪で霏々と真っ白になる)
刻本→音夷、凜凜霜雪白貌。
石印→音夷、凜凜霜雪白貌。
- 謝 @siye #moo abdaha sigambi (o:sihombi 木の葉が散る)
刻本→音謝、凋也。
石印→音謝、凋也。
評 →満洲語 sihombi は通常 sigambi と出る。129P「凜」の項参照。
- 凜 @li #cik seme beikuwen (不意の寒さ)
刻本→音栗、凜冽寒貌。
石印→音栗、凜冽寒貌。
評 →「文煥堂」「栗」を「栗」と誤刻している。
- 臧 @dzang #sain (良い、善)
刻本→俗臧字。
石印→俗臧字。
- 滄 @cuwang #singkeyen (小寒い、ひんやりとする)
刻本→音創、寒貌。
石印→音創、寒貌。
- 陵 @ling #carcinahabi (凝結した、凍った)
刻本→即凌字。
石印→即陵_マ字。
評 →「石印」は3本共「凌」を「陵」に作るのは誤写。『字彙』は「凌」に作る。
- 凜 @liyan #nekeliyan juhe (薄い氷)
刻本→音斂、薄氷。
石印→音斂、薄氷。
- 涵 @h'an #šahūrun (寒い、冷たい)

刻本→音含、寒也。

石印→音含、寒也。

⑪ 滌 @i #juhe asarara booi dukai gebu (氷室門の名)

刻本→音移、氷室門名。

石印→音移、氷室門名。

涇 @hiowan # ah run beikuwen (冷たく寒い)

刻本→音玄、冷也。

石印→音玄、冷也。

評 →「文煥堂」は「冷」を「治」と誤刻。

減 @se #šahūrun (寒い、冷たい)

刻本→音索、寒也。

石印→音撼、寒也。

評 →「石印」の3本は音を「撼」するが、『字彙』は「索」、「索・suo3」と「撼・han4」で方言音も一致しない。満洲語の se も「索」の省略音であろう。

漼 @dzui #gecen nimanggi šar seme iktambi (霜や雪が白く積もる)

刻本→與漼同、霜雪積聚貌。

石印→與漼同、霜雪積聚貌。

漚 @lio #gala bethe gecefi simen gocimbuha (o:simun、手足凍えて精神も衰弱させられる)

刻本→音流、漚球手足凍貌。

石印→音流、漚球手足凍貌。

凜 @šuwang #singkeyen (涼しい、ひんやりと冷たい)

刻本→音爽、冷貌。

石印→音爽、冷貌。

凜 @bi #beikuwen (寒さ)

刻本→音畢、寒氣、風寒也。

石印→音畢、風寒也。

評 →『字彙』に「寒氣」は載せていない。

凜 @šen #singkeyen (涼しい、ひんやりと冷たい)

刻本→森去声、寒貌、又音慘、義同。

石印→森去聲、寒貌、又音慘、義同。

⑫ 漸 @sy #juhe hujurembi (氷碎が擦れあつて解ける)

刻本→音斯、氷解而流也、又音西、又音四、義同。

石印→音斯、氷解而流也、又音西、又音四、義同。

潔 @giye #bolgo (清い、清潔な)

刻本→此俗字也、从水者爲正。

石印→公節珂音、潔俗字潔字。

⑬濃 @nung #juhe orome gecehebi (氷が凝結し凍てついている)

刻本→音濃去声、凍濃。

石印→音農去聲、凍濃寒貌。

滯 @ting #juhenere arbun (氷が張った様子)

刻本→音挺、冰貌也。

石印→音挺、冰貌也。

滯 @kiyang #gecefi gocimbuha (凍凝)

刻本→音姜、凍凝。

石印→音姜、凍凝。

澤 @do #juhe (氷)

刻本→音鐸、洛澤冰也、又音宅。

石印→音鐸、洛澤冰也、又音宅。

凜 @gin # ah rusaka (o:sahūrusaka、寒いだけ)

刻本→琴上声、寒貌、又音禁、義同。

石印→琴上声、寒貌、又音禁、義同。

凜 @lin #cik seme beikuwen (突然の寒さ)

刻本→音廩、寒也。

石印→音廩、寒也。

⑭凝 @ning #juhe teng seme jafaha (氷が固く凍る)

刻本→音寧、冰堅也、成也、結也、停也、又定也。

石印→音寧、冰堅也、成也、結也、停也、又定也。

⑮凜 @jy #surgecemi (戦慄する、身震いする)

刻本→音質、身寒動貌。

石印→音質、身寒動貌。

瀨 @lai # ah run serguwen (寒涼)

刻本→音頼、寒也。

石印→音頼、寒也。

濼 @i #juhe (氷)

刻本→音利、冰也。

石印→音利、冰也。

評 →『字彙』も音を「利」とする、満洲語が i とするは簡略に過ぎる。

瀝 @li #šahūrun (寒い)

刻本→音歴、寒也。

石印→音歴、寒也。

灺 @he #dabsun bujumbi (塩を煮る)

刻本→音鶴、煎鹽也。

石印→音鶴、煎鹽也。

⑱ 澗 @giyoo #juhe hecehabi (o: hicahabi 氷が解けている)

刻本→音醮、冰裂。

石印→音醮、冰裂。

灑 @yan #cik seme beikuwen (突然の寒さ)

刻本→音嚴、凝寒貌、又音驗、義同。

石印→音嚴、凝寒貌、又音驗、義同。

【几部 *ji sere hergen -i hacin* (ji・几と言う字の項)】

几 @ji #nikeku mulan dere -i jergi (椅子卓の類)

刻本→音己、古人凭坐者、又案也、又几几安重貌。

石印→音己、古人凭坐者、又案也、又几几安重貌。

几 @u #gasha -i asha debsimbi (鳥がしきりに羽ばたく)

刻本→音殊、鳥之短羽飛几几也。

石印→音殊、鳥之短羽飛几几也。

凡 @fan #yaya (すべての、およそ)

刻本→音帆、撮括也、又皆也、大槩也、又庸常也、又叶音、焚也。

石印→音帆、撮括也、又皆也、大槩也、又庸常也、又叶音、焚也。

⑳ 尻 @gioi #boo tembi (家に住む、家に居る)

刻本→即居字、與尻字不同。

石印→即居字、與尻字不同。

夙 @jen #teni ashan banjifi deyembi (どうにか翼を生やし飛ぶ)

刻本→音軫、新羽而飛、又音震、義同。

石印→音軫、新羽而飛、又音震、義同。

処 @cu #ba (場所、所)

刻本→古處字、止也。

石印→古處字、止也。

㉑ 風 @kioi #edun (風)

刻本→音屈、風也。

石印→音屈、風也。

㉒ 凭 @ping #dere nikembi (卓に寄り掛かる)

刻本→音平、隱几、又倚也。

石印→音平、隠几、又倚也。

𢀛 @gi #šadafi ten kai (疲労の極みである)

刻本→音極、𢀛疲極也、倦也。

石印→音極、𢀛疲極也。

評 →『字彙』には「倦也」を載せている。

⑦𢀛 @gi #šadaha (疲れた)

刻本→同上。

石印→同上。

⑧風 @fung #akū oho niyalma -i boode aisilame bumbi (o'bombi、亡く
なった人の家に支援し渡す物)

刻本→同贈。

石印→古贈字。

評 →『禮記』少儀に、則曰納甸於有司。贈馬入廟門。賻馬。與其幣。と載せる。
喪儀を助けるために車馬を送る事を謂う。

⑨風 @h wang #garudai (鳳凰)

刻本→音黄、靈鳥、雄曰鳳、雌曰凰。

石印→音黄、靈鳥、雄曰鳳、雌曰凰。

⑩凱 @g'ai #sebjelembi (悦ぶ、楽しむ)

刻本→與愷同、又南風謂之凱風。

石印→與愷同、又南風謂之凱風。

𢀛 @eng #etembi (勝つ)

刻本→古文勝字。

石印→古文勝字。

𢀛 @deng #mulan (腰掛)

刻本→登去声、牀凳。

石印→登去声、牀凳。

評 →『字彙』「刻本」「石印」共に次項に「𢀛」があるが、「滿文本」では省略され
ている。

【𠂔部 g'an sere hergen -i hacin (g'an・𠂔と言う字の項)】

𠂔 @g'an #angga juwambi (口を開く)



刻本→音坎、張口也、又音勘、義同。

石印→音坎、張口也、又音勘、義同。

𠂔 @kioi #buda tamara polori (飯を盛る柳の器)

刻本→音區、人盧飯器、以柳爲之。

石印→音區、人盧飯器、以柳爲之。

評 →『字彙』の親字は「」、石印は「」となっている。今「刻本」に従う。

凶 @hiong #oshon (暴戾、小の月)

刻本→音胛、吉之反也、又與兇暴之兇同用。

石印→音胛、吉之反也、又與兇暴之兇同

冫 @o #alin -i gebu (山の名)

刻本→音殿、山名、在桐城縣。

石印→音殿、山名、在桐城縣。

③ ㄨ @kui #boihon dalgan (o:boigon、土塊)

刻本→魁去声、璞ママ也、俗作塊非。

石印→魁去聲、璞也、俗作塊非。

評 →「刻本」の「文煥堂」は「璞」、「寶仁堂」は「樸」、「四端堂」は「僕」と皆誤刻している。『字彙』は「璞」、「璞」は土塊を表す。

出 @jy #cuse mooi tetun (料理人達の木の道具)

刻本→音支、竹器、俗用箇非。

石印→古文箇字、又竹器象形。

評 →満洲語の解釈は「竹」を「木」としているのは間違い。

凸 @te #nuhu (高所、丘)

刻本→音突、凸出貌、高起也。

石印→音突、凸出貌、高起也。

凹 @ao #nuhaliyan (凹んだ地、)

刻本→音拗、凸之對也。

石印→音拗、凸之對也。

出 @cu #tucimbi (出る、太陽が昇る)

刻本→音黠、入之對也、又退也、見也、叶也、寫也、斥也、又生也、凡物自出則入聲、使之出、則去聲。

石印→音黠、入之對也、又退也、見也、叶也、寫也、斥也、又生也、凡物自出則入聲、使之出、則去聲。

④ ㄨ @io #turgun (原因理由)

刻本→古由字。

石印→古箇字。

⑥ 函 @h'an #baktambi (納まる、入る)

刻本→音含、容也、包也、又甲也、函谷関名、又函書。

石印→音含、容也、包也、又甲也、函谷関名、又函書。

⑦ 函 @h'an #baktambi (納まる、入る)

刻本→俗函字。

石印→俗函字。

圍 @tu #nirugan (絵、図)

刻本→同圖。

石印→同圖。

函 @ca #belemimbi (モミを碎いて脱穀する)

刻本→音挿、與函同、舂去穀皮也。

石印→音挿、與函同、舂去穀皮也。

【刀部 deo sere hergen -i hacin (deo・刀と言う字の項)】

刀 @deo #loho (腰刀)

刻本→倒平声、兵也、刀到也、以斬伐到其所也、又錢也、各錢爲刀者、以其利丁民也、又小船曰刀。

石印→到平聲、兵也、刀到也、以斬伐到其所也、又錢也、各錢爲刀者、以其利丁民也、又小船曰刀。

刁 @diyoo #laihū (厚かましい人、面の皮の厚い人)

刻本→音貂、古者軍有刁斗、以銅作鑊、受一斗晝炊飯、夜擊持行、又刁刁欲止微動貌。

石印→音貂、古者軍有刁斗、以銅作鑊、受一斗晝炊飯、夜擊持行、又刁刁欲止微動貌。

評 →「刻本」「石印」共に『字彙』の記載から離れている。一部『正字通』に依っているが、「以銅作鑊、受一斗晝炊飯、夜擊持行」は『説文通訓定聲』に依っている。

リ @deo #loho (腰刀)

刻本→刀在旁之文。

石印→刀隸作り。

刃 @zen #jeyen (刀の刃)

刻本→忍去声、鋒刃、又叶音、又作刃非

石印→忍去聲、鋒刃、又叶音、又作刃非

分 @fen #dendembi (分ける、区分する)

刻本→音芬、賦也、施也、與也、又別也、判也、裂也、千三百黍爲一分、又十釐爲一分、又去声、名文也、又分劑眼量也。

石印→音芬、賦也、施也、與也、又別也、判也、裂也、一黍廣爲一分、又十釐爲一分、又去声、名文也、又分劑眼量也。

評 →漢文本では「分」は2画の「刃」の後に置かれている。「刻本」の尺度の単位「千三百黍爲一分」は『字彙』『正字通』には載せていない。何に依ったか不明。

- ② 卩 @cuwang #feye (傷、傷口)
刻本→音創、與創同、傷也。
石印→音創、與創同、傷也。
- 刖 @diyoo #lakcambi (中斷する、断つ、絶える)
刻本→音貂、斷也。
石印→音貂、斷也。
- 𠂔 @hi #gese sasa (類似している)
刻本→音似、類也、象也。
石印→音似、類也、象也。
- 𠂔 @el #giyambi (削る、削り取る)
刻本→音二、削也。
石印→音二、削也。
- 𠂔 @gio #jangkū (太刀)
刻本→音鳩、大也。
石印→音糾、大刀也。
評 →『字彙』は、「音鳩、大刀也」と載せる。
- 切 @ciye #faitambi (切断する、裁断する)
刻本→音竊、割也、刻也、近也、迫也、急也、又音砌、衆也、又一切大凡也。
石印→音竊、割也、刻也、近也、迫也、急也、又音砌、衆也、又一切大凡也。
- 刈 @i #orho hadumbi (草を刈る)
刻本→音藝、割也。
石印→音藝、割也。
- 𠂔 @bo #ilembi,h wakiyambi (麻皮を剥ぐ、皮を剥ぐ)
刻本→同剥。
石印→同剥。
- ③ 刳 @gi #niombi (骨の髓まで凍る)
刻本→同刳。
石印→同刳。
- 𠂔 @gung # hadumbi (刈る)
刻本→音公、刈也。
石印→音公、刈也。
- 刊 @g'an #giyambi (削る、削り取る)
刻本→看平声、削也、剝也、槎木也、又叶音索、又不刊之書、言不可削除也、今俗誤作刻梓之用。
石印→音平聲、削也、剝也、又不刊之書、言不可削除也、今俗誤作刻梓之用。

- 刊 @ciyan #faitambi (断ち切る、切断する)
刻本→音茜、切也、俗爲雕刊字誤。
石印→茜、切也、俗爲雕刊字誤。
- 刳 @di #meilembi (裂く、割る)
刻本→音的、断也。
石印→音的、断也。
- 𠵼 @ni #garmimbi (細かく切り裂く)
刻本→音逆、断也。
石印→音逆、断也。
- 𠵽 @kun #moo sacimbi (木を切る)
刻本→音坤、砍木枝也。
石印→音坤、砍木枝也。
- 𠵾 @ts'un #kemnembī (節約する、量る)
刻本→村上声、度也、又割也、截也、切也。
石印→村上聲、度也、又割也、截也、切也。
- ④ 刳 @wen #beye faitame wambi (身を切断し殺す)
刻本→汶上聲、割也、断也。
石印→汶上聲、割也、断也。
評 →「文煥堂」は音を「汝」と誤刻している。
- 𠵿 @c'y #jaka faitambi (物を切る、物を削る)
刻本→同刺。
石印→同刺。
- 𠶀 @gi #šombi (剥ぎ取る、毛をむく、削る)
刻本→音雞、割也、刺也、毛牲曰刳羽、生日岬。
石印→音機、割也、刺也、毛牲曰刳羽、生日岬。
- 𠶁 @geo #sele gohon (鉄鉤)
刻本→同刳。
石印→同刳。
- 𠶂 @ an #hadumbi (刈る)
刻本→衫去声、刈也。
石印→衫去聲、刈也。
- 𠶃 @ a #secimbi (切開する、割き開く)
刻本→沙去声、刺也。
石印→沙去聲、刺也。
- 𠶄 @dan #faitambi (切断する、削る)

刻本→丹上声、割也。

石印→丹上聲、割也。

刑 @hing #wambi (殺す、誅す)

刻本→音形、戮也、剄也、又成也、周伯温曰开平也、用貴會意。

石印→音形、戮也、剄也、又成也、周伯温曰开平也、用貴會意。

荆 @hing #erun koro (刑罰)

刻本→音形、罰擧也、法也。

石印→音刑、罰擧也、法也。

刈 @diyoo #hadufun (鎌)

刻本→音刁、以取禾穗。

石印→音刁、以取木穗。

評 →「石印」の「木」は「禾」の間違い。『字彙』も「禾穗」とする。

剄 @pin #adabume sirambi (雨雪などが交々降り続く)

刻本→音績、紛也、又音分、質雜半。

石印→音績、紛也、又音分、質雜半。

切 @kiya #boji bithe (手形証書)

刻本→音恰、巧切也、本音器、約也、从刀丰声象、刀刻畫竹木、以記事者也。

石印→音恰、巧也、切或作判、又音器、約也、从刀丰声象、刀刻畫竹木、以記事者也。

刻 @gi #uhūkū (細工刀)

刻本→同劊。

石印→同劊。

划 @hūwa #melbiku (船の櫂)

刻本→音華、划撥進船。

石印→音華、划撥進船。

評 →満洲語 melbiku は『御製清文鑑』に、fesin foholon juwe gala de jafari melbirenge be melbiku sembi (柄が短く両手で使って漕ぐ物を melbiku と言う)と載せる。

剄 @ya #hariku (こて、焼きごて)

刻本→同研。

石印→同研。

剄 @wan #uhūmbi (抉り取る)

刻本→玩平声、剄也、齊也、圓削也、剄角也、又叶音渢ママ。

石印→玩平ママ、剄也、齊也、圓削也、剄角也、又叶音元。

評 →「刻本」の「渢」は「涓」の誤刻であろう、『字彙』は「涓」とする。又「石

印」の「平」は「平聲」

剗 @can #hishakū (o:hishaku、刷毛)

刻本→同鏟。

石印→同鏟。

評 →漢語「鏟」は木を削る鉄器もしくは十能、シャベルの類で刷毛の意味はない。
ただ動詞の *hishambi* には、擦る、研ぐの意味がある。

剗 @giowen #niyombi (骨についた肉を削り取る)

刻本→音決、剔也。

石印→音決、剔也。

剗 @jung #giyambi (削り取る)

刻本→音中、利削物也。

石印→音中、利削物也。

剗 @lii #faitambi (切断する、断ち切る)

刻本→音離、割也。

石印→音離、姓也。

評 →『字彙』には「割」「姓」の両方を載せている。

剗 @yuwei #juwe bethe be jome lakcambi (2本の足を切断する)

刻本→音月、絶也、断足也、又音兀、義同、又音刮。

石印→音月、絶也、断足也、又音兀、義同。

剗 @liye #nikcambi (o:ikcambi、碎ける)

刻本→音劣、割也、分解也、別作裂非也、又行次也、位序也、布也、陳也。

石印→音劣、割也、分解也、別作裂非也、又行次也、位序也、布也、陳也。

評 →*nikcambi* は『御製清文鑑』に、*yaya jaka meijere be, nkcambi sembi* (凡そ物が碎ける事を *nikcambi* と言う)

⑤剗 @geo #wadangga gida (旗槍)

刻本→音鈎、鎌也。

石印→音鈎、鎌也。

剗 @fu #sacifi lakcambi (切断する、断つ)

刻本→音弗、断也、斫也。

石印→音弗、断也、斫也。

剗 @cu #tuktan (初め、起源)

刻本→楚平声、始也。

石印→楚平聲、始也。

剗 @pi #secimbi (切開する、割き開く)

刻本→音披、刀折也、又音皮、義同。

- 石印→音披、刀折也、又音皮、義同。
- 則 @kioi #usin uba ambi (土地を耕す)
刻本→音覯、耕起土也。
石印→音覯、耕起土也。
- 劔 @jeo #geren ba jeo giyan sere gebu bai (大勢が居る所を州と公式に名付けたのである)
刻本→古文州字。
石印→古文州字。
- 剌 @jy #kooli (法典、例)
刻本→古文制字。
石印→古文制字。
- 刮 @diyoo #lakcambi (中断する、中止する)
刻本→同刮。
石印→同刮。
- 刪 @šan #giyame (削り取る事)
刻本→音山、除削也、定也、又音壇。
石印→音山、除削也。
- 剛 @min #fu ilbambi (壁を塗る)
刻本→音閩、剛削。
石印→音閩、剛削。
- 劊 @ling #dacun (鋭利な)
刻本→音陵、人快性曰劊利。
石印→音陵、刀剖物。
評 →「刻本」の「人快性曰劊利」は『字彙』には載せていない。『字彙』は「石印」に同じ。
- 劓 @hiwan #beye faitame wambi (体を断ち切って殺す)
刻本→音弦、頸也、又自劓。
石印→音弦、頸也、又自劓。
- 剝 @kuwa #šombi (剥ぎ取る、削る)
刻本→音瓜、割也。
石印→音瓜、割也。
- 刮 @jung #giyambi (削る、削り取る)
刻本→音鍾、刮削也。
石印→音鍾、刮削物也。
- 判 @pan #meilembi (裂く、割る)

- 刻本→潘去声、剖也、分也、又斷也、又叶音凡。
石印→潘去声、剖也、分也、又斷也、又叶音凡。
- 別 @biye #faksalambi (分ける)
刻本→便入声、異也、離也、解也、訣也、又音鼈、分也、辨也。
石印→便入聲、異也、離也、解也、訣也、又音鼈、分也、辨也。
- 刳 @giye #garmilambi (o:garmilmbi、破れ避ける)
刻本→刳刳並同劫。
石印→刳刳並同劫。
評 →「刻本」「石印」『字彙』共に親字として「刳」「刳」の2字を挙げる。「満
文本」は「刳」の次項に「刳」を置いている。
- 刳 @giye #garmilambi (o:garmilmbi、破れ避ける)
刻本→なし
石印→なし
- 剝 @pao #fetembi (掘り出す、暴く)
刻本→音胞、剝削。
石印→音包、剝削。
- 剝 @lio #faitambi (切断する、削る)
刻本→音柳、割也。
石印→音柳、割也。
- 利 @lii #hafumbi (通曉する、貫通する)
刻本→音吏、宜也、通也、銛也、順也、吉也、又財利也、又叶音黎、又叶音里。
石印→音吏、宜也、通也、銛也、順也、吉也、又財利也、又叶音黎、又叶音里。
- 剝 @c'y #jaka faitambi (物を切断する)
刻本→音齒、割物也。
石印→音齒、割物也。
- ⑥刮 @guwa #giyame šombi (削り取る)
刻本→關入声、刮削、又摩也。
石印→關入聲、刮削、又摩也。
- 剛 @bo #fuwembi (皮を剥ぐ)
刻本→古剥字。
石印→古剥字。
- 剝 @ts'e #yali faitambi (肉を切断する、削る)
刻本→音册、割也。
石印→音册、割聲ママ。
評 →「石印」の「割聲」は切る音を表すのか疑問であるが『字彙』もそうなって

いる。

- 剝 @tiyoo #niyombi (骨についた肉を削り取る)
刻本→音挑、剔也、又音貂、斷也。
石印→音挑、剔也、又音貂、斷也。
- 糾 @gio #endebuku ba serebuhe (間違った所を指摘される)
刻本→音鳩、出罪也。
石印→音鳩、出罪也。
- 剖 @geng #hūwakiyambi (皮を剥ぐ、開く)
刻本→音耕、剖也。
石印→音耕、剖也。
- 剝 @do #darggiyame ujelembi (o:ujalambi、拳を挙げて糾す。)
刻本→多上声、批打也。
石印→多上聲、批打也。
- 到 @dao #isinjimbi (到着する)
刻本→至也。
石印→音倒、至也。
- 刑 @hing #erun (刑)
刻本→刑本字。
石印→刑本字。
- 剖 @foo #huwesi jafambi (小刀を取る)
刻本→音否、刀握也。
石印→音否、刀握也。
- 初 @cuwang #fukcin (初め、発端)
刻本→音創、初也、造法初業也。
石印→音創、初也、造法初業也。
- 剛 @yuwan #sonjome gaimbi (選び取る)
刻本→古文刷字。
石印→音烟、挑取也、窒也、剝也、本作剛。
評 →「石印」の説明は『字彙』にも載せていない。
- 割 @kui #secimbi (割り開く、切開する)
刻本→音奎、剝也、割也。
石印→音奎、剝也、割也。
- 剝 @ku #niyombi (骨についた肉を削る取る)
刻本→音枯、判也、剖也、虚其中也。
石印→音枯、判也、剖也、虚其中也。

- 剝 @do #sacirambi (切りまくる)
 刻本→多去声、斫也。
 石印→多去声、斫也。
- 剝 @ciowan #niyombi (骨についた肉を削る取る)
 刻本→
 石印→音筌、剔也。
- 剝 @le #niyombi (骨についた肉を削る取る)
 刻本→音落、剔也、去支節也。
 石印→音落、剔也、去支節也。
- 制 @jy #kooli (法典、例)
 刻本→音製、節也、裁也、斷也、正ママ也、御也、檢也、法禁也、造也、叶音浙、又叶音支。
 石印→音製、節也、裁也、斷也、立也、御也、檢也、法禁也、造也、叶音浙、又叶音支。
 評 →「文煥堂」は「正」とするが、「寶仁堂」は「石印」と同じく「立」
- 制 @jy #kooli (法典、例)
 刻本→同上、古文。
 石印→同上、古文。
- 則 @el #weihun jafaha hūlha šan be faitambi (生きたまま掴んで賊の耳を切り取る)
 刻本→音二、截耳。
 石印→音二、截耳。
- 剝 @kiya #dosimbi (入る、進入する)
 刻本→音恰、入也。
 石印→音拾ママ、入也。
 評 →「石印」の「拾」は誤り。『字彙』も「恰」
- 剝 @giye #derei sukū fuyembi (顔の皮を剥ぐ)
 刻本→音戛、鯨面曰剝剥面曰剝。
 石印→音戛、鯨面曰剝剥面曰剝。
- 刷 @šuwa #fumbi (拭く、拭う)
 刻本→刮也、拭也、掃也。
 石印→瀾入聲、刮也、拭也、掃也。
- 剝 @biye #encu (別な、異なる)
 刻本→即別字。
 石印→即別字。

- 券 @ciowan #boji bithe (証文)
刻本→音勸、約也、契也、从刀、不从力、與券不同。
石印→音勸、約也、契也、从刀、不从力、與券不同。
- 刹 @ca #fangse ilibumbi (o:fase、幡を立てる、幡を据え付ける)
刻本→音察、幡柱也、僧寺曰梵刹。
石印→音察、幡柱也、僧寺曰梵刹。
- 刺 @ts'y #toombi (罵る)
刻本→音次、諷刺譏切也、又訊也、又直傷也、君殺大夫曰刺、又書姓名于奏白曰刺。
石印→音次、諷刺譏切也、又訊也、又傷也、君殺大夫曰刺、又書姓名於奏白曰刺。
- 刻 @ke #kemu (一刻の刻、15分)
刻本→音客、刻漏也、鏤也、鏤漏箭以候日晷、故因謂晷度曰刻、又雕鏤也、又剥也、
侵也、慘也、又豕之足跡曰刻。
石印→音客、刻漏也、鏤也、鏤漏箭以候日晷、故因謂晷度曰刻、又雕鏤也、又剥也、
侵也、慘也、又豕之足跡曰刻。
- 剝 @liye #faidambi (並べる、陣取る)
刻本→古文列字。
石印→古文列字。
- ⑦剃 @ti #uju fusimbi (頭の毛を剃る)
刻本→同鬚。
石印→同鬚。
- 剉 @ging #uju sacimbi (首を切る)
刻本→音景、刑也、割頸也。
石印→音景、刑也、割頸也。
- 剝 @deo #ajige jaka (小さな亀裂)
刻本→音兜、小裂也。
石印→音兜、小裂也。
- 剉 @lo #nujalambi (拳で打つ)
刻本→音裸、擊也。
石印→音裸、擊也。
- 剉 @kuwai #lakcambi (斷つ、絶える)
刻本→音快、斷也。
石印→音快、斷也。
- 則 @dze #kemun (規則、ものさし、的)
刻本→増入声、法則、凡制度品式皆曰則、又即也。
石印→増入声、法則、凡制度品式皆曰則、又即也。

評 → 音は「増」(zeng1)「則」(ze2) は中古音で「増」はtseŋ (王力)「則」はtsək (王力) 満洲語は清代北京語に近い。

剝 @dui #giyambi (削る、削り取る)

刻本→音兌、削也。

石印→音兌、削也。

削 @yuwan #soyome gaimbi (耐えて取る、我慢して占領する)

刻本→音冤、挑取也。

石印→音冤、挑取也。

剝 @ts'o #garmimbi (細かく切る、切り刻む)

刻本→磋去声、折也、剝斫也。

石印→音挫、折也、剝斫也。

削 @siyoo #šombi (削る、剥ぎ取る)

刻本→襄入声、刮削、又小小侵也、又弱也。

石印→襄入声、刮削、又小小侵也、又弱也。

剝 @li #giyambi (削る、削る取る)

刻本→音栗、削也。

石印→音栗、削也。

勢 @ti #ulha wambi (家畜を殺す)

刻本→音剔、屠也。

石印→音剔、屠也。

制 @jy #kooli (規則、法例)

刻本→古制字。

石印→古制字。

剝 @ca #jaka faitara asuki (物を切る音)

刻本→俗刮字。

石印→即刮字。

評 → 「寶仁堂」は「俗種子」とする。

剝 @lo #giyambi (削る、削る取る)

刻本→音洛、削也。

石印→音洛、削也。

剝 @hi #kercimbi (o:gercimbi、切り裂く)

刻本→與鄰同、又音癡。

石印→與鄰同、又音癡。

剝 @cin #giyame ekiyembumbi (削り減らす)

刻本→音沁、剝也。

石印→音沁、剋也。

評 →「刻本」「石印」『字彙』には次項に「剋」の字があるが、「満文本」にはない。

刺 @la #secimbi (割き開く、切開する)

刻本→音辣、僻也、戾也、暴戾無親曰刺。

石印→音辣、僻也、戾也、暴戾無親曰刺。

前 @ciyan #julergi (前、表側、南)

刻本→音錢、後之對、進也、又音剪、又叶音秦。

石印→音錢、後之對、進也、又音剪、又叶音秦。

削 @bu #faitara huwesi (切断する短刀、削る小刀)

刻本→音布、裁刀。

石印→布、裁刀。

剕 @hing #erun (刑)

刻本→音刑、罰罪、又成也、法也。

石印→古文刑字、罰罪、又成也、法也。

剗 @g'an #hadufun (鎌)

刻本→音甘、刈禾具。

石印→音含、刈禾具。

刺 @ts'i #tokombi (刺す)

刻本→與刺同、針刺也。

石印→與刺同、針刺也。

評 →「刻本」「石印」『字彙』は「夾」の字を親字として挙げているが「満文本」は「刺」の字を挙げる。画数が6画となり、合わない。

削 @giye #weihe dasatambi (姿形を整える)

刻本→音結、理角也。

石印→音結、理角也。

評 →「理角」は解りにくいが「総角(左右の鬢)」の事と解すれば鬢を整える事。

剛 @g'ang #ganggan (強くて丈夫)

刻本→古文剛字。

石印→古文剛字。

⑧割 @ts'o #ihasi (サイ、犀)

刻本→音錯、治犀。

石印→音錯、治犀。

剗 @pi #giyambi (削る、削り取る)

刻本→音批、削也。

石印→音批、削也。

- 斲 @li #fucembi (腹を立てる、怒る)
 刻本→音黎、剥也。
 石印→同斲、剥也。
- 剜 @ya #beye faitame wambi (体を切断して殺す)
 刻本→音鴉、自刎。
 石印→音了ママ自刎也。
 評 →「石印」の音「了」は間違い。恐らく「Y・ya」の間違いであろう。
- 剜 @beng #sacimbi (切る)
 刻本→音崩、斫也。
 石印→音崩、斫也。
- 剔 @ti #niyombi (骨についた肉を削り取る)
 刻本→音惕、解骨。
 石印→音惕、解骨也。
- 剝 @g'o #faitambi (断ち切る、切断する)
 刻本→音果、割也。
 石印→音果、割也。
- 剝 @pai #bethe secifi lakcambi (足を切り切断する)
 刻本→與跣同、刎足也。
 石印→與跣同、刎足也。
- 剖 @puo #hūwakiyambi (皮を剥ぐ)
 刻本→判也、破也。
 石印→音拏、判也、破也。
- 剝 @can #giyame necimbi (削り平らにする)
 刻本→音産、削平也、又去声。
 石印→音産、削平也、又去声。
- 剝 @gi #muten (能力、才能、素質、手腕)
 刻本→音奇、克也、信也、又割截也。
 石印→音奇、克也、信也、又割截也。
 評 →現代音はqiであるから推定される音はkiであるはずだが、満洲語は時に有気、無気を無視する事がある。
- 契 @giya #giyame šombi (削り取る)
 刻本→音甲、刮削也。
 石印→音刮、刷刮也。
 評 →「満文本」は親字を「契」としているが「契」の誤り。「石印」は「刷刮」としているが『字彙』は「刻本」に同じ。

- 𠄎** @cuwang #fukjin (初め、発端)
 刻本→俗創字。
 石印→俗𠄎字。
- 𠄏** @nao #uju (頭)
 刻本→與腦同。
 石印→與腦同。
 評 →満洲語の uju に「腦」の意味があるかどうか不明。
- 𠄐** @sy #loho homholombi (腰刀を鞘に入れる)
 刻本→音恣、挿刀、置也。
 石印→音恣、挿刀、置也。
- 剛** @g'ang #ganggan (強くて丈夫)
 刻本→音岡、勁也、堅也、強也。
 石印→音岡、勁也、堅也、強也。
- 𠄑** @ku #kercimbi (切り裂く)
 刻本→音枯、剖判屠破也。
 石印→音枯、剖判屠破也。
- 剗** @wan #uhūmbi (抉り取る)
 刻本→音腕、刻削。
 石印→音腕、刻削。
- 𠄒** @duwan #lakcambi (斷つ、絶える)
 刻本→古斷字。
 石印→古斷字。
- 剗** @ji #dendembi (分ける、区分する)
 刻本→古剗字。
 石印→古剗字。
- 𠄓** @gioi #dendeme faitambi (分割する、切り分ける)
 刻本→音局、分割也。
 石印→音副、具也。
 評 →「刻本」は『字彙』に同じ、「石印」の説明は何に依ったか不明。この字『正字通』は譌字とする。
- 剗** @bo #buyasi faitambi (o:buyesi、小さく削る、細かく切る)
 刻本→音博、裂也、落也、禿也、削也、割也、傷也、又音撲、擊也、又叶音卜。
 石印→音博、裂也、落也、禿也、削也、割也、傷也、又音撲、擊也、又叶音卜。
- 𠄔** @liye #faidan (列、隊列)
 刻本→同列。

石印→同列。

剔 @še #sukū monjimbi (o:munjimbi、皮を髹す)

刻本→音舌、皮也。

石印→音舌、皮也。

剗 @h'o #jisumbi (一線に割り開く)

刻本→同剗。

石印→同剗。

評 →満洲語 jisumbi を『御製清文鑑』は次のように秋洩している、sukū-i jergi jaka be huwesi jafafi secire be jisumbi sembi (皮革の類の物を小刀で切開する事を jisumbi と言う) と載せている。

剗 @giya #dosimbi (入る、進む)

刻本→音恰、入。

石印→音恰、入。

剗 @ca #fangse ilibumbi (幡を立てる、幡を据え付ける)

刻本→古剗字。

石印→古剗字。

剗 @gi #uhūmbi (抉り取る)

刻本→音鷄、剗剗曲刀也。

石印→音鷄、剗剗曲刀也。

評 →「刻本」の「剗剗」は誤り、『字彙』は「石印」と同じく「剗剗」とする。

剗 @do #giyambi (削る取る)

刻本→音掇、削也、擊也、割也。

石印→音掇、削也、擊也、割也。

剗 @jy #lakcambi (断つ、中断する)

刻本→音制、断也、正也、禁制也。

石印→音制、断也、正也、禁制也。

剗 @giowe #uhūmbi (抉り取る)

刻本→與剗同、又音厥。

石印→與剗同、又音厥。

剗 @king #hergen sabsimbi (字を刺青する)

刻本→與黥同、又音亮、奪也。

石印→與黥同、又音亮、奪也。

剗 @yan #dacun (切れる、鋭利である、果断)

刻本→監上声、鋭利也、又削也、又音閃。

石印→音琰、鋭利也、又斬也、又音閃。

評 → 「刻本」の音「監」は合わない、『字彙』は「揜」とする。

刷 @diyoo #gu colimbi (玉を彫る)

刻本→音問、琢也。

石印→音貂、琢也。

割 @lii #faitafi hūwajaha (切られて破れた)

刻本→音利、割破也。

石印→音利、割破也。

⑨刺 @niye #narhūn faitambi (細かく切る)

刻本→與聶同、細切也。

石印→與牒同、細切也。

割 @h'o #jisume hūwajaha (引き裂き破る)

刻本→音畫、破音。

石印→音畫、破音。

刮 @ca #jaka faitambi (物を削る、切る)

刻本→音挿、切物声。

石印→音挿、切物声。

剩 @šeng #funcembi (余る、余り残る)

刻本→音盛、益也、餘也、冗長也。

石印→音盛、益也、餘也、冗長也。

剗 @teo #uhūmbi (挟り取る)

刻本→音頭、圖剗剗也。

石印→音頭、圖也、剗也。

刺 @ing #tokombi (刺す、挿し入れる)

刻本→音影、刺也。

石印→音影、刺也。

評 → 「文煥堂」が「隱」とするのは誤り。或いは「文煥堂」が天津ではなく n と ng を区別しない南での版木をそのまま使用したのか。

剗 @seo #hadumbi (刈る)

刻本→音搜、刈也。

石印→音搜、刈也。

剗 @kiyoo #coo (搥い鍬)

刻本→古鍬字。

石印→古鍬字。

剗 @di #secimbi (割き裂く、切開する)

刻本→音低、剗剗以刀解物。

- 石印→音低、剗剗以刀解物。
- 剗 @yan #erun de saciha (刑によって切る)
 刻本→音醜、刑也。
 石印→音醜、刑也。
- 剗 @žan #tokombi (刺す、挿し入れる)
 刻本→音軟、刺也。
 石印→音軟、刺也。
- 剪 @jiyan #hasaha (はさみ)
 刻本→同翦。
 石印→同翦。
- 剗 @ciyan #julergi (前、南、表側)
 刻本→同前。
 石印→同上。
- 剗 @cung #tokombi (刺す、挿し入れる)
 刻本→音沖、刺也。
 石印→音沖、刺也。
- 剗 @do #moo kemnembi (木を量る)
 刻本→音鐸、治木。
 石印→音鐸、治木。
 評 →「治木」は木を比量して、節約しながら合理的に使う事。
- 剗 @duwan #dasatambi (整える、身づくろいをする)
 刻本→音端、整飾貌。
 石印→音端、整勅ママ貌。
 評 →「石印」の「勅」は誤写であろう。
- 剗 @o #erun de waka (刑に非を謂う、刑誅)
 刻本→音渥、刑誅也。
 石印→音渥、刑誅也。
- 剗 @kui #secimbi (割き開く、切開する)
 刻本→同剗。
 石印→同剗。
- 剗 @kuwai #elben fembi (口から出まかせを言う)
 刻本→同髑。
 石印→同髑。
- 剗 @e #loho -i jeyen (刀の刃)
 刻本→同鄂。

石印→音鄂、刀劍刃也。

副 @fu #ilhi (副、序列)

刻本→音富、貳也、佐也、稱也、又后夫人祭服之首飾、編髮爲之者、又音拂、裂也。

石印→音富、貳也、佐也、稱也、又后夫人祭服之首飾、編髮爲之者、又音拂、裂也。

⑩削 @so #faitambi (切断する、削る)

刻本→音鎖、切也。

石印→音鎖、切也。

剝 @i #oforo faitambi (鼻を削ぐ)

刻本→同鼻。

石印→同鼻。

割 @tu #pes sembi (ぶすり)

刻本→音突、刺入貌。

石印→音突、刺入貌。

割 @da #goholombi (鉤に掛ける、吊るす)

刻本→音答、割削。

石印→音答、割削。

割 @jo #giyame sacimbi (切り取る)

刻本→音草ママ、削也。

石印→音琢、斫。

評 →「刻本」の「草」は誤り、「卓」の誤りではなからうか。

割 @ge #faitafi lakcambi (切って切断する)

刻本→音葛、斷也、截也、剥也、害也。

石印→音葛、斷也、截也、剥也、害也。

割 @ts'e #susiha (ムチ)

刻本→同策。

石印→同策。

割 @žui #dacun (切れる、鋭利である)

刻本→籀文鋭字。

石印→籀文鋭字。

割 @si #nionggajambi (擦り傷が付く、傷つく)

刻本→同刷。

石印→音西、剝刷。

割 @kiyan #jeje ihan (去勢した牛)

刻本→音堅、以刀去牛勢、又音乾、削也。

石印→音堅、以刀去牛勢、又音乾、削也。

- 剝 @jan #sukū uyembi (皮を鞣す)
 刻本→綻入声、治皮。
 石印→音齧、治皮。
 評 →「石印」の音は誤り。『字彙』も「綻」
- 剝 @c'y #giyambi (削る、削り取る)
 刻本→音耽、削也、剥也。
 石印→音耽、削也、剥也。
- 剝 @ts'e #tarire be kice (植えて得るべく努力する)
 刻本→同嬰。
 石印→同嬰。
- 剝 @g'ai #faitambi (断ち切る、切断する)
 刻本→音該、切也、又近也、又大鎌也、又摩也。
 石印→音該、切也、又近也、又大鎌也、又摩也。
- 剝 @u #homin (引き鋏、草取り用の鋏)
 刻本→音烏、除出田草器。
 石印→音烏、除出田草器。
- 剝 @g'ang #ganggan (強くて丈夫)
 刻本→同剛。
 石印→同剛。
- 剝 @pi #faitambi (断ち切る、切断する)
 刻本→音披、薄切。
 石印→音披、薄切。
- 剝 @da #gohon lakiyambi (鉤を吊るす)
 刻本→音荅。
 石印→音荅。
- 剝 @li #lakcambi (断つ、中断する)
 刻本→音栗、断也、削也。
 石印→音栗、断也、削也。
- 剝 @cuwang #feye (傷、傷口)
 刻本→音昌、傷也、又去声、始造也。
 石印→音昌、傷也、又去声、始造也。
- 剝 @dzo #gabsihyan gida (先鋒の槍)
 刻本→音差、小矛也、又音叉、劊物也。
 石印→音差、小矛也、又音叉、劊物也。
- ①剝 @can #sudumbi (削り取る、削り平らにする)

- 刻本→同割。
石印→同割。
- 剝 @kiye #feye (傷、傷口)
刻本→音妾、傷也。
石印→音妾、傷也。
- 剝 @ma #giyambi (削る、削り取る)
刻本→音摩、削也。
石印→音摩、削也。
- 剝 @ts'e #šusiha (ムチ)
刻本→同策。
石印→同策。
- 剝 @juwan #cisui gamambi (勝手に持って行く)
刻本→音專、擅也、又音團、斷也、截木也。
石印→音專、擅也、又音團、斷也、截木也。
- 劈 @mi #dendembi (分ける、分配する)
刻本→同剝。
石印→同剝。
- 剝 @lu #dayabumbi (頼り従わせる、服従させる)
刻本→與戮同、又削也。
石印→與戮同、又削也。
- 剝 @lu #wambi (殺す、誅する)
刻本→同上、俗字。
石印→同上、俗字。
- 剝 @cung #homin (引き鋏、草取り用の鋏)
刻本→音崇、器名、鍾屬。
石印→音崇、器名、鍾屬。
- 劈 @li #nikcaha (苦しめられた、辛く当たられた)
刻本→與蠡ママ同。
石印→音黎、割也。
評 →『字彙』は「蠡」と同じとする。「割」ならば「石印」の言う「割也」の意味を持つ。
- 剝 @su #faitafi lakcambi (切り切断する)
刻本→音率、割也、斷也。
石印→音率、割也、斷也。
- 劈 @ao #silin (精銳、精兵)

- 刻本→音敖、健也。
石印→音鰲、健也。
- 副 @ke #folombi (刻む、彫刻する)
刻本→古文刻字。
石印→古文刻字。
- 刻 @gun #kangsa (すり切れた、削り取った)
刻本→音棍、削也。
石印→音棍、削也。
- 副 @si #nionggajaha (擦り傷が付いた、傷付いた)
刻本→音犀、傷皮也、又音池、副魚也。
石印→音犀、傷皮也。
- 割 @loo #narhūn faitambi (細かく切る)
刻本→音漏、剝割細切也。
石印→音漏、剝割細切也。
- 剝 @šan #hadumbi (刈る)
刻本→音衫、刈也。
石印→音衫、刈也。
- 劇 @peng #gurun gebu (国名)
刻本→俗作國名、讀烹上声。
石印→音浮、郷名、左右扶風。
評 →「石印」の音「浮」は「烹」の誤写。
- 剝 @biyo #biyombi (削り平らにする)
刻本→飄上声、未也、又音瓢、鍾不大不小者。
石印→飄上声、未也、又音瓢、鍾不大不小者。
評 →満洲語の biyombi は『字彙』には載せていない。『廣雅』積詁に、「剝、削也」とあるのに依るか。
- 剝 @ciyang #nionggajaha (擦り傷が付いた、傷付いた)
刻本→音槍、皮傷也。
石印→音槍、皮傷也。
- 割 @so #faitambi (断ち切る、切断する)
刻本→酸入声、割也、削也。
石印→酸入声、割也、削也。
- 副 @eo #uhūmbi (抉り取る)
刻本→音歐、剝也。
石印→音歐、剝也。

剿 @giyoo #sunte me wambi (o:suteme、滅ぼし殺す、掃蕩する)

刻本→焦上声、絶也、殺也。

石印→焦上聲、絶也、殺也。

割 @cin #faitambi (断ち切る、切断する)

刻本→欽上声、削也、割也、又音覲、義同。

石印→欽上声、削也、割也、又音覲、義同。

⑫割 @ts'eng # faitambi (断ち切る、切断する)

刻本→音躡、割也。

石印→音躡、割也。

剽 @liyang #ejelembi (独占する、占領する)

刻本→音亮、取也、奮也。

石印→音亮、取也、奮也。

剽 @deng #gohon (箆を掛ける帯の鉤)

刻本→音登。

石印→音登。

評 →満洲語の解釈は『字彙』の「剽鉤」に依る。

剽 @lin #kangsa (削り取れ)

刻本→音鄰、削也、刮也。

石印→音鄰、削也。

評 →満洲語は kangsambi の語幹で命令形。

劈 @jiwei #meyelembi (一段一段に分ける、区分する)

刻本→音節、斷物也。

石印→音節、斷物也。

剽 @su #narhūn faitambi (細かく切る)

刻本→音速、細切。

石印→音速、細切。

剽 @dzun #ekiyembumbi (減らす、不足させる)

刻本→尊上声、斷也。

石印→尊上聲、斷也。

刮 @guwa #yoo -i niyaha yali be faitambi (腫物の膿んだ肉を切る)

刻本→音刮。

石印→音刮、刮去惡瘡。

評 →『字彙』は「刮去惡瘡肉」となっていて、「満文本」は直接『字彙』を参照している。

剽 @siyoo #faitambi (断ち切る、切断する)

- 刻本→音肅、割也。
石印→音嘯、割也。
- 剝 @jiyoo #suihe hadumbi (穂を刈る)
刻本→音樵、刈獲也。
石印→音樵、刈獲也。
- 劈 @li #faitambi (断ち切る、切断する)
刻本→同厠。
石印→同厠。
- 剝 @jy #hadumbi (刈る)
刻本→音質、刈也、又音道、大也、又音單亦大也。
石印→音質、刈也、又音道、大也、又音單亦大也。
- 割 @ts'an #mudumbi (ヤスリをかける)
刻本→蠶上声、刺也。
石印→蠶上声、刺也。
- 割 @ts'an #mudumbi (ヤスリをかける)
刻本→與上同。
石印→與上同。
- 剝 @po #homin (引き鋏、草取り用の鋏)
刻本→同鏡。
石印→音潑、木柄刀、可刈草。
評 →「石印」の解釈は『集韻』に、兩刃木柄、可以刈草に依る。
- 剝 @šeng #funcembi (余る、余剩)
刻本→同剩。
石印→同剩。
- 劈 @piye #giyambi (削る、削り取る)
刻本→音敝、削也、又音譬、義同。
石印→音敝、削也、又音譬、義同。
- 剝 @giowei #uhükū (細工刀)
刻本→音厥、剝剝曲刀、又音貴。
石印→音厥、剝剝曲刀、又音貴。
- 剝 @jan #šudumbi gidanambi (攻略する、攻め取る)
刻本→音展、攻也。
石印→音展、攻也。
- 剝 @hi #faitambi (切断する、裁断する)
刻本→音吸、欲割也。

石印→音翁、割也。

割 @h'o #secimbi (割き開く、切開する)

刻本→音畫、以刀破物也。

石印→音畫、以刀破物也。

割 @fu #orho hadumbi (草を刈る)

刻本→音撫、割物也。

石印→音撫、割物也。

割 @cung #tokombi (刺す、挿し入れる)

刻本→音沖、刺也。

石印→音沖、刺也。

割 @e #loho jeyen (腰刀の刃)

刻本→音譚、刀劍鋒也、別作鏢非。

石印→音譚、刀劍鋒也、別作鏢非。

⑬ 割 @jo #erun (刑)

刻本→音濁、刑也。

石印→音濁、刑也。

割 @se # tokombi (刺す、挿し入れる)

刻本→音瑟、刺也。

石印→音瑟、刺也。

割 @jan #kangsa (削り取る)

刻本→音詹、削也。

石印→音詹、削也。

評 →「寶仁堂」は音を「詹」とする。

割 @ling #faitambi (切断する、裁断する)

刻本→音令、割也。

石印→音令、割也。

割 @liyan #weihuken -i tokombi (軽く刺す)

刻本→音廉、輕刺。

石印→音廉、輕刺。

評 →満洲語は、「刻本」「石印」は『字彙』に依らず『集韻』の「割輕刺」に依っている。

割 @se # tokombi (刺す、挿し入れる)

刻本→音色、刺也。

石印→音色、刺也。

割 @ciye #sirabumbi (承襲させる、あとを継がせる)

刻本→音妾、接續也。

石印→音妾、接續也。

剝 @li #lakcambi (切断する、断つ)

刻本→同剝。

石印→同剝。

劇 @gi #nonggimbi (増やす、加える)

刻本→音極、増也、甚也、難也、又戲也。

石印→音極、増也、甚也、難也、又戲也。

剗 @jan #hūkcumbi (突如攻め込む)

刻本→音展、撃也、又音亶、割也。

石印→音展、撃也、又音亶、割也。

剗 @ja #talgimbi (愚弄する、皮を鞣す)

刻本→同剗。

石印→同剗。

評 →満洲語 talgimbi は漢語「剗」の語義に符合しない。

劈 @pi #kiyarimbi (薪を割る)

刻本→音僻、割也、裂也、破也、又辟歴雷之急激者、俗霹靂非。

石印→音僻、割也、裂也、破也、又辟歴雷之急激者、俗霹靂非。

劉 @lio #wambi (殺す)

刻本→音留、殺也、又葉枝稀疏謂之劉。

石印→音留、殺也、又葉枝稀疏謂之劉。

剗 @guwa #wambi (殺す)

刻本→音膾、斷也、又音刮、義同。

石印→音膾、斷也、又音刮、義同。

剗 @jiyoo #sunteme wambi (滅ぼし殺す)

刻本→焦上声、絶也。

石印→焦上声、絶也。

剗 @gui #faitambi (切断する、裁断する)

刻本→音貴、傷也、割也。

石印→音貴、傷也、割也。

劍 @jiyan #alamimbi (背負う)

刻本→兼去声、兵器劍、檢也、所防檢非常也、昔葛天廬之山、發而出金、蚩尤受而制之爲劍。

石印→兼去声、兵器劍、檢也、所防檢非常也、昔葛天廬之山、發而出金、蚩尤受而制之爲劍。

評 → 満洲語の *alamimbi* は漢語語義と符合しない。剣を「背負う」から来た誤解か。

剗 @dze #kemun (規則、法則、的)

刻本→籀文則字。

石印→籀文則字。

⑭ 剗 @giyan #narhūn faitambi (細かく切る)

刻本→監平声、剗聚細切也。

石印→監平声、剗聚細切也。

剗 @zuwan #tokombi (刺す)

刻本→音軟、刺也、又音儒、韋柔滑貌。

石印→音軟、刺也、又音儒、韋柔滑貌。

剗 @h'o #hadumbi (刈る)

刻本→同穫。

石印→同穫。

剗 @dzuo #narhūn faitambi (細かく切る)

刻本→音驟、斷也、細切也。

石印→音驟、斷也、細切也。

剗 @dzo #lakcambi (切断する、断つ)

刻本→音撮、斷也。

石印→音撮、斷也。

剗 @dze #kemun (規則、ものさし、的)

刻本→古文則字。

石印→古文則字。

劑 @ji #dendembi (分ける、分配する)

刻本→音濟、分也、又藥劑也。

石印→音濟、分也、又藥劑也。

剗 @huwan #bai gebu (地名)

刻本→音環。

石印→音環。

劔 @jiyan #alamimbi (背負う)

刻本→劔本字。

石印→劔本字。

評 → 「劔」の項参照。

剗 @guwa #kangsa (すり切れた、削り取った)

刻本→俗副字。

石印→俗副字。

- 韌 @jiyoo #sunte me wambi (滅ぼし殺す)
刻本→並俗剝字。
石印→並俗剝字。
評 →『字彙』「刻本」「石印」共に「韌」と「剝」の字を親字としてあげている。
- 剝 @can #šudumbi (削る、平らにする)
刻本→音纂、斷也。
石印→音纂、斷也。
- 剝 @i #oforo faitambi (鼻を切る)
刻本→音異、刑截其鼻。
石印→音異、刑截其鼻。
- 剝 @hiyan #kangsa (すり切れた、削り取った)
刻本→同録。
石印→音顯、削也。
- 剝 @li # faitambi (切断する、裁断する)
刻本→籀文則字。
石印→籀文則字。
- ⑮剝 @liye #ekiyembuha (減らす、不足させた)
刻本→音獵、減削也、擇也。
石印→音獵、減削也、擇也。
- 剝 @li # faitambi (切断する、裁断する)
刻本→同勞。
石印→音黎、直破也。
- 剝 @k'o #nikcaha (碎けた、欠けた)
刻本→音擴、解也、裂也、又音廣、義同、又音刻、義同。
石印→擴、解也、裂也、又音廣、義同。
- 剝 @jy #boji bithe (手形証文)
刻本→音質、券也、長曰剝、短曰劑。
石印→音質、券也、長曰剝、短曰劑。
- 剝 @li # faitambi (切断する、裁断する)
刻本→音利、割也。
石印→音利、割也。
- 剝 @siye # akcambi (切断する、斷つ)
刻本→音屑、斷也。
石印→音屑、斷也。
- 韌 @zeo #kirimbi (耐える、我慢する)

刻本→音柔、翻忍也。

石印→音柔、忍也。

翻 @li #delhebumbi (分割させる、分けさせる)

刻本→音歴、翻開也。

石印→音歴、翻開也。

⑩翻 @g'o #moo fufumbi (木を鋸で切る)

刻本→音貌、解木。

石印→音貌、解木也。

割 @ciyan #hadumbi (刈る)

刻本→音僉、割也。

石印→音僉、割也。

割 @ing #moo sacimbi (木を切る)

刻本→嬰去声、芟除枯木也。

石印→嬰去声、芟除枯木也。

剷 @li #hadumbi (刈る)

刻本→音歴、割也。

石印→音歴、割也。

⑪⑫劈 @c'y #faitambi (切断する、裁断する)

刻本→音尺、割声。

石印→音尺、割聲。

剮 @ti #niyombi (骨についた肉を削り取る)

刻本→古文剔字。

石印→古文剔字。

剮 @ling #dacun (o'emide 鋭利な)

刻本→音靈、剖物。

石印→音靈、剖物。

剮 @can #šudumbi (削る、平らにする)

刻本→音儻、斷也、鑄也。

石印→音儻、斷也、鑄也。

剮 @hūi #uhūmbi niyombi (削り取る)

刻本→音近回、挑剮剮、滅也。

石印→音攜、削也。滅也。

評 →「刻本」と言うより『字彙』の音「近回」とは変な表現であるが「回」に近い音と言う事であろう。「寶仁堂」は「滅」が「咸」になっている。

⑬劈 @wan #giyambi (削る、削り取る)

刻本→音彎、削也。

石印→音彎、削也。

剗 @jiyan #hasaha (はさみ)

刻本→古剪字。

石印→古剪字。

剗 @li #hūwajambi (破れる、裂ける)

刻本→音麗、割破也。

石印→音麗、割破也。

剗 @mi #dendembi (分ける、区分する)

刻本→音麤、分也、又音磨、削也、剗也、切也、又音摩。

石印→音麤、分也、又音磨、削也、剗也、切也、又音摩。

②剗 @li #faitambi (切断する、裁断する)

刻本→音里、割也、直破也、分破也、又音離。

石印→音里、割也、直破也、分破也、又音離。

剗 @can #dendembi (分ける、区分する)

刻本→音産、劑也。

石印→音産、劑也。

②剗 @diye #tokombi (o:tokami、刺す)

刻本→音疊、刺也。

石印→音疊、刺也。

剗 @k'o #nikcaha (苦しめられた、辛く当たられた)

刻本→音擴、解也、裂也。

石印→音擴、解也、裂也。

剗 @ling #dacun (o:emide 鋭利な)

刻本→同剗。

石印→同剗。

【力部 li sere hergen -i hacin (li・力と言う字の項)】

力 @li #hūsun (力、権力)

刻本→音歴、筋力、氣所在也、強也、勁也。

石印→音歴、筋力、氣所在也、強也、勁也。

尢 @ye #katunjambi (我慢する、自制する)

刻本→音軋、屈強貌。

石印→音閭、屈強貌。

評 →満洲語 katun (形容詞) には強壯、健壯の意味がある。

- 叻 @gio #hūsungge (有力な、有力な人)
刻本→音糾、大力也。
石印→音糾、大力也。
- ③功 @gung #gungge (功のある、功績)
刻本→音公、勳也、勳也、以勞定國曰功、又喪服、大功小功謂治布之功、有精粗。
石印→音公、績也、勳也、以勞定國曰功、又喪服、大功小功謂治布之功、有精粗。
- 幼 @ku #suilabufi ten oho (苦痛の極みとなる)
刻本→音哭、勞極貌、通作矧。
石印→音窟、勞極貌、通作仵。
- 加 @giya #nonggimbi (加える、増やす)
刻本→音佳、増也、又陵也、又施也、著也。
石印→音佳、増也、又陵也、又施也、着也。
- 幼 @giyan #suilashūn (貧困に焦る)
刻本→音蹇、難也、又語也。
石印→音蹇、難也、又吃語也。
評→満洲語 *suilashūn* は『御製清文鑑』に *boo yadafi beye facihyašara be suilashūn sembi* (家貧しく自身も焦るのを *suilashūn* と言う) と載せている。
「刻本」の「語也」は、『字彙』では「吃語」、「石印」が正しい。
- 団 @h'o #jakūtai šurumbi (o:jakūdai、八本ずつの櫂で漕ぐ)
刻本→音和去声、進船声。
石印→音和、進船聲。
評 →満洲語 *šurumbi* は『御製清文鑑』に、*šurukū acinggiyame cuwan be yabubure be šurumbi sembi* (船の棹を動かし船を進めるのを *šurumbi* と言う) と載せる。漢語では櫂などを漕ぐときの掛け声としている。満洲族の認識では大型船は左右八本の櫂で漕いだ、とするのか不明。
- ④劣 @liye #ehe (悪、粗悪)
刻本→音埒、優之反也、弱也、鄙也、少也。
石印→音埒、優之反也、弱也、鄙也、少也。
評 →「刻本」の「寶仁堂」は字が潰れて解読不能、「文煥堂」は「埒」に作るも間違い。『字彙』によって改める。
- 幼 @jen #hūsun baibumbi (力を必要とする)
刻本→
石印→音枕、用力也。
- 幼 @gin #hūsungge (有力な、有力な人)
刻本→音僅、多力貌、又音欣、義同、又音勤。

石印→音僅、多力貌、又音欣、義同、又音勤。

劬 @gi #mujin de faššambi (志気を高める)

刻本→音及、有志氣也。

石印→音及、有志氣也。

勗 @keng #hūsun bi (力がある)

刻本→音抗、有力也。

石印→音抗、有力也。

𠵽 @gui #dalimbi (庇う、隠す、遮る)

刻本→音貴、弊也、又力乏。

石印→音貴、弊也、又力乏。

𠵿 @hiyei #uhei hūsutulembi (一斉に力を出す、力を尽くす)

刻本→音協、同力。

石印→音協、同力。

⑤勗 @fei #baturulambi (勇む、勇み立つ)

刻本→音吠、壯勇貌。

石印→音吠、壯勇貌。

𠵿 @fei #baturulambi (勇む、勇み立つ)

刻本→上同、古文弼字。

石印→古文弼字。

助 @ju #aisilambi (助ける、扶助する)

刻本→鋤去声、益也、輔也、佐也、勳也、相也、藉也。

石印→鋤去聲、益也、輔也、佐也、相也、藉也。

𠵿 @i #urgunjembi (悦ぶ、楽しむ)

刻本→音逸、𠵿豫。

石印→音逸、𠵿也。

評 →「𠵿豫」は楽しむ事、「𠵿𠵿」は淫らな事を指す。

努 @nu #tafuršambi (大いに発奮する)

刻本→奴上声、用力也、又勉也。

石印→奴上聲、用力也、又勉也。

𠵿 @dzo #aisilame wehiyembi (援助して助ける)

刻本→音佐、助也、副也。

石印→音佐、助也、副也。

劫 @giye #ergeleme gamambi (強制的に持ち去る、脅し取る)

刻本→兼入声、強取也、奪去也、又勢脅也。

石印→兼入聲、強取也、奪去也、又勢脅也。

劬 @gioi #kiceme suilambi (努力し苦勞する)

刻本→音渠、勤也、疲勞也。

石印→音渠、勞也、疲也。

劬 @šao #huwekiyebumbi (o: huwekiyembumbi、鼓舞する、奮起させる)

刻本→音邵、勤勉也。

石印→音邵、勤勉也。

⑥券 @ciowan #šadambi (疲れる、倦む)

刻本→權去声、疲也、與券字不同。

石印→權去聲、疲也。

劬 @keo #hūsutulembi (力を尽くす)

刻本→音口、劬劬用力貌。

石印→音口、劬劬用力貌。

勸 @yang #tafulambi (なだめる、説得する、説諭する)

刻本→音羊、勸也。

石印→音羊、勸也。

劫 @yai #ergelembi (強いる、脅かす)

刻本→音挨、逼也。

石印→音娃、遍ママ也。

評 →「石印」の「遍」は「逼」の誤写であろう。

効 @hiyoo #tusa bahambi (益を得る)

刻本→與効同、効驗也。

石印→與効同、効驗也。

勸 @meo #yendeme huwakiyabumbi (o: huwakiyambumbi、鼓舞する、奮い立たせる)

刻本→音謀、勉也、勤勵也。

石印→音謀、勉也、勤勵也。

勸 @kuwang #hacihiyambi (急ぐ、精を出す)

刻本→音匡、勸勤遽也。

石印→音匡、勸勤遽也。

勸 @beng #hūsun de mangga (力が強い)

刻本→音絰、大力也。

石印→音駢、大力也。

劬 @hiya #hūsutulembi (o: hūsutulambi、力を尽くす、力一杯)

刻本→音詰、用力也、又固也、謹也、慎也、勤也。

石印→音詰、用力也、又固也、謹也、慎也、勤也。

𠵹 @liye #hūsungge (有力な、力のある)

刻本→音列、有力也。

石印→音列、有力也。

𠵹 @jo #baturu (勇者、勇ましい)

刻本→音涿、健也。

石印→音涿、健也。

𠵹 @dui #hūsutulehi tatambi (力一杯引く)

刻本→堆上声、著力牽也。

石印→堆上声、著力牽也。

𠵹 @he #weilengge niyalma be beidembi (罪人を尋問する)

刻本→音核、彈治也、又推窮罪人也。

石印→音核、彈治也、又推窮罪人也。

⑦ 𠵹 @ke #beye etembi (自らを強くする、克己)

刻本→音克、自強也。

石印→音克、自強也。

𠵹 @king #bekitu (丈夫な、強い)

刻本→音敬、健也、堅也。

石印→音敬、健也、堅也。

𠵹 @h'eo #fujurulambi (聞きただす、調査する)

刻本→音毫、休謁也。

石印→音毫、休謁也。

評 →漢語の「劄」は、休暇申請を意味するようであるが、満洲語はそれを上申する、諮問する、の意味にとっているようだ。『清文彙書』は、詢査、取實信、諮訪、訪乃處處訪査、訪問之訪、と載せる、

𠵹 @be #cira gūwaliyambi (顔色を変える)

刻本→音亭、卒也、色變之貌。

石印→音亭、卒也、色變之貌。

𠵹 @min #nimeku (病氣、患い)

刻本→音敏、疾也、敬也、聡也、達也。

石印→音敏、疾也、敬也、聡也、達也。

𠵹 @mo #kicembi (努力する、励む)

刻本→音莫、勤也。

石印→音莫、勤也。

𠵹 @gio #gabsihyan etuhun (敏捷で強健)

刻本→音鳩、輕勁也。

石印→音鳩、輕勁也。

勅 @c'y #han -i hese (勅旨)

刻本→音尺、天子制書。

石印→音尺、天子制書。

勅 @lai #dahahangge be šangnambi (屬従を賞する、投降を賞する)

刻本→同上、俗字。

石印→同上、俗字。

努 @dzan #belembi (弑殺する、誣告する、讒言する)

刻本→音殘、殺害也。

石印→音殘、殺害也。

勛 @lang #hūsun mangga (力が強い)

刻本→音郎、有力也。

石印→音郎、有力也。

勇 @yung #baturu (勇ましい、英雄)

刻本→容上声、健也、猛也、果敢也、又決也、知死不避也。

石印→容上聲、健也、猛也、果敢也、又決也、知死不避也。

勛 @yung #baturu (勇ましい、英雄)

刻本→同上。

石印→同上。

勉 @miyan #kicembi (努力する、励む)

刻本→眠上声、強也、勗也、又懋也、勤也。

石印→眠上声、強也、勗也、又懋也、勤也。

⑧勸 @ciowan #tafulambi (なだめる、説得する、助言する)

刻本→同勸。

石印→同勸。

勅 @i #sulambi (留まる、残る)

刻本→同勸。

石印→同勸。

勅 @yai #ergelembi (強いる、脅す)

刻本→音挨、逼也。

石印→音挨、逼也。

勅 @ing #ejelembi (占領する、支配する)

刻本→音凌、侵也

石印→音陵、侵也。

- 勅 @king #kiyangkiyan (強健である)
 刻本→音撃、強也、勅敵之人。
 石印→音撃、強也、勅敵之人。
- 勅 @lu #wambi (殺す、誅する)
 刻本→同戮。
 石印→同戮。
- 勅 @liyang #banuhūn (無精な、横着な)
 刻本→音兩、勇惰也。
 石印→音兩、勇也。
- 勅 @keng #etenggilembi (抑圧する、力を頼みにする)
 刻本→音坑、強大貌。
 石印→音坑、強大之貌。
 評 →「満文本」には今次の横に音と意味のフランス語の註がある。
- 勅 @dzy #alban takūran be temšemi (公職を争う)
 刻本→音子、争役也。
 石印→音子、争役也。
- 勅 @poo #hūsutulembi (力を尽くす)
 刻本→音蓐、勅勗用力也。
 石印→音哀、勂勗用力也。
- 勅 @kuwai #baita de faššambi (仕事に勤しむ、精励する)
 刻本→快平声、勂勗人有力也。
 石印→快平聲、勂勗人有力也。
- 勂 @kioi #bethe akdun (足が丈夫)
 刻本→音倔、足大力。
 石印→音倔、足大力。
- 勂 @meng #baturu hūsun (勇敢で力がある)
 刻本→同猛。
 石印→同猛。
- 勂 @ai #dahahangge be šangnambi (扈從を賞する、投降を賞する)
 刻本→音頼、勞也、答其勤曰勞、撫其至曰勂。
 石印→音頼、勞也、答其勤曰勞、撫其至曰勂、又音勂、誠也。。
- ⑨勂 @he #kiceme faššambi (奮励努力する)
 刻本→音曷、勤力也、又音瞎、義同。
 石印→音曷、勤力也、又音瞎、義同。勂勂有力聲。
- 勂 @kiyei #kakūng sembi (ガタンと言う)

刻本→偕去声、勤力作也。

石印→偕去聲、勤力也

評 →満洲語 kakūng sembi は重量物を置いた時の音であるが、漢語語義の適訳とは言えない。「文煥堂」は「勤」を「動」とするも誤り。

勒 @le #hadala (轡)

刻本→稜入声、馬鑣銜也、有銜曰勒、無銜曰羈絡也、絡其頭而引之也、一日刊也、又抑也、刻也。

石印→稜入声、馬鑣銜也、有銜曰勒、無銜曰羈絡也、絡其頭而引之也、一日刊也、又抑也、刻也。

勦 @miyan #huwekiyebumbi (o:huwekiyembumbi、鼓舞する、奮起させる)

刻本→音免、勸勉爲勦。

石印→音免、勸勉爲勦。

勸 @dzung #huwekiyebume faššambi (奮勵努力する)

刻本→音粽、勸勵也。

石印→音粽、勸勵也。

動 @dung #aššambi (動く)

刻本→同上声、靜之對也、躁也、出也、作也、揺也、振也、又凡物自動則上声、物不動而我動之則去声、又叶音同。

石印→同上聲、靜之對也、躁也、出也、作也、揺也、振也、又凡物自動則上聲、物不動而我動之則去聲、又叶音同。

勦 @hioi #kicembi (努力する、励む)

刻本→音旭、勉也、俗作勦非。

石印→音旭、勉也、俗作勦非。

勦 @hioi #kicembi (努力する、励む)

刻本→同上、俗字。

石印→同上、俗字。

勘 @k'an #baicame tuwambi (子細に調査する)

刻本→堪去声、校也。

石印→堪去声、校也。

務 @u #baita sita (事務)

刻本→音霧、事務、又專力於事也。

石印→音霧、事務、又專力於事也。

⑩勦 @siowan #gungge (功績、功がある)

刻本→古勦字。

石印→古勳字。

評 →「寶仁堂」は音を「加」とするが間違い。後人の手で「旭」と書き加えられている。

尫 @ciyan #jaka unumbi (物を背負う)

刻本→音虔、負物也。

石印→音虔、負物也。

勸 @hiya #hūsutulembi (力を尽くす)

刻本→音轄、用力也。

石印→音轄、用力也。

勦 @weng #katunjambi (自制する、我慢する)

刻本→翁上声、勦九屈強貌、又音様、勦傾多力貌。

石印→翁上声、勦九屈強貌、又音範、勦傾多力貌。

評 →満洲語 katun (形容詞)には強壯、健壯の意味がある。

勦 @biye #etuhun kiyangdu (強健で鋭敏)

刻本→音鼈、力貌。

石印→音鼈、力貌。

勦 @k'an #kice (努力)

刻本→音翰、勤也。

石印→音翰、勤也。

勝 @šeng #etembi (勝つ、勝ち取る)

刻本→音聖、負之對也、又克也、優也、過也、加也、又實勝善也、名勝恥也、又平声、任也、堪也、當也、舉也、又盡也。

石印→音聖、負之對也、又克也、優也、過也、加也、又實勝善也、名勝恥也、又平声、任也、堪也、當也、舉也、又盡也。

勞 @lao #suila,bi (苦勞する、困窮する)

刻本→老平声、疲也、勤也、又劇病也、又功也、又慰勞也。

石印→老平聲、疲也、勤也、又劇病也、又功也、又慰勞也。

⑪募 @mu #elbimbi (招く、招撫する)

刻本→音暮、廣求也、又招也。

石印→音暮、廣求也、又招也。

勦 @mo #gujung sembi (せっせと)

刻本→音莫、勤動也。

石印→音莫、勤動也。

評 →満洲語 gujung は持ち場を離れずにせっせと仕事にいそむさまを謂う。

戮 @lu #hūsutulembi (力を尽くす、力一杯)

刻本→音六、併力也、戮當作戮、又音寮、又叶音流。

石印→音六、併力也、戮當作戮、又音寮、又叶音流。

勢 @ao #baturu (勇ましい、英雄)

刻本→音敖、健也。

石印→音敖、健也。

勳 @eo #bere (足の筋)

刻本→音謳、足筋謂之勳。

石印→音謳、足筋謂之勳。

勦 @piyoo #gidaname gaimbi (奪い取る)

刻本→飄去声、攻劫也、強取也。

石印→飄去声、攻劫也、強取也。

評 →「寶仁堂」は音を「人」としているのは間違い。『字彙』も「飄」

勢 @ši #horon (盛名、威力、力、毒)

刻本→音世、勢力、威勢、權勢、又氣燄也。

石印→音世、勢力、威勢、權勢、又氣燄也。

勦 @ji #gungge (功のある、功績)

刻本→音迹、功也、事業也。

石印→音迹、功也、事業也。

勦 @kin #kicembi (努力する、励む)

刻本→音芹、役人也、勞也、盡也、又勞來其勤曰勦、又與勦同、慇懃也、又叶音乾。

石印→音芹、役人也、勞也、盡也、又勞來其勤曰勦、又與勦同、慇懃也、又叶音乾。

勦 @cao #niyalmai gisun be ejeme gaifi beye -i gisun obumbi (人の言葉を記憶して取って自分の言葉とする)

刻本→與諫同、勦説謂取他人之説以己説也、又勞也、又音巢、輕捷也。

石印→與諫同、勦説謂取他人之説以己説也、又勞也、又音巢、輕捷也。

勢 @kiyang #katunjambi (我慢する、自制する)

刻本→強上声、迫也、勉力也。

石印→強上聲、迫也、勉力也。

⑫勢 @li #hūsun (力)

刻本→音棘、力也。

石印→音棘、力也。

評 →満洲語の音は ji とあるのを後から li に書き直している。

勦 @ja #kicembi (努力する、努める)

刻本→音札、力也。

石印→音札、力也。

- 勑 @zeo #niyenniyehunjemi (心が定まらずぐずぐずする)
 刻本→憂上声、軟也。
 石印→憂上声、軟也。
- 犛 @diyan #tuwara de ehe (見かけの悪い)
 刻本→音典、劣貌。
 石印→音典、劣貌。
- 勑 @yang #elheken (のんびりした、落ち着いた)
 刻本→音養、繇緩也、勉也。
 石印→音養、繇緩也、勉也。
- 劈 @giowei #kiyangdu (押しの強い)
 刻本→音決、強力、又音掘。
 石印→音決、劈也、音掘。
- 勑 @giyoo #bithe tukiyeft den tafambi (足を挙げて高きに登る)
 刻本→音喙、與躡同、舉足行高也。
 石印→音喙、與躡同、舉足行高也。
- 勑 @i #suilambi (苦勞する、困窮する)
 刻本→音異、勞也。
 石印→音異、勞也。
- 劈 @giowei #lakcambi (中断する、断つ)
 刻本→音絶、斷物也、又音血、拽也。
 石印→音絶、斷物也、又音血、拽也。
- 勑 @fan #mangga (強い、才勇拔群)
 刻本→音番、健也。
 石印→音番、健也。
- 勑 @bei (o: bai) #etuhun (強健な、重味のある)
 刻本→音被、挾也、一曰壯也。
 石印→音被、挾也、一曰壯也。
- 勑 @tung #mutebuhe niyalma (成人)
 刻本→音童、成人也。
 石印→音童、成人也。
 評 → 「刻本」「石印」には「勑」の前に「勑」が載る。
- ⑬勑 @yang #elheken (のんびりした、落ち着いた)
 刻本→同勑。
 石印→同勑。
- 勑 @gioi #kicebe (勤勉な)

刻本→音踞、勤務也、動ママ也、又懼也、又疾也。

石印→音踞、勤務也、勤也、又懼也、又疾也。

評 →「刻本」3本共に「動」は誤刻、『字彙』も「勤」

勦 @dan #facihiyašambi (o:facihiyambi、力の限り懸命に努力する)

刻本→音單、竭力也。

石印→音單、竭力也。

勦 @gin #hūsutulembi (力を尽くす)

刻本→音禁、用力也。

石印→音禁、用力也。

勦 @hiye #uhei hūwaliyambi (睦まじく和合する)

刻本→古協字、心之和也。

石印→古協字、心之和也。

勦 @mai #kiceme faššambi (奮励努力する)

刻本→音賣、勉力也、別作勵非也。

石印→音賣、勉力也。

評 →「寶仁堂」は「別作勵非也」を「別佳人非」と訳の解らぬ誤刻をしている。

勦 @se #aisilambi (助ける、援助する)

刻本→音色、助也。

石印→音色、助也。

斃 @giyai #šadambi (疲れる)

刻本→音懈、疲也。

石印→音懈、疲也。

⑭勦 @cao #niyalmai gisun be gaimbi (人の言葉を取る)

刻本→古勦字。

石印→古勦字。

勦 @hiowen #gurun -i baita be faššara de gung sembi (国事に奮励した功績を言う)

刻本→音熏、能成王功曰勦、又叶音喧、又叶音訓。

石印→音熏、能成王功曰勦、又叶音喧、又叶音訓。

⑮勦 @šen #hūsun bumbi (力を込める)

刻本→心去声、勦勤用力也。

石印→心去声、勦勤用力也。

勦 @lioi #aisilame wehiyembi (支援し助ける)

刻本→音慮、助也、贊也、勉也。

石印→音慮、助也、贊也、勉也。

- 勗 @lei #anatambi (人に押し付ける)
 刻本→音類、推也。
 石印→音類、推也。
- 勗 @bai #fancambi (怒る、気が滅入る)
 刻本→音近敗、勗弊疲也、悪怒也。
 石印→音罷、勗弊疲也、悪怒也。
- 勗 @li #kiceme faššambi (奮励努力する)
 刻本→音例、勉力也、有修飾振起意。
 石印→音例、勉力也、有修飾振起意。
- 勗 @ke #gujung sembi (o:kujung、せっせと)
 刻本→音客、勗作也。
 石印→音客、勗作也。
 評 →満洲語は「勗作」を「せっせと」働くの、副詞を以て訳語としている。
- 勗 @yang #tafulambi (なだめる、説得する)
 刻本→音養、勗也。
 石印→音養、勗也。
- 勗 @ca #amasi tatambi (後ろに引く)
 刻本→古徹字。
 石印→古徹字。
- ⑩勗 @lu #aisilambi (助ける)
 刻本→音廬、助也、又音慮、義同。
 石印→音廬、助也、又音慮、義同。
- 勗 @kiyang #katunjambi (我慢する、自制する)
 刻本→古文駢字。
 石印→古文駢字。
- ⑪勗 @cao ㄇㄞ (cai) #gala acabumbi (手で混合する、手で書く)
 刻本→音攙、抄也。
 石印→音攙、抄也。
 評 →満洲語の cao は間違いであろう。今漢字音より改める。
- 勗 @hiyang #hacihiyambi (急ぐ、精を出す)
 刻本→襄平声、勗勗急遽貌。
 石印→音禳、走貌、勗勗急遽貌。
- 勗 @kiowan #tafulambi (なだめる、説得する)
 刻本→音券、勉也、助也、教也、奨也。
 石印→音券、勉也、助也、教也、奨也。

- 𠂔 @niyan #eberi (意気地がない、劣る)
刻本→音輦、𠂔𠂔劣貌。
石印→音輦、𠂔𠂔劣貌。
- 勸 @lioi # aisilame wehiyembi (支援し助ける)
刻本→篆文勸字。
石印→音慮、助也、或作勸勸。

【勺部 boo sere hergen -i hacin (boo・勺と言う字の項)】

- 勺 @bao #uhumbi (包む、包み込む)
刻本→音包、裹也。
石印→音包、裹也。
- 勺 @ju #tamambi waida (器に汲む)
刻本→音酌、挹取也、又周樂名、周公作、勺言能勺先祖之道也、又舞勺、古者教童子以舞柔其体。
石印→音酌、挹取也、又周樂名、周公作、勺言能勺先祖之道也、又舞勺、古者教童子以舞柔其體。
- ②勺 @yūn #nengge (目がかすむ)
刻本→音云、偏也、齊也、少也、又音君、與均同義。
石印→音云、偏也、齊也、少也、又音君、與均同義。
評 →満洲語は音が同じの「暈」と解釈したと考えられる。
- 勺 @gio #uyun (九)
刻本→與九同、聚也。
石印→與九同、聚也。
- 勺 @boo #ungke (俯けにする、裏返す)
刻本→音抱、覆也。
石印→音抱、覆也。
評 →満洲語の ungke の基本形は unkgembi である。その語幹が提示されているが通常語幹だけでは、命令の語気を持つ。
- 勺 @geo #welmiyeku (釣り針)
刻本→與勺同。
石印→與勺同。
評 →「勺」は「鉤」の事。
- 勿 @u #ume (～ない、～するな、後ろに～ra を伴い否定の命令法を表す)
刻本→音物、禁止之辭、又勿勿猶切切也、又州里所建旂曰勿、以聚民事貴速也。

石印→音物、禁止之辭、又勿勿猶切切也、又州里所建旂曰勿、以聚民事貴速也。

③ 匄 @g'ai #giohoto (乞食)

刻本→音蓋、乞也、又音葛、義同、俗作丐非。

石印→音蓋、乞也、又音葛、義同、亦作丐。

匄 @g'ai #giohoto (乞食)

刻本→同上。

石印→同上。

包 @bao #uhumbi (包む)

刻本→豹平声、裹也、含容也、又含顚也、叢生也。

石印→豹平声、裹也、含容也、又含顚也、叢生也。

④⑤ 匈 @hiong #tunggen (胸)

刻本→音胸、與胸同、又匈奴、北夷名、匈匈喧擾之意。

石印→音胸、與胸同、又匈奴、北夷名、匈匈喧擾之意。

冠 @yao #yasa kungguhun (目の落ち窪んだ)

刻本→遼深目也。

石印→遼深目貌。

匄 @bao #etuku uhumbi (着物を包む)

刻本→音包、衣也。

石印→音包、衣也。

匈 @peng #kaicara jilgan (大声を上げる、ときの声を上げる)

刻本→音烹、匈匈大声也。

石印→音烹、匈匈大声也。

⑥ 鞠 @jeo #šurdeme (めぐる)

刻本→音周、匝徧也。

石印→音周、匝徧也。

匄 @hiowen #inenggi (日、昼)

刻本→并古文匄字。

石印→古文匄字。

評 →「刻本」が「并」を付けているのは、「匄」と「匄」の2字を親字としているからである。「石印」は2字分けて親字として提示している。

匄 @gioi #oholiyo (手で一揃い)

刻本→音菊、兩手捧物曰匄、又屈掌曰匄。

石印→音菊、兩手捧物曰匄。

匄 @he #šurdeme (めぐる)

刻本→音合、市也、又音湓、翁習氣之翁鬱也。

石印→音合、市也、又音湍、蓊匍氣蓊鬱也。

評 →満洲語は「市」の翻訳であろう。基本形の *šurdembi* は『御製清文鑑』に、*yaya bithei uju de fuka torgire be šurdambi sembi* (書物の頭に圈を打つことを *šurdembi* と言う) *deduhe gurgu be torgime yabume berebure be šurdembi sembi* (寝た獣をぐるっと回せて驚かせる事を *šurdembi* と言う) *torgi emu ici fuhešere be šurdembi sembi* (回し一方向に転がす事を *šurdembi* と言う) と 3 つの意味を載せているが、「市」ともさほど適合性はない。しかし「市」は人が物を売り買いするために人が回り歩く場所であるから、満洲族にとっては、整合性を持つ訳語なのかもしれない。

匍 @yao #deijin ukdun (陶器などを焼く窯)

刻本→音遙、焼瓦竈也、又音挑、焼土爲器。

石印→音遙、焼瓦竈也、又音挑、焼土爲器。

⑦匍 @pu #micume niyakūrambi (這って跪く)

刻本→音蒲、匍匐狀、地手行也。

石印→音蒲、匍匐狀、地手行也。

匍 @giyūn #cooha (軍、兵士)

刻本→軍本字。

石印→軍本字。

匍 @hūng #kaicara jilgan ((大声を上げる、ときの声を上げる)

刻本→音轟、大声。

石印→音轟、大聲。

匍 @kiyūn #somiha (隠す、避ける)

刻本→音逡、伏退也、止也。

石印→音逡、伏退也、止也。

匍 @kuwai #teyembi (休む、休息する)

刻本→音快、大息也。

石印→音快、大息也。

評 →満洲語 *teyembi* は『御製清文鑑』に、*beye be ergebure be teyembi sembi* (o:ergebura、体を休ませる事を *teyembi* と言う) と載せる。「大息」の意味は無いようだが、ホッと一息つくことを、そのように理解したのかもしれない。

⑧匍 @gioi #dere gugurembi (腰を曲げる、腰が曲がる)

刻本→同匍。

石印→音局、曲脊也。

匍 @e #mamgiyarakū (贅沢しない)

刻本→音遏、不奢侈也。

石印→音遏、不奢侈也。

芻 @sun #ara sere gisun (オヤと言う言葉)

刻本→音苟、驚辭也。

石印→音苟、驚辭也。

芻 @jung #eifu (墓、墳墓)

刻本→同冢。

石印→同冢。

⑨ 芻 @kuwai #elben -i hacin (茅の類)

刻本→音快、茅類。

石印→音快、草類。

評 →「石印」は3本とも「草」に作る。『字彙』は「茅」とする。

匏 @pao #amba hoto (大きな瓢箪)

刻本→音庖、瓢也、匏苦瓠甘。

石印→音庖、瓢也、匏苦瓠甘。

芻 @du #micumbi (這う)

刻本→音都、伏行也。

石印→音都、伏行也。

芻 @bei #niyalmai gebu (人名)

刻本→音佩、人名。

石印→音背、人名。

評 →『字彙』は音を「倍」とする。

芻 @pe #micume niyakūrambi (這い跪く)

刻本→彭入声、匍匐伏地貌、又急遽貌。

石印→彭入聲、匍匐伏地貌、又急遽貌。

⑩ 芻 @gung #dara mehumbi (腰を屈める、平身低頭する)

刻本→音躬、謹敬貌。

石印→音躬、謹敬貌。

芻 @pe #micume niyakūrambi (這い跪く)

刻本→同匍。

石印→同匍。

芻 @e #miyamigan hehe (化粧した女性、飾り物を付けた女性)

刻本→庵入声、匍彩、婦人花髻飾。

石印→庵入聲、匍彩、婦人花髻飾。

芻 @da #bombonombi (一か所に積み集まる)

刻本→音荅、芻匍重疊也。

石印→音答、匍匐重疊也。

⑪ 匍 @fu #dahi (重ねる)

刻本→同匍。

石印→與匍同。

匍 @lu #micumbi (這う)

刻本→音魯、匍也。

石印→音魯、匍也。

匍 @ioi #ebime jetere irgen (飽きても食べる民)

刻本→音嫗、飽民也、祭祀曰厭匍。

石印→音飢、飽也、祭祀曰厭匍。

匍 @gio #isika (足りた、十分だ)

刻本→音救、飽也、厭也、謀也。

石印→音救、飽也、厭也、謀也。

⑫ 匍 @なし #isika (足りた、十分だ)

刻本→上同。

石印→上同。

匍 @fu #dahimbi (重ねて行う)

刻本→音復、重也。

石印→音復、重也。

匍 @gioi #dere gugurembi (腰を曲げる、腰が曲がる)

刻本→音局、曲脊也。

石印→音趨、曲脊也。

匍 @gung #dara mehumbi (腰を屈める、平身低頭する)

刻本→同躬。

石印→音窮、謹敬也。

匍 @e #miyamigan hehe (化粧した女性、飾り物を付けた女性)

刻本→同匍。

石印→同匍。

【ヒ部 bei sere hergen -i hacin (bei・ヒと言う字の項)】

ヒ @bei #juru sabka (一對の箸)

刻本→音彼、相與比斂也、亦所以用取飯、一名柶、以棘爲ヒ、所以載鼎肉而升之於俎也、又匕首、劍屬長三尺重二斤一兩。

石印→音彼、相與比斂也、亦所以用取飯、一名柶、以棘爲ヒ、所以載鼎肉而升之於

俎也、又七首、劍属長三尺重二斤一兩。

匕 @huwa #wembi (融ける、化する)

刻本→古化字。

石印→古化字。

②化 @huwa #kesi (運、おかげ、恩)

刻本→花去声、造化中有一變化、變者化之漸化者、變之成、又氣化、形化、教化、風化。

石印→花去聲、造化中有一變化、變者化之漸化者、變之成、又氣化、形化、教化、風化。

阜 @bao #ilhi anambi (順次に)

刻本→音保、相次也。

石印→音保、相次也。

③北 @bei #amargi (北、後方)

刻本→崩入声、朔方也、北伏也、陽氣伏於下、於時爲冬、又奔北、北者乖、背之名、故敗走爲北、又音佩、分異也、又叶音必。

石印→崩入声、朔方也、北伏也、陽氣伏於下、於時爲冬、又奔北、北者乖、背之名、故敗走爲北、又音佩、分異也、又叶音必。

⑤⑦𠄎 @i #kenehunjembi (疑う)

刻本→與疑同。

石印→與疑同。

卓 @jo #den cokcohon (高く秀でた)

刻本→與卓的也。

石印→與卓高也。

評 →『字彙』は「卓高」と載せる。

𠄎 @i #kenehunjembi (疑う)

刻本→音宜、未定也。

石印→音宜、未定也。

𠄎 @i #kenehunjembi (疑う)

刻本→同上。

石印→古文矣字。

評 →「石印」の解釈は『玉篇』に「古文矣」とあるに依る。「矣」に疑うの意味はないが満州族は「矣」は「矣」が本字で、それより「𠄎」即ち「疑」と考えたのかもしれない。

⑨𠄎 @gio #morin heren (厩、厩舎)

刻本→古文厩字。

石印→古文𩑦字。

𩑦 @nao #fehi (脳髓、頭腦)

刻本→音惱、頭髓也。

石印→音惱、頭髓也。

匙 @ši #saifi (匙、スプーン)

刻本→音時、茶匙也、又鎖匙。

石印→音時、茶匙也、又鎖匙。

匙 @ši #saifi (匙、スプーン)

刻本→同上。

石印→同上。

【匚部 fang sere hergen -i hacin (fang・匚と言う字の項)】

匚 @fang #jaka tamara tetun (物を収める容器)

刻本→奚上声、有所挾藏也。

評 →「刻本」は音も説明も『字彙』から離れており、何に依ったか不明。

石印→音方、受物之器、一斗曰匚。

𩑦 @gio #hobo (棺桶)

刻本→音田、棺也、在棺曰𩑦、隸作𩑦。

石印→音𩑦、同棺。

評 →「刻本」の音「田」は誤り。

匱 @i #obokū (洗面器)

刻本→音夷、手洗器、有柄可以注水、又音以。

石印→音夷、手洗器、有柄可以注水、又音以。

評 →満洲語 obokū は、『大清全書』も『清文彙書』共に、洗臉盆と載せている。

匱 @dza #šurdeme (めぐる、あたり)

刻本→偕入声。

石印→匱俗作匱。

評 →満洲語 šurdeme は『大清全書』に激轉、と載せ『清文彙書』にはより詳しく、基本動詞の šurdembi に盤旋、圓圈打滾兒、週圍、攢繞之、満洲書写頭圈一圈、臥的獸人周圍圍着走使怕着急、と載せている。

④匱 @h'an #jaka tamara tetun (物を収める容器)

刻本→音含、受物器。

石印→音含、受物器。

匱 @bei #hüntahan (o:hüntagan、盃)

刻本→古文匱字。

石印→古文杯字。

評 →「匱」は「杯」に同じ。

評 →満洲語は語中の「g」と「h」が入れ替わる事がある。

匱 @k'eng #besergen (寢床)

刻本→音抗、匱牀坐床也。

石印→音抗、匱牀坐床也。

匱 @ciowan #fiyoo (箕)

刻本→音全、箕也。

石印→音全、箕也。

匱 @jiyang #faksi (職人、工匠)

刻本→牆去声、工匠。

石印→牆去聲、工匠。

匱 @kuwang #gurun boode aisilambi (国家を補佐する)

刻本→音暉、正也。

石印→音暉、正也。

匱 @bu #wecere tetun (祭祀の道具)

刻本→同簋。

石印→同簋。

匱 @hu #julgei tetun (古の道具、器)

刻本→同匱。

石印→同匱。

⑤匱 @hiya #horho (衣装箱)

刻本→音治、匱也。

石印→音狎、匱也。

評 →『字彙』は音を「治」とする。「刻本」の「治」は誤刻である。

匱 @ki #jaka mudangga (湾曲したもの)

刻本→音契、物曲也。

石印→音隙、物曲也。

匱 @kioi #horho (衣装箱)

刻本→音曲、匱匣也。

石印→音曲、匣也。

匱 @siowan #siseku (篩、ふるい)

刻本→音旋、淥米箕也。

石印→音旋、淥米箕也。

評 →満洲語 siseku は、『大清全書』に、篩子と載せる、『御製清文鑑』には、nekeliyen

undeheŋ be muheliyen fere obuŋi, jodon -i jergi jaka be fere de hadaŋi, ufa siserengge be, siseku sembi (薄い割り竹で円形の底に織りなした類の物を底に結び付け、粉を篩い分けるものを、siseku と言う) と載せる、『清文彙書』は、篩子乃篩麵及土等物者、篩籬、と載せている。

匱 @biyan #cuse mooi alikū (料理の木の皿)

刻本→音卞、筍也、竹器。

石印→音卞、筍也、竹器。

⑥匱 @yao #tungken (鼓)

刻本→音遥、鼓也。

石印→音遥、鼓也。

匱 @ciowan #fiyoo (箕)

刻本→音全、箕也。

石印→音全、箕也。

評 →満洲語 fiyoo は、『大清全書』には、簸其ママ (箕か)、屁と載せる、『御製清文鑑』には、burga be amargi muheliyen, julergi teksin obume jodofi yangseleme gurgu -i uju nirufi ucun maksin de acabume karkarangge be fiyoo sembi (柳の枝を裏側に丸くし、表に均一にして織り成し形を整え獣の頭を描きて歌舞する時掻き鳴らす物を fiyoo と言う) と載せる、「箕」に形状の似たものようである。『清文彙書』には、蟒式拉的畫獸頭的簸箕、簸箕、と載せている。

⑦匱 @tiyoo #homin (草取り鋏)

刻本→音條、去草田器。

石印→音條、去草田器。

匱 @giye #horho (衣装箱)

刻本→音怯、械藏衣之具、又叶音乞。

石印→音怯、藏衣之具、又叶音乞。

匱 @なし #julgei hergen, hergen -i mudan suhe jurgan kimcihakū
(古の字、字の意味を解明せんとするも義は未詳)

刻本→音義尚未詳。

石印→見周宣王石鼓文、音義未詳。

匱 @h'an #manaha jahūdai (壊れた船)

刻本→音含、船没底也。

石印→音含、船没底也。

匱 @h'an #manaha jahūdai (壊れた船)

刻本→同上。

石印→同上。

匱 @ts'ang #asarambi (貯蔵する、しまっておく)

刻本→古蔵字。

石印→古蔵字。

匱 @bei #hüntahan (o:hüntagan、盃)

刻本→籀文栝字。

石印→籀文栝字。

評 →「栝」は「杯」に同じ。

⑧匱 @fei #cuse mooi šoro (料理の木の箒)

刻本→音斐、竹器、與篋同用、又非也、又丈貌與斐同。

石印→音斐、竹器、與篋同用、又非也、又丈貌與斐同。

匱 @bei #hafa (籠)

刻本→音彼、籠也。

石印→音彼、籠也。

匱 @hū #julgei tetun (古の器)

刻本→音忽、古器。

石印→音忽、古器。

⑨匱 @ioi #calu (米蔵、穀物倉)

刻本→音愈、水漕倉、一曰倉無屋也。

石印→音愈、水漕倉、一曰倉無屋者也。

匱 @teo #hüntahan (o:hüntagan、盃)

刻本→音頭、甌器。

石印→音頭、甌器。

匱 @wei #tetun (器)

刻本→音韋、器也。

石印→音韋、器也。

匱 @guo #uhume hūsimbi (巻いて包む)

刻本→音癸、匱也、又包裹也、又纏結也、既包裹之、又纏結也。

石印→音癸、匱也、又包裹也、又纏結也、既包裹之、又纏結也。

⑩匱 @ts'ang #julgei tetun (古の器)

刻本→音倉、古器。

石印→音倉、古器。

匱 @tiyoo #usin terire tetun (田を耕す道具)

刻本→音調、治田器。

石印→音調、治田器。

- ⑪ 匱 @gui #wecere tetun (祭祀の道具)
 刻本→同匱。
 石印→同匱。
- 匱 @i #usin terire tetun (田を耕す道具)
 刻本→音亦、田器。
 石印→音亦、田器。
- 匱 @hūi #tetun (器、道具)
 刻本→灰上声、器也、一日回也。
 石印→灰上声、器也、一日回也。
- 匱 @di #huwesi jafakū (小刀の柄)
 刻本→音弟、刀櫛也。
 石印→音弟、刀櫛也。
- ⑫ 匱 @ciowan #nekeliyen (薄い、柔らかい)
 刻本→音筌、簿也、又竹器也。
 石印→音筌、簿也、又竹器也。
- 匱 @siyoo #tetun (器、道具)
 刻本→音選、器也。
 石印→音選、器也。
- 評 →満洲語 tetun は、『大清全書』に、器皿、da tetun は宗器と載せる、『御製清文鑑』には、aisin, menggun, yehere, moo -i jergi jaka -i weilehe aika jaka teburengge be gemu tetun sembi (金、銀、磁器、木の類で作った一揃いの冥器の事を皆 tetun と言う)と載せる、『清文彙書』には、壽器、與 hobo 同、凡金銀銅鐵磁木等物之器、器皿之器、器皿即 tetun agūra 也、と載せる。
- 匱 @dan #taimiyoo wecere tetun (o:tailiyoo、宗廟で祭祀に使う道具)
 刻本→音丹、宗廟盛主之器。
 石印→音丹、宗廟盛主之器。
- 匱 @gui #guise (箆箭の類)
 刻本→音傀、匣也、又乏也、竭也。
 石印→音傀、匣也、又乏也、竭也。
- 匱 @giyan #hehesi eyere obure tetun (o:ejire、女性達が梳る道具)
 刻本→同匱、俗作奩。
 石印→同匱、俗作奩。
- ⑬ 匱 @e #kaicambi (関の声を上げる)
 刻本→音遏、大呼用力。

石印→音遏、大呼用力。

⑭匱 @suwan #fiyoo (箕)

刻本→酸上声、淥米箕。

石印→酸上声、淥米箕。

評 →『御製清文鑑』に、burga be amargi muheliyen obume jodofi yangseleme gurgu -i uju nirufi ucun maksin de acabume karkangge be fiyoo sembi (柳の枝を後ろに丸く織り込みて飾りに獣の頭部を描いて舞に合わせて掻き鳴らす物を fiyoo と言う) とあり、更に bele suksurengge be inu fiyoo sembi (米を簸りあふる物も亦 fiyoo と言う) とある所から見ると、元々は満州族の舞踏の楽器から形状が似ているところから箕の意味に使われたのであろう。

匱 @u #cooha agūra be asarara namun (兵器を収納する庫)

刻本→音舞、刀室。

石印→音舞、刀室。

評 →「満語本」の親字は匚の中が「舞」ではなくて「無」になっている。『字彙』により改める。

匱 @biyan #mucitun (o:mocitun、祭祀に供物を盛る竹で編んだ容器)

刻本→音邊、竹豆。

石印→音邊、竹豆。

評 →『字彙』には「竹豆」の解釈は載せていない『玉篇』に「竹豆」と載せる。

匱 @du #horho (衣装箱)

刻本→音讀、匱也、函也。

石印→音讀、匱也、函也。

匱 @gio #giran (屍、亡骸)

刻本→音舊。

石印→音舊、籀文柩字。

匱 @g'an #okcin (蓋)

刻本→音咸、器蓋、一曰覆頭也、又音貢、小杯也。

石印→音咸、器蓋、一曰覆頭也、又音貢、小杯也。

【匚部 si sere hergen -i hacin (si・匚と言う字の項)】

匚 @si #asarara tetun (しまつて置く容器)

刻本→奚上声、有所挾藏也。

石印→奚上聲、有所挾藏也。

匹 @pin #juru acabumbi (一對)

刻本→品入声、偶也、配也、合也、二人爲匹、四人爲儔、又布帛四丈爲匹、別作疋非。

石印→品入聲、偶也、配也、合也、二人爲匹、四人爲儔、又布帛四丈爲匹、別作疋非。

④⑤ 匱 @leo #dalbaki (旁、わき)

刻本→音漏、側僻也、又箕屬。

石印→音漏、側僻也、又箕屬。

匱 @leo #dalbaki (旁、わき)

刻本→同上。

石印→同上、俗字。

暉 @hū #sun buncuhūn (出始めの太陽)

刻本→音忽、日出未甚明也。

石印→音忽、日出未甚明也。

医 @i #beri kacilan -i jebile dashūwan (弓の練習用の矢の矢袋)

刻本→音意、盛弓弩矢之器也。

石印→音意、盛弓弩矢之器也。

⑥⑦ 匱 @e #acabumbi (迎合する)

刻本→庵入声、奄娟迎合也、又鳥匱巾名。

石印→庵入声、奄娟迎合也、又鳥匱巾名。

匱 @yan #somimbi (隠す、しまう)

刻本→煙上声、匿也、隱也。

石印→煙上聲、匿也、隱也。

⑧⑨ 匱 @ti #nekeliyen (薄い、弱い)

刻本→音梯、物之薄者。

石印→音梯、物之薄者。

匱 @biyan #kapahūn (平らな、扁平な)

刻本→邊上声、不圓也、又器薄者曰匱。

石印→邊上聲、不圓也、又器薄者曰匱。

匱 @ni #somimbi (隠す、しまう)

刻本→疑入声、蔽也、隱也、微也、亡也、又服匱器也、又音忒、朔而月見、東方曰側匱。

石印→疑入聲、蔽也、隱也、微也、亡也、又服匱器也、又音忒、朔而月見、東方曰側匱。

區 @kioi #fulhurembi (生長する、生育する)

刻本→音鉤、草木萌芽屈生也、音軀、蔽物處、又隱也、又小室曰區也、又類也、分

也、又區區小貌。

石印→音鉤、草木萌芽屈生也、音軀、藏物處、又隱也、又小室曰區也、又類也、分也、又區區小貌。

匱 @ti #hūwakiyan (皮を削ぐ)

刻本→音梯、物之薄者。

石印→音梯、物之薄者。

評 →「匱」と同じ意味の漢字であるが、満洲語は、hūwakiyan とするのはふさわしくない。nekeliyen (薄い、細い) が適訳と言える。或いは満洲族の認識では、皮を剥ぐから薄くすると言う意味を連想したのかもしれない。

【十部 šī sere hergen -i hacin (šī・十と言う字の項)】

十 @šī #juwan (十)

刻本→世入声、数生於一成於十。

石印→世入声、数生於一成於十。

𠂔 @sin #habta habtalambi (鳥が速く飛ぶ)

刻本→音信、疾飛也。

石印→音信、疾飛也。

千 @ciyan #minggan (千)

刻本→淺平声、十百也。

石印→淺平声、十百也。

卅 @zi #orin (二十)

刻本→音人、二十并也、俗音念。

石印→音人、二十并也、俗音念。

評 →漢字音「人」に即せば、満洲語音も「žen」ないし「zin」が望ましい。

②𠂔 @le #gungge amba (功績が大きい)

刻本→音勒、功大也。

石印→音勒、功大也。

卅 @sa #gūsin (三十)

刻本→音鞞、三十也、今直以爲三十字。

石印→音颯、三十也、今直以爲三十字。

評 →『字彙』は音を「颯」とする。

卒 @dzu #cooha (兵隊)

刻本→俗卒字。

石印→俗即卒字。

升 @šeng #moro hiyasa (量詞の升)

刻本→音声、登合之量也、又布八十縷爲升、又成也、登也、進也、又昇同。

石印→音聲、登合之量也、又布八十縷爲升、又成也、登也、進也。

午 @u #morin erin (正午)

刻本→音五、辰名、太歳在午日敦艸、又旁午分布也。

石印→音五、辰名、太歳在午日敦艸、又旁午分布也。

評 →満洲語 morin erin は漢語の午刻（午の刻）からきた外来詞であろう。

③卉 @hū #ilha (花)

刻本→俗卉字。

石印→俗卉字。

半 @ban #hontoho (o:hūtoho、半分、片方)

刻本→般去声、者中分也、又音判。

石印→般去聲、者中分也、又音判。

本 @ji #ilimbi (立つ、起床する)

刻本→濟上声、止也。

石印→濟上声、止也。

評 →「本」ではない。『大清全書』には「止」の意味も載せている。

④丕 @pi #yaksimbi (閉じる、門を下す)

刻本→即丕字。

石印→即丕字。

世 @si #jalan (世、世の中)

刻本→俗世字。

石印→俗世字。

半 @ben #amasi julesi sabumbi (後先を見る)

刻本→與本同、往前見貌。

石印→與本同。

册 @sin #fesin (刀などの柄、)

刻本→心入声、挿糞把也。

石印→心入声、挿糞把也。

評 →満洲語 fesinha は、『大清全書』に、刀柄、権柄と載せる、『御製清文鑑』に、
loho gida -i jergi jaka -i jafara babe, fesin sembi (腰刀の類の握る所を fesin
と言う)と載せる。『清文彙書』には、鞭桿子、刀櫛、鎗刀柄之柄、と載せて
いる。

卅 @sa #gūsin (三十)

刻本→與世同。

石印→與世同。

評 → 「満文本」はこの字「卅」と下の字「弁」を共に「卅」と見誤っている。従って、漢語の解釈と整合性はない。

弁 @sa #gūsin (三十)

刻本→諱上声、草之総名。

石印→諱上声、草之総名。

⑤ 卅 @su #sain (良い、善、上品)

刻本→與叔同。

石印→與叔同。

𠂔 @ban #fiyoo -i hacin (箕の類)

刻本→音般、箕属所以推棄器也。

石印→音般、箕属所以推糞器也。

⑥ 𠂔 @gung #tebeliyembi (抱く、抱きかかえる)

刻本→音拱、抱持也、擁也。

石印→音拱、抱持也、擁也。

卑 @bei #fusihūn (o:fusihon、卑しい、身分が低い)

刻本→音悲、下也、又音彼、與俾同。

石印→音悲、下也、又音彼、與俾同。

卓 @ju #colhoro (抜きんできた、群を抜いた)

刻本→音捉、特立也、高也、遠也。

石印→音捉、特立也、高也、遠也。

卒 @dzu #cooha (兵隊)

刻本→尊入声、兵卒、又音啐、既也、盡也、終也、大夫死曰卒、又忽也、又急也、又速也、倉卒也、又叶音啐。

石印→尊入声、兵卒、又音啐、既也、盡也、終也、大夫死曰卒、又忽也、又急也、又速也、倉卒也、又叶音啐。

協 @hiye #uhelembi (共にする、一緒になる)

刻本→音脅、合也、同衆之和也。

石印→音脅、合也、同衆之和也。

評 → 満洲語 uhelembi は、『大清全書』に、摠、共患難之共、と載せ、『御製清文鑑』に、yaya babe si bi seme ilgarakū acalara be, uhelembi sembi (凡そ君僕と分け隔てせず共にすることを uhelembi と言う) と載せている、『清文彙書』には、共之、総之、凡處不分爾我和合爲一、と載せている。

⑦ 南 @nan #julergi (南、前に)

刻本→音男、火方於時爲夏。

石印→音男、火方於時爲夏。

- ⑨ 計 @c'y #isame acambi (集め合わせる)
 刻本→琛入声、會集之也、又計計盛也。
 石印→琛入声、會集之也、又計計盛也。
- 計 @ji #leolen be isambi (論を集める、論集)
 刻本→音集、詞之集也。
 石印→音集、詞之集也。
- 率 @hū #hūdun (早い、早く)
 刻本→音忽、疾也。
 石印→音忽、疾也。
- ⑩ 博 @bo #ambula taciha (多く学んだ)
 刻本→邦ママ入声、廣也、普也、大也、通也、又局戲。
 石印→邦ママ入聲、廣也、普也、大也、通也、又局戲。
 評 →音「邦」は「博」に合わないが『字彙』『正字通』は皆「邦」とする。
- 準 @sun #cikiha (ぴったりはまった)
 刻本→音損、剡木入竅曰準。
 石印→音損、剡木入竅曰準。
- 【卜部 bu sere hergen -i hacin (bu・トと言う字の項)】**
- 卜 @bu #jijugan tuwambi (筮、占う)
 刻本→音不、卜筮、卜赴也、又與也。
 石印→音不、卜筮也、又與也。
- 卅 @gung #gulu aisin gu (純金の玉)
 刻本→音國ママ上声、金玉函於石、未冶鍊者也。
 石印→音憤ママ、幼稚也、束髮貌、又古文礦字。
 評 →まず「刻本」「石印」の音は間違い、『字彙』は「公」とする。また「刻本」は「治」を「治」、「函」を「兩」、「未」を「水」とするなど誤刻が多い。満洲語の gulu aisin gu は gulu aisin は純金のことを指す、金玉をそのまま満洲語に置き換えているようだ。
- 卞 @biyan #ba -i gebu (地名)
 刻本→音便、地名、又手搏爲卞、又躁疾、又法也。
 石印→音便、地名、又躁疾、又法也。
- ③ 卮 @gi #jijugan tuwame kenehujere be fonjimbi (占いで疑う事を聞く)
 刻本→音雞、卜以問疑。
 石印→音雞、卜以問疑。

- 占 @jan #jijugan tuwambi (筮、占う)
 刻本→音詹、測也、卜也、候也、又瞻也、又隱度其時口以受人曰口占。
 石印→音詹、測也、卜也、候也、又瞻也、又隱度其時口以受人曰口占。
 評 →「刻本」3本共「占」を「古」と誤刻している。
- ⑤𠄎 @jeo #kenehunjere be fonjimbi (疑う事を聞く)
 刻本→音照、卜問也。
 石印→音照、卜問也。
- 𠄎 @c'y #hala (姓)
 刻本→音赤。
 石印→音尺、姓也。
- 𠄎 @io #wecere tetun (祭祀の器)
 刻本→音由、中尊盛鬱鬯者、按尊有三品、上曰彝、中曰卣、下曰壺。
 石印→音由、中尊盛鬱鬯者、按尊有三品、上曰彝、中曰卣、下曰壺。
- ⑥𠄎 @jeo #todolo (前兆、兆し)
 刻本→音趙、事先見也。
 石印→音趙、事先見也。
- 𠄎 @si #wargi (西、右、下)
 刻本→古西字。
 石印→古西字。
 評 →「文煥堂」は「西」を「酉」と誤刻している。
- 𠄎 @ženg #ara sere gisun (間投詞、あらと言う言葉)
 刻本→音仍、驚声也。
 石印→音仍、驚聲也。
- 卦 @guwa #jijugan (占い)
 刻本→瓜去声、筮也、三變成畫、六畫成卦、卦掛也、掛萬象於上也。
 石印→瓜去聲、筮也、三變成畫、六畫成卦、卦掛也、掛萬象於上也。
- ⑦𠄎 @hūi #jijugan -i dergi (卦の上部)
 刻本→音諱、卦之上体也、又作悔。
 石印→音諱、卦之上體也、又作悔。
- 𠄎 @tiyoo #orho moo suihe suharambi (o:sukarambi、草木の穂や実が垂れる)
 刻本→音調、草木實垂𠄎𠄎然。
 石印→音調、草木實垂𠄎𠄎然。
 評 →満洲語において、語中の「g」「h」の交換は間々見られるが、ここでは「k」と「h」が入れ替わっている。

𠄎 @ke #mutembi (～する能力がある)

刻本→古克字。

石印→古克字。

評 →満洲語 mutembi は『大清全書』に、hoo seme mutembi を載せ、任之有餘と載せる、任に充分その能力があると言う事、『御製清文鑑』ひは、baita sita be heo seme šanggabure be, mutembi sembi (任にあつて務めをすらすらとこなせる事を mutembi と言う) と載せる、『清文彙書』には、能爲能事之能、成事之成、と載せている。

𠄏 @io #sukdun eyembi (気が下る)

刻本→音攸、氣行貌。

石印→音攸、氣行貌。

【𠄐部 jiye sere hergen -i hacin (jiye・𠄐 と言う字の項)】

𠄐 @jiye #jijun -i acangga (陰陽に適う、調和した)

刻本→音示、信也。

石印→音示、信也。

𠄑 @siyan #hala (姓)

刻本→即𠄐字、又音織。

石印→即𠄐字。

𠄒 @jiye #jijun -i acangga (陰陽に適う、調和した)

刻本→同𠄐。

石印→同𠄐。

𠄓 @dzeo #a e jijun -i acangga (陰陽に適う、調和した)

刻本→音奏、反𠄐爲𠄓、合符有二與者、執左、取者執右。

石印→音奏、反𠄐爲𠄓、合符有二與者、執左、取者執右。

②𠄔 @yang #hargašambi (仰ぎ見る)

刻本→古仰字、又譌平声、我也、又高也、舉也、翹首望也。

石印→古仰字、又譌平声、我也、又高也、舉也、翹首望也。

𠄕 @king #ambasa ejen de gingulere doro (臣下達が主人を敬う礼法)

刻本→音卿、事之制也。

石印→音卿、事之制也。

𠄖 @kiong #nimeku (病氣)

刻本→音筮、病也。

石印→音筮、病也。

- 卮 @jy #hūbtahan (盃)
 刻本→音支。
 石印→音支、酒器也。
- 卯 @mao #gūlmahūn erin (卯の刻)
 刻本→茅上声、辰名歳在卯曰單闕、又茂也、言萬物茂也、又音畝。
 石印→茅上聲、辰名歳在卯曰單闕、又茂也、言萬物茂也、又音畝。
- ④卍 @bi #aisilara amban (補佐の臣)
 刻本→古弼字。
 石印→古弼字。
- 印 @yen #doron (印、印章)
 刻本→因去声、印信。
 石印→因去聲、印信。
- 危 @wei #tuksicuke (危険な、恐ろしい)
 刻本→音巍、高也、險也、隕也、不正也、殆也、不安也、疾劇也。
 石印→音巍、高也、險也、隕也、不正也、殆也、不安也、疾劇也。
- ⑤卍 @seo #erdemu mangga (徳の優れた、才芸に優れた)
 刻本→音紹、高也。
 石印→音紹、高也。
- 卍 @ji #uthai (即ち、即座に、早々と、結局)
 刻本→俗卍字。
 石印→俗卍字。
 評 →満洲語 uthai は主として副詞としての用法が多いが、係助詞としての機能、或いは、seme、adali、gese などを取る場合など、多様な機能を持っている。
- 却 @kio #marambi (遠慮する、辞退する)
 刻本→羌入声、退也、止也、不受。
 石印→羌入声、退也、止也、不受。
- 卯 @luwan #umhan (o:umgan、卯)
 刻本→鸞去声、凡物無乳者卯生、又叶音變。
 石印→鸞去聲、凡物無乳者卯生、又叶音變。
- 卍 @se #saikan gu (美しい玉)
 刻本→音色、玉鮮潔貌。
 石印→音秘、宰之也。
 評 →「石印」の解釈は『字彙』にも見えない。
- ⑥卍 @jy #elgiyen aniya (豊年)
 刻本→音熾、大々有大大慶々々也

石印→音熾、有大度也。

評 →「刻本」は「文煥堂」は「大」を「夫」とし、「文煥堂」「寶仁堂」共に「大慶」とするが『字彙』は「大度」とする。満洲語は「刻本」に依っている。

卷 @giowan #bithe dobton (本の册、卷)

刻本→音絹、可舒卷者曰卷、編次者曰帙、又収也、音權、曲也。

石印→音絹、可舒卷者曰卷、編次者曰帙、又収也、音權、曲也。

卸 @kio #marambi (遠慮する、辞退する)

刻本→俗却字。

石印→俗却字。

評 →満洲語 marambi は『大清全書』に、辭了、有力主張、拒、と載せる。『御製清文鑑』には、yaya afabuha baita buhe jaka be alime gaijarakū be, marambi sembi (凡そ頼まれた仕事や与えた物の受け取りを拒否することを marambi と言う) と載せる。『清文彙書』に、屈強之強、拒、莫、辭乃不領不受也、と載せる。

香 @kin #holbombi (連結する、對にする)

刻本→音謹、瓢爲酒器、婚礼用之。

石印→音謹、瓢爲酒器、婚礼用之。

卸 @siye #sejen jafambi (車から取り下ろす)

刻本→寫去声、舍車駕馬、脱衣解甲曰卸。

石印→寫去聲、舍車駕馬、脱衣解甲曰卸。

卸 @sioi #gosimi (慈しむ、愛する)

刻本→與恤同、又音窅、搔摩也。

石印→與恤同、又音窅、搔摩也。

⑦卸 @kio #marambi (遠慮する、辞退する)

刻本→古却字。

石印→古却字。

脆 @u #tuksiuke (恐ろしい、危ない)

刻本→音兀、脆、脆、危也。

石印→音兀、脆、脆、危也。

泐 @ioi #uherilembi (統一する、総べる)

刻本→音御、理也、進也。

石印→音御、理也、進也。

卸 @なし #giranggi jalan (骨の関節)

刻本→

石印→

卽 @ji #uthai (即ち、即座に、早々と、結局)

刻本→音稷、就也、今也、便也、當也、又只也、又卽卽充實也。

石印→音稷、就也、今也、便也、當也、又只也、又卽卽充實也。

評 →満洲語 uthai は、動輒、就、即、遂、遂以、遂於、立と載せる、『御製清文鑑』に、tookan akū be, uthai sembi (滞りなくと言う事を uthai と言う) と載せる、『清文彙書』には、遂於、立刻之立、動輒、就、即、と載せる。『大清全書』とほぼ同じ。

⑨鄂 @e #angga -i dolo dergi uman (口の中の上の齒根)

刻本→音譌、口中上鄂也。

石印→音譌、口中上鄂也。

卿 @king #saitu (卿、ninggun saitu 六卿)

刻本→音輕、周六卿諸侯兼官、但有三卿、漢九卿、又君呼臣爲卿、蓋貴之也。又卿子、猶言公子。

石印→音輕、周六卿諸侯兼官、但有三卿、漢九卿、又君呼臣爲卿、蓋貴之也。又卿子、猶言公子。

⑩卷 @giowan #bithe dohton (本の冊、卷)

刻本→即卷字、曲也。

石印→即卷字、曲也。

邛 @hi #tobgiya (膝)

刻本→音悉。

石印→音悉、脛頭也、今俗作膝、人之節也。

評 →『字彙』では「膝本字」とする。

輿 @ciyan #gurimbi (移る、移動する)

刻本→同遷。

石印→古文遷字、又去也。

【厂部 h'an sere hergen -i hacin (h'an・厂と云う字の項)】

厂 @h'an #fiyeren (山の狭間、山を切り開いたところ)

刻本→音罕、山石之岩、人居者。

石印→音罕、山石之巖、人居者。

評 →③「斥」の項参照。

匜 @jy #arki hūntahan (o: hūntagan、酒の盃)

刻本→音支、酒器。

石印→音支、酒器。

評 →満洲語 arki は蒸留酒系の酒精の度数が高い酒、アルコールの語源アラビヤ語

の al·khwl 系の外来詞であろう。中国には元以降伝わったようである。『飲膳正要』や、『居家必用事類』に阿刺吉、阿里乞、と表記されている。日本にも伝わっており、17C の『本朝食鑑』に阿羅岐、荒気などが見える、満洲語固有の酒は nure と言う。

𠂔 @jan #hargašambi (仰ぎ見る)

刻本→音占、仰也、又屋椽也。

石印→音占、仰也。

評 →「刻本」みな音を「古」とするが、「占」の誤刻。

厄 @o #mooi ageli (木の瘤)

刻本→臥上声、科厄木節也、今多作隈。

石印→臥上聲、科厄木節也。

③𠂔 @gioi #jafambi (取る、掴む)

刻本→音菊、持也。

石印→音菊、持也。

𠂔 @dze #neilembi (開く、始まる)

刻本→音責。

石印→音礫、張也。

評 →「石印」の解釈は『字彙』には載せていない。neilembi は『大清全書』に、開之也、と載せ、また『御製清文鑑』には、giyan be getukeleme tucibure be neilembi sembi. (筋を明らかにし始める事を neilembi と言う) と載せている。『清文彙書』に、開導之開、啓、と載せる。

𠂔 @h'an #alin fiyeren (山の狭間)

刻本→音岸、水厓高也。

石印→音岸、水厓高也。

評 →満洲語 fiyeren は、『御製清文鑑』に、alin -i fiyentehejehe gakaraka ba be, fiyeren sembi (山の裂け開けた處を fiyeren と言う) と載せる。

④𠂔 @cen #den alin (高い山)

刻本→與峯同、音琴、石地。

石印→音琴、同峯、石地。

𠂔 @giyai #isimbi (到達する、及ぶ)

刻本→音界、到也。

石印→音界、到也。

𠂔 @ki #na de tuheke (地に倒れる)

刻本→音溪、倒地也。

石印→音溪、倒地也。

刻本→音拉、石声。

石印→音拉、石聲。

⑥厓 @yai #birai ekcin (河の急傾斜な岸)

刻本→音涯、山邊也、水邊亦曰厓。

石印→音涯、山邊也、水邊亦曰厓。

厓 @i #somimbi (隠す、しまう)

刻本→音倚、隱翳也、蔵也。

石印→音倚、隱翳也、蔵也。

厓 @jy #saikan (美しい、良い)

刻本→古旨字、美也、志也。

石印→古旨字、美也、志也。

厓 @ke #šenggin (山すそと河の入り組んだところ)

刻本→音溘、山雨邊有水爲岸名厓者。

石印→音溘、山雨邊有水爲岸名厓者。

評 →満洲語 šenggin は『大清全書』では額、額などの訳を載せている、『清文彙書』では、山連下靠抵河處、竈門上蓋出前些的埽、人類乃眉上也、額、額也と載せる。『御製清文鑑』は、yaya alin baime genehei bira de nikenehe babe, šenggin sembi (山を探ね行き河に臨んだところを šenggin と言う) と載せている。

厓 @c'y #amba geli neilembi geli jorimbi (大いに啓発したり指示したりする)

刻本→同斥。

石印→同斥。

厓 @jy #ba -i gebu (地名)

刻本→音質、水曲曰盪、山曲曰厓。

石印→音質、水曲曰盪、山曲曰厓。

厓 @si #teku (座席、席)

刻本→古席字。

石印→古席字。

厓 @ke #gidambi (押さえる、隠す)

刻本→古磕、厭也。

石印→同厓、厭也。

評 →満洲語 gidambi は『大清全書』に、欺壓、隱匿、劫營、用印、勸、と載せている、『清文彙書』はさらに詳しく、拌駁力強兩手拿住人肩壓蹲、匿逃之匿、醜物之醜、齧物之齧、凡家野禽鳥雀抱蛋、用印、勸壓迫人飲酒之壓、隱匿、

劫嘗、擊壓乃敗賊也、(以下省略)と載せている。

⑦ 𨮒 @i #ambula omimbi (大酒飲み)

刻本→音移、獸也。

石印→音移、獸也。

𨮒 @mang #ambalinggū (鷹揚である、おっとりしている)

刻本→音茫、大也、厚也、雜也。

石印→音尙、大也、厚也、雜也。

評 →満洲語 *ambalinggū* は、『大清全書』に氣概甚大、大規模、盛大、魁などの意味を載せる。『御製清文鑑』には、*beye amba, cira fiyanga bime ujen fisin niyalma be, ambalinggū sembi* (体が大きく顔色もよくて重々しく重厚な人を *ambalinggū* と言う)と載せる。『清文彙書』は、身大魁偉而穩重者、氣概甚大、大規模、盛大、魁偉、行體沉重、有文彩者、壬、と載せている。

𨮒 @ti #wehe (石)

刻本→音啼、唐𨮒石也。

石印→音啼、唐𨮒石也。

𨮒 @hia #kamni angga (隘口、狭い入口)

刻本→音轄、隘也。

石印→音轄、隘也。

𨮒 @e #sengsu wehe (山上の碎石)

刻本→音蛾、嵯𨮒也。

石印→音蛾、嵯𨮒也。

𨮒 @fu #alhangga wehe (花模様のある石)

刻本→音敷、石文見。

石印→音敷、石文見。

評 →「石文見」は石に彩模様が現れている事。

𨮒 @can #hūdai ba (商売の場所)

刻本→音纏、市鄴、俗釐非。

石印→音纏、市鄴、俗釐非。

𨮒 @še #hala (姓)

刻本→音赦、姓也。

石印→音赦、姓也。

𨮒 @heo #jiramin (厚い)

刻本→猴上声、對薄之稱、又重也、廣也、醜也。

石印→猴上声、對薄之稱、又重也、廣也、醜也。

評 →満洲語 *jiramin* は、『大清全書』に、厚と載せ、『御製清文鑑』に、*nekeliyen akū*

be jiramin sembi (薄くない事を jiramin とする) と載せる。

厩 @io #sihin naihūhabi (軒が倒れている)

刻本→音猶、簷樞也。

石印→音猶、簷樞也。

⑧厩 @dzui #sehehuri den (高く聳えた)

刻本→醉平声、厩巖山巔也。

石印→醉平聲、厩巖山巔也。

厩 @kin #noho wehe ba (石ばかりの地)

刻本→音琴、石地。

石印→音琴、石地也。

厩 @ke #fiyelfe (山間、河岸のゆるやかな傾斜のある所)

刻本→音琴、石地。

石印→音琴、石地。

評 →満洲語 fiyelfe は『清文彙書』に、近河高而平平下略平之處、山墪坡乃險而略之處、と載せる。『大清全書』『御製清文鑑』には載せていない。

厩 @dzu #sindambi (置く、据える)

刻本→與措同、又錯同。

石印→與措同、又錯同。

厩 @nu #sirdan -i dan (両刃の付いた矢弾)

刻本→古弩字。

石印→古弩字。

評 →「石印」の「弩」は間違い、『字彙』も「弩」

厩 @ai #sida dalimbi (広げて隠す、覆う)

刻本→音礙、張幕也、又石名。

石印→音礙、張幕也、又石名。

厩 @dze #albatu arbun dalbashūn -i dedumbi (粗野な様子、横ざまに寝る)

刻本→音景、傾側。

石印→音景、傾側。

厩 @ts'i #ba -i gebu (地名)

刻本→音次。

石印→音次。

厩 @ni #wehe -i ba nimecuke (石地で苛酷な所)

刻本→音逆、石地悪也。

石印→音逆、石地悪也。

厩 @lai #boo (家、部屋)

刻本→音來、舎也。

石印→音來、舎也。

厚 @cun #ten (はて、極み)

刻本→音諄、至也、誠懇也。

石印→音諄、至也、誠懇也。

評 →ten は『大清全書』に、基、心不佞動之意、極至也盡頭處。と載せ、『御製清文鑑』に、yaya mohon -i babe ten sembi (すべて極の場所を ten と言う)と載せる。

匪 @fei #somimbi (隠す)

刻本→音肥、隱也。

石印→音肥、隱也。

厓 @dui #buktan (堆積、塊)

刻本→音堆、聚土也。

石印→音堆、聚土也。

評 →満洲語 bukthan は『大清全書』に、boihon bukthan の項に、積土と載せる、『御製清文鑑』に、muhaliyaha boihon be bukthan sembi (積み上げた土を bukthan と言う)と載せる、『清文彙書』に、凡堆積土等物之堆積と載せている。

原 @yuwan #daci (元より、かねてから)

刻本→音元、本地也、高平曰原、又推原也、又宥也、又再也。

石印→音元、本地也、高平曰原、又推原也、又宥也、又再也。

⑨ 廩 @kui #bele (米、米穀)

刻本→音匱、餉也。

石印→音匱、餉也。

隈 @seo #birai mudan onggolo ici eyembi (河川湾曲部の前で右側に流れる)

刻本→音叟、畏也。

石印→音叟、畏也。

評 →すべての「刻本」「石印」が「畏」とするが、間違い。『字彙』は「隈」とする、満洲語は『字彙』に従っている。

厠 @ts'e #tule genere ba (外に行く場所、厠を指すか)

刻本→與厠同。

石印→與厠同。

評 →厠所を指す満洲語は sitere horhon と言う言葉がある。sitere は動詞 siterembi (小便をする) horhon は豚小屋を指す。古代中国では豚小屋は厠を兼ねていた。

- 原 @yuwan #sekiyen (出所、由来、泉、滝)
刻本→同源。
石印→同源。
評 →満洲語 sekiyen は『大清全書』に、上流、本源之本、と載せ、『御製清文鑑』には、mukei da tucike ba be sekiyen sembi (水の源流の場所を sekiyen と
言う)と載せている、『清文彙書』には、泉源之源、上流水、本源之源、と
載せている。
- 𠄎 @hi #na gicefi fakcaha (大地が凍結してひびが入る)
刻本→音希、折也、又音離、義同。
石印→音希、折也、又音離、義同。
- 𠄎 @lii #yabuha ba (行った所)
刻本→與歴同、經涉也、又與曆同、又治也、理也。
石印→與歴同、經涉也、又與曆同、又治也、理也。
評 →満洲語の漢字音表記が、「li」で良い所を「lii」と表記する所がある。「ii」が
何らかの漢語の声調を反映して表しているのかもしれないが、『欽定清漢對音
字式』でも「里」、「理」、「禮」などは、liiで表されている。
- 𠄎 @duwan #meyen (隊伍、一段)
刻本→古文段字。
石印→古文段字。
- 𠄎 @cui #hada sehehuri (峰が聳えだった)
刻本→厯本字。
石印→音垂、厯屢山巔。
評 →『欽定清漢對音字式』では「垂」は、cūiと表記される。
- 𠄎 @giowei #tere (それ、彼、彼女)
刻本→音決、其也、語辭、又與擻同、同發石也、又姓也。
石印→音決、其也、語辭、又與擻同、同發石也、又姓也。
- 𠄎 @ša #ashan -i boo (o:asgan、側屋)
刻本→沙去声、側屋。
石印→沙去聲、側屋。
- 𠄎 @seo #sakda (老人)
刻本→與叟同、老人。
石印→與叟同、老人。
- 𠄎 @ke #fiyelfe (山間、河岸のゆるやかな傾斜の有る所)
刻本→同厯。
石印→同厯。

- 評 →満洲語 *fiyelfe* の『御製清文鑑』の説明は、*alin -i hailashūn -i neciken ba be fiyelfe sembi.birai mukei neshun -i neciken ba be inu fiyelfe sembi* (山の傾斜面を *fiyelfe* と言ひ、亦河岸の傾斜面の事を *fiyelfe* と言う)
- 廬 @ke #*tunggalafi nionggajambi* (ぶち当たって傷つく)
刻本→音磕、崩損也、又音始、山旁之穴。
石印→音磕、崩損也、又音始、山旁之穴。
- 厓 @ts'o #*jahari wehe* (小石)
刻本→音坐、同峩。
石印→音嗟 同峩。
評 →満洲語の *jahari wehe* はあまり適訳ではないが、山の上の小石だらけの場所を意味するのであろう。
- 廩 @diyan #*den eifu* (高い墳墓、塚)
刻本→音顛、廩塚、又止也。
石印→音顛、廩塚、又止也。
- 廉 @yan #*fiyeren de boo arambi* (山の狭間に家を造る)
刻本→廉本字。
石印→廉本字。
- ⑪厩 @gio #*morin -i heren* (馬の厩舎)
刻本→俗廐字。
石印→俗廐字。
- 厓 @gin #*ajige boo* (小屋)
刻本→音覲、小屋。
石印→音覲、小屋。
評 →「文煥堂」は音を「勤」とする。
- 廩 @ao #*bele asarara boo* (穀物を貯蔵する庫)
刻本→音敖、倉廩。
石印→音敖、倉廩。
- 厓 @ke #*angga mimimbi* (口を閉じる)
刻本→音磕、閉口声。
石印→音磕、閉口聲。
- 厓 @nu #*sirdan -i dan* (両刃の付いた矢弾)
刻本→音怒、石名。
石印→古文磬字。
評 →満洲語は『字彙』に「與磬同非」の「非」を除いた文に依る。
- 厓 @yen #*alin -i ekcin* (山の急斜面)

刻本→與厰同。

石印→與厰同。

⑫ 巛 @hi #wehe dacun (鋭利な石)

刻本→音徒、石利也。

石印→音以、石利也。

厰 @an #alin -i wehe tuhembí (山の石が落ちる)

刻本→音峯、山石下也、又山厓貌。

石印→音銀、山石下也、又山厓貌。

厶 @gui #muke waha (水が涸れる)

刻本→音癸、水涸也。

石印→音癸、水涸也。

評 →満洲語 waha の基本形 wambi は死ぬと言う動詞であるが、水が死ぬこと、つまり涸れ果てると言う意味に解釈する。

厶 @šu #geren (大衆、衆人)

刻本→古文即庶字。

石印→古文即庶字。

厶 @šu #geren (大衆、衆人)

刻本→同上。

石印→同上。

厶 @siye #tuhembí (倒れる、物が落ちる)

刻本→音卸、仄也、傾也。

石印→音卸、仄也、傾也。

評 →『大清全書』は tuhembí の連用法 tuheme を載せて「失落」と対訳している。

厶 @yen #dahambí (つき従う)

刻本→音謁、服也、又従順也、又厶溷濕意、又音淹、飽也、足也、又不休也、又音黯、消沮閉蔵之貌、又棄絶也。

石印→音謁、服也、又従順也、又厶溷濕意、又音淹、飽也、足也、又不休也、又音黯、消沮閉蔵之貌、又棄絶也。

厶 @sy #morin ujire takürsi (馬世話する下僕達)

刻本→與廝同、廝養卒。

石印→與廝同、廝養卒。

厶 @diyan #hisalambí (酒を供える、酒をそそぐ)

刻本→同奠。

石印→同奠。

評 →満洲語 hisalambí は、『大清全書』に「行奠、奠之」と載せる、又『御製清

文鑑』には、akū oho niyalma de erki nure suitara be hisalambi sembi (亡くなった人に、酒を注ぐ事を hisalambi と言う) と載せる。

⑬ 巖 @i #hada sehehuri (峰が聳え立つ)

刻本→音夷、山峰巉巖之貌。

石印→音夷、山峰巉巖之貌。

廩 @ao #hašan ママ (穀物用小屋)

刻本→同廩。

石印→同廩。

評 →通常満洲語の辞典には haša と載せるものが多い。『大清全書』には haša boo (小庫房) と載せる。haša は『御製清文鑑』には、bele jeku, hešu hašu jaka be asarara sidara boo be, haša sembi (米穀や不用なものをしまっておく小さな部屋を haša とする)

僻 @bi #dalbashūn -i dedumbi (側臥する、横になって寝る)

刻本→音僻、仄也、陋也。

石印→音僻、仄也、陋也、又與僻同。

廢 @lan #gu colimbi (玉に彫刻する)

刻本→音藍、廢諸治玉、又音血、岸側空處也。

石印→音藍、廢諸治玉、又音血、岸側空處也。

邁 @li #sengguwecuke (恐るべき、嚴正な)

刻本→音例、嚴正也、烈也、猛也、虐也、酷也、惡也、害也、又磨石也、與礪同、又勉之謂與勵同、又疫勵、又厲鬼與癘字同。

石印→音例、嚴正也、烈也、猛也、虐也、酷也、惡也、害也、又磨石也、與礪同、又勉之謂與勵同、又疫勵、又厲鬼與癘字同。

屨 @yao #teku (座席、座)

刻本→音遥、坐也。

石印→音遥、坐也。

曆 @lii #ilgambi (区別する、選別する)

刻本→音曆、分也。

石印→音歴、分也。

【ム部 sy sere hergen -i hacin (sy・ムと言う字の項)】

ム @sy #cisui (自ら、そつと)

刻本→音思、自當爲ム、背ム爲公、又音某。

石印→音思、自當爲ム、背ム爲公、又音某。

六 @tu #jui hiyoošun (子供の孝行)

刻本→音突、不孝之子。

石印→音突、不孝之子。

② 肱 @hūng #meiren (肩)

刻本→音舩、臂上一筋也、俗作肱非。

石印→肱本字、臂上也。

厶 @lin #adaki boo (隣の家)

刻本→音鄰、義同、又音勉張口也。

石印→古文鄰字。

𠂇 @kio #ilan jofohonggo gida (三つの穂先を持つ槍)

刻本→音求、三隅矛、獸足著地處曰𠂇。

石印→音求、三隅矛。

㇀ @hūwan #untuhun helmen (空虚な影)

刻本→同幻。

石印→同幻。

評 →満洲語 helmen は光が遮られて出来る影の部分を目指す。「寶仁堂」は「幻」を「勾」と誤刻している。

𠂇 @žeo #gurgu dedumbi (獸の寢床)

刻本→音柔、上声、指頭處。

石印→音紐、指頭處。

評 →満洲語の gurgu dedumbi は『字彙』が『爾雅』を引いて挙げる、もう一つの意味、「狸狐猫狗醜其足躡跡」に依っている。つまり「満文本」は「刻本」の『玉堂字彙』のみに依っているわけではないことがわかる。

③ 去 @kioi #genembi (行く)

刻本→去本字。

石印→去本字。

去 @kioi #genembi (行く)

刻本→區去声、人相違也、離也、又徹也、徐也。

石印→區去声、人相違也、離也、來去離去、去就之去、又徹也、徐也。

④ 兌 @dui #jakūn jijuhan de urgunjen sere hergen (八卦で兌と
言う字)

刻本→同兌。

石印→同兌。

厶 @luwei #fu cirgembī (壁を突き固める)

刻本→音壘、増上爲牆也。

石印→音壘、増上爲牆也。

- ⑥ 衷 @jan #ajige ginggun (小敬、一寸した配慮)
 刻本→音籠、小謹也。
 石印→古文專字。
- ⑧ 單 @dan #emursu (一つの、一重の)
 刻本→俗單字。
 石印→俗單字。
 評 →満洲語 emursu は、『大清全書』に、単、一層、袖締之珍と載せる、『御製清文鑑』には、yaya jaka -i emu jergi be, emursu sembi (凡そ物の一層を emursu と言う)と載せる、『清文彙書』は、『大清全書』と同じく、単、一層と載せる。『満洲語文語辞典』(福田 S62、H20) は共に emurusu と載せる、誤りであろう。
- ⑨ 𠵹 @io #elkime hūlambi (人を呼ぶ)
 刻本→音有、相誡呼也。
 石印→音有、相誡呼也。
 評 →「刻本」3本共「誡」を「誅」と誤っている。
- 參 @ts'an #dorolome acambi (合いたい)
 刻本→音驂、趨承也、覲也、謀也、又子輿也、謀度也、又音森參差不齊貌、雜也、又同三。
 石印→音驂、趨承也、覲也、謀也、又子輿也、謀度也、又音森參差不齊貌、雜也、又同三。
- 叅 @ts'an #teherembi (つりあいが取れる、相等しい)
 刻本→音驂、功參天地。
 石印→俗參字。
 評 →フランス語による注記あり。
- 𠵹 @giyūn #šanyan gūlmhūn (o: hūlmhūn、白兔)
 刻本→音俊、狡兔。
 石印→音絨、狡兔名。
 評 →フランス語の注記あり。

【又部 io sere hergen -i hacin (io・又と言う字の項)】

- 又 @io #geli (又、亦)
 刻本→音右、更也、再也。
 石印→音右、更也、再也。
 評 →満洲語 geli は、『大清全書』に、又、将以、復以、兼以と載せる、『御製清文鑑』には、jai seme gisun de adali. emgeli yabufi dahime yabure be mutembi

sembi (またと言う言葉の如し、一度行き重ねていく事を geli と言う) と載せる。『清文彙書』は、兼以、又、復以と載せている。

又 @cai #juwe gala ishun (両手を組む)

刻本→音差、両手相錯也、又筭属、俗作釵。

石印→音差、両手相錯也、又筭属、俗作釵。

②又 @jao #hitahūn (指の爪)

刻本→音爪、手足甲也。

石印→音爪、手足甲也。

及 @ji #isibumbi (与える、及ぶす)

刻本→琴入声、至也、逮也、連累也、勞及也、又兼與之辭、又叶音傑。

石印→琴入聲、至也、逮也、連累也、勞及也、又兼與之辭、又叶音傑。

友 @io #gucu (友人、仲間)

刻本→音有、同志爲友、善與兄弟爲友、又叶音雨。

石印→音有、同志爲友、善與兄弟爲友、又叶音雨。

友 @io #gucu (友人、仲間)

刻本→同上。

石印→同上。

交 @gui #ebdereku (不道德者、背信者)

刻本→與宄同、内盜也。

石印→與宄同、内盜也。

評 →満洲語 ebdereku は『大清全書』に「民之蠹賊也」と載せる。『御製清文鑑』には、uthai ebderen sere gisun -i adali (即ち人に害をなす者と言う言葉の如し) と載せる。

刈 @pan #mooi gargan bilambi (木の枝を折る)

刻本→同攀。

石印→普姦切、引也。

没 @mo #muke de furifi jaka gaimbi (水に潜って物を取る)

刻本→音没、入水有所取也。

石印→音没、入水有所取也。

没 @fu #dasambi (治める、整える)

刻本→音伏、治也、事之節也。

石印→音伏、治也、事之節也。

評 →dasambi は色々の意味を持つようで、『御製清文鑑』には、abkai fejergi baita be icihiyara be dasambi sembi (天下の事を処理することを dasambi と言う) 或いは、ehe be sain obume halara be dasambi sembi (悪ものを良い方に改

める事を *dasambi* と言う) また *bithe gisun be icangga sain obume dasatara be dasambi sembi* (書物の言葉を心に適う良きものにするよう整える事を *dasambi* と言う) と載せている。

双 @*šuwang* #*juru* (一對の、偶数奇数の偶)

刻本→俗雙字。

石印→俗雙字。

収 @*gung* #*gala ishun* (手を組む)

刻本→音拱、與扞同。

石印→音拱、與扞同。

反 @*fan* #*ubašakū niyalma* (日和見主義者、目移りする人)

刻本→反復也、不順也、又音版、順習貌、反叶音片。

石印→反復也、不順也、又音版、順習貌。

③ 𠂔 @*guwai* #*ashūn* (易の卦の一つ爻)

刻本→音怪、決也。

石印→音怪、決也。

評 →「満文本」は『字彙』の解説に依る。

𠂔 @*fan* #*ubašakū niyalma* (日和見主義者、目移りする人)

刻本→古文反也。

石印→古文反也。

𠂔 @*ba* #*geterembumbi* (綺麗にする、治める)

刻本→與拔同、除之。

石印→𠂔字之譌。

𠂔 @*hūwa* #*nilgiyan* (艶かな、艶々した)

刻本→音叨、滑也、又取也。

石印→音叨、滑也、又取也。

評 →満洲語 *nilgiyan* は『大清全書』に、身上光滑と載せる。『御製清文鑑』には、*yaya gu, wehe -i jergi jaka gincihyan nilhūn, idun akūngge be nilgiyan sembi* (凡そ玉、石の類の物が艶がありすべすべして、粗雑でない事を *nilgiyan* とする) と載せている。

𠂔 @*gu* #*ilhi anambi* (順序通り、序列通り)

刻本→音逋、相次之貌。

石印→音逋、相次之貌。

④ 𠂔 @*fu* # *dasambi* (治める、整える)

刻本→同段。

石印→同段。

史 @ši #suduri (史、史書)

刻本→古文史字。

石印→古文史字。

桑 @šo #nimalan (桑)

刻本→音若、日初出東方、暘谷所登榑桑桑木也。

石印→音若、日初出東方、暘谷所登榑桑桑木也。

受 @piyoo #jaka dergi ci tuhefi katak kitik sembi (物が上から落ちてガチャンと言う)

刻本→瓢上声、物落上下相付也。

石印→瓢上声、物落上下相付也。

⑤ 叟 @ši #baita (仕事、用事)

刻本→古文史字。

石印→古文史字。

叟 @pi #julgei pi sere hergen suhe hergen kimcihakū (古の皮と言う字、解釈するも字不詳)

刻本→籀叟淖淵文、皮字、借作被音。

石印→籀叟淖淵文、皮字、借作被音。

交 @seo #sakda (老人)

刻本→叟正字、老人之稱。

石印→叟正字、老人之稱。

⑥ 綦 @hi #hihan (稀な、珍しい)

刻本→與希同。

石印→與希同。

評 →満洲語 hihan は漢語の「稀罕・xi/han」からの外来詞であろう。『大清全書』には ai hihan (甚麼稀罕) を載せているが、『御製清文鑑』、『清文彙書』にはこの意味は載せていない。

舜 @io #gucu (友人、仲間)

刻本→古文友字。

石印→古文友字。

評 →満洲語 io は漢語の you に対応している、『欽定清漢對音字式』に同じ。

叢 @fung #dahacambi (つき従う、迎合する)

刻本→奉正字。

石印→奉正字。

叔 @šu #ecike (叔父)

刻本→音束、季父也、叔俶也、見嫂俶然、却退也、又叔世季世也。

- 石印→音束、季父也、叔叔也、見嫂俶然、却退也、又叔世季世也。
- 𠂔 @šūwa #fumbi (拭く)
 刻本→音刷、拭也。
 石印→音刷、拭也。
- 𠂔 @jui #ashambi (帯びる、繫ぐ)
 刻本→音贅、聯也、又音哲、贊舞者之位也、別作綴非。
 石印→音贅、聯也、連也。
 評 →満洲語 ashambi は『大清全書』に「佩、帶着」と載せ、『御製清文鑑』に、
 yaya jaka be du hūwaitame gaire be ashambi sembi (凡そ物を腰に縛り持ち
 行く事を ashambi と言う) と載せる。
- 取 @kioi #gejurembi (虐げる、取り立てる)
 刻本→趨上声、索也、穫也、収也、受也、資也、又音趨。
 石印→趨上聲、索也、穫也、収也、受也、資也、又音趨
- 受 @šeo #alimbi (受ける、受け取る)
 刻本→壽上声、承也、稟也、繼也、容也、納也、取也、領也、盛也、叶音豎。
 石印→壽上声、承也、稟也、繼也、容也、納也、取也、領也、盛也、叶音豎。
- 𠂔 @kuwai #her har (気にする、気を付ける)
 刻本→音快、氣息之貌。
 石印→音快、氣息之貌。
- 叙 @sioi #ishunde gisun tucimbi (お互いに言葉を交わす)
 刻本→叙本字、从攴、俗从又。
 石印→叙本字、从攴、俗从又。
- 𠂔 @bing #cooha (兵隊)
 刻本→兵本字。
 石印→兵本字。
- ⑧段 @duwan #meyen (文節、一段)
 刻本→古文段字。
 石印→古文段字。
 評 →「段」満洲語の音は『欽定清漢對音字式』に同じ。
- 𠂔 @ioi #elhe (平安)
 刻本→同尉。
 石印→同尉。
 評 →満洲語の音 ioi は漢語音の wei4 を取らず、yu4 を取っている。解釈も『廣韻』
 に「安也」とあるので、妥当であろう。
- 𠂔 @c'y #gedumbi (齧る、噛む)

刻本→音齒、齧也。

石印→音齒、齧也。

叟 @seo #sakda (老人)

刻本→音藪、尊老之稱、又音搜、又浙米声。

石印→音藪、尊老之稱、又音搜、又浙米聲。

⑨ 鞞 @dzuo #wesimbumbi (上奏する)

刻本→古文奏字。

石印→古文奏字。

叢 @g'an #gelhun (臆病な、気の小さい)

刻本→籀文敢字。

石印→籀文敢字。

評 →満洲語 gelhun は「敢」の意味としては不適である。『大清全書』では gelhūn akū を「敢」の対訳としてあげている、『清文彙書』も、gelhūn akū に、敢、怎敢不敢即 ai gelhūn akū 也、と載せている。

曼 @šen #alibumbi (上申される、受領させる)

刻本→古文伸字。

石印→古文伸字。

覈 @jing #eye (穴倉)

刻本→音淨、坑也、穿地以據獸也、亦作穿。

石印→音淨、坑也、穿地以據獸也、亦作穿。

評 →満洲語 eye は、『大清全書』に窖、阱と載せ、『御製清文鑑』載せていない。『清文彙書』に eye は地窖乃窖糧食青菜等物者、阱、と載せる。野菜の貯蔵用の穴や獸を取る落とし穴の事。

𦉳 @jing #eye (穴倉)

刻本→同上。

石印→同上。

⑩ 𦉳 @zui #tuwara niyalma de sain ehe be fonjimbi (古い人に吉凶を聞く)

刻本→音贅、楚人謂卜問吉凶曰𦉳。

石印→音贅、楚人謂卜問吉凶曰𦉳。

評 →『欽定清漢對音字式』では「贅・zhui」は jūi と表記されるところであるが、zui では rui の音との混同が起きる。本書では zui の音は「𦉳」(銳 rui) にも使われており、漢字音の rui と zhui との区別がつかない。

𦉳 @boo #hala (姓)

刻本→音暴、姓也。

石印→音暴、姓也。

①戯 @ca #gaimbi (取る、引き取る)

刻本→音査、取也。

石印→音査、取也。

𪛗 @lii #yarumbi (教え導く、案内する)

刻本→音離、引也。

石印→音離、引也。

評 →yarumbi は集約すれば上記の意味となるが、『御製清文鑑』は、banin gūnin be dahame elheken -i amtan dosibume tacibure be yarumbi sembi.geli jugūn jorimeyabure be inu yarumbi sembi.geli hafirhūn bade emke emke -i yabure be inu yarumbi sembi.luwen ioi bithe ilibuci, uthai ilimbi, yaruci uthai yarumbi sembi (気質、志に従って落ち着いて進み学ぶ事を yarumbi と
言う、又道を示して行わせるのも亦 yarumbi と
言う、又狭い所へ一人一人と行かせるの yarumbi と
言う) と載せている。又漢語音「li」に対する満洲語音は『欽定清漢對音字式』では「lii」ないしは「rii」であるが、本書では「麗」「利」などには「li」も使われている。

𪛗 @bi #alhūdambi (手本にする、倣う)

刻本→音壁、治也。

石印→音壁、治也。

評 →alhūdambi は『大清全書』に、「効之、則之、法之」の意味を載せる。『清文鑑』には、songkolome tacire be alhūdambi sembi (手本として学ぶ事を alhūdambi と
言う) と載せる、『清文彙書』には、法之、則之、効之、照様、と載せている。

𪛗 @oi #sunggiyen (賢い、聡い)

刻本→音胃、深明通達。

石印→音鋭、深明通達。

評 →満洲語の音 oi は「胃」の音 weil を表したもので、これは『欽定清漢對音字式』に一致する。

𪛗 @jun #šorho huwengkiyehebi (孵化した雛が殻を突いている)

刻本→諄入声、雛兒出殻声。

石印→諄入聲、雛兒出殻聲。

叢 @ts'ung #luku jajuri (茂った叢林)

刻本→族平声、聚也、又草叢生貌。

石印→族平聲、聚也、又草叢生貌。

(子集終わり・待続)

参考図

図1 『五音篇海』 京都大学蔵

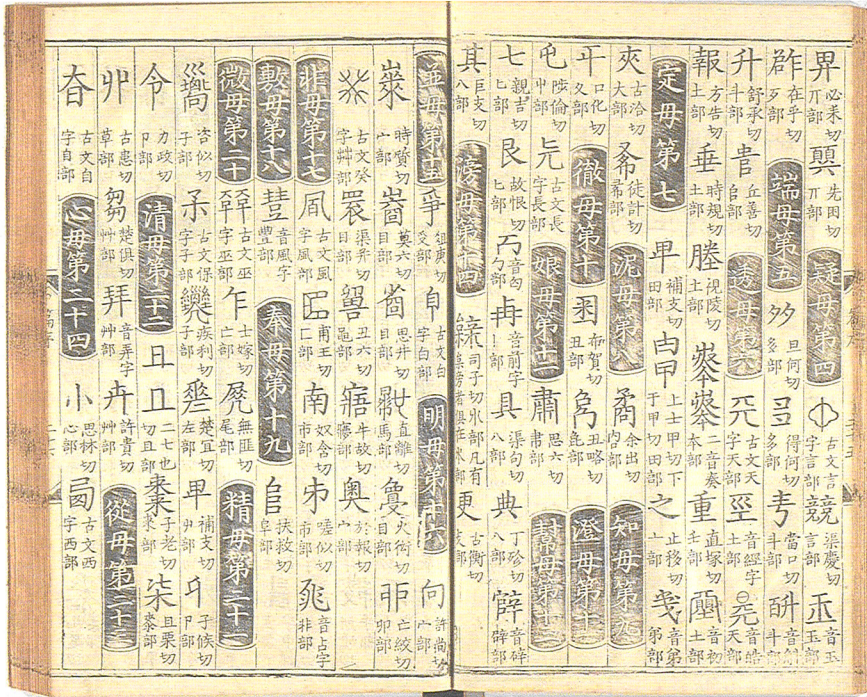


図2 『増補字彙』 康熙 38年 (1699年序刊本)

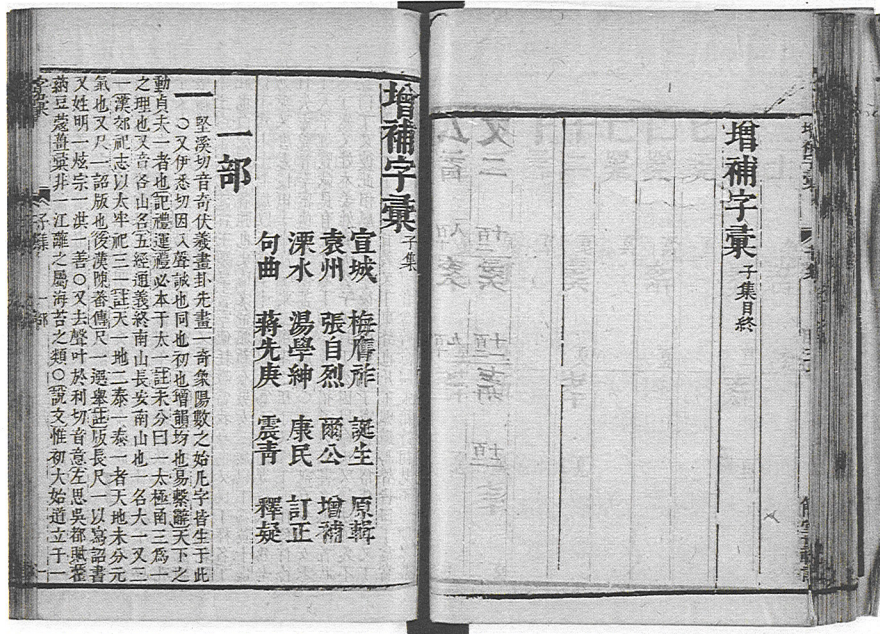


図3 中国の古書肆では康熙十五年（1676年）とされる經綸堂蔵版（經綸堂は、道光年間以降通俗小説などをこの種の巾箱本で多く出しているが、康熙年間のものとは未見。この版もおそらく道光年間のものとはなかろうか、日本では康熙序刊本と言うべきであろう。参考までに下に同治年間の刊記のあるものを参考までにあげておく）



図4 同治8年（1869年）

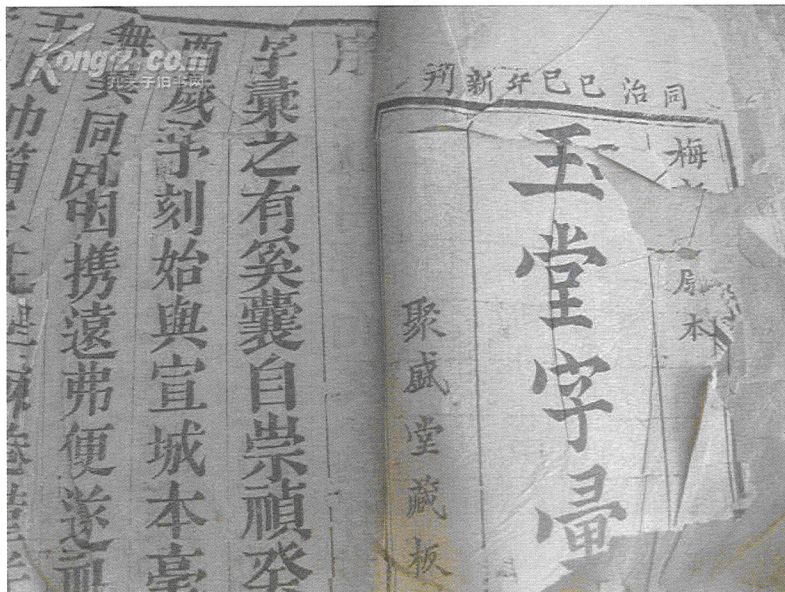


図 5 武州寺村氏望岳楼蔵書 1

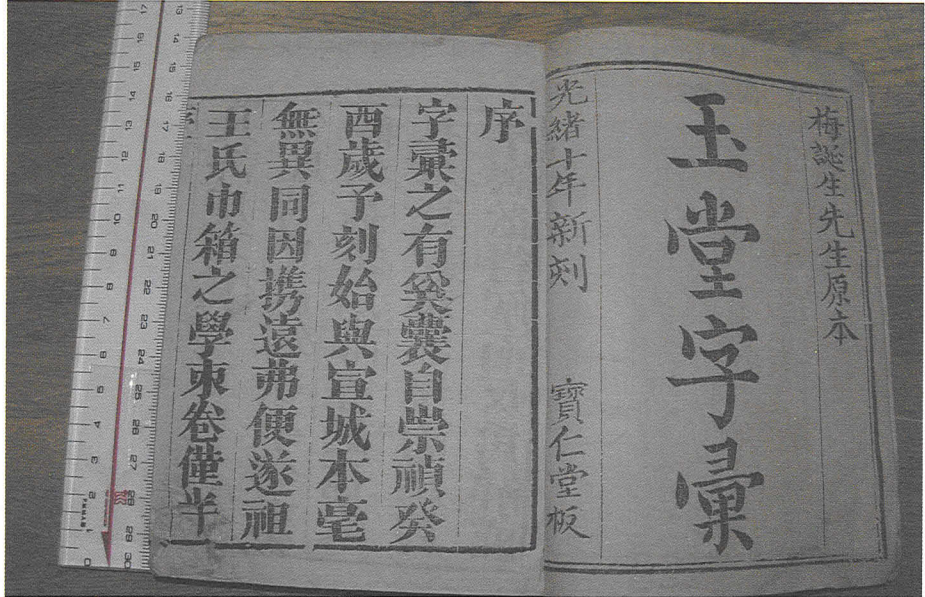


図 6 武州寺村氏望岳楼蔵書 2

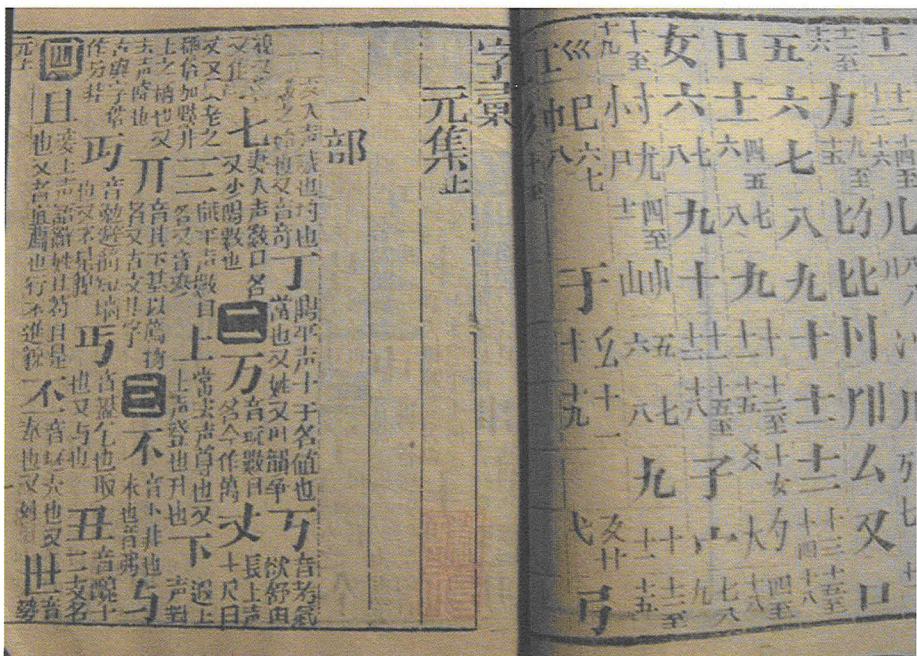


図7 たつの市龍野歴史文化資料館 1

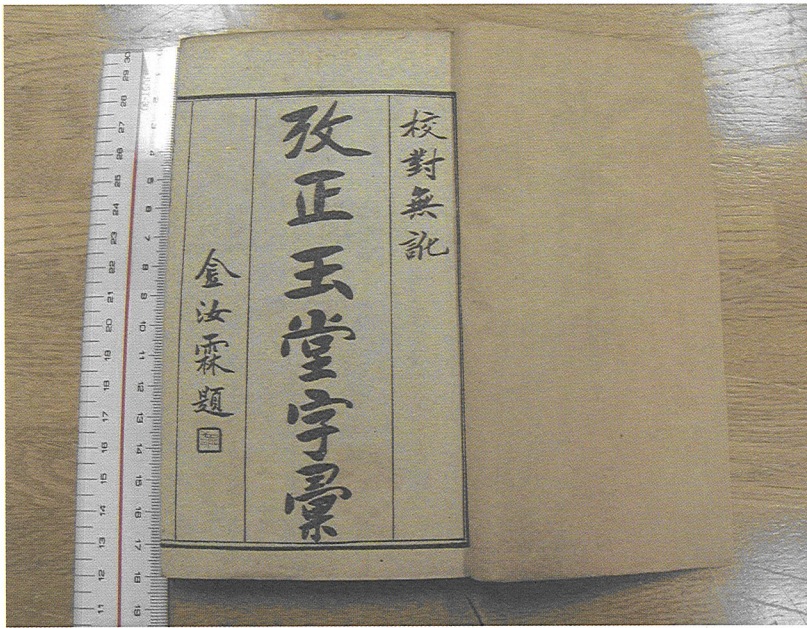
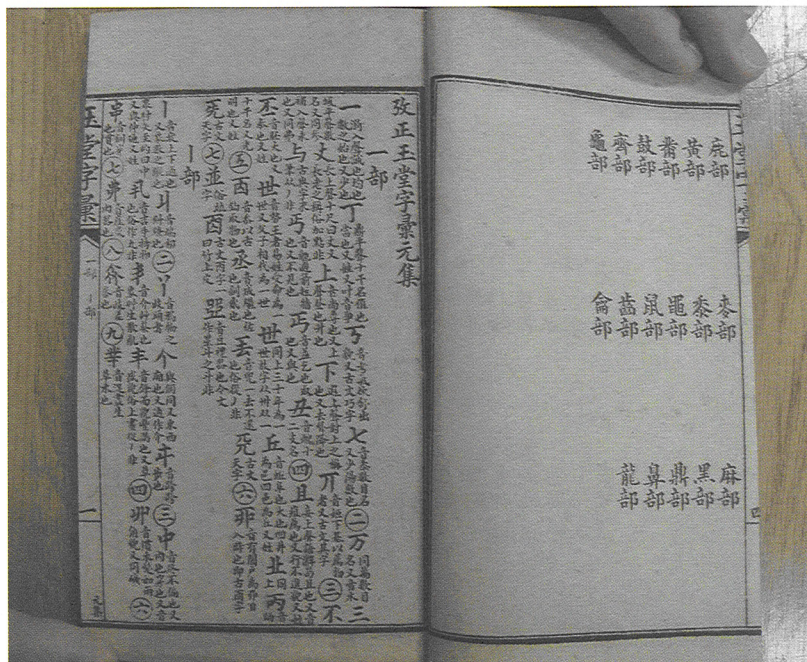


図8 たつの市龍野歴史文化資料館 2



外、縦 17.8cm 横 10.3cm 内、縦 14.8cm 横 9.4cm 大正 14 年寄贈

図 9 クロプロート『満洲古文選集』1828年パリ刊 武州寺村氏望岳楼蔵

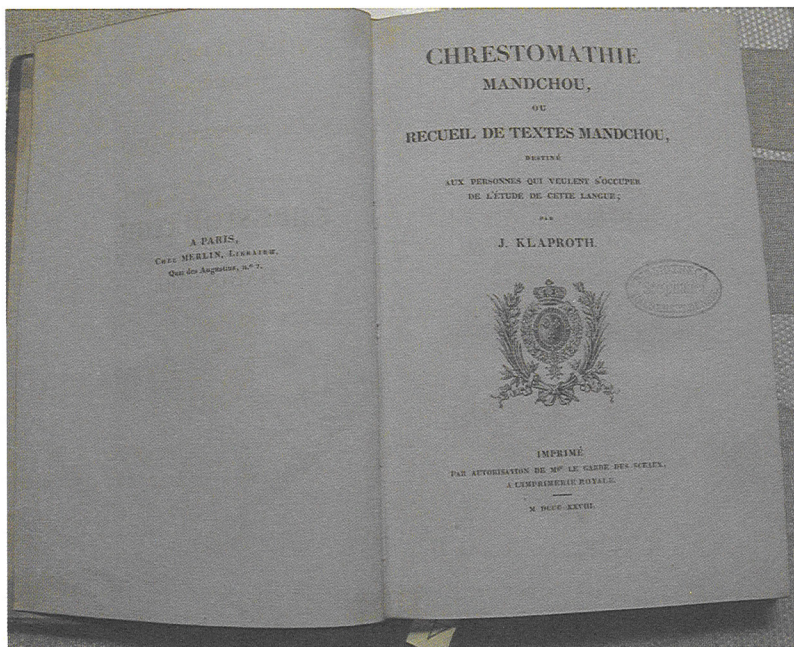


図 10 ラングレス『満洲字母論』1807年パリ刊 武州寺村氏望岳楼蔵

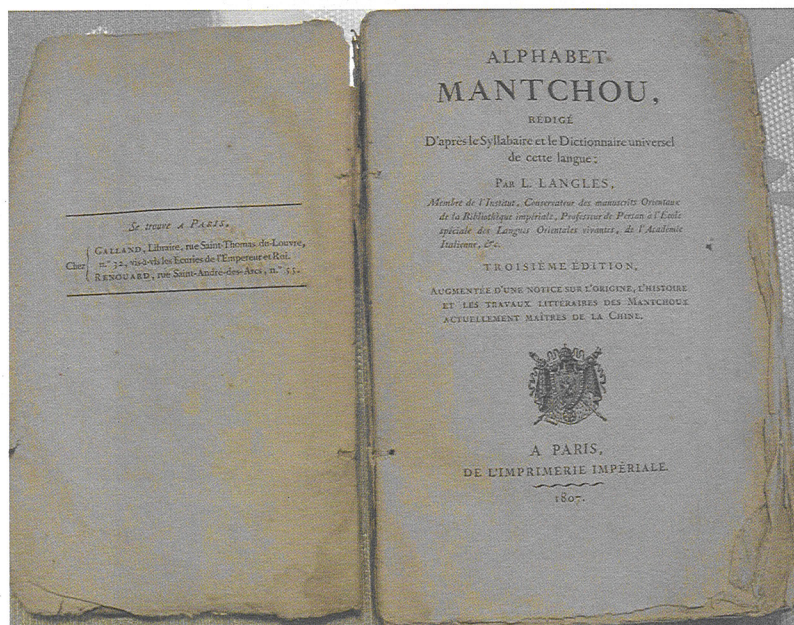


図 11 フランス国家図書館蔵 (クロプロートの書入れ)

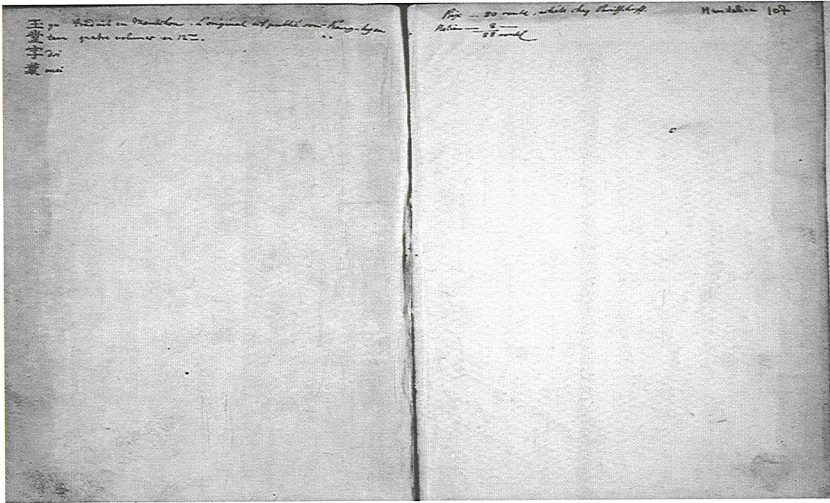


図 12 フランス国家図書館蔵

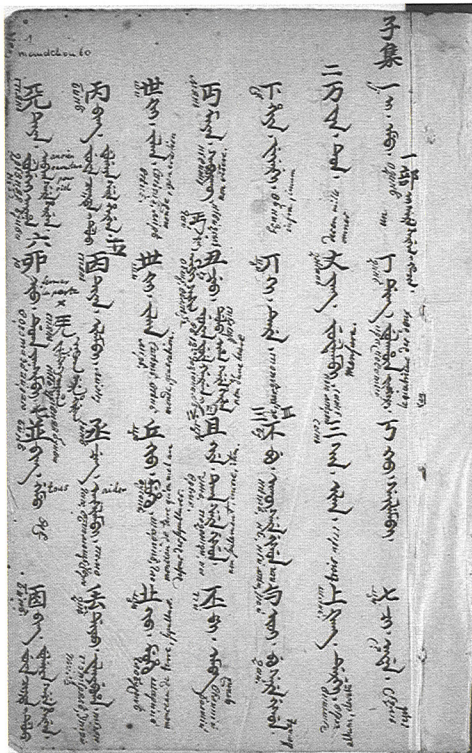


図 13 f160 始め 2 か所に「呉正裕號」の印あり。印の上から書写されており、印は清代の紙問屋の印ではなかろうか。

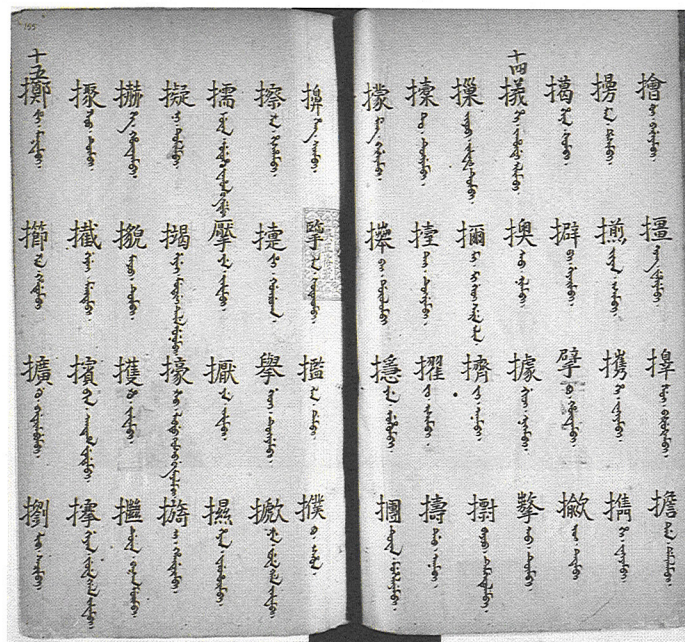


図 14



あとがき

わずか 5 か月ほどの海外研修であったが、中山大学と東北師範大学で研究生生活を送れたことは、本当に有意義であった。東北師範大学は、吉林省長春市にある。私は長春が好きである。旧満洲国の首都新京とか、父母が数年の時期を過ごしたとか言う、ノスタルジアではない。むしろそういうものが若いころ拒否反応となって現れ、大連を除いて東北 3 省に内部に足を運んだ事は無かった。10 年ほど前、縁があつて東北師範大学に赴き、すっかり長春の虜となってしまった。特に吉林省は、東西南北ほとんど知らないところはない。東の長白山と朝鮮国境の町延辺朝鮮族自治区、西は内モンゴルとの境界の白城市まで 8 市 1 自治区はすべて足を延ばしている。一寸した「吉林通」と言えるだろう。中国の「河は東流する」の原則から外れた松花江は長白山を水源に北西に向かって流れている。白城市で嫩江と合流すると向きを変え北東に流れる。従つて吉林市で見る松花江とその数倍の川幅を持つ哈爾濱市の旧キタイスカヤ（中央大街）の北側で見る松花江は流れの向きが違う。2011 年に訪れたときは、珍しく水量も多く、正に滔々と流れていた。やがてこの大河はロシア国境でアムール河と合流する。また松原市の西側平台から烏蘭浩特にかけて、息をのむような大草原が広がっている。ここは事情があつて外国人には開放されていないところなので知る人も少なからう。吉林省の古くからの友人の尽力がなければ、こうも行くまい。長春に惹かれるもう一つの理由は、空の青さである。案外知られていないが長春は海拔 400M を超えている。この標高が関係するのか抜けるような青空に白い雲がぼつんと浮かんでいる。相当交通量が増えているにもかかわらず、この情景は変わらない。旧満洲国の首都であつたので工場は皆 100KM 程離れた吉林市にあり、環境汚染が少ないせいであろう。環境保全の必要性を痛感する。江南では春に飛び交う柳絮も長春では 7 月半ば頃に乱舞する。風が吹くともものすごいもので、視界が大いに遮られる。水柳と言うのも珍しい、この柳は地中より水分を吸収して葉に蓄え、それが限界に達すると、ぼたりぼたりと地面に水滴を落とす。雨でもないのに、下に水たまりができる。再度柳の根がその水分を吸い上げる。師範の構内至る所に植えてある。またリスが木々の間を飛び回っているのも散歩の際の癒しとなる。

本研究の資料に出会つたのは研修も末期の 2011 年の 7 月中頃の事で、夏空の綺麗な長春であるが少し体調を崩していた時で、部屋に引きこもりがちの時、正に穿り出した資料と言える。この資料を見て、これは「私しかやれない」いや「私しかやらない」と感じた。変な驕りではない。相当の根気と情熱と満漢両語についての知識がないとやれない。私を待っていてくれた資料と言える。漢語を満洲語に置き換える事は、繙訳（漢語から満洲語への翻訳はこう書く）とと同時に言語接触研究そのものである。

末尾ながら、語学教育研究所のフォーラムと言う公開の場を与えていただいた、出水滋子語学教育研究所所長に心から感謝申し上げます。

本成果は 2011 年度大東文化大学、短期海外研修の成果の 1 つである。